平成25年３月第１回人吉市議会定例会会議録（第１号）

平成25年２月26日　火曜日

１．議事日程第１号

平成25年２月26日　午前10時　開議

日程第１　会期の決定

日程第２　会議録署名議員の指名

日程第３　議第１号　専決処分の承認を求めることについて（平成24年度人吉市国民宿舎特別会計補正予算（第１号））

日程第４　議第２号　平成24年度人吉市一般会計補正予算（第６号）

日程第５　議第３号　平成24年度人吉市国民健康保険事業特別会計補正予算（第３号）

日程第６　議第４号　平成24年度人吉市後期高齢者医療特別会計補正予算（第２号）

日程第７　議第５号　平成24年度人吉市介護保険特別会計補正予算（第３号）

日程第８　議第６号　平成24年度人吉市介護サービス事業特別会計補正予算（第２号）

日程第９　議第７号　平成24年度人吉市水道事業特別会計補正予算（第２号）

日程第10　議第８号　平成24年度人吉市公共下水道事業特別会計補正予算（第３号）

日程第11　議第９号　平成24年度人吉市工業用地造成事業特別会計補正予算（第２号）

日程第12　議第10号　平成25年度人吉市一般会計予算

日程第13　議第11号　平成25年度人吉球磨地域交通体系整備特別会計予算

日程第14　議第12号　平成25年度人吉市国民健康保険事業特別会計予算

日程第15　議第13号　平成25年度人吉市後期高齢者医療特別会計予算

日程第16　議第14号　平成25年度人吉市介護保険特別会計予算

日程第17　議第15号　平成25年度人吉市介護サービス事業特別会計予算

日程第18　議第16号　平成25年度人吉市水道事業特別会計予算

日程第19　議第17号　平成25年度人吉市公共下水道事業特別会計予算

日程第20　議第18号　平成25年度人吉市国民宿舎特別会計予算

日程第21　議第19号　平成25年度人吉市工業用地造成事業特別会計予算

日程第22　議第20号　人吉市新型インフルエンザ等対策本部条例の制定について

日程第23　議第21号　議会の議員その他非常勤の職員の公務災害補償等に関する条例の一部を改正する条例の制定について

日程第24　議第22号　人吉市消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例の制定について

日程第25　議第23号　人吉市障害程度区分認定審査会の委員の定数等を定める条例の一部を改正する条例の制定について

日程第26　議第24号　人吉市重度心身障害者医療費助成に関する条例の一部を改正する条例の制定について
日程第27　議第25号　人吉市環境基本条例の制定について
日程第28　議第26号　人吉市環境審議会条例の一部を改正する条例の制定について
日程第29　議第27号　人吉市消毒・撒布手数料条例を廃止する条例の制定について
日程第30　議第28号　人吉市中山間ふるさと・水と土保全基金条例を廃止する条例の制定について
日程第31　議第29号　人吉市人・農地プラン検討委員会設置条例の制定について
日程第32　議第30号　人吉市非常勤職員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について
日程第33　議第31号　人吉市指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例の制定について
日程第34　議第32号　人吉市指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営並びに指定地域密着型介護予防サービスに係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の制定について
日程第35　議第33号　人吉市指定地域密着型介護老人福祉施設の入所定員並びに指定地域密着型サービス事業者及び指定地域密着型介護予防サービス事業者の指定に係る申請者の資格を定める条例の制定について
日程第36　議第34号　人吉市道路構造の技術的基準を定める条例の制定について
日程第37　議第35号　人吉市道路標識の寸法を定める条例の制定について
日程第38　議第36号　人吉市移動等円滑化のために必要な道路の構造に関する基準を定める条例の制定について
日程第39　議第37号　人吉市準用河川管理施設等の構造に関する基準を定める条例の制定について
日程第40　議第38号　人吉市営住宅条例の一部を改正する条例の制定について
日程第41　議第39号　人吉市営住宅等の整備基準を定める条例の制定について
日程第42　議第40号　工事請負契約の締結についての議決内容の一部変更について
日程第43　議第41号　損害の賠償について
日程第44　議第42号　損害の賠償について
日程第45　議第43号　損害の賠償について
日程第46　議第44号　損害の賠償について
日程第47　諮第１号　人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて
日程第48　諮第２号　人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて

２．本日の会議に付した事件

・議事日程のとおり

３．出席議員（18名）

１番	宮﨑　保　君
２番	高瀬堅一　君
３番	村口　隆　君
４番	大塚則男　君
５番	平田清吉　君
６番	犬童利夫　君
７番	松岡隼人　君
８番	井上光浩　君
９番	豊永貞夫　君
10番	川野精一　君
11番	笹山欣悟　君
12番	西　信八郎　君
13番	村上恵一　君
14番	田中　哲　君
15番	仲村勝治　君
16番	三倉美千子　君
17番	森口勝之　君
18番	永山芳宏　君

欠席議員　なし

４．説明のため出席した者の職氏名

市長	田中信孝　君
副市長	髙橋　隆　君
監査委員	篠﨑國博　君
教育長	堀　秀行　君
市長公室長	久本一富　君
総務部長	坂崎博憲　君
市民部長	山本政義　君
健康福祉部長	松岡誠也　君
経済部長	松田知良　君

建設部長	中村明公君
市長公室次長	愛甲秀樹君
総務部次長	中村則明君
市民部次長	椎葉幹夫君
健康福祉部次長	福山誠二君
経済部次長	大渕　修君
建設部次長	木村秀敏君
企画課長	小澤洋之君
財政課長	告吉眞二郎君
会計管理者	松江隆介君
水道局長	田中幸輔君
上水道課長	那須義徳君
教育部長	赤池和則君
教育部次長	東　俊宏君
農業委員会事務局長	舟戸幸弘君

5．職務のため議場に出席した事務局職員の職氏名

局長	赤池謙介君
次長	村並成二君
次長	山本繁美君
書記	白坂禎敏君

午前10時　開会

○議長（永山芳宏君）　おはようございます。出席議員が定足数に達しておりますので、本日の会議は成立いたしました。よって、これより平成25年第１回人吉市議会定例会を開会いたします。

会議を開きます。

本日の議事は、議席に配付の議事日程によって進めます。

議事に入ります前に、お手元に配付しております議長会の報告、その他の報告事項につきましては、口頭報告を省略させていただき、書類報告にかえさせていただきます。

なお、関係書類につきましては、それぞれ議会事務局に備えてありますので、御一覧いただきますようお願いいたします。

日程第１　会期の決定

○議長（永山芳宏君）　それでは、これより議事に入ります。

日程第１、会期の決定については、去る２月19日に議会運営委員会が開催され、会期日程等について協議がなされておりますので、これについて議会運営委員長の報告を求めます。

（「議長、14番」と呼ぶ者あり）

14番。田中哲議員。

○14番（田中　哲君）（登壇）　皆さん、おはようございます。平成25年３月第１回人吉市議会定例会に当たりまして、去る２月19日、議会運営委員会を開きまして、会期日程等について協議をいたしておりますので、御報告申し上げます。

まず、会期につきましては、本日２月26日開会、あす27日休会、28日午前９時から治水・防災に関する特別委員会、午後１時30分から市庁舎建設に関する特別委員会、３月１日から３月４日までを休会、５日議案質疑、６日、７日一般質問、８日一般質問及び委員会付託、９日、10日休会、11日予算委員会、12日休会、13日から15日まで総務文教委員会、厚生委員会、経済建設委員会、16日、17日が休会、18日予算委員会、19日から24日までを休会、25日委員長報告、採決、閉会ということにいたしております。

次に、一般質問でございますが、一般質問の通告は３月１日金曜日午後３時に締め切りまして、登壇順番は抽せんにて決定することにいたしております。一般質問は、一問一答制による一般質問で、質問回数につきましては制限なしとし、登壇１回、２回目から質問席にて行い、質問時間は従来どおり50分以内といたしております。

また、５日の議案質疑の回数は、１議案につき質問席から２回以内ということに決定いたしております。

なお、日程第42、議第40号工事請負契約の締結についての議決内容の一部変更については、開会日の本日採決することに決定いたしております。

以上、報告を終わります。

○議長（永山芳宏君）　会期の決定については、ただいまの委員長報告どおり決定することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（永山芳宏君）　御異議なしと認めます。よって、日程第１、会期の決定は委員長報告どおり決定いたしました。

日程第２　会議録署名議員の指名

○議長（永山芳宏君）　次に、日程第２、会議録署名議員の指名をいたします。

署名議員に５番、平田清吉議員、６番、犬童利夫議員を指名いたします。

日程第３　議第１号から日程第４８　諮第２号まで

○議長（永山芳宏君）　次に、日程第３、議第１号から日程第48、諮第２号までの46件を一括議題とし、直ちに執行部の説明を求めます。

○市長（田中信孝君）（登壇）　皆さん、おはようございます。平成25年第１回人吉市議会定例会の初めに当たりまして、市政に処する所信を申し述べる機会を与えていただき、まことにありがとうございます。若干時間を拝借いたしますが、お許しをいただきたいと存じます。

昨年中は、国・県の格別の御高配を賜り、また議員各位を初め多くの市民の皆様方からいただきました御指導、御激励に対しまして、心から厚く御礼申し上げます。

国政におきましては、昨年末の衆議院議員総選挙の結果、自由民主党が政権与党に復帰するとともに新体制が発足するなど、大変大きな動きがございました。最近の国際情勢、国内情勢にかんがみれば、安倍晋三内閣総理大臣が第83回国会における所信表明の中で、「日本経済の危機」「復興の危機」「外交安全保障の危機」「教育の危機」の４点を挙げられたのを初め、危機という言葉を多用されたとの報道は非常に象徴的であり、国政のみならず私も市政を預かる者として常に危機感を持って市政運営に当たらなければならないと、改めて強く心に誓った次第でございます。

また、総理は就任後の記者会見のほか所信表明においても、大胆な金融政策、機動的な財政政策、そして民間投資を喚起する成長戦略の三つの基本方針を「三本の矢」と表現し、経済再生を我が国にとって最大かつ喫緊の課題と位置づけられております。本市におきましても、経済の再生・浮揚は重要な課題でございまして、そのためにも２期目の就任時に市民の皆様とお約束したローカルマニフェストを遂行することが最善の道と信じて邁進してまいる所存でございます。

今年は、２期目の折り返しを迎える年でもございますので、この場をおかりし、ローカル

マニフェストの進捗状況を述べさせていただきたいと存じますが、時間も限られており、複数の部署に関連する項目もございますので、総合計画における六つの政策ごとにまとめ、「進行中」「実施済み」「継続中」「代替」「凍結」の五つの判断基準のうち、「実施済み」とさせていただいた項目について御報告させていただきます。

まず、「農業と観光で稼ぐ・儲かる経済都市ひとよし」の産業・経済分野におきましては、八つの取り組みのうち、実施済みとしたものが３項目でございます。

地産他商関係では、地元農産物や物産品の販売、観光ＰＲとして「人吉球磨の味めぐりｉｎ東京都庁」を平成23年から実施しているところでございます。この２年間の成果と検証を踏まえ、人吉ブランド化実行委員会企画運営部会において、平成25年度は関西地域での開催が決定されたところでございます。

このほか、肥薩線世界遺産登録に向けての組織の立ち上げと、離職者のための緊急雇用対策を実施済みといたしております。

次に、「美しき相良文化700年の歴史文化都市ひとよし」の教育・文化分野でございますが、四つの取り組み項目のうち２項目が実施済みでございます。

学校教育関係で、「放課後ただ塾」構想の一つであります放課後パワーアップ教室が、市内六つの小学校で平成23年10月11日からスタートし、約１年５カ月が経過いたしました。ボランティアで御協力いただいている学習サポーター及び補助の先生方の御指導により、希望している４年生から６年生児童の学力の基礎・基本の定着とやる気を引き出す取り組みが行われ、確実に成果が得られております。また、７人の学力充実支援員の配置により、放課後パワーアップ教室の運営が充実し、各小学校の日々の授業においても、学力充実のための支援が必要な児童へ支援を行うことで、確かな学力の育成に寄与しているところでございます。

平成25年度におきましては、さらに本事業を拡大し、低学年を対象とした思考力の基礎をはぐくむ「人吉市花まる教室」として、本市出身の高濱正伸氏が代表を務められている「花まる学習会」からの派遣指導者を中心に、思考力の基礎をはぐくむための教材を活用し、学力充実支援員などに指導及び運営に当たっていただく計画でございます。

このほか、郷土の偉人の顕彰事業を実施済みといたしておりまして、今後も引き続き子供たちの生きる力の育成につながる本市独自の取り組みを積極的に行ってまいりたいと存じます。

次に、「母なる清流球磨川が輝く自然安全都市ひとよし」の自然環境・安全分野でございますが、五つの取り組み項目のうち１項目が実施済みでございます。

庁舎建設関係でございますが、安全・安心のまちづくりの取り組みの一環として、「市庁舎移転建設研究委員会」を庁内に発足いたしました。昨年10月の第１回の会議を皮切りに現在４回開催しており、これまでの市庁舎移転建設に関する経過の確認と、本館及び別館といった現市庁舎の現状、さらにはＰＦＩ手法による庁舎建設の可能性などにつきまして調査・

研究を進めているところでございます。

今後も市民の安全性と利便性を最大限に考慮した市庁舎建設に向け、市議会と執行部とが車の両輪となり、まずは骨子となる基本構想を策定するためにも、移転場所の選定に重点を置き議論を交わしてまいりたいと存じます。議員各位、さらには市民の皆様の御理解と御協力をよろしくお願い申し上げます。

次に、「笑顔があふれ、幸せいっぱいの健康福祉都市ひとよし」の健康・福祉分野でございますが、六つの取り組み項目のうち２項目を実施済みといたしました。

長寿健康づくり支援策として、全国規模の相良三十三観音めぐりウォーキング大会の事業主体を人吉球磨広域行政組合に移管し、広域連携という枠組みをもって昨年９月23日に事業を実施し、全国へ向けて発信をしたところでございます。まだ全国規模という段階にはございませんが、さらなる工夫を重ねることで、本地域の魅力にあふれ人吉球磨を代表する秋の恒例行事として育ててまいりたいと存じます。

このほか、子供の成長課題解決のために、健診に加えて１歳から５歳児の健康相談を実施いたしております。

次に、「便利で住みやすいふるさと定住都市ひとよし」の都市基盤・建設分野でございますが、八つの取り組み項目のうち３項目が実施済みでございます。

安全・安心のまちづくりの一環といたしまして、市営住宅の修繕・改善を年次計画に沿って切れ目なく実施しているところでございます。本市におきましては、昭和50年前後に集中して建設された市営住宅が更新期を迎えており、既存ストック住宅の効率的かつ有効な更新と費用の縮減につなげていくため、平成23年度に「公営住宅等長寿命化計画」を策定いたしております。本計画に基づき、快適で安全な居住環境の維持を図るため、引き続き外壁改修工事や屋上防水工事など、計画的に修繕・改善を実施してまいりたいと存じます。

このほか、市民のための交通手段に係る施策のうち、くま川鉄道に係る２項目を実施済みといたしております。

最後に、「信頼と連携で力を合わせる市民主役都市ひとよし」の地域・自治分野でございますが、取り組み項目の10項目のうち６項目が実施済みとなっております。

主に、税金のムダ使い撲滅運動策のうち、市職員の総人件費の削減につきましては、私自身の給与20％カットを含め、前期に引き続き特別職の給与削減を実施しておりますとともに、職員定数につきましても平成32年度までに職員数を26人、7.6％削減する新たな定員適正化計画を策定し、計画初年度である平成24年度から退職者に対する新規採用を抑制しているところでございます。今後とも行政サービスの向上及び職員の就労環境の改善を図りつつ、着実に定員管理を実行してまいる所存でございます。

また、定員管理の推進にあわせて、新たな組織機構改革による機動性の高い組織づくりにも着手しておりまして、昨年12月議会でお認めいただきましたとおり、本年４月１日から市

長公室と総務部の２部６課を統合再編し、総務部１部５課とし、建設部につきましても現行４課体制から３課体制とすることといたしております。これにより一層の組織の効率化、機動性の向上を図るとともに、この改編を契機として、平成25年度以降も行政委員会も含めた組織の統合再編について鋭意検討してまいる所存でございます。

このほか、新たなタウンミーティングの手法として「たまには市長もかてNight！」の実施、「十年後の人吉を語る平成100人委員会」の開催、中津留美術館跡地の再生、市職員の定期的な研修の４項目を実施済みといたしております。今後とも市民幸福向上の実現に向けて、残りの４項目につきましてもみずから積極的に行政改革に取り組むことにより、市民に感動していただくための行政経営の確立を目指してまいりたいと存じます。

以上、実施済みとした項目について御報告いたしましたが、当然のことながら実施済みで終わりという意味ではなく、全ての項目を引き続き「継続」として行うものと判断いたしております。また、「進行中」と判断した項目につきましても、鋭意進めているところでございまして、これらの内容につきましてはまとまり次第これまで同様各部の事業・施策の中で順次御報告させていただきたいと存じます。これからも「市民みんなが健康で笑顔で暮らせるまちづくり」を念頭に、各施策に取り組んでまいる所存でございますので、議員各位を初め市民の皆様におかれましても、御指導、御協力を賜りますようお願い申し上げる次第でございます。

国際交流関係でございますが、昨年12月の市議会定例会におきましても御報告をさせていただきましたように、11月の米国訪問におきまして、何より将来を担う人材育成の必要性を痛感し、一井氏を初めとする郷土の偉人を顕彰することで青少年に希望を抱かせ、第二、第三の一井氏を目指す若者に世界の最先端の地を経験させる機会を創出したいという思いで検討を重ねてまいりました。まずはその足がかりといたしまして、志を高く持つ高校生などを対象に若干名ではございますが、一井氏ゆかりの地の訪問、サンノゼ州立大学における語学留学体験、シリコンバレー立地の企業視察などの海外体験を実施してまいりたいと存じます。

これまで、姉妹都市でありますポルトガル国アブランテシュ市へ隔年で青少年の派遣事業を実施してきたところでございますが、今後は派遣者数を調整し、アブランテシュ市派遣とサンノゼ市周辺派遣を交互に行い、本市の未来を担う青少年に「青雲の志」を持つグローバルな人材への成長を願い、機会と環境を整えてまいりたいと存じます。

肥薩線の鉄道遺産関係でございますが、世界遺産登録を目指した取り組みについて、地域住民の皆様にも御理解を深めていただくため、本年３月９日、東京大学副学長の西村幸夫先生を本市にお招きしまして、「100年レイル肥薩線　世界遺産特別講演」を開催する運びとなりました。西村先生は、世界文化遺産の審査を担当する国際機関・イコモス（国際記念物遺跡会議）の日本国内委員長で、さらには「九州・山口近代化産業遺産群」の専門家委員長でもあられます。このため、世界遺産、産業遺産という二つの側面から肥薩線の魅力につい

てお話をいただけるものと大いに期待をしているところでございます。

現在、肥薩線世界遺産推進室におきまして、肥薩線に関する学術調査や観光ＰＲを進めておりますが、より全国へ効果的に情報発信していくため専用ホームページの立ち上げを計画しておりまして、あわせて「D51形蒸気機関車」の復活運行につきましても、まずは全国から署名を集めるため、その書式をホームページ上に掲載することにいたしております。今後はこのホームページを通じて、肥薩線の世界遺産登録及び「D51形蒸気機関車」の復活を全国に訴えるとともに、多くの皆さんにごらんいただけるよう内容の充実を図ってまいる所存でございます。

また、くま川鉄道関係につきましても、大正13年に当時の鉄道省湯前線として開業して以来約90年を経過しておりまして、開業当時の施設が現在でも数多く残されております。このうち、球磨川第四橋梁、湯前駅舎など15件の施設に関する学術調査報告書が完成いたしましたので、今後、国の有形文化財として登録できるよう文化庁に対して意見具申を行ってまいる所存でございます。

くま川鉄道株式会社におきましても、すべての車両のリニューアルを計画しておりますように、鉄道の開業90周年に向け、車両と施設、上下一体となって付加価値を向上させていくことで、地域に愛される鉄道としてより一層の利用促進が図られるものと大きな期待を寄せているところでございます。

行政改革関係でございますが、昨年から検討を進めてまいりました第５次人吉市行政改革大綱案につきましては、市民有識者による人吉市行政改革懇談会においていただきましたさまざまな御意見を取り入れ、大綱を策定したところでございます。本大綱は、推進期間を第５次人吉市総合計画の終期に合わせまして、平成31年度までの７年間といたしております。

また、具体的な取り組み項目につきましては、進捗状況を確認し、継続して実施すべき項目や新たな追加項目などを踏まえ、毎年見直しを行いながら実効性のある行政改革を進めるとともに、各課に行政改革推進リーダーを配置し、積極的な取り組みの推進を図りながら、すべての職員が共通認識のもと全庁体制で取り組んでまいる所存でございます。

防災関係でございますが、平成24年度事業として整備を進めてまいりました同報系の防災行政無線につきましては、来月中旬に工事が完了し、親局、中継局、子局の各設備がすべて整う計画でございます。その後、試験電波の発射及び各機器の動作確認、竣工検査などを行い、４月から本格的に運用を開始することにいたしております。移動系無線の整備につきましても、平成25年度の事業として進めてまいる所存でございますので、引き続き御協賛賜りますようお願い申し上げます。

納税関係でございますが、マニフェスト関連項目である市税などのコンビニ収納につきましては、市民の皆様の御要望もあり検討を重ねてまいりました。このたび、関係機関との協議も整いましたので、４月中に納期を迎える市営住宅家賃を手始めに、固定資産税、軽自動

車税、国民健康保険税、「後期高齢者保険料」などほとんどの税や保険料が、24時間対応可能なコンビニエンスストアでお支払いいただけるようになります。納付方法の選択肢が拡大され、市民の皆様の利便性が図られるとともに、期限内の収納率のアップにもつながるものと期待をしているところでございます。

環境関係でございますが、中国からの越境汚染が指摘されている微小粒子状物質「ＰＭ2.5」に対応するため、環境省は去る２月14日に専門家による初会合を開催し、今月中に暫定的な指針をまとめるとの意向を示されたところでございます。このようなことから、現在本市といたしましても、熊本県からの情報をもとに本市ホームページに掲載し、市民の皆様に情報の提供をしているところでございまして、今後も関係機関と連携を図りながら、正しい情報の提供に努めてまいりたいと存じます。

福祉関係でございますが、初めにマニフェストにも掲げております向こう三軒両隣による声かけネットワークの組織化につきましては、平成23年度から民生委員児童委員や高齢者相談員が中心となり、地域における見守り体制の整備を進めるとともに、災害時要援護者避難支援システムを導入し、町内会を初めとする自主防災組織に対し必要な情報提供を行うなど、安全・安心な地域づくりの整備に努めてまいりました。平成25年度につきましては、災害時における要援護者の避難支援体制の拡充を図るため、支え合いマップ作成に関する出前講座などを開催し、地域における助け合いの強化につなげてまいりたいと存じます。

次に、近年社会的問題となっております自殺者の予防対策といたしまして、心の問題について正しい知識を広めるために、「こころの健康セミナー」を去る１月27日にカルチャーパレスにおいて実施したところでございます。自殺との関連性が高いうつ病とアルコール依存症について専門医による講演がございまして、市民の皆様を初め関係機関の方に知識習得と理解を深めていただく機会とすることができました。今後も関係機関との連携を強化し、自殺予防対策に取り組んでまいりたいと存じます。

また、これまでの障害者自立支援法にかわって平成25年４月から施行されます障害者総合支援法でございますが、新たに共生社会の実現や社会参加の機会確保などの基本理念が創設され、また、治療方法が確立していない難病なども障がい者の定義に加わりますことから、より一層障がい福祉サービスの充実を図り、日常生活や社会生活を総合的に支援してまいりたいと存じます。

生活保護についてでございますが、依然として厳しい経済情勢が続く中、全国と比較して保護率は低いものの、本市においても生活保護受給者は増加の傾向にあります。現在の社会経済情勢のもとでは当面この状況は続くものと思われますので、今後とも保護を必要とされる方に対しましては、適切な保護に努めるとともに、就労支援を強化し経済的自立を促進するよう努めてまいりたいと存じます。

高齢者支援関係でございますが、来る３月11日に日本福祉大学地域ケア研究推進センター

と本市において、「包括的な福祉施策のあり方」に関する研究協定を締結する運びとなりました。日本福祉大学は、福祉系の大学としては国内においても有数の規模を誇り、人材の輩出、また研究の成果とともにすばらしい実績を上げておられるところでございます。

今回の協定は、少子高齢化が進む本市の現状と地域ケア研究推進センターの研究内容が一致している「少子高齢化の進む地域における福祉の施策化に関すること」「地域における認知症対策の取り組みに関すること」「権利擁護支援の仕組みづくりに関すること」「広域的な地域包括支援ネットワークシステムの構築に関すること」の四つをテーマとして締結をするものでございます。この研究協定により、本市の福祉施策を充実させ、本市が目指しております「笑顔があふれ、幸せいっぱい健康福祉都市ひとよし」の実現に大きく近づけてまいりたいと存じます。

人吉市地域包括支援センターについてでございますが、このセンターは地域包括ケアの実現のための中心的な役割を担う機関として平成18年４月に設置し、高齢者のための総合窓口として、総合相談支援や権利擁護事業、介護予防ケアマネジメントなどさまざまな事業に取り組んでいるところでございます。

しかしながら、高齢者の方々から、「地域包括支援センター」という名称は「覚えにくい」とか、「何をするところかわからない」などの御意見がございましたので、わかりやすい愛称を公募し、現在県内外から多くの応募をいただいているところでございます。４月からは新しい愛称でスタートし、高齢者の方々が気軽に御利用いただけますよう、これまで以上の機能の充実を図ってまいりたいと存じます。

健康づくり関係でございますが、受診しやすい健診を目指して、平成24年度から市民健診として見直しを行い、受診率向上のためさまざまな取り組みを実施してまいりました。平成23年度との比較で受診率は伸びたものの、目標値の65％には及ばず、速報値34.6％という結果となりました。特に、60歳未満の男性の受診率が20％に満たない状況であり、働き盛り世代の男性の受診勧奨が大きな課題となっております。平成25年度の健診申し込みも既に始まっており、毎年受診していただくことが生活習慣病の予防につながってまいりますので、町内嘱託員や健康推進員の皆様方の御協力を得ながら、特定健診の受診率向上を目指してまいる所存でございます。

農業振興関係でございますが、平成24年度から３カ年の事業として始めました人吉市クリせん定作業支援は、初年度といたしましては事業の周知期間が短かったことなどから、本市が想定しておりました応募数には至らなかったところでございます。２年目となります平成25年度につきましては、さらにＪＡくまと連携を強め、人吉産クリの品質向上と生産農家の所得向上のため、本事業の活用を推進してまいりたいと存じます。

畜産関係でございますが、畜産経営におきましては、従事者の高齢者や後継者不足などの理由から農家戸数が年々減少傾向にあり、畜産農家の皆様におかれましても、今後の経営維

持などについて御心配をされているところでございます。本市といたしましては、平成25年度から畜産農家の支援の一環として、品評会などへ出品する際の補助及び異常産予防接種に係る経費の一部助成を、人吉市農業活性化対策事業補助金の枠内で実施いたします。本支援により、高齢者の農家におかれましても安心して経営をされ、また地域が一体となった家畜伝染病の予防に努められることを期待するものでございます。

去る２月８日、「キーパーソン事業ｉｎ人吉」を開催いたしました。本事業は、九州経済産業局と本市が関係団体と連携し、まちづくりの第一線で活躍をされているキーパーソンを中心に、私たちみずからが地域に埋もれているお宝を発見し、将来の地域ブランドづくりの検討や自主的な取り組みを行うきっかけづくりとして実施したものでございます。当日は、３人のキーパーソンを迎え、基調講演や参加者との意見交換を行っていくなど非常に有意義な会となったところでございます。今後は、本事業においてお伺いした貴重な御意見などを参考に、地域の皆様と一体となってまちづくりに取り組み、全国に人吉をアピールしてまいりたいと存じます。

川辺川総合土地改良事業関係でございますが、国営土地改良事業を推進するため関係市町村で昭和47年に設立し、多岐にわたり事業事務を行ってまいりました川辺川総合土地改良事業組合は、平成15年度の利水訴訟においての国の敗訴や、平成20年度から事業休止などを受けて事務量も減少し、また平成25年３月末で最後の組合職員も定年退職となり不在となる状況を踏まえ、当組合を解散し、協議会に移行させる方針を固めて昨年から準備を進めてまいりました。事業組合を構成する関係６市町村は、１月25日付で県知事に組合解散の届け出を提出して受理されましたので、平成25年３月31日をもって正式に解散することが決定したところでございます。現在、協議会設立に向け準備を進めておりますが、協議会に移行しましても前体制と遜色がないよう組織形態など検討を行っており、これまでと同様に、水を待つ農家に一日でも早く水を届けられますよう引き続き鋭意努力をしてまいりたいと存じます。

人吉中核工業用地でございますが、現在、全体基本計画を見直し、現市有地を有効に活用するため、最少の経費で最大の効果を出す用地造成及び周辺環境整備計画を進めているところでございます。今後、一部の用地取得及び開発行為手続を行い、工業用地整備に取り組んでまいりますので、地域住民の皆様及び関係各位におかれましては、特段の御理解、御協力をお願い申し上げる次第でございます。

次の２件はマニフェスト関連でございますが、初めに企業誘致につきましては、現在地域に一人でも多くの雇用創出を図るため、さまざまな手法で本市の工場立地環境を全国に情報発信し、企業訪問と誘致活動を展開しているところでございます。これまで以上に人吉球磨地域、さらには県南地域一体となった企業誘致を推進するとともに、本市一丸となった職員全員企業誘致運動として、一人一人がセールスマンとなって誘致活動に取り組んでまいります。また、球磨焼酎を初めとする地場産業及び市内誘致企業につきましては、定期訪問など

によるフォローアップに努め、地域の産業振興につながる起業化におきましても事業戦略を研究・実践してまいりたいと存じます。

次に、中心市街地の昭和の人吉温泉郷、街並みの復活でございますが、市職員による賑わい創出プロジェクトチームを設置し十数回に及ぶ検討会と、商店街の皆様を初め商工会議所及び宅建業者の方との連携を図りながら活性化策をまとめてまいりました。今後は、これらの商店街活性化事業補助金要項を全面的に見直し、中心市街地イベントの継続補助、空き店舗家賃補助などの開業者支援、修景ファサード整備及び休憩所などの改装補助を新たに拡充しまして、４月からの制度運用を計画いたしております。

観光関係でございますが、去る２月１日から３月31日まで恒例のロングランイベント、ひとよし・くま旬夏秋冬キャンペーン実行委員会による「人吉球磨は、ひなまつり」を開催しております。ＪＲ人吉駅前におけるオープニングセレモニーはあいにくの雨模様でございましたが、くまモンを初め人吉球磨４市町村のゆるキャラや、事業連携を図っております奥宮崎の西都市、西米良村、綾町のゆるキャラも結集し、また善隣保育園の年長さんたちにもかわいらしいくまモン体操でセレモニーに花を添えていただきました。ことしは、専徳寺さんも復帰をされるなどうれしい知らせもあり、人吉球磨100カ所以上の施設においてそれぞれのおひなまつりが展開されております。

さらに、この時期ならではの人吉温泉女将の会「さくら会」のおひな御膳やおひな会席、くま川鉄道のカフェトレイン、くま川下りの梅花の渡しなどとの連携や、新たな試みとしまして地場産のホット梅酒のサービスなども加え、また、奥宮崎との地域連携とともに、総合産業としての観光の広がりを目指しているところでございます。

期間中は各地各団体においてさまざまな催しが実施されるほか、３月16日には待望のＳＬ人吉の運行開始や、観光路線バスじゅぐりっと号の運転再開もあり、本市にも本格的な春の観光シーズンが到来いたします。関係団体・機関の皆様を初め市民の皆様におかれましても、観光客を温かく迎えていただきますようお願い申し上げる次第でございます。

日本百名城人吉お城まつりは、ことしもゴールデンウィークの５月３日、４日に開催することに決定し、準備を進めているところでございます。そのほか、さまざまなイベントや取り組みを通して、観光の広域化や本市観光自体の総合力を高めるとともに、当地域の歴史・文化に裏づけされた品格といったものを大切にしてまいりたいと存じます。

くま川下り関係でございますが、昨年８月、前任者の退任を受け、市政の最高責任者である私が社長に就任し、本市議会にも御心配をおかけしておりましたが、同年12月25日に臨時の株主総会、その後取締役会を開催し、社長代行であった井上幸生氏を新社長に選任いたしました。今後は、井上新社長のもと背水の陣の思いを持って着手した経営改革を断行してまいりますが、私も引き続き取締役の一人として、会社再建を支援してまいる所存でございます。議員各位を初め市民の皆様のさらなる御支援、御協力を改めてお願い申し上げます。

住宅リフォーム促進事業でございますが、個人所有の既存住宅の機能維持、居住環境の整備及び性能向上を図るため、改修される場合に本市が費用の一部を助成するもので、初めての実施年度となりました平成24年度におきましては、57件の申請がありました。また、この事業の実施により、補助金総額の約６倍の経済効果があったものと存じます。平成25年度は、改修に木材を使用される場合、地域材の使用を要件に加えて活用促進を図りたいと計画しているところでございまして、今後も引き続き市民の皆様が安全・安心の上に快適な生活ができますよう、事業を推進してまいる所存でございます。

都市計画関係でございますが、街路事業といたしましては、都市計画道路下林願成寺線のうち、人吉インターチェンジから通称フルーティーロード交差点付近までの区間の整備に平成23年度から取り組んでいるところでございまして、平成24年度に同区間の詳細設計、用地測量及び一部建物調査を行いましたので、平成25年度からはその調査結果などをもとに、計画的に用地交渉を進めてまいりたいと存じます。地権者を初め市民の皆様には何かと御迷惑をおかけいたしますが、事業の趣旨を御理解いただき、何とぞ御協力賜りますようお願い申し上げます。

公園事業につきましては、平成24年度より国の補助事業である都市公園安全・安心対策緊急総合支援事業を活用し、村山公園の公園施設の改築・更新に取り組んでいるところでございまして、平成25年度も引き続き整備を行ってまいりたいと存じます。また、石野公園につきましては、平成25年度に測量及び設計業務を行い、平成26年度以降、計画的に改築・更新が実施できますよう準備を進めてまいる所存でございます。

鍛冶屋町通り街なみ環境整備事業につきましては、平成16年度より取り組んでおりますが、地域住民の皆様の御理解と御協力をいただきまして、これまでに10件の民家修景助成のほか、案内灯籠や通路などの景観整備を行うことができました。なお、平成25年度におきましては、より一層魅力的な地域となるように、市民の皆様を初め市内を散策される観光客の皆様の憩いの場としての小公園の整備に取り組んでまいりたいと存じますので、引き続き住民の皆様の御協力をお願い申し上げる次第でございます。

学校施設関係でございますが、平成20年度以降、年次計画により、学校施設環境改善交付金などを活用して実施してまいりました耐震補強工事は、昨年末に竣工した人吉西小学校管理・特別教室棟の耐震補強工事をもちまして、すべての学校施設の耐震化が完了いたしました。現在、同校低学年棟などの大規模改修工事を順次行っているところでございまして、平成25年度末で人吉西小学校における改修はすべて完了する計画でございます。

また、各小中学校におきまして、空調設備の冷暖房効果を高めて省エネを図るための天井扇の設置を行っておりましたが、ほぼ完了し、より快適な学習環境の提供ができたものと存じます。

学校教育関係でございますが、いじめ対策につきましては、現在いじめ防止に向けた支援

体制の構築を進めており、各小中学校に校長先生を初め教職員、保護者代表、民生児童委員などを構成委員とした「学校いじめ対策委員会」を設置していただいております。さらには人吉市教育委員会内に、人吉っ子アドバイザー、家庭児童相談員、保健師、人吉警察署員などを構成員とした「いじめ対策サポートチーム」を編成いたしました。県内自治体での設置は初めてであり、各方面から注目されているところでございます。また、現在３人体制の人吉っ子アドバイザーを４人体制にして役割分担を明確にするとともに、いじめ・不登校問題を初めとする生徒指導と相談業務の充実を図ってまいりたいと存じます。

今後ともいじめの早期対応・早期解決を行い、いじめを絶対に許さない学校づくり、地域づくりを行っていくとともに、子供たちの健全育成にもしっかり取り組んでまいる所存でございます。

学校支援地域本部事業につきましては、平成20年度から３年間は文部科学省の委託事業として、その後は県の補助を受けながら実施してまいりました。地域全体で学校教育を支援していく本事業も５年を経過しようとしておりますが、現在、事業のかなめとなります学校支援ボランティアとして250人余りの方々に登録いただき、さまざまな支援活動を実施していただいているところでございます。今後はさらに学校と地域の連携体制の強化と、地域教育力の活性化に向け、事業の充実を目指してまいりたいと存じます。

社会教育関係でございますが、昨年10月27日に開講いたしました「ひとよし花まる学園大学」は、来る３月９日が本年度最後の講座となります。この間、人吉球磨を初め熊本市、近隣の伊佐市、霧島市から180人余りの方々に「歴史学」「肥薩線」「まちづくり・ひとづくり」など地域の特性を生かした講座を、楽しみながら受講していただけたものと存じます。

また、このひとよし花まる学園大学では、人吉球磨の高校生を対象に「十代未来塾」と題した出前講座を、熊本学園大学の先生方や地元の方々、さらには前述の「花まる学習会」代表の高濱正伸氏など多彩な講師をお迎えして、各高校で実施いたしましたところ、大変御好評をいただいたところでございます。今後もひとよし花まる学園大学を初めとする生涯学習講座を開催することで、人吉市民の皆様のみならず、市外、県外へ人吉発の情報を提供してまいりたいと存じます。

ひとよし春風マラソンでございますが、去る２月17日に第10回の記念大会を、全国各地から過去最高となる6,082人のランナーをお迎えして開催することができました。エントリーの約４割の方々が県外からの参加でございまして、本市の観光振興や地域活性化に大きく寄与したものと存じます。電算処理の不具合のため完走証の即時発行ができず、選手及び関係者の皆様に御迷惑、御心配をおかけいたしましたが、先日発送作業が完了したところでございます。今回の反省点を十分踏まえながら、今後も招待選手とのふれあいはもとより、沿道の応援やボランティアスタッフの心のこもったおもてなしにより、満足いただける大会へ育ててまいりたいと存じます。御協力を賜りました関係者を初め市民の皆様に心から感謝申し

上げる次第でございます。

文化財関係でございますが、石段や排水溝の陥没が確認されていた大手門南側石垣につきましては、平成24年度において発掘調査による棄損状況の把握及び石垣の図化などを実施いたしました。平成25年度では石段の修復工事を行うとともに、平成26年度に予定している周辺整備に伴う測量設計を計画しております。

「お庭御覧」でございますが、平成23年度から庭園所有者を初め関係者の皆様の御協力のもと実施してまいりました。この間、２カ年連続で臨地講習を行いました人吉城御館庭園におきましては、往時の壮大な石組みが姿をあらわし、名勝となる庭園として生まれ変わり、訪れる人々に楽しんでいただいているところでございます。平成25年度におきましては、５月25日に井口八幡神社境内の庭園を舞台に、例年と同様日本を代表する作庭家の野村勘治氏を講師にお迎えして臨地講習を開催し、翌日は市内10カ所程度の名園を訪ねる庭園めぐりを計画しているところでございます。

人吉城歴史館では、郷土の偉人の一人である相良清兵衛を顕彰する特別展示を、本年10月４日から12月８日まで開催する計画でございます。人吉藩存続の立役者で波乱万丈の人生を送った相良清兵衛の功績や人物像を相良家文書や絵図、青井阿蘇神社の資料などとともに、市民を初め多くの皆様に御紹介してまいりたいと存じます。また、特別展にあわせて、近世社会成立期での相良清兵衛と「お下の乱」の歴史的な評価についても、歴史研究者による講演を企画しているところでございます。

文化振興関係でございますが、犬童球渓顕彰音楽祭につきましては、本来の目的であります郷土の偉人・犬童球渓氏の偉業を顕彰するとともに、「音楽の夕べ」におきまして一昨年からスタートし好評を博しております「犬童球渓合唱団」を、今後も人吉市民合唱の核として御活動いただくなど、市民の皆様が多数御来場いただけるような創造性豊かでぬくもりを伝える手づくりの音楽祭を目指してまいりたいと存じます。人吉球磨総合美展につきましては、平成25年度で60回目となりますことから、記念となる開催に向け準備を進めているところでございます。これを契機としまして、今後さらに人吉球磨を代表する芸術の祭典として、より充実したものとなりますよう人吉美術協会の皆様方を中心に取り組んでまいりたいと存じます。

カルチャーパレスの改修につきましては、市への移管後、文化庁芸術活動支援員派遣事業により専門家を招聘してこれまで改修部分の精査検討を行い、厳しい財政事情を勘案しながら、昨年３月に改修方針を策定し、大規模改修基本設計を本年３月中には完了する見込みでございます。安全性及び操作性の確立を第一義とする観点から、舞台機構・舞台照明・電気設備関係の一部につきましては、平成25年度に実施設計を行う計画でございますが、改修の準備が整い次第、順次工事に入ってまいりたいと存じます。

図書館関係でございますが、去る２月23日、24日に行いました図書館まつりでは、本市内

外から家族連れを初め多くの来館者があり、人形劇・映画上映などいろいろな催し物を楽しんでいただきました。また、「村上春樹の世界に見る悪、宗教、物語」のテーマで開催した教養講座におきましても、多くの文学愛好者に参加をいただき、講演後には、「作品の魅力を再認識した」「もう一度読み返したい」「知らない作品にも興味がわいた」などの感想を伺うことができ、大変有意義な講座になったものと存じます。今後も、このような大人から子供まで楽しめるイベントを継続して実施することで、図書館に興味を持っていただくとともに、読書のすばらしさをアピールしてまいる所存でございます。

「上下水道事業」関係でございますが、老朽化に伴う更新及び耐震化計画として進めております茂ケ野水源地から原城配水池までの送水管改良工事のうち漆田地区の一部につきましては、平成22年度から工事を進めてまいりましたが、平成25年度に完了する見込みでございます。そのほか、一般改良工事として下原田町配水管改良工事など13カ所、負担金工事で２カ所、起債工事で２カ所の配水管改良工事を計画しているところでございます。

公共下水道関係でございますが、本市の公共下水道は昭和57年３月の供用開始以来、この３月で31年を迎えることとなりました。現在の事業認可区域1,029ヘクタールの整備につきましては、順調に進捗しておりまして、区域内の未整備地区もあとわずかという状況でございます。

また、平成15年度から取り組んでまいりました終末処理場「人吉浄水苑」の改築更新工事につきましては、平成24年度でほぼ完了いたしますが、今後は老朽化した汚水中継ポンプ場の長寿命化計画の策定や、早期に敷設しました汚水管渠などの改築更新に着手し、施設の機能維持や安全性の確保に努めてまいりたいと存じます。さらに、独立採算が基本である下水道事業の経営基盤強化においては、効率的で長期的に安定した経営を持続していくために、経営の健全性や計画性・透明性の向上を図ることが必要とされておりますので、企業会計導入に向けた準備を進め、地方公営企業法適用へとつなげてまいりたいと存じます。

浄化槽関係でございますが、これまでも国・県の制度を活用した補助金交付制度により普及促進を行ってまいりましたが、いまだ未整備の世帯が多く残っているのが現状でございます。そこで平成24年度から上乗せ補助を実施した結果、設置基数が平成23年度と比べ約1.7倍の増加となりました。平成25年度におきましても、これらの普及促進により、家庭からの雑排水による汚濁物質の減少や住環境の改善及び公共用水域の水質保全につながることが期待されるところでございます。

ここで、若干の時間を拝借いたしまして、国が定めました平成25年度の地方財政対策について、その概要を申し上げます。国の平成25年度予算の基本方針は、緊急経済対策に基づく平成24年度補正予算と一体的なものとして「15カ月予算」として編成をされるところであり、「復興・防災対策」「成長による富の創出」「暮らしの安全・地域活性化」に重点を置き、日本経済再生に向けて全力で取り組むこととされております。

特に、平成24年度補正予算の公共事業においては、補助裏の地方負担について、地域の元気臨時交付金が創設され、地方の財政負担への措置も講じられます。あわせて、国家公務員給与削減同様に地方公務員給与も反映するよう地方交付税の見直しも行うこととされております。

このような基本方針のもとで策定されました平成25年度の地方財政対策は、昨年に引き続き通常収支分と東日本大震災分を区分して整理することとされております。通常収支分でございますが、計画の規模を0.1％の増、地方一般歳出を0.1％の減、一般財源総額を0.2％の増とされ、平成25年度の財源不足額は13兆2,808億円余りとされているところでございます。また、地方財政の根幹を支えております地方交付税は、国税５税の法定分の若干の増額はあるものの、別枠加算や繰越金の減少から、平成24年度に比べ3,921億円、2.2％の減で、17兆624億円とされております。また、地方交付税の財源不足を国と地方で折半する臨時財政対策債は、1.3％の増とされているところでございます。

その他の地方財源といたしましては、地方税が1.1％の増、地方譲与税が3.8％の増とされているところでございます。

本市の平成25年度の財政見込みでございますが、市税のうち個人の市民税につきましては、就労人口や総所得金額の減少などに伴いまして減収が見込まれているところであり、あわせて法人の市民税につきましても、本市においてはいまだ回復基調に至らず、平成24年度当初予算と比較いたしまして減収を見込んでいるところでございます。平成25年度も本年度に引き続き、所要一般財源の確保に相当な困難を要し、厳しい財政運営に大変苦慮しているところでございます。

このように、厳しい財政状況ではございますが、平成25年度は平成24年度に引き続き国の施策と歩調を合わせ、景気対策や雇用の確保につながる取り組みを進めてまいりますので、議員各位並びに市民の皆様の御理解と御協力をお願い申し上げる次第でございます。

少し戻りまして、訂正があると思います。12ページの最初から４行目、「上水道事業」と言わなければいけないのに「上下水道事業」と言ったものと思っております。お許しをいただきたいと思います。

○議長（永山芳宏君）　ここで暫時休憩いたします。

午前11時03分　休憩

午前11時18分　開議

○議長（永山芳宏君）　休憩前に引き続き再開いたします。

○市長（田中信孝君）（登壇）　引き続き案件議案を御説明を申し上げます前に、御訂正をお願いしたいと思います。

５ページでございます。５ページの初めのほうの段落から３段目に「納税関係でございま

すが」というところがございます。納税関係のコンビニエンスストアでの支払い関係でございますが、その中で、固定資産税、軽自動車税、国民健康保険税、でその後に「後期高齢者保険料など」というふうになっておりますけれども、「後期高齢者保険料」を削除をお願いいたしまして、「介護保険料」というふうに訂正をお願いしたいと思います。後期高齢者保険料を削除していただき、介護保険料に御訂正をお願いいたしたいと存じます。

それでは、引き続き、御提案申し上げております予算案、条例案、案件議案につきまして概要を御説明申し上げます。

議第１号平成24年度人吉市国民宿舎特別会計補正予算（第１号）は、２月４日に専決処分いたしました補正予算につきまして議会の承認を求めるものでございまして、国民宿舎くまがわ荘の屋内消火栓に係る消火ポンプ非常動力装置自動起動盤の修繕について専決いたしたものでございます。

議第２号平成24年度人吉市一般会計補正予算案（第６号）は、国・県の補助事業の決定による事業費の確定や最終見込みによるもののほか、単独事業などの補正を行うものでございます。

今回の補正は、歳入歳出をそれぞれ１億2,598万5,000円減額し、歳入歳出予算の総額を149億9,014万8,000円とするものでございます。

議第３号平成24年度人吉市国民健康保険事業特別会計補正予算案（第３号）は、歳入歳出をそれぞれ１億8,193万6,000円減額し、歳入歳出予算の総額を49億6,182万8,000円とするものでございます。

議第４号平成24年度人吉市後期高齢者医療特別会計補正予算案（第２号）は、歳入歳出をそれぞれ949万4,000円減額し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ４億8,287万2,000円とするものでございます。

議第５号平成24年度人吉市介護保険特別会計補正予算案（第３号）は、歳入歳出をそれぞれ3,482万2,000円減額し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ40億9,806万4,000円とするものでございます。

議第６号平成24年度人吉市介護サービス事業特別会計補正予算案（第２号）は、歳入歳出をそれぞれ160万円減額し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ2,869万9,000円とするものでございます。

議第７号平成24年度人吉市水道事業特別会計補正予算案（第２号）は、事務事業費の精算でございまして、収益的収入及び支出につきましては、収入の水道事業収益を158万9,000円増額し、収入総額を５億5,195万2,000円とし、支出の水道事業費用を218万8,000円減額し、支出総額を４億6,514万9,000円といたしております。資本的収入及び支出につきましては、支出の資本的支出を977万6,000円減額し、支出総額を２億8,528万6,000円といたしております。

議第８号平成24年度人吉市公共下水道事業特別会計補正予算案（第３号）は、歳入歳出をそれぞれ260万2,000円減額し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ13億2,409万円とするものでございます。

議第９号平成24年度人吉市工業用地造成事業特別会計補正予算案（第２号）は、歳入歳出をそれぞれ389万9,000円減額し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ4,290万2,000円とするものでございます。

議第10号平成25年度人吉市一般会計予算案について御説明いたします前に、今回の予算の概要について申し上げます。

まず、歳入のうち主要一般財源の市税でございますが、平成24年度当初予算に比べ約7,300万円の減を見込んでいるところでございます。個人及び法人の市民税は、就労人口の減少や本市における景気回復の状況がいまだ不透明なことから、増収が見込めないことにより、平成24年度当初予算に比べ約3,400万円の減を見込んでいるところでございます。固定資産税につきましては、平成24年度の評価見直しなどにより、平成24年度当初予算に比べ約8,000万円の減を見込んでいるところでございます。また、たばこ税でございますが、県からの税源移譲により平成24年度当初予算と比べ約4,900万円の増を見込んでおります。

地方交付税でございますが、地方財政対策において、交付総額で2.2％、3,921億円程度の減とされるところでございます。そのうち普通交付税につきましては、決して過大な見積もりとならないよう慎重に判断をする必要があることに加えて、今年度は地方公務員の給与水準を国家公務員並みに引き下げることを目的とした影響額を考慮する必要もあることから、平成25年度普通交付税の見込みは、平成24年度交付決定額に地方財政対策債の伸びを勘案し計上しているところでございます。また、特別交付税及び臨時財政対策債につきましては、平成24年度の決定額及び最終見込み額を参考として予算を計上しているところでございます。

次に、歳出でございますが、平成25年度におきましては、予算編成方針にも掲げさせていただきましたとおり、経常経費の５％削減を実施させていただいたところでございます。ただし、国の重点施策にも挙げられております「防災対策」におきましては、投資的な経費として防災行政無線整備の予算を計上しているところでございまして、歳入歳出予算の総額は141億3,519万4,000円で、平成24年度当初予算と比較いたしますと0.3％の増となっております。

また、安定した市民生活に不可欠な社会保障関係経費につきましては、必要な予算を計上いたしております

なお、財源不足を補うために、減債基金を取り崩し対応いたしております。

議第11号平成25年度人吉球磨地域交通体系整備特別会計予算案は、歳入歳出予算の総額をそれぞれ172万3,000円といたしております。

議第12号平成25年度人吉市国民健康保険事業特別会計予算案は、歳入歳出予算の総額をそ

れぞれ46億6,320万2,000円といたしております。

議第13号平成25年度人吉市後期高齢者医療特別会計予算案は、歳入歳出予算の総額をそれぞれ4億8,320万9,000円といたしております。

議第14号平成25年度人吉市介護保険特別会計予算案は、歳入歳出予算の総額をそれぞれ41億2,928万6,000円といたしております。

議第15号平成25年度人吉市介護サービス事業特別会計予算案は、歳入歳出予算の総額をそれぞれ2,731万4,000円といたしております。

議第16号平成25年度人吉市水道事業特別会計予算案は、収益的収入及び支出の予算額について、収入に水道事業収益５億4,147万7,000円を計上し、支出では水道事業費用４億8,744万1,000円といたしております。また、資本的収入及び支出の予算額は、収入に4,580万2,000円を計上し、支出を２億5,876万円といたしております。

議第17号平成25年度人吉市公共下水道事業特別会計予算案は、歳入歳出予算の総額をそれぞれ10億3,275万9,000円といたしております。

議第18号平成25年度人吉市国民宿舎特別会計予算案は、歳入歳出予算の総額をそれぞれ20万5,000円といたしております。

議第19号平成25年度人吉市工業用地造成事業特別会計予算案は、歳入歳出予算の総額をそれぞれ218万6,000円といたしております。

議第20号人吉市新型インフルエンザ等対策本部条例案は、新型インフルエンザ等対策特別措置法第37条において準用する同法第26条の規定により、人吉市新型インフルエンザ等対策本部の組織及び運営に関し必要な事項を定めるため、条例を制定するものでございます。

議第21号議会の議員その他非常勤の職員の公務災害補償条例の一部改正案、議第22号人吉市消防団員等公務災害補償条例の一部改正案、議第23号人吉市障害程度区分認定審査会の委員の定数等を定める条例の一部改正案及び議第24号人吉市重度心身障害者医療費助成に関する条例の一部改正案は、地域社会における共生の実現に向けて新たな障害保健福祉施策に講ずるための関係法律の整備に関する法律による障害者自立支援法の一部改正に伴い、法律名などを改めるため、条例の一部を改正するものでございます。

議第25号人吉市環境基本条例案は、市における良好な環境の保全、回復及び創造に関する環境政策の理念及び施策の基本となる事項を定め、自然環境と人間生活がともに輝く美しき千年都市ひとよしの実現を図るため、条例を制定するものでございます。

議第26号人吉市環境審議会条例の一部改正案は、環境審議会の所掌事務に環境基本計画に関する事項を加えることに伴い、条例の一部を改正するものでございます。

議第27号人吉市消毒・撒布手数料条例を廃止する条例案は、家屋等に係る消毒・撒布手数料を廃止するため、条例を廃止するものでございます。

議第28号人吉市中山間ふるさと・水と土保全基金条例を廃止する条例案は、人吉市中山間

ふるさと・水と土保全基金として所期の目的は果たされたので、条例を廃止するものでございます。

議第29号人吉市人・農地プラン検討委員会設置条例案は、今後の地域農業のあり方などについて作成した人・農地プランを審査及び検討するため、地方自治法第138条の４第３項の規定により、附属機関として設置するため条例を制定するものでございます。

議第30号人吉市非常勤職員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正案は、人・農地プラン検討委員会を設置することなどに伴い、非常勤職員の報酬及び費用弁償を定めるため条例の一部を改正するものでございます。

議第31号から議第39号までの条例案件につきましては、地域主権改革に関連するものでございまして、平成23年５月２日及び平成23年８月30日に公布された地域の自主性及び自主性を高めるための改革の推進を図るための関係法律の整備に関する法律、いわゆる第一次及び第二次地域主権改革一括法並びに平成23年６月22日に公布された介護サービスの基盤強化のための介護保険法等の一部を改正する法律に基づくものでございます。

議第31号人吉市指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例案は、第一次地域主権改革一括法による介護保険法の一部改正に伴い、指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定めるため、条例を制定するものでございます。

議第32号人吉市指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営並びに指定地域密着型介護予防サービスに係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例案は、第一次地域主権改革一括法による介護保険法の一部改正に伴う指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営並びに指定地域密着型介護予防サービスに係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定めるため、条例を制定するものでございます。

議第33号人吉市指定地域密着型介護老人福祉施設の入所定員並びに指定地域密着型サービス事業者及び指定地域密着型介護予防サービス事業者の指定に係る申請者の資格を定める条例案は、介護サービスの基盤強化のための介護保険法等の一部を改正する法律により、介護保険法の一部改正に伴う指定地域密着型介護老人福祉施設の入所定員並びに指定地域密着型サービス事業者及び指定地域密着型介護予防サービス事業者の指定に係る申請者の資格を定めるため、条例を制定するものでございます。

議第34号人吉市道路構造の技術的基準を定める条例案は、第一次地域主権改革一括法による道路法の一部改正に伴い、市道の構造の技術的基準については、道路構造令で定める基準を参酌して定めることとなったため、条例を制定するものでございます。

議第35号人吉市道路標識の寸法を定める条例案は、第一次地域主権改革一括法による道路法の一部改正に伴い、道路標識等の寸法については道路標識、区画線及び道路標示に関する

命令で定める基準を参酌して定めることとなったため、条例を制定するものでございます。

議第36号人吉市移動等円滑化のために必要な道路の構造に関する基準を定める条例案は、第二次地域主権改革一括法による高齢者、障害者等の移動等円滑化の促進に関する法律の一部改正に伴い、高齢者、障がい者等の移動等の円滑化のために必要な道路の構造に関する基準については、移動等円滑化のために必要な道路の構造に関する基準を定める省令を参酌して定めることとなったため、条例を制定するものでございます。

議第37号人吉市準用河川管理施設等の構造に関する基準を定める条例案は、第一次地域主権改革一括法による河川法の一部改正に伴い、準用河川に設ける河川管理施設等の構造基準については、河川管理施設等構造令を参酌して定めることとなったため、条例を制定するものでございます。

議第38号人吉市営住宅条例の一部改正案は、第一次地域主権改革一括法による公営住宅法の一部改正に伴い、市営住宅及び市営改良住宅の入居収入基準について、公営住宅法施行令で定める金額以下で定めることとなったため、条例の一部を改正するものでございます。

議第39号人吉市営住宅等の整備基準を定める条例案は、第一次地域主権改革一括法による公営住宅法の一部改正に伴い、市営住宅等の整備基準について、公営住宅法施行規則及び公営住宅等整備基準の一部を改正する省令の基準を参酌して定めることとなったため、条例を制定するものでございます。

議第40号工事請負契約の締結についての議決内容の一部変更についての案件は、平成24年５月第３回人吉市議会臨時会におきまして、契約締結の御議決をいただきました工事請負契約の一部変更でございます。これは、防災行政無線整備工事におきまして、同報系再送信子局設備及び同報系屋外拡声子局設備の支柱を設置する際に、11カ所において地盤から岩が発見され、破砕する必要が生じたことにより、契約金額を５億4,575万2,857円から５億4,623万7,467円に変更するものでございます。

議第41号から「議第45号」までの４件は、損害の賠償についての案件でございます。

まず、１件目は、平成24年４月５日午後２時10分ごろ、熊本地方法務局人吉支局駐車場において、駐車帯から市公用車を後退し始めた際に、隣接する市道から車両が進入してくるのを確認したため市公用車を一時停車したところ、市公用車の右側方に駐車していた相手方車両が後退し始めたため、衝突を回避しようと前進したが接触し、双方の車両が損傷した事故に関し、相手方と人吉市との間で損害賠償の額を決定し、和解するものでございます。

２件目は、平成24年11月21日午後０時５分ごろ、交通指導員視察研修の昼食会場に到着した市マイクロバスが、敷地内の駐車場に向かうため昼食会場の渡り廊下下部を通過しようとしたところ、市マイクロバスの上部に設置してある排気口が接触し損傷を与えた事故に関し、相手方と人吉市の間で損害賠償の額を決定し、和解するものでございます。

３件目は、平成25年１月11日午前10時20分ごろ、市公用車が紺屋町の県道坂本人吉線を九

日町方面へ走行中、交差点（黄色点滅信号側）を減速の上、通過しようとしたところ、市道青井二日町線を上青井町方面から進入してきた相手方車両と接触し、双方の車両が損傷した事故に関し、相手方と人吉市との間で損害賠償の額を決定し、和解するものでございます。

４件目は、平成25年１月19日午後２時50分ごろ、相手方車両が市道村山観音道路線を人吉市立第二中学校から上林町方面へ走行していたところ、立志橋沿いに植樹されている桜の木の枝が落下し、相手方車両に損傷を与えた事故に関し、相手方と人吉市との間で損害賠償の額を決定し、和解するものでございます。

諮第１号及び諮第２号の人権擁護委員の推薦につき意見を求める案件の２件は、平成22年７月１日から３カ年の任期で法務大臣から委嘱されていました豊岡正子氏、松本善胤氏の二人につきまして、本年６月30日をもって任期満了となることに伴い、豊岡正子氏につきましては再任を、松本善胤氏につきましては後任として谷川悦夫氏を推薦することにつきまして、人権擁護委員法第６条第３項の規定に基づき、議会の御意見を求めるものでございます。

以上、御提案申し上げております予算案、条例案、案件議案につきまして、概要を御説明申し上げましたが、詳細につきましては、所管の責任者から御説明させていただきたいと存じます。

議員各位におかれましては、慎重御審議の上、御協賛賜りますようお願いを申し上げます。

なお、訂正をさせていただきたいと思います。恐れ入ります、17ページでございます。後ろから14行目、「議第41号から議第44号」と言わなければいけないのを、「議第45号」と言ったそうでございます。「44号」文章のとおりが正解であります。

以上、よろしくお願いいたします。

○総務部長（坂崎博憲君）（登壇）　議員の皆様、こんにちは。それでは、議第２号の一般会計補正予算案（第６号）並びに議第10号一般会計予算案につきまして補足の説明をさせていただきます。多少長くなりますが、お許しをいただきたいと存じます。

まず、議第２号平成24年度人吉市一般会計補正予算案（第６号）でございます。お手元の予算書をお願いいたします。今回の補正予算は国・県の補助事業などの決定による事業費の確定や最終見込みなどによるものでございます。

それでは、予算書の１ページをお願いをいたします。第１条の歳入歳出予算の補正につきましては、事項別明細書により、第２条の繰越明許費の補正につきましては、第２表繰越明許費補正により、第３条の債務負担行為の補正につきましては、第３表債務負担行為補正により、第４条の地方債の補正につきましては、第４表地方債補正により、それぞれ御説明をいたします。

６ページをお願いをいたします。第２表の繰越明許費補正は、追加の19件でございます。２款総務費、１項総務管理費、グランドデザイン作成委託料283万5,000円は、委託契約先との協議に不測の日数を要し年度内の完了が見込めないため繰り越すものでございます。地域

起点型アジア市場研究プロジェクト事業950万円7,000円は、昨年12月議会の補正予算でお認めいただいた予算でございますが、市場ニーズ調査などに十分な工期が確保できず、年度内の完了が見込めないため繰り越すものでございます。

８款土木費、１項土木管理費、住生活基本計画策定事業231万7,000円は、本市計画の上位計画でございます熊本県住生活基本計画の策定がおくれたため、県との計画との整合性を図るために年度内での策定完了が困難となり繰り越すものでございます。２項道路橋梁費の道路維持補修工事448万円は、瓜生田馬草野線でございまして、工事に伴う全面通行どめに係る協議等、不測の日数を要しましたことから年度内竣工が困難となったために繰り越すものでございます。社会資本整備総合交付金事業、下林北願成寺線988万5,000円、七地赤池線362万3,000円は、いずれも県との協議に不測の日数を要しましたことから年度内竣工が困難となったために繰り越すものでございます。社会資本整備総合交付金事業、大塚桑木津留線6,342万9,000円は、本路線の終点側集落への迂回路がないため、交通どめの時間規制検討に不測の日数を要しましたことから工事の着工がおくれ、年度内竣工が困難となったため繰り越すものでございます。瓦屋川村線用地取得費456万7,000円は、用地取得の契約は完了しているものの、補償物件である立木の撤去を平成25年度予定の工事にあわせて実施することとしたために繰り越すものでございます。人吉矢岳線用地取得費20万円は、地権者が県外在住でございまして、用地交渉に不測の日数を要し年度内完了が困難となったために繰り越すものでございます。上田代地内第15号線用地取得費29万9,000円は、公有財産のため払い下げ申請手続に不測の日数を要し年度内完了が困難となったために繰り越すものでございます。地方道路等整備事業、薩摩瀬地内第７号線700万円は、排水溝の改修工法検討に不測の日数を要しましたことから工事着工がおくれ、年度内竣工が困難となったために繰り越すものでございます。地方道路等整備事業、岩清水十島線360万円は、側溝の新設工事でございますが、工事箇所が高速道路直下のためＮＥＸＣＯ西日本との協議に不測の日数を要しましたことから工事着工がおくれ、年度内竣工が困難となったために繰り越すものでございます。

７ページをお願いをいたします。人吉球磨広域行政組合受託事業、城本荒毛線外１線1,741万円は、本年度が受託事業の最終年度でございまして、人吉球磨広域行政組合との最終協議に不測の日数を要し年度内竣工が困難となったために繰り越すものでございます。社会資本整備総合交付金事業、鶴田橋外27橋補修事業6,143万4,000円は、県との協議に不測の日数を要しましたことから設計委託や工事の発注がおくれ、年度内竣工が困難となったために繰り越すものでございます。社会資本整備総合交付金事業、中原跨線橋改良事業3,100万円は設計委託の受託業者が倒産し、入札契約をやり直しましたことに加え、ＪＲ九州との協議に不測の日数を要しましたことから工事着工がおくれ、年度内竣工が困難となったために繰り越すものでございます。４項都市計画費の社会資本整備総合交付金事業、村山公園施設改築事業2,060万7,000円は、公園内の水道施設敷設ルートの検討に不測の日数を要し設計委

託や工事の発注がおくれ、年度内竣工が困難となったために繰り越すものでございます。社会資本整備総合交付金事業、下林願成寺線2,030万9,000円は、警察との交差点設計協議に不測の日数を要しまして、用地測量や建物調査委託などの発注がおくれ、年度内完了が困難となったために繰り越すものでございます。５項河川費、蟹作川河川改修用地取得費50万円は、地権者との用地交渉に不測の日数を要し年度内完了が困難となったために繰り越すものでございます。10款教育費、２項小学校費、小学校プール改修事業435万1,000円は、昨年12月議会の補正予算でお認めいただきました予算でございますが、十分な工期が確保できず年度内の完了が見込めないため繰り越すものでございます。

８ページをお願いいたします。第３表の債務負担行為補正の追加につきましては、広報ひとよし印刷製本費及び消費生活センター広報印刷製本費でございますが、平成24年度中に契約を行うために債務負担行為をお願いするものでございまして、債務負担行為の期間、限度額を設定するものでございます。変更につきましては、第４次電算システム導入事業機器使用料が、入札に伴う限度額の変更でございます。

９ページをお願いいたします。第４表の地方債補正の変更でございますが、庁舎屋上防水改修事業債から現年発生補助災害復旧事業債までの10件は、事業費の確定、最終見込みにより限度額を変更するものでございます。

12ページをお願いいたします。歳入でございますが、１款市税、１項市民税から13ページ中段の６項都市計画税までは、滞納繰越分の最終調定見込み額でそれぞれ補正いたしております。２款地方譲与税、１項、１目地方揮発油譲与税から14ページ下段の８款、１項、１目自動車取得税交付金までは、いずれも最終見込みによる補正でございます。

15ページをお願いいたします。10款、１項、１目地方交付税1,350万4,000円の増額補正は、国の税収見込みの増に伴い、普通交付税が追加交付されるものでございます。

16ページを省略しまして、17ページをお願いいたします。14款国庫支出金、１項国庫負担金、１目民生費国庫負担金4,538万円の減額は、児童手当交付金や生活保護費負担金の減などに伴うものでございまして、扶助費の最終見込みによる補正でございます。

18ページをお願いいたします。２項国庫補助金、１目民生費国庫補助金189万1,000円の減額は、母子自立支援対策事業費補助金など事業費の最終見込みによる補正でございます。４目土木費国庫補助金4,484万4,000円の減額は、社会資本整備総合交付金の決定によるものでございます。

19ページまでを省略いたしまして、20ページをお願いいたします。15款県支出金、１項県負担金、１目民生費県負担金1,730万5,000円の減額は、国庫負担金と同じく児童手当交付金の減などによるものでございます。２項県補助金、１目総務費県補助金632万9,000円の増額は、地方バス運行等特別対策補助金に対する生活交通維持・活性化総合交付金の増などによるものでございます。

２目民生費県補助金から22ページの７目教育費県補助金までの補正は、補助事業の決定による事業費の確定や最終見込みによるものでございますが、５目農林水産業費県補助金、２節林業費補助金のうち、緑の産業再生プロジェクト促進事業費補助金1,039万5,000円の減額補正は、高性能林業用機械の購入を計画されておりました事業者が補助金の申請を取り下げられましたことにより減額するものでございます。３項委託金、１目総務費委託金287万5,000円の減額は、衆議院選挙費委託金の減などが主なものでございます。

23ページを省略いたしまして、24ページをお願いいたします。17款、１項寄附金、２目総務費寄附金136万4,000円の増額は、古都人吉応援団寄附金として９名の方から御寄附をいただいたものでございます。18款繰入金、１項特別会計繰入金、２目介護保険特別会計繰入金1,322万4,000円の増額は、介護保険特別会計の事務費精算に伴うものでございます。

25ページを省略しまして、27ページをお願いいたします。21款市債は、第４表地方債補正で御説明いたしましたので、説明を省略させていただきます。

次に、歳出でございますが、28ページをお願いいたします。２款総務費、１項総務管理費、１目一般管理費2,658万4,000円の増額補正は、29ページの３節職員手当等の退職手当の増が主なものでございます。これは、希望退職者２名分でございます。

30ページをお願いいたします。７目企画費6,428万円の増額補正は、産交バスの運行費補助に対する人吉市地方バス運行等特別対策補助金、人吉市くま川鉄道経営安定化補助金などでございます。

31ページから33ページまでを省略しまして、34ページをお願いいたします。３款民生費、１項社会福祉費、１目社会福祉総務費3,725万1,000円の減額の主なものは、人吉市社会福祉協議会補助金（災害救援ボランティア養成事業）の減でございまして、災害救援ボランティアを福島県南相馬市へ派遣する予定でございましたが、九州北部豪雨により甚大な被害のあった阿蘇市への派遣に変更したため減額するものでございます。

35ページをお願いいたします。２目心身障害者福祉費1,378万1,000円の増額補正の主なものは、20節扶助費の就労移行支援給付費などの増に伴うものでございます。

36ページを省略いたしまして、37ページをお願いいたします。２項児童福祉費、２目児童措置費1,660万3,000円の減額は、園児数の増に伴いまして保育所運営費負担金の増でございますが、20節扶助費の児童手当が支給人数の減となりますことが主な要因でございます。３項生活保護費、２目扶助費4,553万9,000円の減額は、主に医療扶助費の減額によるものでございます。

38ページをお願いいたします。４款衛生費、１項保健衛生費、３目保健センター費及び４目健康増進費の減額補正は、各種健診委託料などの最終見込みによるものでございます。

39ページを省略いたしまして、40ページをお願いいたします。６款農林水産業費、１項農業費、３目農業振興費431万4,000円の減額は、13節委託料の農業振興地域整備計画策定業務

委託料の入札による減や、19節負担金、補助及び交付金の経営体育成交付金が交付申請団体の辞退により減となったことが主なものでございます。

41ページをお願いいたします。２項林業費、２目林業振興費1,091万9,000円の減額は、42ページの緑の産業再生プロジェクト促進事業補助金が申請の取り下げにより減となりましたことが主なものでございます。

43ページから46ページにわたります８款土木費につきましては、主に補助事業の決定による事業費の確定や最終見込みによるものなどでございます。

48ページまでを省略しまして、49ページをお願いいたします。10款教育費、５項社会教育費、６目カルチャーパレス費540万2,000円の減額は、カルチャーパレス改修基本設計委託料の確定に伴い、減額するものでございます。

51ページまでを省略しまして、52ページをお願いいたします。14款予備費を8,123万3,000円増額補正をいたしております。

以上で、議第２号平成24年度人吉市一般会計補正予算案（第６号）についての補足説明を終わります。

○議長（永山芳宏君）　ここで暫時休憩いたします。

午後０時07分　休憩

午後１時10分　開議

○議長（永山芳宏君）　休憩前に引き続き再開いたします。

○総務部長（坂崎博憲君）（登壇）　それでは、午前に引き続き補足説明をさせていただきます。議第10号平成25年度人吉市一般会計予算案でございます。

それでは、お手元の予算書の１ページをお願いいたします。第１条の歳入歳出予算につきましては、事項別明細書により御説明を申し上げます。第２条の債務負担行為につきましては、第２表債務負担行為により、第３条の地方債につきましては、第３表地方債により、それぞれ御説明をいたします。第４条の一時借入金につきましては、最高限度額を20億円と定めております。第５条の歳出予算の流用につきましては、各項の経費の金額を流用することができる場合を定めております。

恐れ入ります。７ページをお願いいたします。第２表の債務負担行為でございますが、議会中継システムリース料は、平成15年度に地域イントラネット基盤施設整備事業で導入しましたシステムを更新するため、リース料の債務負担を設定するものでございます。次に、課税支援システムリース料は、個人住民税の申告や課税業務を支援するシステムを更新するため、リース料の債務負担を設定するものでございます。福祉総合システムリース料は、障がい者福祉業務や児童福祉業務、生活保護業務を支援するシステムを更新するためにリース料の債務負担を設定するものでございまして、３件それぞれ６カ年の期間及び限度額を定める

ものでございます。

８ページをお願いいたします。第３表の地方債でございますが、臨時財政対策債は平成25年度地方財政対策の概要に従い、前年度並みを見込んでいるところでございます。社会資本整備総合交付金事業債から学校給食センター改修事業債までの８項目につきましては、それぞれの事業に対する地方債でございまして、地方債の限度額、起債の方法、利率及び償還の方法を定めております。

次に、第１条の歳入歳出予算につきまして、主なものを事項別明細書により御説明いたします。11ページをお願いいたします。まず、歳入でございます。１款市税、１項市民税のうち１目個人が11億7,824万7,000円で、前年度に比べ2,784万円の減となっております。これは、主に個人所得割の減でございまして、現在の経済状況から個人所得の伸びが見込めないことによるものでございます。２目法人が３億821万4,000円で、前年度に比べまして640万2,000円の減となっております。これは景気低迷により法人所得の増が見込めないことによるものでございます。２項、１目固定資産税が15億1,702万6,000円で、前年度に比べまして7,536万3,000円の減となっております。これは、現年課税分が平成24年度に実施いたしました３年ごとの評価がえによるものでございます。２目国有資産等所在市町村交付金が1,393万9,000円で、前年度と比べ537万2,000円の減となっております。これは、５年ごとの価格改定により減額となったものでございまして、県内自治体平均で約21％の下落となっているものでございます。

12ページをお願いいたします。４項、１目市たばこ税が３億800万8,000円で、前年度に比べ4,935万6,000円の増となっております。これは、売り上げ本数は減少の見込みでございますが、県からの税源移譲により増収となる見込みでございます。５項、１目入湯税が1,689万3,000円で、前年度に比べ21万3,000円の増となっているところでございます。

13ページをお願いいたします。６項、１目都市計画税が１億8,937万円で、前年度に比べ811万6,000円の減となっております。これは、固定資産税の減に準ずるものでございます。２款地方譲与税、１項、１目地方揮発油譲与税3,919万5,000円から15ページ中段の６款地方消費税交付金３億7,273万5,000円までにつきましては、24年度の最終見込み額及び25年度地方財政対策の伸びを勘案して計上をいたしております。

16ページをお願いいたします。８款、１項、１目自動車取得税交付金2,524万7,000円で、前年度に比べ376万6,000円の増となっております。これは、25年度地方財政対策の伸びを勘案して計上をいたしております。10款地方交付税は47億3,000万円で、前年度に比べ5,000万円の減といたしております。地方交付税のうち普通交付税につきましては、25年度地方財政対策におきまして、地方公務員の給与水準を国家公務員並みに引き下げることを目的に、前年度から国全体で3,900億円の減額、前年比2.27％減とされているところでございます。本市の場合、普通交付税の平成24年度交付実績に地方財政対策に基づく減額を勘案し計上をい

たしているところでございます。なお、特別交付税につきましては、24年度と同額の５億円を計上をいたしております。

17ページをお願いいたします。12款分担金及び負担金、１項負担金のうち、１目民生費負担金２億4,189万円は、前年度に比べ2,877万7,000円の増となっております。これは、児童福祉施設保護者負担金が主なものでございまして、認可保育園が１園増になる予定でございます。

18ページ、19ページを省略しまして、20ページをお願いいたします。下段のほうでございます。14款国庫支出金、１項国庫負担金、１目民生費国庫負担金18億616万円は、前年度に比べ2,239万7,000円の減となっております。これは、自立支援給付費負担金や保育所運営費負担金などの増額はございますけれども、生活保護費の減額に伴う負担金の減額が主な要因でございます。

21ページをお願いいたします。２項国庫補助金、１目総務費国庫補助金720万円は、人吉インターチェンジの高速バス待合所横のトイレ整備事業に対する社会資本整備総合交付金でございます。

22ページをお願いいたします。４目土木費国庫補助金２億8,153万1,000円は、前年度と比べ7,766万6,000円の増となっております。これは、都市計画街路事業に対する社会資本整備総合交付金の増が主なものでございます。

23ページをお願いいたします。15款県支出金、１項県負担金、１目民生費県負担金７億3,652万2,000円は、前年度と比べ921万円の増となっております。自立支援給付費負担金や保育所運営費負担金などの増額が主なものでございます。

24ページをお願いいたします。２項県補助金、２目民生費県補助金１億10万6,000円は、前年度と比べ580万2,000円の減となっております。これは、障害者自立支援特別対策事業が終了したことによる減が主なものでございます。

25ページをお願いいたします。３目衛生費県補助金629万3,000円は、前年度に比べ2,344万9,000円の減となっております。これは、子宮頸がん等ワクチン接種緊急促進臨時特例交付金や妊婦健康診査支援事業費補助金の廃止に伴う減が主なものでございます。

５目農林水産業費県補助金3,468万7,000円は、前年度に比べ1,532万6,000円の増となっておりますが、これは青年就農給付金事業交付金の増などによるものでございます。

26ページをお願いいたします。３項委託金、１目総務費委託金6,532万9,000円は、前年度と比べ1,924万3,000円の増となっております。これは参議院選挙費委託金の増が主なものでございます。

27ページから29ページを省略させていただきまして、30ページをお願いいたします。18款繰入金、２項基金繰入金、２目地域づくり推進事業基金繰入金580万円は、史跡人吉城跡保存修理事業及び史跡等購入事業の補助裏として基金から繰り入れるものでございます。４目

減債基金繰入金3,000万円は、財源不足を補うために計上をいたしております。

31ページをお願いいたします。住民生活に光をそそぐ基金繰入金及び中山間ふるさと・水と土保全基金繰入金につきましては、基金廃止に伴い廃目するものでございます。なお、住民生活に光をそそぐ基金につきましては、その基金条例の附則で平成25年３月31日限りと明記し廃止するものでございます。また、中山間ふるさと・水と土保全基金につきましては、今議会に廃止条例案を御提案させていただいております。

32ページを省略しまして、33ページをお願いいたします。20款諸収入、３項貸付金元利収入、４目中小企業貸付預託金元利収入１億円は、前年度に比べ7,500万円の減となっております。これは、近年預託金の利用が少ないことから減額するものでございます。また、農業近代化等貸付預託金元利収入は、近年利用者が少ないことから廃目とするものでございます。４項、３目雑入7,007万7,000円は、前年度に比べ3,224万6,000円の減となっております。これは、健康診査などの健診料を検査機関で直接徴収することに変更しましたことに伴う減額や、一般廃棄物処理施設周辺整備事業負担金の減などによるものでございます。

34ページを省略させていただきまして、35ページをお願いいたします。21款市債につきましては、第３表で御説明をさせていただきましたので、省略をさせていただきます。36ページをお願いいたします。歳出でございます。１款、１項、１目議会費が２億514万1,000円で、前年度に比べ276万9,000円の減となっております。減額の要因といたしましては、次のページ、37ページ、19節負担金、補助及び交付金の市議会議員共済会給付費負担金の負担率が、前年度に比べ低くなったことによる負担金の減が主なものでございます。

38ページをお願いいたします。２款総務費、１項総務管理費、１目一般管理費７億415万3,000円で、前年度に比べ7,997万7,000円の減となっております。主な減額の理由といたしましては、24年度当初予算においては７名分の退職手当を計上しておりましたが、25年度は４名のために減となったものでございます。また、機構改革に伴いまして、７目企画費の一部を一般管理費へ振りかえております。

39ページの９節、普通旅費に、郷土の偉人でございます故一井正典氏が留学されておりましたアメリカ合衆国のロスガトス市などへ、市内に居住する高校生または専門学校生を短期留学させるなどの派遣旅費150万円。次のページの40ページの15節、一番下のところでございます、15節工事請負費に防犯灯のＬＥＤ化工事費と、人吉インターチェンジ高速バス待合所横にトイレの整備工事費を計上をいたしております。

42ページをお願いいたします。３目文書広報費が8,229万1,000円で、前年度に比べ836万6,000円の増となっております。これは、次のページ、43ページの14節使用料及び賃借料で議会中継システムの更新に伴うリース料や、昨年９月議会の補正予算でお認めいただきました情報系端末機に係るリース料を年間分計上したことにより増となったことが主なものでございます。

44ページをお願いいたします。６目財産管理費が5,241万3,000円で、前年度に比べ969万円の減となっております。これは、前年度当初予算に計上いたしておりました庁舎屋上防水改修工事費の減が主なものでございます。

46ページをお願いいたします。７目企画費5,557万7,000円は、前年度に比べ725万9,000円の増となっております。これは、機構改革に伴い予算の一部を１目一般管理費へ振りかえましたことによる減額はございますが、人吉球磨広域行政組合の運営費及び企画費に係る負担金の増額が主なものでございます。

47ページをお願いいたします。10目情報管理費6,707万5,000円は、前年度に比べ1,738万7,000円の減となっております。これは、前年度当初予算に計上いたしておりました外国人登録に係る住民基本台帳法などの法改正に伴う住民情報システム改修委託料などの減が、主なものでございます。

48ページ、49ページを省略しまして、50ページをお願いいたします。２項徴税費、２目賦課徴収費が3,337万4,000円で、前年度に比べ1,166万5,000円の減となっております。これは、前年度当初予算に計上いたしました滞納整理システム導入に係る経費の減などが主なものでございます。また、賦課徴収費には25年度から導入予定のコンビニ等収納業務に係る手数料などの経費も計上をいたしております。

51ページを省略しまして、52ページをお願いいたします。３項、１目戸籍住民基本台帳費9,709万8,000円は、13節委託料に東日本大震災を教訓に戸籍副本データを全国２カ所に設置されますデータ管理センターに送信するための戸籍電算システムの改修委託料などを計上をいたしております。

57ページまでを省略しまして、58ページをお願いいたします。３款民生費、１項社会福祉費、１目社会福祉総務費17億2,280万2,000円は、前年度に比べ１億1,062万4,000円の減となっております。これは、国民健康保険事業特別会計繰出金が減となったことなどによるものでございます。また、平成12年度に導入いたしました福祉総合システムを更新するための経費や、次のページの60ページの19節、補助金に人吉市社会福祉協議会補助金（災害救援ボランティア養成事業、買物支援事業）などを計上をいたしております。２目心身障害者福祉費８億3,235万8,000円は、前年度と比べ3,840万4,000円の増となっております。これは、次のページ、62ページの20節扶助費の就労継続支援給付費や就労移行支援給付費などの増が主なものでございます。

63ページをお願いいたします。３目老人福祉費3,313万3,000円は、前年度に比べ1,182万5,000円の増となっております。これは、65ページの下段、高齢者生活産業都市づくり推進事業費を廃目しますことによりまして、予算を老人福祉費に振りかえたことが主な要因でございます。

64ページから66ページを省略いたしまして、67ページをお願いいたします。２項児童福祉

費、２目児童措置費21億5,392万6,000円は、前年度に比べ6,364万1,000円の増となっております。これは、19節、保育所運営費負担金が平成25年度から認可保育園が１園増の予定に伴う増額と、20節扶助費の養育医療費が県から移譲された新規の事業でございまして、入院療育が必要な2,000グラム以下の低体重児などの入院治療に対する医療費の増が主なものでございます。

69ページをお願いいたします。３項生活保護費、２目扶助費６億7,171万5,000円は、前年度に比べ5,975万1,000円の減となっております。これは、主に医療扶助の減によるものでございます。

70ページを省略させていただきまして、71ページをお願いいたします。２目予防費8,126万5,000円は、前年度に比べ642万2,000円の減となっております。これは、各種予防ワクチンのうち麻しん風しん混合ワクチンの接種対象者が減となりますことによるワクチン接種委託料の減額が主なものでございます。３目保健センター費5,545万5,000円は、前年度に比べ668万円の減となっております。これは73ページの真ん中ほどでございます、13節委託料の妊婦健康診査委託料が、受診対象者の見込みを実績により見直しましたことによる減額が主なものでございます。

74ページをお願いいたします。４目健康増進費8,777万1,000円は、前年度と比べ943万5,000円の増となっております。これは、平成24年度から実施をしております市民健診のうち、各種がん検診の実績に基づく委託料の増が主な要因でございます。

75ページを省略いたしまして、76ページをお願いいたします。２項清掃費、１目清掃総務費11億7,276万4,000円は、前年度に比べ3,153万5,000円の減となっております。これは主に、19節負担金、補助及び交付金のうち人吉球磨広域行政組合負担金の減によるものでございまして、旧山江ごみ処理施設解体事業費関連負担金の減が主なものでございます。

77ページをお願いいたします。５款労働費、１項労働諸費、４目地域雇用創出推進費4,832万1,000円は、前年度に比べ843万7,000円の減となっております。これは、緊急雇用創出事業委託料の減でございまして、平成24年度が最終年度の予定でございましたが、平成25年度も継続されることになりまして、人吉産きのこの生産拡大事業やエコ乗り物観光振興事業などで約24人の雇用を予定をしております。

78ページ、79ページを省略いたしまして80ページをお願いいたします。６款農林水産業費、１項農業費、３目農業振興費5,383万円は、前年度に比べ611万4,000円の減となっております。これは、農業近代化等貸付預託金貸し付けを廃止としたことが主なものでございます。また、その他の経費といたしまして、82ページに、昨年12月議会でお認めいただきました青年就農給付金事業交付金を1,425万円計上いたしておりまして、平成25年度は10名の方に交付予定でございます。５目農地費は1,608万4,000円でございますが、84ページの19節、負担金に、今年度末をもって解散予定の川辺川総合土地改良事業組合にかわって組織されます川

辺川土地改良事業連絡協議会への負担金67万円を計上いたしております。

85ページをお願いいたします。２項林業費、２目林業振興費2,557万4,000円は、前年度に比べ1,159万円の増となっております。これは、13節委託料の市有林伐採に伴う素材生産販売委託料の増が主なものでございます。

86ページを省略しまして、87ページをお願いいたします。７款、１項商工費、２目商工業振興費１億3,625万2,000円は、前年度に比べ7,456万6,000円の減となっております。これは、89ページの21節貸付金の中小企業貸付預託金を減額したことが主なものでございます。また、19節、補助金に、空き店舗を利用した創業事業などの取り組みに対して補助を行います人吉市商店街活性化事業補助金518万4,000円を計上いたしております。平成25年度からは既存の補助事業の補助期間の延長と、新たに既存家屋の改修などに対しても補助を実施する予定といたしているところでございます。

92ページまでを省略いたしまして、93ページをお願いいたします。８款土木費、１項土木管理費、１目土木総務費6,035万6,000円は、95ページの補助金に、人吉市住宅リフォーム促進事業補助金、人吉市戸建木造住宅耐震改修事業補助金などを計上いたしております。なお、人吉市住宅リフォーム促進事業補助金は、平成24年度から実施をしております事業でございまして、民間の既存住宅のリフォーム工事に対して補助をするものでございます。なお、25年度からは、工事に地元産材の活用を補助要件として、補助金の半額を商品券にて交付する予定でございます。人吉市戸建木造住宅耐震改修事業補助金は、戸建木造住宅の耐震診断を実施した木造住宅の改修に対して補助するものでございまして、国の社会資本整備総合交付金を活用し、市費と合わせまして改修費の２分の１を補助するものでございます。

96ページをお願いいたします。２項道路橋梁費、２目道路維持費１億3,870万5,000円は、前年度に比べ3,968万8,000円の増となっております。これは、社会資本整備総合交付金事業として取り組みます上林中神線など７路線の舗装工事費の増が主なものでございます。３目道路新設改良費6,400万4,000円は、前年度に比べ１億1,701万6,000円の減となっております。これは、社会資本整備総合交付金事業として取り組みます道路新設改良事業や、人吉球磨広域行政組合からの受託事業の減が主なものでございます。平成25年度事業としましては、単独事業で取り組みます瓦屋川村線など11路線の道路改良工事や、用地補償費などでございます。

97ページをお願いいたします。一番下のところでございます。５目橋梁新設改良費１億3,342万5,000円は、社会資本整備総合交付金事業で取り組みます中原跨線橋改良工事、鶴田橋外33橋の設計業務委託料や改良工事などでございます。

100ページをお願いいたします。２目住宅建設費5,301万3,000円は、公営住宅ストック総合改善事業として取り組みます門前団地１号棟及び２号棟の外壁改修工事などを計上いたしております。

101ページをお願いいたします。４項都市計画費、１目都市計画総務費２億3,530万3,000円は、前年度に比べ4,522万8,000円の増となっております。これは、社会資本整備総合交付金事業として取り組みます鍛冶屋町通りに小公園を整備する街なみ環境整備事業が主なものでございます。

102ページを省略いたしまして、103ページをお願いいたします。３目公園整備費209万5,000円は、前年度に比べ2,905万5,000円の減となっております。これは、前年度当初予算に計上し、社会資本整備総合交付金事業として取り組んでおります村山公園施設改築工事の減が主なものでございます。４目街路事業費２億2,061万7,000円は、前年度に比べ１億5,242万3,000円の増となっております。これは、都市計画街路下林願成寺線の建物等調査委託料や用地補償費などを計上したことによるものでございます。

105ページまでを省略しまして、106ページをお願いいたします。３目消防施設費３億4,074万1,000円は、前年度に比べ３億517万8,000円の大幅な増となっております。これは、防災行政無線の第２期整備事業といたしまして、同報系戸別受信機や移動系無線機などの整備事業費を計上したことが主なものでございます。

108ページを省略いたしまして、109ページをお願いいたします。10款教育費、１項教育総務費、２目事務局費１億9,270万4,000円は、前年度に比べ1,590万2,000円の増となっております。これは、人吉市出身の高濱正伸氏が代表を務められております花まる学習会の教材を用いて、小学校２年生対象に放課後の空き時間を利用して人吉市花まる教室を実施する予定でございまして、111ページの13節委託料に人吉市花まる教室委託料などの経費を計上したことが主なものでございます。平成25年度は、６月から試行的に一つの小学校で実施し、10月からはすべての小学校において本格的に実施する予定といたしております。

115ページまでを省略いたしまして、116ページをお願いいたします。３項中学校費、２目教育振興費3,070万2,000円は、前年度に比べ1,359万3,000円の減となっております。これは、前年度当初予算に計上いたしました教科書改訂に伴う教師用指導書などの購入経費の減が主なものでございます。

123ページまでを省略しまして、124ページをお願いいたします。５項社会教育費、５目文化財保護費4,544万3,000円は、前年度に比べ706万9,000円の減となっております。これは、前年度当初予算に計上いたしました史跡大村横穴群保存修理事業や、笹原番所跡保存修理事業の減などによるものでございます。その他の経費といたしましては、史跡等購入事業といたしまして、126ページの22節補償、補填及び賠償金に、史跡人吉城跡内の民家移転に要する補償費などを計上いたしております。

129ページまでを省略させていただきまして、130ページをお願いいたします。７項学校給食センター費、１目学校給食センター運営費１億4,939万1,000円は、前年度に比べ1,287万5,000円の増となっております。これは、学校給食センターが梢山工業団地内に移転改築後、

供用開始から10年以上経過し、蒸気配管が劣化しておりますことから、改修工事費を計上したことが主なものでございます。

135ページ、136ページを省略し、137ページをお願いいたします。14款予備費に5,387万2,000円を計上いたしております。

大変長くなりましたが、以上で、議第10号平成25年度人吉市一般会計予算案につきまして補足説明を終わります。よろしく御審議いただきますようお願いを申し上げます。

○市民部長（山本政義君）（登壇）　こんにちは。それでは、議第12号平成25年度人吉市国民健康保険事業特別会計予算案について、補足説明をさせていただきます。

予算書の１ページをお願いします。第１条は、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ46億6,320万2,000円とするものでございます。第２条は、一時借入金の最高額を４億円とするものでございます。第３条は、保険給付費の各項間の流用について定めるものでございます。

次に、事項別明細書により主なものを説明させていただきます。国保の予算は、事業運営に要する経費から国庫支出金、交付金などを差し引いた残りを国民健康保険税で賄うという仕組みになっております。したがいまして、この予算の性格上、先に歳出から説明させていただきます。

16ページをお願いします。１款総務費、１項総務管理費、１目一般管理費に6,289万3,000円を計上しております。国保担当職員の給与、諸手当などの経常事務費、国保団体連合会共同電算委託料が主なものでございます。

17ページから18ページまでは、省略させていただきます。

19ページをお願いいたします。２款保険給付費、１項療養諸費は、医療費の支払いに要するものでございまして、療養給付費、療養費と審査支払手数料を合わせ27億9,293万4,000円を計上しております。

次に、20ページにかけまして、２項高額療養費に３億4,937万5,000円を計上しております。高額な医療費につきまして自己負担額が一定の額を超えたときに、その超えた分を支給するものでございます。３項出産育児諸費は、60人分、2,522万1,000円を計上しております。４項葬祭費は、100件分、200万円の計上でございます。

21ページをお願いします。５項移送費に20万円を計上しております。

以上、保険給付費の総額は31億6,973万円となり、歳出全体に占める保険給付費の割合は67.97％でございます。

３款後期高齢者支援金などは、75歳以上の医療費を保険者として負担するもので、支援金と事務費拠出金を合わせ、５億1,697万2,000円を計上しております。

次に、22ページにかけまして、４款前期高齢者納付金等でございます。これは、65歳から74歳の前期高齢者の偏在による保険者間の負担の不均衡を、各保険者の加入者数に応じて調整を行うことによる納付金でございまして、事務費拠出金を合わせ59万2,000円を計上して

おります。次の、５款老人保健拠出金は省略させていただきます。６款介護納付金に２億4,037万1,000円を計上しております。介護保険第２号被保険者を4,186人と見込んでおります。

23ページをお願いします。７款共同事業拠出金は、高額な医療費を保険者が共同で支弁する事業でございまして、合計で５億8,743万6,000円を計上しております。

次に、24ページにかけまして、８款保健事業費、１項特定健康診査等事業費に3,363万4,000円を計上しております。特定健康診査と、その結果必要に応じて実施いたします特定保健指導に要する経費でございます。

25ページにかけまして、２項保健事業費でございます。医療通知などの郵送料、国保団体連合会共同電算委託料、鍼灸マッサージ補助交付金等の費用として1,127万7,000円を計上しております。

次の９款基金積立金から、26ページの11款諸支出金までは省略させていただきます。

歳出の最後になります。12款予備費に2,975万円を計上しております。

続きまして、歳入を御説明いたします。予算書８ページからになります。１款国民健康保険税でございますが、国保の予算は事業運営に要する経費から、国庫支出金、交付金などを差し引いた残りを国民健康保険税で賄うという仕組みになっております。１目一般被保険者国民健康保険税に７億9,473万円、２目退職被保険者等国民健康保険税に8,755万6,000円、それぞれ医療給付費分、後期高齢者支援金分、介護納付金分を合わせた額を計上しております。国保税の総額は、次の９ページになりますが、８億8,228万6,000円、歳入全体に占める割合は18.92％でございます。次の、２款使用料及び手数料は省略させていただきます。

次に、10ページにかけまして、３款国庫支出金、１項国庫負担金でございますが、療養給付費等負担金、高額医療費共同事業負担金、特定健康診査等負担金を合わせまして８億467万8,000円を計上しております。３款、２項国庫補助金は、財政調整交付金、高齢者医療制度円滑運営事業費補助金を合わせまして２億8,567万8,000円を計上しております。４款県支出金、１項県負担金は、高額医療費共同事業負担金、次の11ページをお願いします、特定健康診査等負担金を合わせまして3,009万6,000円を計上しております。４款、２項県補助金は、県財政調整交付金を２億4,725万8,000円を計上しております。５款療養給付費等交付金は、退職被保険者の医療費に対する交付金でございまして、２億4,377万8,000円を計上しております。

12ページをお願いします。６款前期高齢者交付金は、65歳以上75歳未満の被保険者の医療費を各保険者間で財政調整することによる交付金でございます。10億4,897万1,000円を計上しております。７款共同事業交付金は、共同事業拠出金を財源として交付されるものでございまして、高額医療費共同事業交付金、保険財政共同安定化事業交付金を合わせまして４億8,429万6,000円を計上しております。８款財産収入は省略させていただきます。

13ページをお願いします。９款繰入金、１項他会計繰入金、１目一般会計繰入金は３億39万6,000円でございます。２項基金繰入金、１目財政調整基金繰入金は１億6,000万円の基金取り崩しをお願いするものでございます。10款繰越金、１項繰越金、２目その他の繰越金に１億7,000万円を計上しております。

14ページから15ページは省略させていただきます。

以上、平成25年度人吉市国民健康保健事業特別会計予算を御説明申し上げました。よろしくお願いいたします。

○議長（永山芳宏君）　ここで暫時休憩いたします。

午後２時00分　休憩

―――――――――――――

午後２時14分　開議

○議長（永山芳宏君）　休憩前に引き続き再開いたします。

○健康福祉部長（松岡誠也君）（登壇）　皆さん、こんにちは。続きまして、議第14号平成25年度人吉市介護保険特別会計予算案につきまして補足説明をさせていただきます。

予算書の１ページをお願いいたします。第１条は、先ほど市長から説明がございましたので省略させていただきます。第２条は、一時借入金の最高額を２億円とするものでございます。第３条は、保険給付費の各項間の流用について定めるものでございます。

それでは、事項別明細書によりまして主なものを御説明申し上げます。予算の性格上、歳出から説明をさせていただきます。

12ページをお願いいたします。１款総務費、１項総務管理費に6,124万8,000円を計上いたしております。介護保険関係職員の給料、諸手当等、経常的な事務費が主なものでございます。

13ページをお願いいたします。２項徴収費、１目賦課徴収費153万9,000円は、介護保険料の賦課徴収事務に係る経費でございます。３項、１目介護認定審査会費1,046万3,000円は、要介護等の認定を行う介護認定審査会委員の報酬等でございます。

14ページをお願いいたします。２目認定調査等費2,133万1,000円は、要介護認定等のために主治医が作成する意見書に係る費用等でございます。

15ページをお願いいたします。４項、１目趣旨普及費70万9,000円は、介護保険料について市民の皆様に周知、広報するためのリーフレット等に係る費用でございます。５項、１目計画策定委員会費45万7,000円は、介護保険事業計画等策定・運営委員会委員の報酬等でございます。２款保険給付費は、介護サービス費の支払いに要する費用でございます。１項介護サービス等諸費は、要介護１から５までの方を対象とする在宅サービスや施設サービス、ケアプラン作成等に係る費用でございまして、総額35億6,526万9,000円を計上いたしております。

16ページをお願いいたします。２項介護予防サービス等諸費は、要支援１及び要支援２の方を対象とするサービスに係る費用でございまして、総額9,710万9,000円を計上いたしております。

17ページをお願いいたします。３項高額介護サービス等費は、介護サービスを利用された場合の自己負担が一定の額を超えたときにその超えた分を支給するものでございまして、9,799万3,000円を計上いたしております。

18ページ、４項その他諸費、１目審査支払手数料390万3,000円は、介護サービス事業所からの保険請求の審査に係る国保連合会へ支払う手数料でございます。５項特定入所者介護サービス等費でございますが、施設サービスでは居住費や食費が利用する方の負担となりますが、所得の低い方への負担軽減措置といたしまして、限度額を超えた分につきまして支給をするものでございまして、１億7,948万3,000円を計上いたしております。

３款、４款は省略させていただきまして、19ページをお願いいたします。５款地域支援事業費、１項介護予防・日常生活支援総合事業費、１目要支援者向け予防サービス等事業費181万3,000円は、平成24年度に創設されました介護予防日常生活支援総合事業のうち、要支援者が利用する通所事業等に係る費用でございます。２目二次予防事業対象者向け予防サービス等事業費2,948万5,000円は、要支援、要介護になるおそれの高い高齢者に対する通所事業等の介護予防事業に係る費用でございます。

20ページをお願いいたします。３目一次予防事業費1,947万7,000円は、やや虚弱な高齢者に対する通所事業等の介護予防事業に係る費用でございます。

21ページをお願いいたします。２項包括的支援事業・任意事業費、１目包括的支援事業費は、地域包括支援センターの運営費等でございまして2,526万9,000円を計上いたしております。

22ページの２目任意事業費1,077万8,000円は、紙おむつ等の介護用品を支給する家族介護支援事業費等でございます。

24ページ、６款公債費から25ページ、８款予備費までは省略をさせていただきます。

続きまして、歳入を御説明いたします。前に戻っていただきまして６ページをお願いいたします。介護保険特別会計の歳出の大部分を占めます介護給付費等に要する費用の財源は、基本的にその半分を国、県、市による公費負担で賄い、残り半分を保険料で賄う仕組みになっております。介護保険料は３年ごとに策定する介護保険事業計画で見直していくことになっておりまして、平成25年度は第５期事業計画の２年目でございます。１款保険料、１項介護保険料、１目第１号被保険者保険料につきましては、第５期の月額基準額5,895円を算定基礎として、現年度分特別徴収保険料と普通徴収保険料及び滞納繰越分普通徴収保険料を合計しまして、総額６億8,806万4,000円を計上しております。２款は省略させていただきます。３款国庫支出金、１項国庫負担金は、介護給付費に対する国の負担金でございまして、６億

9,596万2,000円を計上いたしております。

７ページをお願いいたします。２項国庫補助金、１目調整交付金は、市町村の財政力格差を調整するための国の交付金でございまして、３億5,730万5,000円を計上いたしております。２目及び３目は地域支援事業に対する交付金でございまして、２目の介護予防・日常生活支援総合事業に1,211万1,000円、３目の包括的支援事業・任意事業に1,303万3,000円を計上いたしております。４目介護保険事業費補助金に、認知症地域支援推進員設置促進事業費補助金301万8,000円を計上いたしております。４款、１項支払基金交付金は、40歳から64歳までの第２号被保険者の保険料が社会保険診療報酬支払基金から交付されるものでございまして、１目介護給付費交付金11億4,369万円は、介護給付費等に対する交付金でございます。２目地域支援事業支援交付金1,404万8,000円は、介護予防事業に対する交付金でございます。

８ページ、５款県支出金、１項県負担金は、介護給付費に対する県の負担金でございまして、現年度分と存目の過年度分を合わせまして５億8,576万円を計上しております。２項県補助金は、地域支援事業に対する県の補助金でございまして、１目介護予防・日常生活支援総合事業に605万5,000円、２目包括的支援事業・任意事業に651万6,000円を計上いたしております。財政安定化基金支出金は、廃項といたしております。

６款は省略させていただきまして、９ページの７款繰入金、１項一般会計繰入金は、一般会計からの繰入金でございまして、１目は介護給付費に対して、２目は地域支援事業のうち介護予防・日常生活支援総合事業に対して、３目は地域支援事業のうち包括的支援事業・任意事業に対して、４目は職員の給与や事務費に対して繰り入れるものでございます。合計６億121万円を計上いたしております。

10ページの７款、２項から11ページの９款までは省略をさせていただきます。

以上で、説明を終わらせていただきます。よろしく御審議のほどをお願いいたします。

○水道局長（田中幸輔君）（登壇）　皆さん、こんにちは。それでは議第16号平成25年度人吉市水道事業特別会計予算案につきまして補足説明をさせていただきます。

予算書の１ページをお願いいたします。第２条の業務の予定量につきましては、給水戸数１万5,780戸、総給水量387万8,043立方メートル、１日平均給水量を１万625立方メートルといたしております。建設改良工事として配水管改良工事等を予定しております。第３条の収益的収入及び支出につきましては、予算実施計画書により説明をさせていただきます。

２ページをお願いいたします。第４条資本的収入及び支出につきましても、予算実施計画書により説明をさせていただきます。第５条企業債でございます。上水道事業債の限度額、起債の方法、利率及び償還の方法を定めております。

３ページをお願いいたします。第６条一時借入金の限度額を5,000万円といたしております。第７条各項の経費の金額を流用することができる場合を定めております。第８条議会の議決を経なければ流用することができない経費は、職員給与費１億4,624万1,000円、交際費

５万3,000円でございます。第９条利益剰余金の処分でございますが、繰越利益剰余金を減債積立金として3,298万1,000円処分することとしております。第10条たな卸資産の限度額を686万5,000円とするものでございます。

４ページをお願いいたします。第３条収益的収入及び支出の内容につきまして御説明させていただきます。まず、収入でございますが、第１款水道事業収益を５億4,147万7,000円といたしております。内訳としまして、第１項営業収益が５億4,129万6,000円で、これは水道料金、各種手数料等でございます。第２項営業外収益が17万8,000円、これは預金利息等でございます。第３項特別利益3,000円は存目でございます。

次に、５ページをお願いいたします。収益的支出でございますが、第１款水道事業費用を４億8,744万1,000円といたしております。内訳としまして、第１項営業費用が４億3,778万5,000円で、これは各施設の維持管理費、人件費、物件費等のほか建物、構築物、機械装置等の減価償却費。それから構築物、量水器の撤去に伴います資産減耗費等でございます。第２項営業外費用が4,663万9,000円、これは主に企業債の支払利息分と消費税でございます。第３項特別損失が101万7,000円、これは過年度損益修正損等でございます。第４項予備費を200万円と計上しております。

６ページをお願いします。第４条資本的収入及び支出の内容につきまして御説明いたします。まず、収入でございますけれども、第１款資本的収入を4,580万2,000円といたしております。内訳は、第１項企業債が4,000万円、第２項工事負担金が580万円、これは下水道工事に伴う配水管移設工事等の負担金でございます。第３項固定資産売却が存目の1,000円でございます。

次に、７ページをお願いいたします。資本的支出でございますが、第１款資本的支出を２億5,876万円といたしております。内訳は、第１項建設改良費が１億8,499万4,000円、これは一般改良工事、負担金工事、起債対象工事の構築物費、機械及び装置費、営業設備費等でございます。第２項企業債償還金が7,176万6,000円でございます。第３項予備費を200万円といたしております。

それでは、前に戻りまして２ページをお願いいたします。資本的支出に対しまして、収入が不足しますので、その補てん財源について御説明いたします。第４条の括弧書きでございます。資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額２億1,295万8,000円は、消費税及び地方消費税資本的収支調整額796万1,000円、当年度分損益勘定留保資金１億7,201万6,000円と繰越利益剰余金処分額3,298万1,000円で補てんすることとしております。

以上で、平成25年度水道事業特別会計予算案の補足説明を終わらせていただきます。よろしく御審議のほどお願いいたします。

日程第42　議第40号

○議長（永山芳宏君）　先ほど議会運営委員長から報告があり決定しましたとおり、日程第42、議第40号工事請負契約の締結についての議決内容の一部変更についてにつきましては、本日採決をいたします。

お諮りいたします。本件については、委員会付託を省略し、直ちに本会議において審議、採決することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（永山芳宏君）　御異議なしと認めます。よって、委員会付託を省略し、直ちに本会議において審議、採決いたします。

議第40号について、質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（永山芳宏君）　質疑もないようですので、質疑を終了いたします。

それでは、採決いたします。議第40号について、原案のとおり決するに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（永山芳宏君）　御異議なしと認めます。よって、議第40号は原案可決確定いたしました。

○議長（永山芳宏君）　以上で、本日の議事は全部終了いたしました。

本日はこれをもって散会いたします。

午後２時36分　散会

平成25年３月第１回人吉市議会定例会会議録（第２号）

平成25年３月５日　火曜日

１．議事日程第２号

平成25年３月５日　午前10時　開議

日程第１　議案の訂正について（議第41号　損害の賠償について）

日程第２　議第１号　専決処分の承認を求めることについて（平成24年度人吉市国民宿舎特別会計補正予算（第１号））

日程第３　議第２号　平成24年度人吉市一般会計補正予算（第６号）

日程第４　議第３号　平成24年度人吉市国民健康保険事業特別会計補正予算（第３号）

日程第５　議第４号　平成24年度人吉市後期高齢者医療特別会計補正予算（第２号）

日程第６　議第５号　平成24年度人吉市介護保険特別会計補正予算（第３号）

日程第７　議第６号　平成24年度人吉市介護サービス事業特別会計補正予算（第２号）

日程第８　議第７号　平成24年度人吉市水道事業特別会計補正予算（第２号）

日程第９　議第８号　平成24年度人吉市公共下水道事業特別会計補正予算（第３号）

日程第10　議第９号　平成24年度人吉市工業用地造成事業特別会計補正予算（第２号）

日程第11　議第10号　平成25年度人吉市一般会計予算

日程第12　議第11号　平成25年度人吉球磨地域交通体系整備特別会計予算

日程第13　議第12号　平成25年度人吉市国民健康保険事業特別会計予算

日程第14　議第13号　平成25年度人吉市後期高齢者医療特別会計予算

日程第15　議第14号　平成25年度人吉市介護保険特別会計予算

日程第16　議第15号　平成25年度人吉市介護サービス事業特別会計予算

日程第17　議第16号　平成25年度人吉市水道事業特別会計予算

日程第18　議第17号　平成25年度人吉市公共下水道事業特別会計予算

日程第19　議第18号　平成25年度人吉市国民宿舎特別会計予算

日程第20　議第19号　平成25年度人吉市工業用地造成事業特別会計予算

日程第21　議第20号　人吉市新型インフルエンザ等対策本部条例の制定について

日程第22　議第21号　議会の議員その他非常勤の職員の公務災害補償等に関する条例の一部を改正する条例の制定について

日程第23　議第22号　人吉市消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例の制定について

日程第24　議第23号　人吉市障害程度区分認定審査会の委員の定数等を定める条例の一部を改正する条例の制定について

日程第25　議第24号　人吉市重度心身障害者医療費助成に関する条例の一部を改正する条

例の制定について

日程第26　議第25号　人吉市環境基本条例の制定について

日程第27　議第26号　人吉市環境審議会条例の一部を改正する条例の制定について

日程第28　議第27号　人吉市消毒・撒布手数料条例を廃止する条例の制定について

日程第29　議第28号　人吉市中山間ふるさと・水と土保全基金条例を廃止する条例の制定について

日程第30　議第29号　人吉市人・農地プラン検討委員会設置条例の制定について

日程第31　議第30号　人吉市非常勤職員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について

日程第32　議第31号　人吉市指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例の制定について

日程第33　議第32号　人吉市指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営並びに指定地域密着型介護予防サービスに係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の制定について

日程第34　議第33号　人吉市指定地域密着型介護老人福祉施設の入所定員並びに指定地域密着型サービス事業者及び指定地域密着型介護予防サービス事業者の指定に係る申請者の資格を定める条例の制定について

日程第35　議第34号　人吉市道路構造の技術的基準を定める条例の制定について

日程第36　議第35号　人吉市道路標識の寸法を定める条例の制定について

日程第37　議第36号　人吉市移動等円滑化のために必要な道路の構造に関する基準を定める条例の制定について

日程第38　議第37号　人吉市準用河川管理施設等の構造に関する基準を定める条例の制定について

日程第39　議第38号　人吉市営住宅条例の一部を改正する条例の制定について

日程第40　議第39号　人吉市営住宅等の整備基準を定める条例の制定について

日程第41　議第41号　損害の賠償について

日程第42　議第42号　損害の賠償について

日程第43　議第43号　損害の賠償について

日程第44　議第44号　損害の賠償について

日程第45　諮第１号　人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて

日程第46　諮第２号　人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて

２．本日の会議に付した事件

・議事日程のとおり

３．出席議員（18名）

１番	宮﨑　保君
２番	高瀬堅一君
３番	村口　隆君
４番	大塚則男君
５番	平田清吉君
６番	犬童利夫君
７番	松岡隼人君
８番	井上光浩君
９番	豊永貞夫君
10番	川野精一君
11番	笹山欣悟君
12番	西　信八郎君
13番	村上恵一君
14番	田中　哲君
15番	仲村勝治君
16番	三倉美千子君
17番	森口勝之君
18番	永山芳宏君

欠席議員　なし

４．説明のため出席した者の職氏名

市長	田中信孝君
副市長	髙橋　隆君
監査委員	篠﨑國博君
教育長	堀　秀行君
市長公室長	久本一富君
総務部長	坂崎博憲君
市民部長	山本政義君
健康福祉部長	松岡誠也君
経済部長	松田知良君
建設部長	中村明公君
市長公室次長	愛甲秀樹君

総務部次長	中村則明君
市民部次長	椎葉幹夫君
健康福祉部次長	福山誠二君
経済部次長	大渕　修君
建設部次長	木村秀敏君
企画課長	小澤洋之君
財政課長	告吉眞二郎君
会計管理者	松江隆介君
水道局長	田中幸輔君
上水道課長	那須義徳君
教育部長	赤池和則君
教育部次長	東　俊宏君
農業委員会事務局長	舟戸幸弘君

5．職務のため議場に出席した事務局職員の職氏名

局長	赤池謙介君
次長	村並成二君
次長	山本繁美君
書記	白坂禎敏君

午前10時00分　開議

○議長（永山芳宏君）　おはようございます。出席議員が定足数に達しておりますので、本日の会議は成立いたしました。よって、これより会議を開きます。

議事に入ります。

本日は、議案質疑を行います。

議事日程は、お手元に配付してあるとおりでございます。

なお、質疑は一般質問にならないようにお願いいたします。

日程第１　議案の訂正について

○議長（永山芳宏君）　質疑に入ります前に、日程第１、議案の訂正について（議第41号損害の賠償について）を議題とし、執行部に訂正の理由の説明を求めます。

○市長（田中信孝君）（登壇）　皆さん、おはようございます。質疑前の貴重なお時間をいただきましてまことに申しわけございませんが、２月26日に議員の皆様方にお配りしました議案書におきまして、誤りがございましたので御訂正をお願いいたします。

本会議に提案を申し上げました議案書の231ページでございます。議第41号損害の賠償についての案件につきまして、賠償（和解）の相手方を、車両の運転者から車両の所有者に訂正をさせていただきたいと存じます。当初提案を申し上げました案件では、運転者を相手方としておりましたが、車両に対する損害の賠償でございますので、車両の所有者を相手方とするものでございます。なお、お手元に正誤表を配付いたしております。お手数をおかけし、まことに申しわけございませんが、よろしくお願いをいたします。

○議長（永山芳宏君）　お諮りいたします。議案の訂正については、これを承認することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（永山芳宏君）　御異議なしと認めます。よって、議案の訂正については承認することに決しました。

ここで執行部に申し上げます。議案提出に当たっては、十二分に検討、精査を行い、責任ある提出、提案をお願いいたします。今後、このようなことがないように注意していただきますようお願いいたします。

日程第２　議第１号

○議長（永山芳宏君）　それでは、質疑を行います。まず、日程第２、議第１号専決処分の承認を求めることについて（平成24年度人吉市国民宿舎特別会計補正予算（第１号））を議題といたします。

本件について質疑はありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

ないようですので、質疑なしと認めます。

日程第３　議第２号

○議長（永山芳宏君）　次に、日程第３、議第２号平成24年度人吉市一般会計補正予算（第６号）を議題といたします。

本件について質疑はありませんか。（「議長、11番」と呼ぶ者あり）

11番。笹山欣悟議員。

○11番（笹山欣悟君）　おはようございます。29ページであります。２款総務費、１項総務管理費、１目一般管理費の19節負担金、補助及び交付金の補助金、人吉市民まちづくり応援事業補助金でありますが、90万円の減額ということで計上されております。23年度についても、この事業補助金についてはかなりの減額があったんじゃないかなと思ってますが、今年度の応援事業補助金の実績等について説明を求めたいと思いますし、90万円の減額の理由についてお尋ねをしておきたいと思います。

それと38ページ、４款衛生費、１項保健衛生費、５目環境衛生費であります。13節委託料の自動車交通騒音測定委託料、これにつきましても108万2,000円と大幅な減額補正がなされております。25年度の当初予算を見てみますと、当初の委託料が148万ほどの計上となっておりますので、それと比べてみますとかなりの委託料の減かなと思いますので、騒音測定委託料についてはどのような形で実施をされて、このような委託料の減額になっているのか、これについて２点お尋ねをしておきたいと思います。

○総務部長（坂崎博憲君）　おはようございます。それでは、笹山議員のまちづくり応援事業補助金についての御質問についてお答えをさせていただきます。

平成24年度の実績でございますけれども、今年度は本事業に対する御相談は８件ほどございましたけれども、事業内容が助成要件に該当しない、または団体で実施時期、内容を検討中などの理由によりまして、いずれも申請に至ったものはございませんでした。今回の90万円の減額につきましては、一部の地域におけるコミュニティー活性化につながるもやい事業につきまして、平成24年度当初予算で100万円を計上させていただいておりました。これまで申請実績がございませんでしたので、１件分の限度額10万円を残して減額を御提案申し上げているところでございます。

以上、お答えいたします。

○市民部長（山本政義君）　おはようございます。それでは、お答えいたします。

予算書38ページの５目環境衛生費、13節委託料の自動車交通騒音測定委託料、減額108万2,000円のことでございますけれども、平成24年度当初予算において自動車交通騒音関係の測定委託料につきましては２本ほど予定をしておりまして、１本目は権限移譲により平成24

年度新たに熊本県から自動車騒音常時監視業務委託料で予算額122万8,500円と、もう一つは自動車交通騒音測定委託料、これは市民の皆様から苦情に対応する分の委託料ということで予算額25万2,000円の委託料の、予算額合計148万5,000円を予定しておりました。新たな自動車騒音常時監視業務委託料の入札を実施いたしましたところ入札額が39万9,000円となり、入札残が82万9,500円となりました。また、自動車交通騒音測定委託料25万2,000円につきましては、苦情対応などの場合執行をする予定でございましたけれども、目立った苦情もなかったことから、入札残の82万9,500円と25万2,000円の合計108万2,000円を減額したものでございます。

以上です。（「議長、11番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　11番。笹山欣悟議員。

○11番（笹山欣悟君）　まちづくり応援事業補助金につきましては、今年度そういった該当要件まで至らないというようなことでなかなか交付ができない状況があるようであります。恐らく23年度においても１件ほどしか該当しなかったんじゃないかなと思っておりますが、25年度当初予算を見てみますと今回50万の予算計上されておりますけれども、こういった市民まちづくりのそういった事業ということであれば、やっぱり市民の方が利用しやすいような形の補助金であるべきではないかなというふうにちょっと思うところであります。ですので、これについては、まちづくり応援事業補助金の要項そのものについて検討をするようなことはなかったのかどうか、この点についてあと１点ちょっとお尋ねをしておきたいと思います。

あと、騒音測定委託料についてはかなりの入札残というような形になってますけれども、そういったかなりの入札残の中でも、きちんとした測定委託はできたのかどうか、その点だけお尋ねをしておきたいと思います。

○総務部長（坂崎博憲君）　それでは、お答えいたします。

申請が少ないと考えられる理由といたしましては、議員御指摘のように制度上の理由、また地域団体の実情などいろいろな理由があるとは存じております。検討しなかったのかということでございますけれども、少ないということは感じておりましたので、どこに問題があるのかということを考察はいたしておるところではございます。今後の運用につきましても、審議会の御意見等も聞きながら、議員御指摘のような運用面も含めまして見直しを検討してまいりたいというふうに存じております。

以上、お答えいたします。

○市民部長（山本政義君）　お答えいたします。

入札には６社ほど参加をいただいておりまして、落札をされた業者におかれましては委託業務につきましては確実に実施されたものというふうに思っております。

以上、お答えいたします。

○11番（笹山欣悟君）　終わります。

○議長（永山芳宏君）　ほかにありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

ないようですので、質疑なしと認めます。

日程第４　議第３号

○議長（永山芳宏君）　次に、日程第４、議第３号平成24年度人吉市国民健康保険事業特別会計補正予算（第３号）を議題といたします。

本件について質疑はありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

ないようですので、質疑なしと認めます。

日程第５　議第４号

○議長（永山芳宏君）　次に、日程第５、議第４号平成24年度人吉市後期高齢者医療特別会計補正予算（第２号）を議題といたします。

本件について質疑はありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

ないようですので、質疑なしと認めます。

日程第６　議第５号

○議長（永山芳宏君）　次に、日程第６、議第５号平成24年度人吉市介護保険特別会計補正予算（第３号）を議題といたします。

本件について質疑はありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

ないようですので、質疑なしと認めます。

日程第７　議第６号

○議長（永山芳宏君）　次に、日程第７、議第６号平成24年度人吉市介護サービス事業特別会計補正予算（第２号）を議題といたします。

本件について質疑はありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

ないようですので、質疑なしと認めます。

日程第８　議第７号

○議長（永山芳宏君）　次に、日程第８、議第７号平成24年度人吉市水道事業特別会計補正予算（第２号）を議題といたします。

本件について質疑はありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

ないようですので、質疑なしと認めます。

日程第９　議第８号

○議長（永山芳宏君）　次に、日程第９、議第８号平成24年度人吉市公共下水道事業特別会計補正予算（第３号）を議題といたします。

本件について質疑はありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

ないようですので、質疑なしと認めます。

日程第10　議第９号

○議長（永山芳宏君）　次に、日程第10、議第９号平成24年度人吉市工業用地造成事業特別会計補正予算（第２号）を議題といたします。

本件について質疑はありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

ないようですので、質疑なしと認めます。

日程第11　議第10号

○議長（永山芳宏君）　次に、日程第11、議第10号平成25年度人吉市一般会計予算を議題といたします。

本件について質疑はありませんか。（「議長、11番」と呼ぶ者あり）

11番。笹山欣悟議員。

○11番（笹山欣悟君）　予算書は77ページであります。５款労働費、１項労働諸費、４目地域雇用創出推進費であります。25年度におきましても、緊急雇用創出事業委託料ということで4,832万1,000円の予算が計上されております。この緊急雇用創出事業委託料について、具体的に内容を説明いただきたいと思っております。

それから、95ページであります。８款土木費、１項土木管理費、１目土木総務費の19節負担金、補助及び交付金、補助金の人吉市住宅リフォーム促進事業補助金1,000万円であります。この補助金につきましては平成24年度から実施をされておりますが、24年度の申請件数及び補助実績等についてお尋ねをしておきたいと思いますし、これについては25年度の見込みとしてどの程度の件数を予想されていらっしゃるのか、この点についてお尋ねをしておきたいと思います。

○経済部長（松田知良君）　おはようございます。お答えいたします。

緊急雇用創出事業委託料でございますが、平成25年度につきましては６事業を県からの基金事業といたしまして、緊急雇用創出事業の実施を計画いたしております。事業名、雇用人数、雇用期間の順で説明させていただきます。

まず、耕作放棄地を活用した農作物ブランド化推進事業に４名、雇用期間は６カ月でございます。人吉産きのこのブランド化推進事業に10名、雇用期間が11カ月でございます。墓地

環境安全確認調査事業に４名、雇用期間が９カ月。人吉産野菜の生産拡大事業に２名、雇用期間が１年。ベビーリーフ生産拡大事業に３名、雇用期間が１年。エコ乗り物観光振興事業に２名、雇用期間が１年。以上、いずれの事業も４月からの事業開始を予定いたしておりまして、六つの事業に取り組み雇用創出を図るものでございます。

以上、お答えいたします。

○建設部長（中村明公君）　おはようございます。お答えいたします。

平成24年度の人吉市住宅リフォーム促進事業につきましては、予算額が1,000万円、限度額を20万円としておりました。24年度の申請件数、実施件数でございますが、ともに57件でございます。助成額が981万8,000円でございまして、工事費総額が5,868万3,806円となっております。助成額の約６倍の効果があったものと考えております。リフォームの１件当たりの工事費が約102万9,000円、１件当たりの助成額が17万2,000円でございます。それから、予算額に達した後の問い合わせが３件ほどあっております。10月末までに予算額に達しましたために、その後の申請は受け付けておりません。

それから、２点目の御質問でございますが、25年度の見込みといたしましては、20万円の50件ということで、平成24年度並みを考えております。人吉市におきましても厳しい財政状況でございますので、予算の範囲内におきまして市民の皆様が安全、安心で快適に生活ができますように、住生活の質の向上を図る事業を進めてまいりたいと考えておるところでございます。

以上、お答えいたします。（「議長、11番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　11番。笹山欣悟議員。

○11番（笹山欣悟君）　住宅リフォーム促進事業補助金については、かなりの効果、また実績があっているようであります。24年度、予算額に達したので途中でもう申請を受け付けていないというようなそういった状況かなりの申し込みがあったのかなというふうに思っているところでありますが、25年度も同額の1,000万円の予算で事業を行われるようでありますが、一つ気になりましたのが、施政方針の中で住宅リフォーム関係につきまして、25年については、改修に木材を使用される場合、地域材の使用を要件に加えて活用の促進を図ると、そういったことも計画されているようでありますので、逆にそういった地域材の利用をするということで申請が多くなるのではないかなとちょっと気になったところであります。そういったかなり多くの利用をされるということであれば、24年度については達した時点で申請を見送られておりますが、25年度、もし申請に達して予算額をオーバーした場合、その25年度の中での実施ということを考えた場合に、またこれだけの経済効果があるということを判断された場合に、もし申請件数がオーバーした場合には補正で対応すると、そういった部分の予定があるのかどうか、この点についてお尋ねをしておきたいと思います。

○建設部長（中村明公君）　お答えいたしたいと思います。

この補助制度が広く市民の皆さんに知れ渡り、知っていただくということになりまして、それからまた今度新たに地域材を取り入れた補助事業ということになりますと、確かに利用される方、そういう申請件数も多くなるんではないかというふうに予想はしておりますが、何せ予算額にも限度額がございますので、その範囲内で取り組んでいきたいと思いますが、とりあえずは25年度におきましてはこの申請の状況を見ながら、そのときにまた考えていきたいというふうに思っております。

以上でございます。

○11番（笹山欣悟君）　終わります。

○議長（永山芳宏君）　ほかにありませんか。（「議長、７番」と呼ぶ者あり）

７番。松岡隼人議員。

○７番（松岡隼人君）　47ページ、２款総務費、１項総務管理費、10目情報管理費の中の13節委託料、電算システム管理ＳＥ常駐委託料の1,071万円ですけど、昨年と比較しますと約２倍になっております。昨年は改修のためのＳＥ常駐というふうな説明があったんじゃなかったかなと思いますが、ことしに入ってまた本年度もＳＥ常駐をされるということだと思いますけど、その増額の理由と、どういう方がどういう業務形態で常駐されるのかというのをお尋ねしたいと思います。

○総務部長（坂崎博憲君）　それでは、お答えをいたします。

倍になっているということでございますけれども、昨年は半年分を実は計上させていただきまして、今年は１年分であるということでございます。それと、ＳＥでございますのでプログラムの修正とかそういうものについて行っているというものでございまして、今、情報システム係のほうの職員を減らしていく方向にございますので、より専門的な知識を持った者が必要だという判断に立ちまして、ＳＥの常駐を昨年から予算のほうもお願いしているところでございます。

以上でございます。（「議長、７番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　７番。松岡隼人議員。

○７番（松岡隼人君）　常駐というふうに書いてありますけれども、常にずっと市役所の職員の方と同じような感じで業務をされるのか、また今後、次年度以降もＳＥの常駐を恒常化していくというふうに考えてらっしゃるのかをお尋ねいたします。

○総務部長（坂崎博憲君）　ＳＥにつきましては、出欠表と言うんですかね、きちんとつけまして職員と同じように出勤をしていただいて業務に当たっていただいているというものでございます。来年度以降についても、今のところは現在の状況と同じように続けてまいりたいというふうに考えているところでございます。

以上でございます。

○７番（松岡隼人君）　終わります。

○議長（永山芳宏君）　ほかにありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

ないようですので、質疑なしと認めます。

日程第12　議第11号

○議長（永山芳宏君）　次に、日程第12、議第11号平成25年度人吉球磨地域交通体系整備特別会計予算を議題といたします。

本件について質疑はありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

ないようですので、質疑なしと認めます。

日程第13　議第12号

○議長（永山芳宏君）　次に、日程第13、議第12号平成25年度人吉市国民健康保険事業特別会計予算を議題といたします。

本件について質疑はありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

ないようですので、質疑なしと認めます。

日程第14　議第13号

○議長（永山芳宏君）　次に、日程第14、議第13号平成25年度人吉市後期高齢者医療特別会計予算を議題といたします。

本件について質疑はありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

ないようですので、質疑なしと認めます。

日程第15　議第14号

○議長（永山芳宏君）　次に、日程第15、議第14号平成25年度人吉市介護保険特別会計予算を議題といたします。

本件について質疑はありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

ないようですので、質疑なしと認めます。

日程第16　議第15号

○議長（永山芳宏君）　次に、日程第16、議第15号平成25年度人吉市介護サービス事業特別会計予算を議題といたします。

本件について質疑はありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

ないようですので、質疑なしと認めます。

日程第17　議第16号

○議長（永山芳宏君）　次に、日程第17、議第16号平成25年度人吉市水道事業特別会計予算を議題といたします。

本件について質疑はありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

ないようですので、質疑なしと認めます。

日程第18　議第17号

○議長（永山芳宏君）　次に、日程第18、議第17号平成25年度人吉市公共下水道事業特別会計予算を議題といたします。

本件について質疑はありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

ないようですので、質疑なしと認めます。

日程第19　議第18号

○議長（永山芳宏君）　次に、日程第19、議第18号平成25年度人吉市国民宿舎特別会計予算を議題といたします。

本件について質疑はありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

ないようですので、質疑なしと認めます。

日程第20　議第19号

○議長（永山芳宏君）　次に、日程第20、議第19号平成25年度人吉市工業用地造成事業特別会計予算を議題といたします。

本件について質疑はありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

ないようですので、質疑なしと認めます。

日程第21　議第20号

○議長（永山芳宏君）　次に、日程第21、議第20号人吉市新型インフルエンザ等対策本部条例の制定についてを議題といたします。

本件について質疑はありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

ないようですので、質疑なしと認めます。

日程第22　議第21号

○議長（永山芳宏君）　次に、日程第22、議第21号議会の議員その他非常勤の職員の公務災害補償等に関する条例の一部を改正する条例の制定についてを議題といたします。

本件について質疑はありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

ないようですので、質疑なしと認めます。

日程第23　議第22号

○議長（永山芳宏君）　次に、日程第23、議第22号人吉市消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例の制定についてを議題といたします。

本件について質疑はありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

ないようですので、質疑なしと認めます。

日程第24　議第23号

○議長（永山芳宏君）　次に、日程第24、議第23号人吉市障害程度区分認定審査会の委員の定数等を定める条例の一部を改正する条例の制定についてを議題といたします。

本件について質疑はありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

ないようですので、質疑なしと認めます。

日程第25　議第24号

○議長（永山芳宏君）　次に、日程第25、議第24号人吉市重度心身障害者医療費助成に関する条例の一部を改正する条例の制定についてを議題といたします。

本件について質疑はありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

ないようですので、質疑なしと認めます。

日程第26　議第25号

○議長（永山芳宏君）　次に、日程第26、議第25号人吉市環境基本条例の制定についてを議題といたします。

本件について質疑はありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

ないようですので、質疑なしと認めます。

日程第27　議第26号

○議長（永山芳宏君）　次に、日程第27、議第26号人吉市環境審議会条例の一部を改正する条例の制定についてを議題といたします。

本件について質疑はありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

ないようですので、質疑なしと認めます。

日程第28　議第27号

○議長（永山芳宏君）　次に、日程第28、議第27号人吉市消毒・撒布手数料条例を廃止する条例の制定についてを議題といたします。

本件について質疑はありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

ないようですので、質疑なしと認めます。

日程第29　議第28号

○議長（永山芳宏君）　次に、日程第29、議第28号人吉市中山間ふるさと・水と土保全基金条例を廃止する条例の制定についてを議題といたします。

本件について質疑はありませんか。（「議長、５番」と呼ぶ者あり）

５番。平田清吉議員。

○５番（平田清吉君）　本条例は、平成６年３月22日人吉市条例８号として設置されたものであり、本条例が設置されました平成６年には私はまだ人吉市民ではありませんでしたので、本条例がなぜ設置されたのかという経緯がよくわかっておりません。多分国からの地域支援事業を受けて設置されたものと推察しておりますが、本条例が設置された経緯についてお尋ねします。

また、本条例を廃止する条例の提案理由としまして、本条例は「人吉市中山間ふるさと・水と土保全基金として所期の目的は果たされたので、条例を廃止するものである」と記述されておりますが、この所期の目的とはどのような目的だったのかお尋ねいたします。

○経済部長（松田知良君）　お答えいたします。

中山間地域を中心とした土地改良施設及び農地は、国土、環境の保全などの多面的機能があり、地域住民活動を通じてこの多面的機能を将来にわたり良好に発揮され地域の活性化を図るため、国におきましてふるさと・水と土保全対策として交付税措置がなされました。この基金は、この交付税に算入されました900万円を原資とし、利息等の運用益なども含めまして活用し、農業施設や農地周辺の草刈り、あるいは維持管理等の地域の環境保全など多面的機能を良好に発揮するための事業に充当いたしました。支出の内訳といたしまして、平成19年度は水路の土砂しゅんせつ工事への補助としてひとよし土地改良区へ支出し、平成20年度から平成23年度は田代地域資源保全隊など４保全隊が取り組んだ農地・水・環境保全向上対策事業に、平成24年度は５保全隊が取り組んだ農地・水保全管理支払交付金事業への負担金として支出してきたところでございます。この基金は、住民が共同して行う土地改良施設の多面的機能を良好に発揮させるための活動を支援することを目的といたしておりましたので、住民みずからが保全隊を組織し、この多面的機能を良好に発揮させるための活動をされてきており、また今後も活動を継続されますので、所期の目的は達成されたと考えております。平成24年度で利息を含む基金全額を取り崩し支出してしまいますので、今回条例の廃止

をお願いするものでございます。

以上、お答えいたします。（「議長、５番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　５番。平田清吉議員。

○５番（平田清吉君）　よくわかりました。何も本議案に対して反対するものではありません。また、条例を廃止する提案理由の所期の目的という言葉じりをとらえて、本議案の質疑をしたわけでもありません。ただいま経済部長の答弁に、本条例の基金が24年度でなくなるという答弁がありましたので、よく理解することができました。

以上で、質問を終わります。

○議長（永山芳宏君）　ほかにありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

ないようですので、質疑なしと認めます。

日程第30　議第29号

○議長（永山芳宏君）　次に、日程第30、議第29号人吉市人・農地プラン検討委員会設置条例の制定についてを議題といたします。

本件について質疑はありませんか。（「議長、５番」と呼ぶ者あり）

５番。平田清吉議員。

○５番（平田清吉君）　本条例は平成24年２月８日付の農林水産事務次官依命通知の戸別所得補償経営安定推進事業実施要綱の規定に基づき設置されるものと推察しております。この経営安定推進事業には、人・農地プラン作成事業と農地集積協力金交付事業等が組み込まれています。しかも、人・農地プラン作成の流れの中で、地域農業マスタープランを市、行政が原案作成することと規定してあるのに、なぜわざわざ検討委員会を設置して市、行政が作成したマスタープランを審査・検討しなければならないのか、お尋ねいたします。

○経済部長（松田知良君）　お答えいたします。

検討委員会を設置し、検討委員会で審査・検討しなければならないのかという御質問でございますが、農林水産事務次官依命通知の戸別所得補償経営安定推進事業実施要綱に基づき、人・農地プランの決定、変更につきましては、人・農地プラン検討委員会で審査・検討を行うことになっております。その後、人・農地プラン検討委員会で審査・検討されたものを市長が決定することとなっております。そこで、人吉市人・農地プラン検討委員会において、人吉市の人・農地プランを審査・検討を行っていただきますことから、市の附属機関としての性質を有するものと考えまして、今回地方自治法第138条の４第３項の規定により、人吉市人・農地プラン検討委員会設置条例を提案させていただいたところでございます。

以上、お答えいたします。（「議長、５番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　５番。平田清吉議員。

○５番（平田清吉君）　本条例を設置するに至りました経緯は、あくまでも農林水産省の戸別

所得補償経営安定推進事業実施要綱の規定に基づいたものであることがよく理解することができました。設置される本条例は、今後この事業が続く限り生きていくものと推察いたします。よって、今後も執行部、関係各位の地域農業者への踏み込んだ説明と御支援、御指導を引き続きよろしくお願いいたします。

以上で、質問を終わります。

○議長（永山芳宏君）　ほかにありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

ないようですので、質疑なしと認めます。

日程第31　議第30号

○議長（永山芳宏君）　次に、日程第31、議第30号人吉市非常勤職員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定についてを議題といたします。

本件について質疑はありませんか。（「議長、11番」と呼ぶ者あり）

11番。笹山欣悟議員。

○11番（笹山欣悟君）　今回この条例の提案理由の中で、「人・農地プラン検討委員会を設置すること等に伴い」というふうなことで提案理由をなされてあります。そこで見てみますと、人・農地プラン検討委員会の会長、委員の報酬、それからもう一つは鳥獣被害対策実施隊の報酬が新たに追加されているようであります。この非常勤職員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する中で、こういった報酬等を上程する場合は、恐らくこの鳥獣被害対策実施隊の設置要項等を定めなければ上程することができないのかなというふうにちょっと思いましたので、この鳥獣被害対策実施隊の設置要項等はどうなっているのかお尋ねをしたいと思いますし、それ以前はこの鳥獣被害対策実施隊にかわるものとして、恐らく駆除隊で取り組みをされていたのかなとちょっと思っとるところなんですが、その駆除隊との関係がどういうふうな関係なのか、この２点についてお尋ねをしたいと思います。

○経済部長（松田知良君）　お答えいたします。

本市におきましては、平成22年度までは駆除隊、平成23年度から捕獲隊へと名称を変更し、有害鳥獣の捕獲活動についてこれまで委託という形をとってまいりましたが、平成25年度からは人吉市鳥獣被害対策実施隊として設置を行うものでございます。鳥獣被害対策実施隊につきましては、鳥獣による農林水産業等に係る被害の防止のための特別措置に関する法律、いわゆる鳥獣被害防止特措法が平成20年２月に施行されたことによりまして、高齢化する担い手の確保と実効性を高める等の観点から実施隊の設置が必要とされてきたところでございます。この法律では、人材確保等の観点から、実施隊設置に伴う隊員の市町村の非常勤職員としての身分、公務災害の適用や狩猟税の免除等の措置が講じられ、担い手への手厚い支援が行われてきたところでございますが、本年度に法律の一部改正が行われ、一定の要件を満たす隊員には銃刀法に基づく猟銃の所持許可の更新時等における技能講習を当分の間免除す

ること等、この実施隊に対する支援がさらに強化されてきたところでございます。このようなことで、捕獲隊の身分保障や支援という観点から、現在の捕獲隊をそのまま実施隊に移行する予定でございまして、今回その実施隊70名分の報酬や隊長会議に係る費用弁償等の予算計上をお願いしたところでございます。

また、設置要項につきましてでございますが、人吉市鳥獣被害対策実施隊の設置に関する要項を今月中には制定したいというふうに考えております。

以上、お答えいたします。（「議長、11番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　11番。笹山欣悟議員。

○11番（笹山欣悟君）　今までより身分が保障されてというふうなことで、こういった形で要項を定めるということなんですね。非常にいいことだと思ってますが、あと１点、そういった今までの駆除隊もしくは捕獲隊の中においては、捕獲頭数等によって支払いがされとったのかなと思っとるわけなんですね。ですので、今回こういった形で年額の報酬等を規定をした場合に、例えばそういった今まで捕獲隊等がされとった、その捕獲をしてきた頭数によって支給していた費用等についてはどうなるのか。この点だけあと１点、確認をさせていただきたいと思います。

○経済部長（松田知良君）　お答えいたします。

捕獲に対する報償に関しましては今までと変わりません。

以上でございます。

○11番（笹山欣悟君）　終わります。

○議長（永山芳宏君）　ほかにありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

ないようですので、質疑なしと認めます。

日程第32　議第31号

○議長（永山芳宏君）　次に、日程第32、議第31号人吉市指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例の制定についてを議題といたします。

本件について質疑はありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

ないようですので、質疑なしと認めます。

日程第33　議第32号

○議長（永山芳宏君）　次に、日程第33、議第32号人吉市指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営並びに指定地域密着型介護予防サービスに係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の制定についてを議題といたします。

本件について質疑はありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

ないようですので、質疑なしと認めます。

日程第34　議第33号

○議長（永山芳宏君）　次に、日程第34、議第33号人吉市指定地域密着型介護老人福祉施設の入所定員並びに指定地域密着型サービス事業者及び指定地域密着型介護予防サービス事業者の指定に係る申請者の資格を定める条例の制定についてを議題といたします。

本件について質疑はありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

ないようですので、質疑なしと認めます。

日程第35　議第34号

○議長（永山芳宏君）　次に、日程第35、議第34号人吉市道路構造の技術的基準を定める条例の制定についてを議題といたします。

本件について質疑はありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

ないようですので、質疑なしと認めます。

日程第36　議第35号

○議長（永山芳宏君）　次に、日程第36、議第35号人吉市道路標識の寸法を定める条例の制定についてを議題といたします。

本件について質疑はありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

ないようですので、質疑なしと認めます。

日程第37　議第36号

○議長（永山芳宏君）　次に、日程第37、議第36号人吉市移動等円滑化のために必要な道路の構造に関する基準を定める条例の制定についてを議題といたします。

本件について質疑はありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

ないようですので、質疑なしと認めます。

日程第38　議第37号

○議長（永山芳宏君）　次に、日程第38、議第37号人吉市準用河川管理施設等の構造に関する基準を定める条例の制定についてを議題といたします。

本件について質疑はありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

ないようですので、質疑なしと認めます。

日程第39　議第38号

○議長（永山芳宏君）　次に、日程第39、議第38号人吉市営住宅条例の一部を改正する条例の制定についてを議題といたします。

本件について質疑はありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

ないようですので、質疑なしと認めます。

日程第40　議第39号

○議長（永山芳宏君）　次に、日程第40、議第39号人吉市営住宅等の整備基準を定める条例の制定についてを議題といたします。

本件について質疑はありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

ないようですので、質疑なしと認めます。

日程第41　議第41号

○議長（永山芳宏君）　次に、日程第41、議第41号損害の賠償についてを議題といたします。

本件について質疑はありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

ないようですので、質疑なしと認めます。

日程第42　議第42号

○議長（永山芳宏君）　次に、日程第42、議第42号損害の賠償についてを議題といたします。

本件について質疑はありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

ないようですので、質疑なしと認めます。

日程第43　議第43号

○議長（永山芳宏君）　次に、日程第43、議第43号損害の賠償についてを議題といたします。

本件について質疑はありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

ないようですので、質疑なしと認めます。

日程第44　議第44号

○議長（永山芳宏君）　次に、日程第44、議第44号損害の賠償についてを議題といたします。

本件について質疑はありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

ないようですので、質疑なしと認めます。

日程第45　諮第１号

○議長（永山芳宏君）　次に、日程第45、諮第１号人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについてを議題といたします。

本件について質疑はありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

ないようですので、質疑なしと認めます。

日程第46　諮第２号

○議長（永山芳宏君）　次に、日程第46、諮第２号人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについてを議題といたします。

本件について質疑はありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

ないようですので、質疑なしと認めます。

以上で質疑を終了いたします。

○議長（永山芳宏君）　本日の議事は全部終了いたしました。

本日は、これをもって散会いたします。

午前10時58分　散会

平成25年３月第１回人吉市議会定例会会議録（第３号）

平成25年３月６日　水曜日

１．議事日程第３号

平成25年３月６日　午前10時　開議

日程第１　一般質問

１．大　塚　則　男　君
２．犬　童　利　夫　君
３．田　中　　哲　君
４．平　田　清　吉　君
５．仲　村　勝　治　君

２．本日の会議に付した事件

・議事日程のとおり

３．出席議員（18名）

１番	宮　﨑	保　君
２番	高　瀬　堅　一	君
３番	村　口	隆　君
４番	大　塚　則　男	君
５番	平　田　清　吉	君
６番	犬　童　利　夫	君
７番	松　岡　隼　人	君
８番	井　上　光　浩	君
９番	豊　永　貞　夫	君
10番	川　野　精　一	君
11番	笹　山　欣　悟	君
12番	西	信八郎　君
13番	村　上　恵　一	君
14番	田　中	哲　君
15番	仲　村　勝　治	君
16番	三　倉　美千子	君
17番	森　口　勝　之	君
18番	永　山　芳　宏	君

欠席議員　なし

4．説明のため出席した者の職氏名

市長	田中信孝君
副市長	髙橋　隆君
監査委員	篠﨑國博君
教育長	堀　秀行君
市長公室長	久本一富君
総務部長	坂崎博憲君
市民部長	山本政義君
健康福祉部長	松岡誠也君
経済部長	松田知良君
建設部長	中村明公君
市長公室次長	愛甲秀樹君
総務部次長	中村則明君
市民部次長	椎葉幹夫君
健康福祉部次長	福山誠二君
経済部次長	大渕　修君
建設部次長	木村秀敏君
企画課長	小澤洋之君
財政課長	告吉眞二郎君
会計管理者	松江隆介君
水道局長	田中幸輔君
上水道課長	那須義徳君
教育部長	赤池和則君
教育部次長	東　俊宏君
農業委員会事務局長	舟戸幸弘君

5．職務のため議場に出席した事務局職員の職氏名

局長	赤池謙介君
次長	村並成二君
次長	山本繁美君
書記	白坂禎敏君

午前10時00分　開議

○議長（永山芳宏君）　おはようございます。出席議員が定足数に達しておりますので、本日の会議は成立いたしました。よって、これより会議を開きます。

議事に入ります。本日は、一般質問を行います。

議事日程は、お手元に配付してあるとおりでございます。

日程第１　一般質問

○議長（永山芳宏君）　それでは、直ちに一般質問を行います。（「議長、４番」と呼ぶ者あり）

４番。大塚則男議員。

○４番（大塚則男君）（登壇）　皆さん、おはようございます。４番議員の大塚則男です。議員として１期目の２年目折り返しに当たり、今回一般質問の登壇１番をいただき、本日の高校入試のように大変緊張しております。きょう今からしっかりと務めてまいりますので、どうかよろしくお願いいたします。

さて、２月17日に行われましたひとよし春風マラソンも最高の参加者をいただき、すばらしい結果になったことをお喜びしたいと思います。また、その前日２月16日の100円商店街もたくさんの皆様にお越しいただき、大盛況だったと伺った次第です。この100円商店街の企画が、さらに集客増となり商店街の活性化に結びついたら、まことにありがたいことと考えます。

さて、今回の一般質問は、農業振興策から２項目、観光振興策から４項目、企業誘致策から２項目をお尋ねさせていただきます。

まず、１点目として、市長は１月８日に行われました名刺交換会の席上、また市長の新年の集いの席において、キクラゲ栽培について現在厳しい状況にあるとお話しされております。昨年の12月議会において松岡議員、高瀬議員から一般質問が行われましたが、市民の皆様の関心も高い中、キクラゲ栽培に携わっておられる皆様が安心して生産ができる体制、安定した販売先の確保、そして平均した収入が得られるための対策を、生産者ときのこ生産組合とが一体になり進めていくことが大切だと思います。

そこでお尋ねしますが、今回キクラゲ栽培などの研修に南島原市のきのこ本舗へ職員の派遣研修があっております。キクラゲ栽培に苦慮されておられる生産者の方も、積極的に視察研修を行うことも必要に考えます。生産と販売において厳しいキクラゲ栽培の現状なら、経営の見直し、指導員の招致などを行うべきと思いますが、どのようにお考えかお尋ねします。

○経済部長（松田知良君）　おはようございます。それでは、お答えいたします。

まず、職員の派遣研修でございますが、市といたしましては担当職員のキノコ栽培管理技術等の指導力向上のため、去る１月に10日ほど民間企業へ研修派遣することを目的として、

さきの12月議会において、経営連携インターンシップ事業として予算をお認めいただいたところでございますが、職員の不慮のけがのため研修については実施できなかったところでございます。予算をお認めいただきました議員各位に対しましては、おわび申し上げます。なお、当研修につきましては関係機関と協議の上、新年度において実施できるようであればぜひ実施したいと考えておるところでございます。

また、生産者の研修の実施につきましては、旅費が伴いましたり、法人同士の研修ということで受け入れ先の企業秘密等もございますので難しい部分もございますが、生産組合におかれましては、他地域においてよい事例等があれば必要に応じて視察研修等を実施されるのではないかと考えておるところでございます。

次に、経営の見直しでございますが、市からも販売形態や栽培体系の見直しなど、品質向上と安定生産、収益向上に向けて指導・助言を行っておるところでございますし、生産組合においてもそうした協議がなされているところでございます。

次に、指導員の招致についてでございますが、現在のところ市での招致は考えておりません。生産組合から管理運営等につきまして相談があれば、必要に応じて専門家の紹介を行ってまいりたいと考えておるところでございます。しかしながら、生産組合におかれましては、既に必要に応じて種菌メーカーなどに御相談され、指導・助言をいただかれているようでございます。

以上、お答えいたします。（「議長、４番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　４番。大塚則男議員。

○４番（大塚則男君）　ただいま答弁いただきましたが、研修派遣が実施できていないことは残念なことですが、キクラゲ栽培が一、二年で安定した生産が図れるなら心配はないのですが、長年農業などを営まれておられる方からは大変厳しい意見が返ってきています。しかしながら、既にスタートしている事業ですから、今後さらに事業展開していく上で金銭的な不安とか、家族生活への不安、長期的な経営の見通しに対する不安など起きてくるかと思います。

そこで大事なのが、きのこ生産組合とキクラゲ生産者の信頼関係だと思います。きのこ生産組合は経営の安定化、販売先の確保、キクラゲ生産者への確実な支払いと技術指導の責任があり、キクラゲ生産者は安定した生産への努力と技術向上など積極性が問われると思います。今回補助金で始め、補助金が切れたら商いも終わりでは最悪のケースになりますので、お互いに信頼関係を持って経営改革を立て、１年でも早く自立できる体制を目指していただきたいと思います。

次に、キクラゲの規格があるかと思いますが、規格外のキクラゲはどのように取り扱われておられるのか、生産組合独自で新たな処理を検討されてるのか、生産者の方が処理されているのか、お尋ねします。

○経済部長（松田知良君）　お答えいたします。

規格外のキクラゲの取り扱いについてはどうされているのかとの御質問でございますが、生産組合にお尋ねいたしましたところ、規格外品については生産組合において乾燥して販売したり、一部加工品の原料とされているようでございます。

以上、お答えいたします。（「議長、４番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　４番。大塚則男議員。

○４番（大塚則男君）　生産組合で乾燥し販売、加工品の原料になっているとのことですが、例えばその一部を市内の旅館、飲食店などに宣伝として低価格で提供できないか。既に利用いただいている事業所もあるかと思いますが、市内の一部経営者から、地産地消に心がけているが、宿泊いただくお客様のニーズが多様化し、１泊１食の傾向が増加し、夕食を利用されないお客様がふえているということと、地産地消にはコスト的に無理があるとのことから、まずは旅館、飲食店などに利用していただくためにも低価格で提供されてはいかがかと考えます。

次に、ストックされている乾燥キクラゲについてですが、以前経済建設委員会で研修した折、きのこ生産組合の工場にて乾燥キクラゲのストック分については購入先が決まるまで生産者には支払いができないと伺いました。生産者のことを考えますと、いつまで待つのか、いつ代金が支払われるのか、不安が生じてくると思います。また、納めたキクラゲが乾燥といえども長くなると品質、あるいは保証期間等が気になるところですが、現在どんな対応をなされているのかお尋ねいたします。

○経済部長（松田知良君）　お答えいたします。

ストックされている乾燥キクラゲの品質保証期間でございますが、乾燥品の販売をされておりますエヴァウェイ株式会社にお尋ねしましたところ、製品を袋詰めしてから１年を賞味期限として表示されているとのことでございます。なお、生産組合にお尋ねしたところ、まだ乾燥キクラゲのストックはございますが、販路につきましてはほぼ確定しているとのことでございます。

以上、お答えいたします。（「議長、４番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　４番。大塚則男議員。

○４番（大塚則男君）　乾燥キクラゲのストックはあるが販売先は確定しているということでしたらば、生産者への支払いは順次間違いなく行われているものと受けとめておきたいと思います。

次に、販売においてはさまざまな研究、また各方面に出かけ努力されておられることは存じております。ただ、やはり他の食品と違って、１店１店のお店で大量にさばける商品ではないと思います。まず、各地に出向いて大口の取引先を確保する営業活動がどうしても必要になるかと思いますが、そのためには営業活動専門の方を育てること、営業豊富な方のアド

バイスを受けていくことも大切と思いますが、現在取り組まれておられるのかお尋ねします。

○経済部長（松田知良君）　お答えいたします。

大口の取引先を確保するため営業活動専門の方を育てたり、営業経験豊富な方のアドバイスを受けていくことが大事と考えられますが、現在の取り組みとの質問でございますが、まず、市におきましては農業振興課に民間企業での営業経験を持つ職員がおりますので、必要に応じて生産組合へ指導・助言を行っているところでございます。生産組合内部にも企画、営業を行う部署もございますが、議員が言われましたとおり、営業活動専門の方を育てたり、営業経験豊富な方のアドバイスを受けていくことは大事であると考えますので、市といたしましてもそうした部分も含めまして必要な指導・助言を引き続き行ってまいりたいと考えておるところでございます。

以上、お答えいたします。（「議長、４番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　４番。大塚則男議員。

○４番（大塚則男君）　やはり納品先が確立しないと生産者は不安だと思います。商いとしても成り立たないと考えます。まずは営業活動に力を入れていただき、販路拡大に当たってほしいと思います。

次に、農業でもうかる経済都市ひとよしの運営についてですが、市内さまざまな地域に出向きお尋ねしますと、まず出る言葉は「高齢化」と「後継者不足」でした。そこで、第５次人吉市総合計画にあります農業の振興計画に対しての取り組みについてお尋ねします。また、商工業振興についても、雇用の場の取り組みについてお尋ねします。

○経済部長（松田知良君）　お答えいたします。

農業振興につきましては、議員が言われますとおり、農業従事者の高齢化や後継者不足は深刻な課題となっております。そこで、市といたしましても現在関係機関と連携を図り、新規就農者の掘り起こしや新規就農相談等を行うとともに、地域農業の担い手となる認定農業者の確保や、集落営農組織の設立に向けた努力を行っているところでございます。また、現在こうした方々や組織を市の人・農地プランにおいて地域農業の担い手として位置づけ、さまざまな支援策が受けられるよう策定を進めているところでございます。具体的な支援策といたしましては、国の青年就農給付金や県の認定就農者制度を含めた国、県の農業施策活用への誘導や、市単独の農業担い手対策事業による新規就農者確保助成や、研修費用の助成、就農者結婚成立助成金の交付、また農業活性化対策事業補助金による各種経営支援等を行っているところでございます。

商工業振興につきましては、総合計画にもありますように、積極的な企業誘致や企業支援に取り組み、恵まれた自然環境、地域資源を生かした商工業振興を図ることで、雇用の場を確保してまいりたいと存じます。商工業地場産業への振興事業では、商工業の育成や活動費補助、経営安定のための金融優遇制度、従業員の人材育成への補助等で支援することにより、

経営の維持、販路開拓、商品の付加価値の向上など経営安定、技術革新を図り、新たな雇用の創出につながるよう行政及び関係各団体が連携し、地域の経済浮揚に努力してまいりたいと存じます。

以上、お答えいたします。（「議長、４番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　４番。大塚則男議員。

○４番（大塚則男君）　平成17年と平成22年の調査からですが、平成17年度販売農家数が936戸ありました。平成22年になりますと821戸に減少しているということです。120軒ほど減っているということになります。販売額においても、100万から700万の販売農家が50軒ほど少なくなってまいります。特に、100万から200万の販売農家が半分ほどになっているわけです。人口で見ますと、15歳から29歳までの比較では、平成17年が53名でしたが平成22年には13名。40歳から50歳までになりますと、平成17年が103名だったのが平成22年には54名の状況になっています。私も何軒かの農家の方にお話をお聞きしましたが、今後は先ほど申していただきましたように集落営農とか、あるいは農業法人化すること、それから人吉球磨一体となり事業化し食品製造、あるいは食品販売などそういった方面も考えていくべきではないかということを言われました。農業についてはさまざまにいろんな問題があるかと思いますが、私はこの人吉球磨において農業、林業、建設業に活性がないと商業の活性はあり得ないと思ってますので、どうか、今いろんな支援策をいただきましたが、今後ともさらなる支援策をよろしくお願いしたいと思います。

次に、中国上海事務所が熊本県の観光、商業、農業などさまざまな輸出入の窓口として設けられていますが、人吉市としてどのような利用に活用されているのかお尋ねします。

○経済部長（松田知良君）　お答えいたします。

中国上海事務所の活用ということでございますが、平成17年から熊本大学の上海オフィスとして開設され、その後平成24年１月から熊本大学、熊本県、熊本市共同の熊本上海事務所となっており、県産品の販売促進や輸出入の支援、県内企業の中国進出の支援などの中国ビジネスの支援、中国からの観光客、留学生誘致、企業誘致等を推進されております。本市といたしましては、昨年10月に豪華客船コスタ・ビクトリア号の八代港寄港により、中国からの観光客を歓迎するとともに、県のスクラムチャレンジ事業で八代市、水俣市の３市連携で上海開催のニッポン・エキスポ in Shanghai、見本市に参加するため、上海事務所の協力を仰ぎながら進めてまいりましたが、尖閣問題で中止となった次第です。しかしながら先月末、県と３市連合により熊本上海事務所と連携し、上海の旅行代理店や客船運航会社に観光客誘致、客船の誘致及び情報収集のため本市職員を派遣いたしております。また、人吉市内の事業者も熊本県との共同により香港での販売、物流実証事業に参加されているなど、海外事業に向けた動きが出てきております。中国との事業展開に関しましては、まだクリアしなければならない課題が山積しており、特に農産物については厳しい制約があるようでございます。

今後も県や熊本上海事務所と連携しまして、本市の観光を初め、特産品のＰＲや販路拡大など見出せるよう努力してまいりたいと存じます。

以上、お答えいたします。（「議長、４番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　４番。大塚則男議員。

○４番（大塚則男君）　実は私の家の知人が中国上海に住んでいますが、御承知のとおり日本でも懸念されている大気汚染、きのうは全国初熊本でもＰM2.5が出ましたが、向こうのほうも大気汚染があり、一日中曇っているような状態だと話してました。また、上海にもかなりの日本人が在住され、５万人とも10万人、あるいはそれ以上の方がさまざまな職業で活躍されておられるとのことです。日常の食生活の買い物は全然不便はなく、日本製品が簡単に購入でき、近くのスーパーではお米、あきたこまちが５キロ売り値が45元、日本円にして3,150円で購入しているとのことです。また、現地の方もよく焼酎を飲まれるらしいんですが、残念なことにほとんどが芋焼酎で、もっと人吉球磨の焼酎を宣伝したらどうかということも言われました。今お話の中で、農産物は厳しい制約があるとのことですが、日本の安心安全な食品は高い評価がありますので、国内も確かに大切ですが海外に向けての販路拡大にも努力をお願いしたいと思います。生鮮食品がどういった形で輸出できるか、私も正直まだわかりませんが、何とか農家の方のためにぜひ頑張って前向きに進めていただければと思います。

次に、１年くらい前に一般質問があったかと思いますが、農業後継者に対する婚活の働きかけ、これが行政としてできないか、一応お尋ねしたいと思います。

○経済部長（松田知良君）　お答えいたします。

農業後継者に対する婚活の働きかけなどが考えられないかという御質問でございますが、婚活につきましては、平成23年12月議会において田中議員からも一般質問があったところでございますが、熊本県、人吉市、球磨郡の町村、人吉球磨地方の総合農協及び専門農協等で組織しております球磨農業活性化協議会においても、球磨地域農業の振興策の一つとされております。球磨郡９町村におきましては、農業後継者に限らず結婚対策の協定が結ばれているところでございますが、市といたしましても連携して取り組めるところにつきましては郡市の連携を図ってまいりたいと考えているところでございます。また、球磨地域の女性農業委員で構成されます球磨地域女性農業委員会ネットワークにおかれましては、年１回婚活パーティー等を企画されております。さらに、ＪＡくま下球磨青壮年部人吉支部におきましては、昨年12月に独自で人吉球磨農業者婚活イベントを企画実施されました。人吉市担い手育成総合支援協議会からもわずかではございますが、イベント経費の一部助成を行ったところでございます。このような活動に対しまして、支援できるところがございましたら支援してまいりたいと思っております。

以上、お答えいたします。（「議長、４番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　４番。大塚則男議員。

○４番（大塚則男君）　ただいま答弁いただきましたように、対策としてはいろいろ設けてもらってますので、要は当事者といいますか、御本人の方が積極的に参加いただくように私たちも勧めていくべきかなと思っております。

次に、市長のマニフェストにもありました人吉七町に町並みと温泉郷の復活についてですが、鍛冶屋町通りはかなり整備を進めていただき、今回も小公園の整備が計画されているようですが、温泉郷の復活の一つとしての開発計画は現在どうなっているのか。各町村における温泉施設の数、運営状況などを検討した場合、今後の温泉センターの構想など見通しについてどのようにお考えなのかお尋ねします。

○市長（田中信孝君）　皆さん、おはようございます。

温泉郷の復活としての開発計画の現状でございますが、温泉郷の復活は２期目のマニフェストにおきまして、中心市街地及び人吉温泉を広く内外に知らしめるための大きな柱でございました。市の職員によります十数回に及ぶプロジェクト会議を開催する中、商工会議所、商店街及び観光協会の皆様方などとの意見交換を行い、温泉センター構想について検討してまいったところでございます。事業計画におきましては、施設用地と他の周辺温泉施設との関連性から、基本構想を協議する中で事業方針を修正しまして、温泉センター的なものではなく人吉温泉のシンボルとなるような規模での施設を検討いたしたところでございます。また、他の市町村自治体においての施設規模や経営方式、利用状況及び採算性等を調査研究し、完成後の経営も試算いたしましたところ、用地補償と建設費、さらには管理運営のランニングコストにおいて多大な投資が必要であり、現状ではその財政負担は困難であると判断したところでございます。市民の皆様との意見交換の中では、周辺温泉施設の方々から温泉の枯渇といった温泉資源の保護に関する不安とリスクも懸念されまして、町なかにおきまして新たな掘削もしくは再掘削が必要となった場合の周辺温泉施設に与える影響があるものと、その結論に至った次第でございます。したがいまして、町なかへの温泉センター構想につきましては、現在大変厳しいものがあり断念せざるを得ない状況にございますが、既存の温泉旅館や公衆浴場を最大限に生かした城下町の風情を町のコンセプトといたしまして、中心市街地の活性化に向けて魅力あるまちづくりにつなげる事業を、官民一体となって、温泉でございますから汗を流して取り組んでまいりたいと存じているところでございます。

以上、お答えいたします。（「議長、４番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　４番。大塚則男議員。

○４番（大塚則男君）　ただいま市長から答弁いただきましたが、温泉センターとしては断念せざるを得ないということ。その原因としましては財政負担、あるいは周辺温泉施設に与える影響、温泉の枯渇といった問題があるようですので、中心街にできないのは残念でありますが、新たなる城下町の風情を見出せたらいいかなというふうに思っております。また、後

で私も述べさせていただきますが、また別の方法はないかなというふうに考えておりますので、よろしくお願いいたします。

以前は九日町かいわいが中心地でありましたが、青井阿蘇神社が国宝に指定されてからの人の流れに変化が起きています。そもそも校区とか、川を境にして、また行政区によって人の集まりは変化すると思いますが、例えば人吉駅から九日町までの商店街としての連続性がなく、空き地、空き店舗が増加傾向にあり、商店街としての流れがなく町並み散策が途絶えてしまいます。九日町商店街でもさまざまな取り組みをされておられますが、町並みの復活の一つとして、人吉駅前から中心市街地までの町並みづくりも行うべきと考えます。所信の中で述べていただきました空き店舗家賃補助、あるいは開業者支援など補助の拡充を計画されておられますので、対策の一つとしてぜひ検討をお願いします。

また、ＪＲ様運行のＳＬ人吉と連携して、「食の祭典ｉｎ球磨川」と銘打って人吉球磨一体となった祭り事は企画できないか、お尋ねしたいと思います。

○経済部長（松田知良君）　お答えいたします。

平成20年に青井阿蘇神社の国宝指定、翌21年４月はＳＬ人吉の運行開始と本市観光の千載一遇の時期に、人吉を訪れる観光客の皆様を心からおもてなしをすることと同時に、人吉駅、青井阿蘇神社周辺で増加する観光客を中心市街地や人吉城跡方面へ誘導することを目的として、市長の呼びかけによって始まったものに、じゅぐりっと博覧会がございます。また、こともおかげをもちまして来週16日から待望のＳＬ人吉の運行が開始され、ＳＬシーズン到来となります。議員御提案の観光における食というのは、集客にとって最も重要な要素の一つとなっており、広域組織である旬夏秋冬キャンペーン実行委員会において、人吉球磨ぐるめぐりんや、人吉・球磨スイーツめぐりん本といった地域グルメの紹介本の発行、おひなまつり期間等におけるくま川鉄道カフェトレインの運行、さきの２月21日には各市町村グリーンツーリズム研究会の協力によるくま川鉄道スローフードを味わうチョイ旅といった旅行商品化をイメージした試食会イベントが開催されております。今後は、人吉球磨といった広域観光の本格化や、じゅぐりっと博覧会における事業のリニューアル等も検討の時期にまいっておりますので、地域の食といった取り組みができないか、関係の皆様や関係団体に働きかけをしてまいりたいと存じます。

以上、お答えいたします。（「議長、４番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　４番。大塚則男議員。

○４番（大塚則男君）　今お答えいただきましたが、ずっと以前ですか、中川原で食の祭典みたいなのがあっていたような気がします。できましたらそういった食を中心にした祭り事ができたらいいかなと思います。先日だったですか、ちょうどある食堂に行ってましたら、若者が六、七人来ておりました。山梨県から来たと。卒業旅行ですか。人吉に泊ってくれるのかなと思って聞いてみましたら、「いえ、人吉にはインターネットで見たある物を食べに来

ました」と。餃子なんですけど、食べに来たということで。「今から鹿児島に行きます」ということなんですね。ですから、やはりもう少し人吉もこういった観光があるんだということも知ってほしいなと思った次第です。だから食というのは、そういったインターネットでしっかり見て若い人が来るんだなという思いと、私どももももっともっと広く観光名所といいますか、人吉を広げることは大事ではないかと思います。

そこで、相良三十三観音めぐりの観光地としてのとらえ方についてですが、春、秋の年２回ですか、相良三十三観音めぐり。これを大々的にとらえて、現在行っている接待をさらに札所ごとの集落観光、もっと田舎らしさを前面に出した集落観光というのは目指されないのか、ちょっとお尋ねしたいと思います。

○経済部長（松田知良君）　お答えいたします。

相良三十三観音めぐりにつきましては、昨年から秋の開帳に合わせたウォーキング大会を広域観光の一環として取り組んでいただいており、さらなる飛躍を期待しているところでございます。これまで相良三十三観音めぐりにつきましては、県の人吉球磨地域観光推進協議会や広域組織であるひとよし・くま旬夏秋冬キャンペーン実行委員会で積極的な支援、取り組みを行ってきておりますが、観音札所自体や周辺の管理や運営は堂守さんや地元の皆さんによって行われているものでございまして、お接待の内容や規模についても地域の特性やそれぞれのお考えによるものであり、地域の思いといったものも尊重をしてまいりたいと考えております。しかしながら、議員御指摘のとおり、三十三観音めぐりは広域観光にとって最大の資源であり、さらにこの魅力を高めていくには、観音札所自体の趣は当然のことでございますが、周辺集落を含めた素朴なたたずまいや景色の美しさを維持、磨き上げていくことが特に重要だと考えております。実際に現在も観音堂を中心にした参道へヒガンバナやスイセンの植栽による花いっぱい運動などを展開していただいているところでございまして、今後も参拝者の心に響くような三十三観音めぐりの創出に向けて、おもてなしの充実を含め、関係市町村や相良三十三観音協議会において協議、お願いをしてまいりたいと存じます。

以上、お答えいたします。（「議長、４番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　４番。大塚則男議員。

○４番（大塚則男君）　ぜひ相良三十三観音めぐり、ウォーキングでもちろんめぐっていただきますけど、できましたら温泉と相良三十三観音ツアーみたいにしてバスでめぐるということも可能かと思います。山江村にあります淡島の神社には、わざわざ彼岸の中日はバスで来られて山江温泉センターで食事をされて帰られるということもありますので、ぜひこの相良三十三観音を何とか前面に打ち出して、バスでの巡回とか、あるいはウォーキングをぜひ考えていただきたいと思います。

次に、人吉クラフトパーク石野公園の管理と活性化対策についてですが、昨年人吉クラフトパーク石野公園まつりに出かけましたが、ちょうど錦町の産業祭と同日だったためか来客

が少ないように感じた次第です。現在は人吉球磨は、ひなまつりが開催されていますので来客数もたくさんいらっしゃるのかとは思います。ところで、人吉クラフトパーク石野公園は開園から何年になるのか、財源はどこからだったのか、さらにいろいろな催し事を行う場合、あるいは改築、改装する場合、何らかの規定があるのかお尋ねします。

○建設部長（中村明公君）　おはようございます。お答えいたします。

石野公園は、昭和59年に都市計画決定及び事業認可を受けまして事業に着手し、平成元年に一部供用開始した後、平成５年度まで残りの工事区域の完了に合わせ順次供用開始をいたしまして現在に至っております。

また、建設に係る財源といたしましては、国や県の補助金、市の起債や一般財源等を用いております。事業費の総額が約22億円となっております。

次に、都市公園としていろいろな催しや改修を行う場合の規制や法的な縛りはあるかという御質問でございますが、人吉市都市公園条例におきまして公園の管理に関する必要事項として、公園内における行為の制限、行為の禁止、利用の禁止または制限について定めております。いろいろな催しを行う場合につきましては、条例の規定に基づきその都度判断し使用を許可いたしております。また、改修につきましては、都市公園法で都市公園内における公園施設について定められておりますので、それに規定された公園施設に改修する場合は特に法的な規制はないと考えております。しかし、国や県の補助金、あるいは起債を利用して建設した施設につきましては、当初目的と異なる施設への転用、譲渡、取り壊し等、財産処分の制限を規定した補助金適正化法による制限が発生する可能性があると考えられます。

以上、お答えいたします。（「議長、４番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　４番。大塚則男議員。

○４番（大塚則男君）　今、規定があるかないかということをお伺いしまして、目的に合うかどうかわかりませんけど、私は人吉クラフトパーク石野公園を道の駅にしたらどうかと思います。そうすることで市民の皆さんも観光にお見えの方もかなりの利用客の増になるんじゃないかというふうに考えます。そうするにはひとつ、温泉施設をつくり、公園の周りには子供さんたちも遊べるゴーカートなどを設け、また高齢者の方が楽しまれるグラウンドゴルフ場、さらに前回も私の一般質問で申しましたが、球磨川サイクリングロードを使ったサイクリング大会、あるいは夏場のキャンプが快適に楽しめるキャンプ場の整備、こういったものを行っていただければ、きっと来客も増すものと思っております。現在のままでは来客数の増加は見込めませんので、ここは思い切った投資を行っていただき、人吉クラフトパーク石野公園のイメージを変えていくべきと考えますが、取り組みはいかがかお尋ねします。

○建設部長（中村明公君）　お答えいたします。

石野公園クラフトパークは開園当初から市南部における総合公園として、修景、レクリエーション及び憩いの場、文化教養活動としての工作、工芸等にみずから参加する能動的レ

クリエーションの場、また地域の地場産業、伝統産業にかかわることで意識の高揚、育成振興を図る場として整備してきたところでございます。現在は観光施設としての機能と評価が優先しておりますが、村山公園などと同様に市南部の総合公園という位置づけでございます。開園後約四半世紀を迎え、超少子高齢化時代の到来による低成長、成熟化と言われる社会の中で、石野公園に求められる役割、機能も少しずつ変化してきております。このような中で平成22年度から庁内に石野公園活性化ワーキング部会を設置いたしまして、今後の石野公園のあり方についての検討を行ってまいりました。クラフトゾーンの各館、運動広場やキャンプ場などの整備をし、多くの方に利活用していただく魅力ある公園にするためには投資が必要であるということは十分認識しておりますが、財政状況を踏まえ多額の投資は困難であると考えますので、極力経費をかけずに機能を見直す方向で石野公園の活性化を図りたいと考えておるところでございます。具体的には、工房が充実してまいりましたクラフトゾーンには学習旅行などにも対応できるスペースの確保、その他の公園ゾーンには花、木の植栽や、議員御提案のグラウンドゴルフ場などとの兼用による利用、ドッグランコースの新設など検討を進めております。なお、そのうちのグラウンドゴルフ場につきましては、ことし４月から運動広場等三つの広場、これは運動広場、創作広場、伝統あそび広場でございますが、これを兼用のグラウンドゴルフ場として利用できるよう看板の設置などの準備を進めているところでございます。また、公園施設の改築更新等につきましては、人吉市都市公園施設長寿命化計画に基づき、国の補助事業であります都市公園安全・安心対策緊急総合支援事業を活用しながら、緊急性、安全性、効率性等により優先度を決定し取り組んでまいりたいと存じます。

以上、お答えいたします。（「議長、４番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　４番。大塚則男議員。

○４番（大塚則男君）　ただいま御答弁いただきました。なかなか財政的に厳しいということのようですが、中心市街地の今度の温泉センター計画は断念ということですので、今後可能でしたら公園内に温泉があってもいいのではないかと思うんです。ぜひ道の駅プラス温泉ということで考えていただけたらありがたいと思います。また、今回グラウンドゴルフ場としても使えるということで大変ありがたく思っております。ぜひ、たくさんのファンの方おられますので、今後もよろしくお願いをしたいと思います。

次のお尋ねですが、人吉クラフトパーク石野公園内の焼酎館に、以前ろう人形さんが何名かおられたんです。最近留守のようなんですね。どこか旅行に行かれたのか、また何名住んでおられたのかお尋ねします。また、そのろう人形さんはいつごろ人吉クラフトパーク石野公園に幾らの予算でお越しいただいたのか、あわせてお願いいたします。

○経済部長（松田知良君）　お答えいたします。

石野公園焼酎館のろう人形でございますが、平成３年に購入しまして、５体でございます。

金額は合計300万円でございます。

以上、お答えいたします。（「議長、４番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　４番。大塚則男議員。

○４番（大塚則男君）　今５体、５人いらっしゃったということですね。金額が300万ということで。私も石野公園にお尋ねに行ったんですが、平成３年購入ということは今25年、まだそんなに年をとられているわけじゃないのにもう用済みなのか、四、五年前ですか、10年くらい前から収納庫と言いますか、私は押し入れと思ったんですけど、閉じ込めておられるそうなんです。決して悪さをされたわけではないんでしょうけど、できたら明るいところに登用させていただきたいと思いますので、どうかよろしくお願いをしておきます。

次に、関連質問になりますが、人吉クラフトパーク石野公園、村山公園、人吉城跡の清掃にかかる年間経費は幾らなのか。清掃に携わっている委託業者は何社か。契約方法、指名願を出している業者数。またこの作業は、雇用対策として生活保護受給者に対しての就労支援の一つにすることはできないかお尋ねします。

○建設部長（中村明公君）　お答えいたします。

３公園に係る公園管理業務委託費といたしましては、平成24年度は約5,400万円でございます。

次に、委託業者数、契約方法、指名願の数などについての御質問でございますが、まずお尋ねの石野公園、村山公園、人吉城跡公園の維持管理業務に係る指名願の数につきましては、造園工事の入札参加者資格審査申請書 ―― 指名願でございますが、この提出業者の中から指名を行っておりまして、造園工事の平成24年度指名願提出業者は25社でございます。このうち市内業者が８社でございます。

次に、契約方法及び委託業者の数でございますが、先ほどの市内業者８社のうち造園専門の業者４社を指名して入札を実施し、委託業者を決定しておりまして、各公園１社ずつと契約を行っているところでございます。

次に、公園の一部を雇用対策として生活保護受給者に対しての就労支援にできないかという質問でございますが、現在委託しております公園の維持管理作業は、草刈り機等の機械を使う作業や高所での剪定作業など、危険を伴う作業や技術を伴う作業が多く、安全管理や品質管理を必要といたしております。そのほかの作業といたしまして、園内清掃、トイレ清掃、人力除草や落葉清掃などといった軽作業もございますが、一つの公園を１年を通して総合的に管理していくためには、公園内の維持管理作業を一体的に行っていくことが重要であると考えておりますので、私どもといたしましてはこれまで同様の公園管理業務で行ってまいりたいと考えております。

以上、お答えいたします。（「議長、４番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　４番。大塚則男議員。

○４番（大塚則男君）　就労支援の一つにするのは難しいということのようです。市としても緊急雇用対策等もとってもらっておりますので、あとは事業所の方に何とかその緊急雇用のほうに申し出していただき、そういった場所のところに御本人が申し込むと、働く意欲をもっと前面に出して申し込んでいただくような方策でもとっていただけたらありがたいなと思います。なかなか生活保護受給者ふえる中で厳しい財政でもありますので、やはりみずから職を探してもらうのが一番だと思うんですが、なかなか今厳しい状況ですので、まずこの緊急雇用とかあった場合に積極的に参加をいただきたいというふうにとらえておきたいと思います。

それから済みません、松田経済部長。ろう人形にこだわるわけじゃないんですけど、このろう人形さん、今後明るいところに出していただくことは可能でしょうか。再度お願いいたします。

○経済部長（松田知良君）　お答えいたします。

先ほどのろう人形に関してでございますけれども、ろう人形が置いてありました焼酎館につきましては、地場産業であります球磨焼酎の展示や製造工程を、説明板やろう人形を用いて紹介し、球磨焼酎の魅力を市民を初め多くの観光客の皆様に発信してまいりました。しかし、見学された子供さんの中にはろう人形が怖いなどの声もあり、また人形の一部が破損していたりしており、ここ10年以上展示いたしておりません。球磨焼酎につきましての紹介や見学は、各蔵元さんでも取り組まれてきておりますので、焼酎館におきましては一定の役割を果たしたものと考え、ろう人形は現在収納庫に保管しております。現在、焼酎館の一部の空きスペースを利用しまして、写真で見る人吉の歴史展の写真パネルを展示しております。石野公園活性化ワーキング部会でも焼酎館をほかに有効活用できないかの検討も行っております。議員がおっしゃるとおり、今後は焼酎館の利用方法とともにイベント時などろう人形が活躍できる機会がないかを模索してまいりたいと存じます。

以上、お答えいたします。（「議長、４番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　４番。大塚則男議員。

○４番（大塚則男君）　ありがとうございました。けがされてたら治していただいて、怖いようでしたらお化粧してもらって、何とか展示のほうよろしくお願いいたします。

次に、ひとよし春風マラソン大会関連についてお尋ねします。今回も多くの皆さんに参加いただきましたが、マスコミ報道は熊本城マラソンがほとんどで、記念すべき10回大会でしたが残念な気持ちでした。今回も３団体のボランティアの方々などで赤飯、つぼん汁、ぜんざいなどを振る舞っていただき、大変喜んでいただいたようです。ただ、お世話いただく皆様の苦労がどれだけ大変なことか、前日からの準備、当日の作業など考えますとかなりの御負担をお願いしているのかなと思います。これからも毎年行っていく事業と考えますと、お世話いただく皆様の精神的、あるいは肉体的負担が心配になります。

そこでお尋ねしますが、確かにおもてなしは大切なことと思いますが、お世話いただく皆様の御負担を少しでも軽減できるメニューを検討されることも必要ではないかと思います。検討されるお考えはないかお尋ねします。

○教育部長（赤池和則君）　おはようございます。お答えします。

第10回ひとよし春風マラソンにおきましては、6,560人がエントリーされ、5,892人が完走をされたところでございます。おもてなしにつきましては、6,000食分のつぼん汁、赤飯、ぜんざいをひとよし女性の会、人吉市健康推進員会、人吉市商工会議所女性会を初め、人吉市食生活改善推進員など多くのボランティアの皆様によりまして、約１カ月前から食材調達や前日の仕込み、また大会当日の早朝から準備をしていただき、参加者の皆さんに大変喜んでいただいたところでございまして、心から感謝申し上げる次第でございます。本大会もおかげをもちまして年々参加者が増加しておりますが、同時にボランティアの皆様に大変御苦労をおかけしておりますことにつきましては、事務局といたしましても十分に認識しているところでございます。今後もさらに参加者が増加すると予想されますことから、ボランティアの皆様の負担軽減につきましては、実行委員会を初めボランティア関係者の皆様の御意見をお聞きしながら検討してまいりたいと存じます。

以上、お答えいたします。（「議長、４番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　４番。大塚則男議員。

○４番（大塚則男君）　今お答えいただきました。ボランティアの皆様に6,000食分を準備していただいたとのことですが、おもてなしの大切なことは十分理解しております。ただ、調理などに直接携わっていただいた皆様の御苦労を思いますと、感謝の気持ちと同時に御負担になってないかなという思いもあります。先ほど申しましたように、これから先も続けて行われるひとよし春風マラソン大会ですので、ぜひ春風マラソン大会の反省など実行委員会の席がありましたら、携わっていただく皆様の御苦労を酌んでいただき、無理なく先長く続けられるおもてなしのあり方を御検討いただきたいと思います。

次に、参加者の皆様が持参されるひとよし春風マラソン大会参加通知はがきが、現在は受け付け時にゼッケンと交換になっていると思いますが、このはがきの再利用として商店街でのお買い物券にしていただき、持参いただいた方には割引ができる金券として使用できないか。可能なら商店街にさらなる景気浮揚策になると考えますが、いかがかお尋ねします。

○教育部長（赤池和則君）　お答えします。

ひとよし春風マラソンへエントリーされた方には、ゼッケン交付のための引きかえ証はがきを大会前に郵送しているところでございます。この参加通知はがきを利用した商品の割引など地元商店街への経済波及策についての考えはということでございますが、このことにつきましてはやはり商店街の皆様がどのように考えられるのかということが一番大事であるというふうに存じます。今回は大会前日の開会式が行われました２月16日土曜日に、九日町通

り、紺屋町通り商店街で人吉ふれあい100円商店街が開催され、チャリティーサイン会では招待選手のワコール女子陸上部の福士加代子選手、箱山侑香選手と人吉市出身の永山忠幸監督が参加し、多くの来場者を集めるなど、周辺の商店を含め大変にぎわったところでございます。大会開催による地元経済への波及効果につきましては、このようなさまざまな取り組みとどのようにタイアップしていくかということが重要ではないかというふうに考えるところでございます。今後実行委員会を初め、地元商店街や関係団体の皆様の御意見もお聞きしてまいりたいと存じます。

以上、お答えします。（「議長、４番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　４番。大塚則男議員。

○４番（大塚則男君）　マラソン大会ですので走りにいらっしゃるのが主かと思いますが、ひとよし春風マラソンととらえた場合に、経済効果も考えたいというふうに私は思います。できましたら走り終えた後でも市内に来ていただくとか、あるいは前日にお越しいただいて人吉市内に泊ったり、あるいは温泉施設、あるいはいろいろなところを見ていただくと、そういった策をぜひ考えていただければマラソンと同時に経済対策にもなるのかなというふうに考えておりますので、御検討をよろしくお願いいたします。

次に、さまざまな事業を行う場合、いずれも同じですが、今回はひとよし春風マラソン大会で考えてみたいと思います。各事業所、あるいは企業に協賛広告をお願いするわけですが、今回もひとよし春風マラソン大会の目録を、これですけど、目録を見た場合地元の企業の方がほとんどで、経営が厳しくても地元だから、あるいは知人から頼まれてということで御協力いただいているのが現状だと思います。その反面、市民の皆様が日ごろかなりの割合で利用される人吉市に進出されている大手スーパーなどの協力はほとんど見ることがありません。ここ人吉において営業され市民の皆様の利用も多い中、積極的な地域貢献を地元企業と同様にお願いすべきと思いますが、どのようにお考えかお尋ねします。

○教育部長（赤池和則君）　お答えします。

ひとよし春風マラソンへの協賛については、市内外の90事業所から御協力をいただいているところでございまして、そのほとんどが市内の事業者でございます。御指摘のとおり、市外に本社を置く事業所につきましては協賛件数が少ないのは事実でございますが、かねてから協賛のお願いをしているところでございますので、今後も引き続き協力のお願いをしてまいりたいと存じます。

以上、お答えします。（「議長、４番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　４番。大塚則男議員。

○４番（大塚則男君）　ただいま答弁の中で、ほとんどが市内の事業所ということで、市外に本社を置く事業所にはお願いをしているということですが、私個人の思いでは協賛は厳しい結果になっているのではないかと思います。しかしながら、市民の皆様の市外に本社を置く

大手スーパーの利用頻度はかなり高く、売り上げに対しての貢献度は多大なものがあると思います。しかし、人吉市には法人税は入ってこないのが現状です。先ほど述べられた実行委員会には商工会議所様もメンバーですので、一緒になって大手スーパーに協賛等の、市民のためにも地域貢献として参加いただくように今一度働きかけをお願いしたいと思います。また、先ほどのはがきと同じような考えなんですが、ひとよし春風マラソン大会の中で景気浮揚策の一つとして、きじ馬スタンプ加盟店で使用できる期間限定の特典つき商品券などの活用は考えられないか、これもあわせて検討をしていただきたいと思います。

次に、企業誘致についてですが、市長は２月26日の所信で「本市の工場立地環境を全国に情報発信し、企業訪問と誘致活動を展開し、これまで以上に人吉球磨、県南地域一体となった企業誘致を推進する」と述べておられます。このことはこれまでも行っていただいていると思いますが、なかなか厳しい現在、結果が出ていない状況にあると思います。そのような中、２月23日の市長の新春の集いの席、これは新聞紙上ですが、「企業誘致は厳しい。地域との特色ある企業を育て拡大していく戦略に切りかえている」と述べておられます。所信の内容と受けとめ方に違いを感じますので、どのように結びつけたらいいのかお尋ねします。

○市長（田中信孝君）　お答えをいたします。

マニフェストに掲げさせていただいておりますように、企業誘致は本市経済浮揚策の３本柱の一つでございます。企業を誘致することで新たな雇用の場を確保し、若者を定住させ県外流出に歯どめをかけるという重要な課題となっているところでございます。施政方針では、この企業誘致の推進と地場産業及び市内誘致企業のフォローアップにつきまして述べさせていただきました。この二つを両輪として本市の景気浮揚につなげてまいりたいと存じております。新春の集いの席では、発言の機会がなかなか少なかったこともございますが、地元企業の特性を大切にして支援していくことを申し上げたところでございますが、あわせまして企業誘致活動についてもこれまでどおり推進していかなければならないと認識をいたしているところでございます。現在の社会情勢を見ますと、全国的に企業誘致についてはどこの地域自治体においても大変厳しい状況に置かれているのは御承知のとおりでございますが、この企業誘致という一つのとらまえ方も、企業誘致に携わって歩く中でさまざまなことをやはり学ばさせていただくわけであります。単なる会社訪問をいたしまして、ぜひ人吉市にこれだけの用地を確保いたしておりますので、という投げかけをしてきたところでもございますし、人吉市の特徴というものも提案の中に入れさせていただいているわけでございますが、今後は企業誘致におきましては、やはり人吉市の特性を絡めた提案型の企業誘致でなければならないというふうに考えているところでございます。非常に厳しい全国の自治体との競争にさらされているわけでありますから、どの自治体も考えつかないようなアイデア、そういうものに知恵を絞りながらやはり提案をさせていただくということ。他の自治体が気づかない切り口を求めていくということも大切なことではなかろうかと学んでいるところでござい

ます。また、諸外国の情勢によりまして、企業の目が国内への回帰場所としてアジアに近い九州、沖縄地域が現在注目をされておりまして、新聞報道によりますと、中国から国内に回帰する場合、一部の事業を九州、沖縄に移す企業がふえつつございまして、これらの新規投資や企業立地が昨年１年間で９件、この九州、沖縄地方であったところであります。本市におきましても企業誘致の受け皿づくりのために現在中核工業用地の造成事業を進めているところでございます。職員一丸となって企業誘致を推進するということも決めておりまして、球磨焼酎を初めとする地場産業及び市内誘致企業、地元で頑張っていただいている特徴ある企業に焦点を当てまして、定期訪問、各種研修会、研究会、勉強会などによるフォローアップに努め、人吉市のみならず人吉球磨一体となった地域の産業振興、経済浮揚を努めてまいりたいというふうに思っているところでございます。それから、昨年11月４日から１週間、シリコンバレーに訪問をさせていただきました折、考えたことでございますが、企業というものを対象という中で、今後は研究者、人を対象、または研究機関、そういうオーガナイズされたものにも視点を当てていかなければならないというふうに考えているところでございます。特に、研究者または研究機関というものは大きなアイテムではなかろうかというふうに感じているところでございます。

以上、お答えいたします。（「議長、４番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　４番。大塚則男議員。

○４番（大塚則男君）　ただいま市長から、地元企業もわかる、しかし幅広く企業誘致は進めていきたいと、その中には専門機関を取り入れることも大事ではないかというようなことを伺いました。私も地元のいろんな方にどう思われるかちょっと聞いているんですが、やはり大半の方が企業誘致は必要だと。大変厳しいのはわかるけど、何とか企業誘致はやってほしいという声が多いです。また中には、やはり企業誘致でも大黒柱となる男性が働ける企業誘致、これを何とかできないかとか、中には今人吉にある企業をしっかり守ってほしいと。大規模だけじゃなくて中小企業を人吉に持ってくるのもいいんではなかろうかとか、いろんなお声を聞いているところです。ぜひ頑張っていただきたいというふうに思います。

企業誘致については、大手企業、大手スーパーなどこれは雇用の場の確保として、特に大手スーパーなどは、消費者にとっていろいろと購入時の選択肢ができますのでありがたい面もあります。しかし、大手企業と同様、景気の動向で採算がとれなくなった場合、勤労者、市町村関係なく閉鎖、撤退などが行われてしまいます。しかしながら、地元の企業、地元商店はたとえ経営が厳しくても必死で営業に努めていかれます。地元としての愛着と、営業させていただいた責任と、何よりも人と人とのつながりを大切に考えておられるからだと思います。地域の産業の振興につながる起業家においても、事業戦略を研究実践していきたいと市長も述べておられます。だからこそ、企業誘致が厳しい状況にある中、既存の地元企業、あるいは新たに立ち上げる起業家に対しての後押し、いわゆる支援対策を図ることが必要だ

と思います。法人税の収入も厳しい状況にある中、今こそ貢献度の高い地元企業を育て、拡大する必要があると考えますが、どのようにお考えかお尋ねします。

○市長（田中信孝君）　お答えいたします。

まず、その大手スーパーというお話でございますけれども、なぜその中心市街地が崩壊してきたのかというその原因は一体どこにあるのかということはお考えになったことがおありになるだろうとは思います。郊外型の食品スーパー等々が進出してきた結果、モータリゼーションの時代の波もございまして、中心商店街には駐車場がない、そして買い物に不便であると。大手スーパーというものは一つの中で傘も差さずに歩くことができると。そういう環境の中で徐々に中心市街地は衰退してきたというふうに思っております。

大手スーパーの企業誘致というものは、今後人吉の中心市街地にとっていかがなものかというふうに私は考えているところでございます。企業誘致というものは先ほど申し上げましたとおり、歩いてみる中で徐々に見えてくるわけでありますが、地元とのマッチング、地元との特性のマッチング、これをしっかり図っていかなければ繊維しかり、この人吉球磨にも数十年前には繊維工場もたくさん立地していたわけでありますけれども、これがアジアへの拠点移転ということでこれも閉鎖になっていったところであります。そういうところからも学んでいけば、やはりいかに地域の特性、これと企業とのマッチングを図ることができるのか、または研究機関、研究者とのマッチングを図ることができるのかということにしっかりと主眼を置いていかなければ、おっしゃるとおり撤退、閉鎖ということにつながっていくのではなかろうかというふうに思っているところでございます。

大黒柱としての方々が働くことができるような環境、当然のことでございまして、そのような中である意味しっかりとした歩を進めていかなければならないというふうにも考えて今、行動をしているところであります。がしかし、なかなか他の自治体も考えつかないような切り口というのは何ぞである、または地域の特性というものは一体何ぞやということに関しましても非常にこれも知恵を、またはさまざまな方々の御意見も専門家の意見もお伺いをしながら進めていかなければなりませんし、中央では今この日本はどのように今後動いていこうとしているのか、その情報の把握というのも非常にこれもまた重要な観点であるというふうに思っているところでございます。日本全国、その地域が食べていける町にするという非常に厳しい環境の中で、何でそのそれぞれの地域が食べていくことができるのかという、そういうことに血道を上げているわけであります。まさにその情報を、いかにいち早く他自治体よりも確保し、そして波に乗っていけるかどうかという非常に厳しい環境にさらされているということでございます。

地元企業の皆様の継続的な事業展開や品質維持、新商品開発などの経営努力と、地元を愛するさまざまな業種の事業者の方々に支えられているというのも今日の大変ありがたい状況でもあります。既存誘致企業含め、地場産業を大切に育て拡大するというのも一つのアイテ

ムでございます。それらにいかに行政が支援を行うことができるかと常々考えているところでございますが、既に取り組んでおりますこととといたしまして、国、県と連携しながら情報収集及び啓発に努め、補助金や支援策などの研修、講演会を開催したり、企業訪問で状況をお伺いするなど、事業者の皆様と情報を共有しながら対応させていただいているところでございます。また、国の外郭団体である日本貿易振興機構（ジェトロ）の職員を招聘するなど、海外進出の足がかりとなるよう地元企業に指導するセミナーの開催や、人吉球磨企業誘致連絡協議会では地元産業について特色のある産品を紹介するため、商社や百貨店などの商談を目的とするバイヤー招聘事業にも取り組んでいるところでございます。サンフランシスコに参りました折も、サンフランシスコ・ジェトロ、ここでやはり２時間にわたってレクチャーを受けたり意見を交換させていただいております。人吉市の生産物で一体何が輸出することができるのかということの御提案、または御意見でございます。例えば先ほど上海のお話が出ましたけれども、単なるその展示ブースを各外国の都市に一時的に設けて販売をしても、それは販売につながらない。ではどうしたら販売につながっていくのかということも徹底して、その製品を製造しておられる企業とも話をしていかなければならない。なぜ薩摩の焼酎が売れているのかというその原因、その要因をしっかりとはかって、そしてそれをいいところをまねをさせていただく。そのためには、やはりどのような努力が必要なのかということをしっかりと我々も勉強をしなければならないというふうに思っているところでございます。

企業誘致の推進と地場産業及び既存誘致企業の育成拡大は、本市浮揚の重要な命題でございます。これまでどおり企業誘致も進めながら、既存誘致企業、地場産業への後押しや支援策にさらに積極的に取り組み、景気浮揚につなげてまいりたいと考えているところでございます。

以上、お答えいたします。（「議長、４番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　４番。大塚則男議員。

○４番（大塚則男君）　今、市長からさらなる努力をやっていきたいということで、本当にありがたいと思います。以前市長がおっしゃったように、人口減少だけ考えたら１年間400人減っていくということを言われてます。90年でなくなるわけですね、人吉は。減ることだけ考えたらですね。そういったことじゃなくてやはり先ほど言いましたように、今私よりもちょっと若い方というのは、何とか働く場所が欲しいというのは本当にもう切実な願いなんです。そういったことで、今市長おっしゃったように、いろんな対策を考えていただいておりますので、どうかそれを実現いただきますようによろしくお願いいたしたいと思います。

今回、私もいろんなことをお願いとか提案させていただきましたけど、この中で幾つかでも市民のためになることがありましたら、ぜひ実現に向けて頑張ってほしいと思います。

これで、一般質問を終わります。

○議長（永山芳宏君）　ここで暫時休憩いたします。

午前11時26分　休憩

―――――――――――――

午前11時40分　開議

○議長（永山芳宏君）　休憩前に引き続き再開いたします。（「議長、６番」と呼ぶ者あり）

６番。犬童利夫議員。

○６番（犬童利夫君）（登壇）　皆さん、こんにちは。６番議員の犬童利夫でございます。まずもって、３月末日をもって退職されます職員の皆様に感謝とお礼を申し上げます。これまでの長い間市政発展のため御尽力をいただきまして、まことにありがとうございました。そして、大変お世話になりました。これからも健康に十分注意され、お元気でお過ごしいただき、そして今後とも御指導方よろしくお願い申し上げます。

それでは、通告に従いまして質問いたしてまいりたいと思います。今回は２項目について通告しております。１項目めが、福祉施設についてでございます。認知症対応型グループホームの現状及び防災設備と防火管理体制などについてでございます。２項目めが、市が管理する橋梁についてでございます。橋梁の経過年数とその維持管理の取り組み及び今後の取り組みについてなどでございます。

まず、１項目めでございますが、２月８日に発生いたしました長崎市の認知症グループホームの火災で４名の方々が犠牲になられ、大きな社会問題となっております。一昨日の新聞によりますと、入院の１名の方も亡くなられたと報道があっておりました。犠牲になられました方々の御冥福を心よりお祈り申し上げたいと思っております。この施設は昭和40年に建設され、平成15年から福祉施設として用途が変更され、使用されていたとのことでございます。４名の方の死因はいずれも煙を吸い込んだことによる一酸化炭素中毒であると県警は発表されました。そこで、本市における主に入所を伴う介護保険施設等の種別ごとの入所定員と、認知症対応型共同生活介護施設の入所定員とその施設の従業員数について現状をお尋ねいたします。

○健康福祉部長（松岡誠也君）　皆さん、こんにちは。それではお答えいたします。

まず、市内にございます主に入所を伴う介護保険施設等の種別ごとの入所定員についてお答えいたします。いわゆる特別養護老人ホームであります介護老人福祉施設の入所定員が二つの事業所で157人でございまして、介護老人保健施設が３事業所で194人、介護療養型医療施設が６カ所で195人の定員となっております。その他の施設としましては、養護老人ホームが２事業所で100人、軽費老人ホームが１事業所で50人、有料老人ホームが３事業で58人の定員となっておりまして、総数で754人が介護保険施設等の入所定員となっております。

次に、グループホームの状況でございますが、グループホームは市内に全部で８事業所でございまして、定員は81人でございます。また、そこの従業者数は全事業所で77人となっております。

以上、お答えします。（「議長、６番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　６番。犬童利夫議員。

○６番（犬童利夫君）　介護保険施設等の入所定員は754名で、グループホーム８事業所で定員は81名ということでございました。今回火災が発生しました長崎市のグループホームは、防火戸の不備が建築基準法違反に当たるとして行政指導があったにもかかわらず、施設側が放置し改善をしていなかったもので、またスプリンクラー設備の設置についても延べ面積が275平方メートル未満ということで、法的には義務はないが設置指導がなされていたことが報道されていました。スプリンクラー設備の設置につきましては、平成18年１月、これも同じく長崎県大村市のグループホーム火災で７名の方が亡くなられた火災をきっかけに、平成21年４月消防法施行令が改正されて、義務設置が従来の延べ床面積1,000平方メートル以上から275平方メートル以上に拡大され、スプリンクラー設備の設置義務が拡大されたとのことでございます。総務省では今回の火災を受け、福祉施設のスプリンクラー設備設置基準の強化を検討することが報道なされておりました。また、長崎市長は、すべての福祉施設にスプリンクラー設備が設置されるよう設置基準を強化することなど、厚生労働省に要望したということが報道なされておりました。熊本県でもこの火災を受けて独自に調査し、県内の認知症高齢者グループホーム214施設のうち15施設でスプリンクラー設備が設置されていないということで、県高齢者支援課の調査結果が報道されていました。いずれの15施設とも消防法による設置義務はないが、厚生労働省は設置するよう指導しているとのことでありました。

そこで、本市の認知症対応型グループホームの防災設備の設置状況についてお尋ねいたします。市内のグループホームのうち３階建て以上の施設数と建築基準法に基づく防火戸の設置状況及び各グループホームのスプリンクラー設備などの消防用設備等の設置状況と、カーテンなどの防炎物品の使用状況についてお尋ねいたします。

○健康福祉部長（松岡誠也君）　お答えいたします。

まず、３階建て以上の事業所数ですけれども、二つの事業所でございまして、いずれも建築基準法で定められた防火戸は設置されております。各グループホームにおける消防用設備の設置状況につきましては、消火器、自動火災報知設備、消防機関に通報する火災通報装置及び誘導灯は、消防法の定めるところにより設置が義務づけられておりますので、すべての事業所において設置されております。また、カーテン、カーペットなどの防炎物品についても、すべての事業所で使用されております。スプリンクラーの設置につきましては、消防法で275平方メートル以上の事業所に設置義務がございますが、275平方メートルに満たない事業所も含め、すべてのグループホームにスプリンクラーは設置されているということでございます。

以上、お答えいたします。（「議長、６番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　６番。犬童利夫議員。

○６番（犬童利夫君）　本市の施設には、消火器やスプリンクラー設備、誘導灯、自動火災報知設備、それから消防機関へ通報する火災通報装置などの設備の設置については、全施設に設置されているとのことであります。また、３階以上の施設には建築基準法に基づく防火戸も設置されているとのことでございます。さらには、スプリンクラー設備の設置義務のない延べ床面積が275平方メートル未満の施設にも任意で設置されているとのことであり、また、カーテンなども防炎性能を有するものを使用されているとのことでございます。ハード面の対策は整備がなされているとのことでありました。

次に、ソフト面でございますけれども、防火管理体制についてお尋ねいたします。グループホームについては、収容人員が10人以上の施設には防火管理の資格を持った人が防火管理者として選任され、防火管理業務に当たるように定められているとのことであります。その防火管理者は選任されているのか、また、消防計画が作成され、それに基づく消防訓練は定期的に実施されているのかお尋ねいたします。また、認知症高齢者グループホーム等に係る防火対策のさらなる徹底を図るため、類似施設を含め消防本部が立入検査を実施することが報道されておりました。その立入検査の結果、設備等の維持管理面で重大な違反事項はなかったのかお尋ねいたします。

○健康福祉部長（松岡誠也君）　お答えいたします。

消防法第８条では、「防火管理者を定め、当該防火対象物について消防計画の作成、当該消防計画に基づく消火、通報及び避難の訓練の実施、消防の用に供する設備、消防用水又は消火活動上必要な施設の点検及び整備、火気の使用又は取扱いに関する監督、避難又は防火上必要な構造及び設備の維持管理並びに収容人員の管理その他防火管理上必要な業務を行なわせなければならない」というふうに規定されているところでございます。各グループホームの状況を人吉下球磨消防組合中央消防署に確認いたしましたが、すべての事業所で防火管理者の選任、消防計画の作成及び消防計画に基づく消火、通報及び避難の訓練の実施など、防火管理上必要な業務は適正に行われているということでございました。

また、長崎市のグループホーム火災を受けまして緊急的に行われました人吉下球磨消防組合による立入検査の結果でございますが、すべての事業所で重大な問題となるような点はなかったということでございます。

以上、お答えいたします。（「議長、６番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　６番。犬童利夫議員。

○６番（犬童利夫君）　ありがとうございました。全施設とも防火管理者が選任され、消防計画も作成されており、計画に基づく消火、通報及び避難訓練の実施など、防火管理上必要な業務は適正に行われており、防火管理体制の整備も図られておるとのことであります。また、消防組合による立入検査の結果につきましても、すべての施設で問題はなかったとのことでございます。

次に、今後のグループホームの整備計画と指導方針についてお尋ねいたします。認知症高齢者グループホームは、厚生労働省によると2000年には645施設だったのが2011年には１万1,125施設に急増し、利用者も16万人を超えていることが報道されておりました。本市は高齢化率も高くなっており、今後も認知症の方も多くなるのではなかろうかと思っているところでございますが、認知症高齢者数と今後の推移についてお尋ねいたします。また、グループホームのこれからの整備計画と、今後行政としてどのように指導されるのかお尋ねいたします。

○健康福祉部長（松岡誠也君）　お答えいたします。

まず、認知症高齢者の数についてでございますが、要介護等認定データによりますと約1,500人の方が認知症とされ、その数は現在も増加していると考えているところでございます。平成26年度までの第５期介護保険事業計画におきまして、新たなグループホームを含めた施設の整備は行わないということにしております。しかしながら、ひとり暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯、さらにはさきに述べましたように認知症の方も増加しておりますので、グループホーム等の整備については平成27年度からとなります第６期以降の介護保険事業計画における重要な検討課題の一つであると認識しているところでございます。

また、グループホームに対しまして行政としてどのように指導していくのかということでございますが、グループホームも含めまして地域密着型サービスにつきましてはおおむね３年に１回実地指導を行っておりまして、そこで消防用設備の法的点検や消防訓練の実施状況を確認しております。グループホームの一部の事業所におかれましては、消防訓練を消防署職員、従業員及び入所者のみの訓練にとどまらず、地元消防団や地域住民も参加していただいて実施しているところもございます。すべての事業所が日ごろから防火教育、消防訓練を関係機関、地元住民と実施できるよう各事業所の運営推進会議などで助言を行っていきたいと考えております。

福祉施設の防火対策につきましては、介護保険法、消防法、建築基準法やそれに関連する施行令、政令、条例など多岐にわたっており、福祉行政だけでできるものではございません。消防、建設などそれぞれの関係分野が連携をとり、地域住民の皆様の御協力をいただきながら各事業所に効果的な指導・助言を行ってまいりたいと考えております。

以上、お答えいたします。（「議長、６番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　６番。犬童利夫議員。

○６番（犬童利夫君）　高齢者の推移を見ても増加傾向にあり、それに伴って認知症の方も増加する傾向にあるとのことでございます。グループホーム等の整備につきましては、平成27年度からの第６期以降の介護保険事業計画おける重要な検討課題の一つであると認識されているとのことでございます。地域密着型サービスにつきましては、おおむね３年に１回実地指導を行っておられ、そこで消防用設備の法的点検や消防訓練の実施状況を確認されている

とのことであります。消防訓練につきましては、一部のグループホームでは地元消防団や地域住民も参加していただき実施されているとのことでありますが、すべてのグループホームで実施されるよう助言を行い、関係分野と連携をとり、効果的な指導を行っていきたいということでございました。グループホームは地域密着型介護サービスで、避難訓練等に地域住民の参加が得られるよう努力義務もあるようでございます。消防訓練が行われるときは、地元消防団や地域住民の方々に訓練に参加していただけるよう助言を行っていくということでございましたので、御指導をいただきますようよろしくお願いしたいと思います。

有事の場合は、地元の消防団の方が現場で救助や消火活動をいち早く行うことができます。大変有用なことではなかろうかと思っているところでございます。また、その訓練が定期的なものになれば、職員の方々の防火に対する意識がますます高まると同時に、日ごろから防火に対する緊張感も出てくるのではなかろうかと思っております。そして何よりも、地域住民の方々に触れ合っていただくことにより、入所されている方々も家庭的な生活の場となり、地域とのつながりも生まれてくるのではなかろうかと思っているところでございます。ぜひ各方面の方々と検討していただき、実践されるよう要望いたします。

今回の火災の原因につきましては、発火などのおそれがあるとしてリコール対象となった加湿器の可能性が高いということで報道もあったところでございますが、このような場合、周知方法等につきましても今後いろいろ議論されると思いますが、本市といたしましても引き続き関係機関と連絡を密にされ情報を共有されて、指導していただくようお願いいたしまして、福祉施設についての質問を終わります。

続きまして、市が管理する橋梁についてお尋ねいたします。

住民の安全な通行を確保するには、橋の安全点検を実施し予防的に修繕を行うことが必要であることは言うまでもございませんが、橋梁の寿命を延ばし、大規模な修繕やかけかえの費用を減らし、効果的な執行が行えるよう本市でも橋梁の長寿命化修繕計画が作成されております。現在本市が管理する橋梁について、構造ごとの耐用年数と建設後の経過年数、10年単位ごとの橋梁数をお尋ねいたします。

○建設部長（中村明公君）　お答えいたします。

市で管理を行っております橋梁は、平成24年度時点で291橋ございます。橋梁の耐用年数につきましては、コンクリート橋で60年、鋼橋 ―― これは鉄でできた橋でございますが、これが45年とされておりますが、平成８年度以降に建設されましたコンクリート橋の耐用年数は100年となっております。また、市内の橋梁につきましては、平成22年度に長寿命化修繕計画を策定しておりますが、その時点で建設後10年経過した橋梁が７橋、20年経過した橋梁が11橋、30年経過した橋梁が19橋、40年経過した橋梁が36橋、50年経過した橋梁が24橋、60年以上経過した橋梁が５橋となっており、その他の橋梁につきましては建設年度が不明となっておるところでございます。

以上、お答えいたします。（「議長、６番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　６番。犬童利夫議員。

○６番（犬童利夫君）　市が管理される２メートル以上の橋梁が291橋ということでございます。そのうち耐用年数60年を経過している橋梁が５カ所あるというようなことであります。また、半数以上が建設年度が不明となっているとのことであります。平成22年度に長寿命化修繕計画が作成されておりますが、維持管理面からのこれまでの取り組みとその結果についてお尋ねいたします。

○建設部長（中村明公君）　お答えいたします。

橋梁の維持管理についてでございますが、平成21年度において人吉市が管理する橋梁を診断するための人吉市橋梁点検マニュアルを作成いたしております。この人吉市橋梁点検マニュアルに基づきまして、平成21年度から平成22年度にかけて人吉市が管理する橋梁291橋すべての橋梁点検を実施しております。この点検により小俣橋ではアルカリ骨材反応による主けたのひび割れの発生、鶴田橋では経年劣化によるコンクリートの剥離、水ノ手橋では鋼製の支承の腐食という状況が判明しております。これらの点検結果をもとに、平成22年度に人吉市橋梁長寿命化修繕計画を策定しておりますので、その結果に基づき点検及び修繕を行っていく予定でございます。

以上、お答えいたします。（「議長、６番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　６番。犬童利夫議員。

○６番（犬童利夫君）　平成21年度から22年度にかけて市が管理する橋梁291橋すべての橋梁点検を実施されているとのことでございます。この点検結果により、現在工事中の小俣橋はアルカリ骨材反応による主けたのひび割れが確認され、鶴田橋では経年劣化によるコンクリートの剥離、水ノ手橋は鋼製の支承の腐食という状況が判明しているとのことでございます。この点検結果を踏まえ、今後の取り組みについてお尋ねいたします。

○建設部長（中村明公君）　お答えいたします。

今後の取り組みについてでございますが、人吉市橋梁長寿命化修繕計画に基づき、平成24年度予算で28橋の詳細な点検及び修繕を行うこととしております。平成25年度には５橋の詳細な点検及び修繕、それから平成26年度には72橋の点検及び修繕を予定しており、その後も計画に基づいて点検及び修繕を行ってまいりたいと考えております。また、橋梁の点検についてでございますが、人吉市橋梁長寿命化修繕計画に基づく点検につきましては、橋梁点検の専門業者に委託して行いますが、日常的に行っております道路パトロールの際にも職員による点検を行っておりまして、橋梁の劣化や損傷の早期かつ継続的な把握に努めております。また、人吉市橋梁長寿命化修繕計画自体につきましても、今後予想される新工法の開発や技術基準の改定等に対応するため、適宜計画の見直しを行っていく予定でございます。

以上、お答えいたします。（「議長、６番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　６番。犬童利夫議員。

○６番（犬童利夫君）　今後の取り組みとして、平成24年度予算で28橋の詳細な点検及び修繕を行い、平成25年度には５橋、平成26年度には72橋の点検及び修繕を計画されているとのことであります。橋梁の長寿命化修繕計画に基づく点検につきましては、橋梁点検の専門業者に委託して行い、日常的な道路パトロールの際にも職員による点検を実施しているとのことでございました。その橋梁の維持、修繕を担当する技術職員数とその教育研修などについて現状をお尋ねいたします。

○建設部長（中村明公君）　お答えいたします。

現在、橋梁の維持、修繕を行っております道路河川課には７名の技術職員がおり、そのうち橋梁の維持、修繕を担当している「技術職員は１名」でございます。これらの技術職員については、毎年熊本県建設技術センターにおいて開催される橋梁の補修、補強、アスファルト舗装、道路改良等の専門的な研修や、そのほかにも開催されるさまざまな研修に予算の範囲内ではございますが参加して、日ごろの業務に生かすべく各自の能力向上に努めているところでございます。

以上、お答えいたします。

失礼しました。訂正をいたします。先ほど技術職員は１名というふうに申し上げましたが、「技術専門員が１名、技術職員が１名の計２名」ということでございます。（「議長、６番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　６番。犬童利夫議員。

○６番（犬童利夫君）　ありがとうございました。長寿命化修繕計画の策定や点検を実施していない市町村では、理由として財政的な問題もあるかと思いますが、橋梁管理の土木技術者の人材不足が考えられるということでありましたので、職員数についてもお尋ねしたところでございます。財政的に厳しいのは理解しておりますが、一人でも多くの職員の方が教育、研修などに大いに参加して特殊専門技術を学んでいただきたいと思っております。

社会資本の維持は地域社会の存続やまちづくりと一体であり、社会のあり方そのものであると思っているところでございます。旧国鉄には、昭和37年まで橋守という制度があったそうでございます。親子何代にわたって橋の近くに住み、橋を守っていた人たちがおられたとのことであります。その橋のことをよく知り、どうして守っていったらよいかをよく知っておられたとのことで、知恵や技術が受け継がれてこられたのだと思ったところでもございます。比較的小規模な橋梁につきましては、地域とのかかわりが非常に強く、また地域の人々が橋のことをよく知っておられ、また文化も感じておられるのではなかろうかと思っております。地域住民の方々に常日ごろから意識して橋を見ていただき、異変などがあったら市の担当者に連絡をしていただき補修や修繕をするなど、地道ではありますが、確実に長寿命化につながり、そして橋梁保全に対する市民の意識の高揚も図られるのではなかろうかと思っ

ております。地域住民の力をかりる、橋守を募集し教育を受けられた技術職員が講習と指導を行いながら、地域の橋を守るというような企画はできないか検討されるよう要望したいと思います。そして、次世代のかけ橋となるよう願いまして、私の一般質問を終わらせていただきます。

ありがとうございました。

○議長（永山芳宏君）　ここで暫時休憩いたします。

午後０時17分　休憩

―――――――――――――

午後１時20分　開議

○議長（永山芳宏君）　休憩前に引き続き再開いたします。（「議長、14番」と呼ぶ者あり）

14番。田中哲議員。

○14番（田中　哲君）（登壇）　皆さん、こんにちは。14番議員の田中哲でございます。まずもって、今期で退職されます久本一富市長公室長、赤池和則教育部長初め、職員の皆さん方には本当に長い間大変御苦労さまでございました。今後健康の留意されますとともに、市政の発展に寄与いただきますようにお願いを申し上げます。本当に御苦労さまでございました。

早いもので、あと５日で２回目の３月11日、あの東日本大震災の日がめぐってまいります。遅々として進まぬ復旧・復興にいら立ちを覚える被災者の方もおられると思いますが、私たちも遠い地域から及ばずながら応援いたしますので、どうぞあきらめることなく頑張っていただきたいと思っています。また、東京電力の福島第一原発の放射能汚染により帰還がおくれている自治体、もしくは長期に帰還が不能になった自治体の皆さんの心情を察するに余りあるものがございます。政府におかれましては、どうぞ特段の手厚い援助をお願いを申し上げたいとこのように思っております。

今回は中心市街地の活性化の１点に絞っての質問を通告しております。では、一般質問通告書の要旨によって質問してまいりたいと思いますが、質問要旨の丸印の７と８を質問の流れから入れかえますので、どうぞ御了承いただきたいと思います。

昨年暮れの16日に行われました衆議院選挙におきまして、自民党政権が復権し、安倍第２次内閣が誕生いたしました。安倍内閣の最大の目標は、経済のデフレ脱却とされております。そのデフレ脱却の方法といたしまして、日銀による大胆なこの金融緩和、それに財政出動による景気刺激、民間投資を促す成長戦略を加えた３本の矢で構成され、安倍政権の経済政策「アベノミクス」と呼ばれております。その安倍内閣発足早々、期待感からか円安、株高が続いて景気回復の兆候もございます。長らく続いております日本の景気低迷、低迷ばかりか物価下落と収入下落で、デフレのスパイラルから一日でも早く脱却し、景気の回復が望まれるところでございます。特に、少子高齢化などに代表される構造的な問題を抱えております地方は、中央以上に景気の低迷は深刻であろうとこのように思っているところでもござ

います。人吉市におきましても、日本のこの長引く景気低迷の中で近年にない強い期待感を人吉市民に持たせたのが、企業の誘致話でございました。しかし、この企業の誘致話も行政サイドの説明によりますと、景気低迷で困難になったということでございます。その企業誘致の受け皿となるべく中核工業用地の造成のほうも、計画を縮小する案が２月19日の全員協議会で説明されております。このことによって、ますます人吉市に閉塞感が広がっていると感じるのは私ばかりではなく、市民の皆さんの率直な感情だろうとこのように思っております。こういう人吉市も含め地方の閉塞感を、今回のアベノミクスで何としても景気が回復できるように、またその効果が一刻でも早く地方に波及するように強く安倍内閣に期待したいと思っております。それと同時に地方も中央に呼応して、独自の方向性を持って景気の回復に寄与する努力をしていかなければならないと思っているところでございます。

１点目に中心市街地活性化についてでございますが、景気に一番敏感にならざるを得ない中心市街地の商店主の皆さん方も、今回の安倍内閣のアベノミクスに大いに期待されているのではないでしょうか。私は平成21年度にもこの中心市街地の活性化ということで一般質問をしております。当時と比べても人吉市全体の消費者のパイが縮小されていく中で、先ほど田中市長も大塚議員の答弁の中で、消費者の動向はどうしても市街地の小さな店舗から一度に何でもそろうこの便利で大きな郊外店に向かいがちであると。なかなか消費者が戻ってこない。そういう中で小さい店舗は店を閉めざるを得ない状況になっているのが、人吉を含め大方の地方の現状であろうと思います。しかしながら一方、新聞報道等によりますと、急激なこの少子高齢化と景気低迷の中で、採算ベースに合わなくなった郊外の大きな店舗が引き上げるところも出てきているという報道がございます。その結果、買い物が非常に不便になったところが出てきているというようなところもあるそうでございます。またそれと反して、高齢者にも近くて便利といった市街地の既存の商店や店舗が見直されているようになってきていると、そういう状況もあるようでございます。

そこで、まず中心市街地活性化に向けて、25年度予算がどのような方向性で、何を重点的に予算編成されているのか。それに、昨年までの予算編成と違った点があれば、そのことをお尋ねいたします。

○経済部長（松田知良君）　お答えいたします。

新年度の予算の特徴という趣旨であるかと存じますが、中心市街地活性化に向けての平成25年度予算につきましては、商店街活性化補助金の見直しによる新たな支援策に取り組んでまいります。その概要でございますが、四つの柱を掲げておりまして、１点目といたしまして、中心市街地を舞台としたイベントへの助成を１回30万円を限度として、定着することを目的に最長５年間支援するというものでございます。イベントの継続性を確保し、中心市街地のＰＲや集客のツールとして御活用いただければと考えております。

次に２点目といたしまして、借料、いわゆる店舗家賃の補助でございます。これまでは最

高５万円の３年間という内容でございましたが、さらに最高２万5,000円の２年間を延長いたしまして５年間といたしました。出店された事業者の方の経営基盤が固まるまで、財政支援とあわせ経営指導もできるような体制づくりを盛り込んでおります。

３点目でございますが、現在策定中でございますグランドデザインと協調したファサード整備への助成でございます。既存店舗の外壁など面的な整備への助成でございまして、デザインが統一されることで城下町の風情を醸し出すことができるのではないかと存じているところでございます。

最後に、簡易な改装助成でございまして、空き店舗を休憩所等にするための助成や、既存店舗の一部を休憩所に改装する費用の一部助成でございます。周遊される来訪者のために休憩場所が確保できればと考えております。

以上、４点の中心市街地活性化策を新たに組み込んだ事業に基づき、新年度予算を計上いたしているところでございます。

以上、お答えいたします。（「議長、14番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　14番。田中哲議員。

○14番（田中　哲君）　部長、ただいまファサード整備への助成と説明がございましたが、具体的にはどういうものなんですか、お尋ねします。

○経済部長（松田知良君）　お答えいたします。

一般的にファサードとは建物正面の外観でございますが、側面も含めた修景上の外観も総称して言う場合もあるようでございます。今回のファサード整備につきましては、現在水戸岡鋭治氏に依頼しておりますグランドデザインの実効性を高め、城下町の風情の装飾が目的でございます。具体的には、商店街通りの外壁の色調、のれんや日よけ、店名看板等も含めまして町並みの一体感、連続性など外観のデザイン統一によりまして、町歩きの楽しみ、町の魅力、周遊につながるよう主体となる商店街等に助成するものでございます。補助対象経費の３分の２以内で、限度額10万円を予定いたしております。

以上、お答えいたします。（「議長、14番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　14番。田中哲議員。

○14番（田中　哲君）　２点目でございますが、中心市街地の活性化の一環として、町全体を100円ショップに見立てた第３回人吉ふれあい100円商店街が２月16日に開催され、晴天にも恵まれ、新聞報道等によりますと同実行委員会の事務局さんの談話として、「出足が好調だった。イベントとして定着しつつあるのでは」という報道がございました。私も100円商店街に出かけてまいったところでございます。今までにないようなそれぞれ商店主さんの知恵を絞った出店という印象を持ったところでございました。この人吉ふれあい100円商店街、まだまだＰＲが不足しているんではなかろうかなと、市民の皆さんに浸透しているとは言いがたいと、このように思っております。過去の２回も好評だったということでございますの

で、次の開催も決定しているということでございます。この人吉ふれあい100円商店街を主催者の方が言われるように、商店主と消費者の交流を深め、さらに中心市街地活性化につなげるために、今後どのような方向性を持って展開されようとしておられるのかお尋ねいたします。また、このような100円商店街を行っておられる商店街がよそにもあると聞いております。それらの商店街でどのように中心市街地の活性化につながっているのかどうか。それにこの100円商店街を行政サイドではどのようなバックアップを行っていこうとしておられるのかをお尋ねいたします。

○経済部長（松田知良君）　お答えいたします。

この100円商店街は、山形県新庄市の齋藤一成氏が発案され、現在全国で100を超える市町村で導入されております。本市ではきじ馬スタンプ協同組合を事務局とする実行委員会で３回開催され、いずれも多くの来訪者でにぎわいを見せました。この100円商店街を開催するに当たり、齋藤氏をお招きし、数回に及ぶ学習会が開催されております。このイベントを成功させる幾つかのポイント、鍵がございます。４点ほど御紹介申し上げますと、１点目ですが、店の外で必ず店員が販売すること。２点目、会計は店内で行ってもらうこと。３点目、100円商品は自社の製品にこだわらないこと。最後に４点目、行政や商工会議所などの他の機関に頼らず商店街が主体となって、広告チラシが発行できる程度の最小経費で実施することなどがございます。イベントの方向性といたしましては、100円商店街を少ない経費でＰＲし商店街等への集客を図り、店頭でお客様と対話することで親近感と触れ合いでコミュニケーションを図り、会計を店内でしてもらうことで100円商品以外の商品を知ってもらい、購買力アップへつなげていくというものでございます。全国の100円商店街に取り組んでいる商店街で、さきに申し上げました四つのポイントをしっかりと守っているところは、継続的にお客様が集まりにぎわっていて、商店街へお客様が戻りつつあると伺っております。しかし一方では、新たな企画や創意工夫がない商店街ではマンネリ化ややらされ感が生じて、もとの閉塞感のある商店街へと戻ってしまうような事例もあるようでございます。

行政サイドのバックアップにつきましては、さきに申し上げましたように、行政や商工会議所などの他の機関に頼らず、商店街が主体となって実施するというのがポイントでございます。その主体性を損なうことがないよう、運営経費への最小限の助成や、空き店舗対策や空きスペース対策への支援など、裏方としまして官民連携した支援体制、バックアップが望ましいものと考えておるところでございます。

以上、お答えいたします。（「議長、14番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　14番。田中哲議員。

○14番（田中　哲君）　次に、同じくこの中心市街地活性化につなげるためということで開催されておりましたくま川軽トラックさんぽ市は中止となったようでございますが、なぜ中止に至ったのかお尋ねします。この軽トラック市、通称くま川さんぽ市と言うそうでございま

すが、前の林健善副市長の努力もあり、地域商店街活性化法に基づく支援策と国の補正予算を活用して開催されたものと思っております。また、当時の林健善前副市長はくま川さんぽ市の意義を、今人吉にあるこの資源を最大限に活用し、町なかの魅力を高めていく必要があると。くま川さんぽ市をあえて九日町通りでなく球磨川沿いで行うのは、来訪者にこの町なかを川が流れるという、こういうぜいたくな環境を楽しみながら買い物をしていただくという消費者の視点に立った市であると、平成22年６月議会で答弁されていたところであります。それがなぜ中止に至ったのか。また、聞くところによりますと、よその商店街ではこの軽トラック市が成功して続けられている商店街もあると、このように聞いております。そのようなよその商店街の軽トラック市とくま川軽トラックさんぽ市の違いは何だったのか、どのように総括されているのかということでお尋ねいたします。

○経済部長（松田知良君）　お答えいたします。

１点目のくま川軽トラックさんぽ市の中止理由でございますが、このイベントは商店街を中心に実行委員会を組織されまして、平成21年10月に第１回を実施し、平成24年３月までの約２年半に21回開催されました。主に商店街活性化の国の補助制度を活用し、その一部を運営経費として実施しておられます。その補助制度の事業計画が終了した際に、これまでの活動を振り返られまして、球磨川堤防道路での開催を中止されたようでございます。国土交通省の多大なる御理解、御協力のもと、河川管理道路を活用したトラック市は、清流球磨川を眺めながらというすばらしい景観を有する会場でございました。しかしながら、この会場と九日町商店街との一体感が生まれなかったこと、つまり堤防道路の会場に来られたお客様はその買い物だけで終わられ、商店街へと回遊されることなく、結果といたしましては乖離した状態となってしまいました。途中、その改善策が模索されましたが、軽トラック市での買い物が目的となってしまい一体感を得ることができなかった状況にありました。

２点目の他の商店街の軽トラック市との違いでございますが、他の商店街の軽トラック市を見ますと、商店街前の道路に文字どおり軽トラックを横づけいたしまして手軽に出店し、商店街との一体感によりにぎわいが創出され、成功をおさめておられるところもあるようでございます。この事業の課題が整理され、次のステップとして100円商店街が生まれたものと認識いたしておりまして、軽トラックさんぽ市の実行委員会やその出店業者のつながりは今も継続されているようでございます。現在は不定期ではございますが、商店街等でのイベント開催時には出店をいただいている状況にございます。

以上、お答えいたします。（「議長、14番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　14番。田中哲議員。

○14番（田中　哲君）　４点目でございますが、イベントとしては大変にぎわい、成功と思われておりましたひとよし大綱引大会、過去３回開催されたのでしょうか、私も参加した経験がございます。また、私は今でも家の玄関に縁起物として当時の裁断された大綱を飾ってお

ります。当時は綱引きの前日から多くの市民の方が綱練りにも参加され、人吉市の新しい行事になるのかなと思っておりました。そういう思いでおられた市民の皆さんも多かったのではなかろうかなと思っております。そういう市民の皆さんから、なぜこの綱引き大会がなくなったのかとよく聞かれます。あれだけの綱引きだったのですから、実行委員会の皆さんの準備、それに多分資金面での御苦労もあったのだろうと予想はされますが、なぜこのひとよし大綱引大会が行われなくなったのか、市民の皆さんへの周知がなされておりません。それに、今後への提言としてそのことを総括することも大切と思いますので、この件についてもお尋ねいたします。

○経済部長（松田知良君）　お答えいたします。

ひとよし大綱引大会は、ひとよしよかばい会という民間の有志が主催して実行委員会を平成20年に組織され、平成22年11月21日の第３回をもって終了されたようでございます。平成20年４月の大橋完成に合わせ、その記念イベントとして、川北の住民と川南の住民が大橋を会場といたしまして綱引きをするというユニークな発想で開催されたものでございまして、鹿児島県薩摩川内市の伝統行事である日本一の大綱引がヒントとなったようでございます。関係者にお聞きしたところによりますと、所期の目的が達成されたこと、継続するために必要な資金確保と今後の開催目的を確立することが難しかったことなどから、開催が困難になっていると伺ったところでございます。大橋開通に合わせて３回開催された大会は大いににぎわいが創出され、使用後の綱も商店街に飾られるなど、その興奮度や余韻は大変大きなものがございました。開催に御尽力を賜りました関係者の皆様に心から敬意と感謝を申し上げるところでございます。実行委員会は現在も存続されておられますが、景気低迷の中、民間活力によるイベント事業におきましては、改めましてイベント継続には事業の背景、マンパワー、財源の確保、そして機運といったものが必要であり、その困難性を痛感する次第でございます。

以上、お答えいたします。（「議長、14番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　14番。田中哲議員。

○14番（田中　哲君）　次でございますが、先ほどの大塚則男議員の観光振興の質問と重複するやもしれませんが、ＳＬ効果と青井阿蘇神社が国宝に指定されたことにより、どのようにこの中心市街地の活性化に対して効果があったのか。また、今後の対策ということでお尋ねいたします。またことしも３月16日の土曜日からＳＬが運行するようでございます。ＳＬブームもあり列車への乗車率は大盛況のようでございます。また、熱心な鉄道ファンの「撮り鉄」の皆さんを肥薩線沿線で多く見かけ、特に桜開花時期には西人吉駅周辺ではこの多くの撮り鉄のファンの皆さんが写真機のファインダーを覗き込んでおります。これも一つの人吉市の風物詩になったような風景でもございます。それに青井阿蘇神社が国宝に指定されたことによって、確かに青井阿蘇神社周辺は観光客でにぎわっているようでございます。この

ＳＬの乗車客やいわゆる撮り鉄のファンの皆さん、それに青井阿蘇神社の観光客はどのような行動形態といいますか、人吉での過ごし方をされているのか。その観光客の皆さんの行動形態はどうなっているのか、中心市街地まで伸びているのか、宿泊数は伸びているのかということでお尋ねいたします。

また、さきの林健善前副市長は、せっかくふえた駅前から青井神社周辺の観光客を中心市街地に呼び込むためには、まずは個々の店舗の魅力を高めること。次に連続性を持たせること。そのためには空き店舗の解消、景観を統一すること。それに地域の情報の共有が大切であると答弁されておりました。なるほど景観を統一することといった本当に示唆に富んだ答弁であると、そのように当時思ったところでございます。しかしながら、現状は今も観光客の中心市街地への周遊という点では、当時とあまり変わっていないのではないでしょうか。

そこで、具体的にこのＳＬ乗車客や撮り鉄のファンの皆さんや、また青井阿蘇神社の観光客をどのように周遊させて中心市街地にも来ていただけるようにしていくのか。駅前から青井神社周辺の観光客の動態を拡大移動して中心市街地の魅力アップにつなげていかれるのかをお尋ねいたします。もちろんこの中心市街地の活性化の中心は、商店主の皆さんであることは論をまちませんが、いかにして行政のバックアップを図っていかれるのかをお尋ねいたします。

○経済部長（松田知良君）　お答えいたします。

まず、ＳＬ人吉でお越しのお客様、青井阿蘇神社の観光客の動向ということでございますが、団体客については残念ながらそのまま次の観光地へバス、あるいは列車で移動というのが多いようでございますが、小グループや御家族、個人のお客様は町なかを周遊していただく機会も少なくはないようでございます。一方、写真を撮りに来られた鉄道マニアの方々ですが、人吉駅に来られた方々は案内所に立ち寄られ、マップ等を手に市内散策に出かけられることも多いようでございますが、郊外で待機されて写真を撮られている方々が中心市街地まで来られることは少ないのではないかと考えております。

中心市街地の入り込み、あるいは宿泊客数の推移ということでありますが、まず人吉商工会議所で毎年行われている調査を踏まえますと、観光客、郡市民に限らず中心市街地の集客は減少していると考えております。宿泊客は年によって多少の変動はございますが、おおよそ20万人で推移をしているところございます。中心市街地への集客ということでございますが、先ほど大塚議員にもお答えいたしましたとおり、平成21年から始めたじゅぐりっと博覧会開催の一つの目的は、人吉駅、青井阿蘇神社周辺の人の流れを中心市街地まで呼び込みたいというものでございます。現在開催中のおひな通りも同様でございます。発地型から着地型観光へ移行している現在、地元の人たちが喜んでいるもの、大切にしているものを観光で体験をしたいという要請が強くなっております。別府市の温泉泊覧会、長崎市のさるく博、久留米市のまち旅博覧会でも始まっており、本市も取り組んでいただいております、こうい

う体験型の町なかの散策でタウンツーリズムと言われるものの充実、食の魅力、通りや店舗の個性、そしてやはり活気のある町であり美しい町並みであることが重要であると考えておりますので、こういった取り組みに対し行政としての支援をしてまいりたいと考えております。

以上、お答えいたします。（「議長、14番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　14番。田中哲議員。

○14番（田中　哲君）　ただいま部長の答弁で、宿泊数が20万人程度で推移しているという答弁でございましたが、この中でＳＬ効果というものはどのくらいあると推定されておりますか。

○経済部長（松田知良君）　お答えいたします。

日帰りのお客様につきましては、ＳＬ人吉の運行が始まった平成21年度以降増加をしておりますが、宿泊客ということになりますと、平成８年以降はおおむね20万人で推移をしております。そういうことで、ＳＬ運行による宿泊客への顕著な影響はないものと考えております。

以上、お答えいたします。（「議長、14番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　14番。田中哲議員。

○14番（田中　哲君）　６点目でございますが、鉄道博物館建設計画についてお尋ねいたします。肥薩線世界遺産推進室の嶋川智尉室長は、シンポジウムや会合等で世界遺産に向けてこの鉄道ミュージアムの必要性や重要性を取り上げられております。私どももこの珍しいユニークな鉄道博物館ということで大変興味を持っております。昨年12月８日の新聞報道で、人吉市は明治時代に建造の鉄道施設が多く残るＪＲ肥薩線に関する資料を集めた鉄道ミュージアムの建設を予定していると。そこで近々予算に設計費を予定するという新聞報道等にございました。これが実現するとすれば、世界遺産登録に向けて効果もあると思いますし、また小中学生の教育施設にもなると期待しております。また、今回の質問趣旨でございます中心市街地活性化にも大変効果があるものとこのように思っております。本議会で提案されました25年度の新年度予算には計上されていないようでございますが、推進室では大方の準備はできているものと思いますのでお尋ねいたします。この鉄道ミュージアム、建設地はどこを予定されているのか。そのミュージアムの構想はどういうものなのか。また、市民の要望等の取り入れはどう考えておられるのか。それに、資料収集はどのようなものを予定されているのか。どこから何点ぐらい収集されているのか。それに、予算規模は約１億円との報道もございましたが、その財源方法。また、いつぐらいまでの完成を見込んでおられるのかをお尋ねいたします。

○市長公室長（久本一富君）　皆さん、こんにちは。冒頭、私のほうに対しまして温かいねぎらいの言葉をいただきましたこと、大変ありがとうございます。

まず御質問にお答えする前に、まことに申しわけございませんが、ありがたいニュースがありましたので、この場をおかりしまして御紹介をさせていただくことを御了承願いたいと思います。

議員のお話の中に、鉄道ミュージアムの建設が実現すれば世界遺産登録に向けて効果があると思うという言葉がございました。まさしく地域の機運醸成こそが最も重要なことだというふうに考えております。そこで、本年度の取り組みとして議員各位にも御案内をさせていただいておりますが、今週末の９日に「産業遺産としての肥薩線を考える」と題しました講演会を開催することといたしております。このことに関しまして目を通された方もいらっしゃるかと思いますけど、とある新聞の読者の広場の欄に福岡市在住の方が投稿をされておりまして、「肥薩線の偉業、世界遺産に」という見出しがあり、今回の講演会に参加したいとする背景に、歴史が物語る偉業に強い思いがあることを熱く述べておられました。そして末尾には、私どもの励ましになるべく言葉で締められております。本当にありがたく、皆様にお知らせをし、そしてまた改めて講演会の御案内をさせていただけばと思った次第でございます。よろしくお願いいたします。

それでは、御質問にお答えいたします。

肥薩線鉄道ミュージアム構想につきましては、特に本市の文化振興、そして観光振興、引いては中心市街地の活性化に大きく寄与するものと期待をし計画をしたところでございます。川線のＳＬ人吉、山線のいさぶろう・しんぺい号、そして田園路線のはやとの風など、肥薩線ではユニークな観光列車が運行されており、そこから見える車窓はいずれも観光客の目を輝かせるほどすばらしく、個性に満ちあふれる景色でございます。しかしながら、肥薩線の真の見どころというものは、100年の風雪に耐えた木造駅舎やトンネル、橋梁といった鉄道施設にあると考えております。これらの魅力を列車の中で体感するのは難しく、そしてまた八代から隼人までの124.2キロメートルという長い道のりを一度で体験するのは、限られた時間を有効に使いたい観光客にとっては困難と言わざるを得ません。そこで、川線と山線の分岐点である人吉の町に鉄道ミュージアムを整備することにより、肥薩線の歴史や鉄道遺産の数々について少しでも多くの住民の皆様や観光客の方々に御理解を深めていただき、そして世界遺産運動の足がかりになればという強い願いのこもった構想を考えるに至った次第でございます。このため、鉄道ミュージアム構想の実現に向けた検討におきましては、何よりも財源確保に努めなければなりませんが、単に肥薩線に関する知識を学ぶための教育施設ではなく、町のにぎわい創出や観光客の滞在時間の長期化にも資するよう、飲食カフェや列車運転シミュレーターの設置、あるいはミニＳＬの運行、お土産グッズの販売など大人から子供まで楽しめるような観光施設としての活用につなげていければと考えているところでございます。

なお、建設費につきましては、経費節減の観点から市有地であることを優先に、こうした

鉄道ミュージアム構想の趣旨を踏まえ、インパクトのある鉄道遺産も眺望でき、かつ町なかの観光拠点としても経済効果が見込まれる場所という観点から、適地選定を行ってまいりたいと考えております。

また、資料収集につきましては、現在行っております学術調査の中で、肥薩線の工事において大きな役割を果たした鹿島建設、間組を初め、図書館や古書店などに赴き、明治、大正期に書かれた文献、記録等を調査しており、また個人の写真家の方々より、D51型蒸気機関車の勇壮な姿をとらえた古写真などを御提供をいただいておるところでございます。そして、市民の皆様からの要望につきましても、可能な限りおこたえできるよう努めてまいる所存でございます。

財源につきましては、本年２月26日に成立をいたしました国の平成24年度補正予算の活用も視野に入れながら、今後とも鋭意検討を進めていきたいと思っております。

完成見込みにつきましても、活用する財源の仕組みに応じて対応していくことになろうかというふうに考えているところでございます。

いずれにいたしましても、先ほど申し上げましたとおり、念頭には世界遺産運動の足がかりとなることを目指すものであり、具現化に向けいつでも対応できるよう事前の準備、検討は進めておきたいというふうに思っているところでございます。

以上、お答えいたします。（「議長、14番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　14番。田中哲議員。

○14番（田中　哲君）　鉄道ミュージアムの２回目でございますが、この鉄道ミュージアム建設に当たっての地元への説明及び識者といいますか、こういう方々との関係はどう考えておられるのか。それに、ＪＲ九州との関係はどうなっておるのか。また、肥薩線沿線14市町村で世界遺産を目指しておられる協議会との関係はどうなのか。それに、完成後の運営方法はどのように考えておられるのかをお尋ねいたします。

○市長公室長（久本一富君）　お答えいたします。

まず、建設に当たって地元への説明及び識者との関係、それから肥薩線沿線の14市町村との関係、それからＪＲ九州との関係はどうなっているのかということでございますけれども、まずもって肥薩線鉄道ミュージアム構想につきましては、本市としての建設方針を正式に決定しているものではございませんので、肥薩線を未来へつなぐ協議会の他の13市町村、人吉市を除く13市町村でございます。それからＪＲ九州、そして地元住民の皆様に対しても、これまで対外的に説明会等を行った経緯はございません。その上でまず鉄道ミュージアム建設に当たりましては、その直接的な経済波及効果は建設市である本市に帰属するものであると考えられますことから、本市の単独事業として実施することとし、他の沿線市町村に御負担を求めず、観光ＰＲなど側面的な支援をお願いすることになろうかと考えております。

また、ＪＲ九州に対しましては、肥薩線の利用促進にも直結することから、例えば列車運

転シミュレーターを設置する際に肥薩線の映像を提供いただくなど、より充実した内装となるよう協力体制を築いてまいりたいと考えております。

そして、何よりも地域住民の皆様に対しましては、この鉄道ミュージアムを拠点として、一緒になって観光振興や中心市街地の活性化に結びつけていくためにも、説明会等を通じて事前の情報提供に努めてまいりたいと考えております。

最後に、完成後の運営方法につきましては、現在こうした施設では指定管理者制度による方法が主流となりつつあることから、鉄道ミュージアムにつきましても同様の方法が選択肢にあると考えております。また、肥薩線のようないわゆる産業遺産につきましては、一般観光客が見ただけでは魅力や価値について十分理解することは難しく、語り部の存在が重要であると考えております。したがいまして、例を挙げますと群馬県の碓氷峠鉄道施設、長崎県の軍艦島、荒尾市の万田坑などいずれも当時を知るＯＢの方々が生き生きとガイドを務められており、平日でも多くの観光客が聞き入っておられます。肥薩線、この鉄道ミュージアムにおいては幸い人吉市鉄道観光案内人会の方々に語り部役を務めていただくことも視野に入れてるということも考えております。

以上、お答えいたします。（「議長、14番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　14番。田中哲議員。

○14番（田中　哲君）　ただいま答弁いただきまして、大変期待できる鉄道ミュージアムと私も思っております。早く予算化されることと、建設に向けた市民の盛り上がりを期待したいと、このように思っております。また、嶋川智尉室長も今月で出身省庁に帰られると聞いております。どうぞ今後とも人吉市の発展に力を貸していただきますようにお願いをしておきたいと思います。

次に、７点目でございますが、就任１年８カ月になります髙橋隆副市長にお尋ねいたします。髙橋副市長は、前任の林副市長と同じく経済産業省の中小企業庁からの出向で、年齢的には少し先輩になられるようでございますが、家族の皆さんは東京に残しての赴任ということで、何かと不便な面もあるのではなかろうかなと察しているところでございます。自身はこよなくこの球磨焼酎を愛されると聞いております。空手で鍛えた体は大丈夫とは思いますが、家族の皆さんが届かない分ほどほどに、健康管理に十分気をつけていただきたいと思っております。また、髙橋副市長はひとよし応援隊として、近隣のマラソンにたびたび出場して人吉市をアピールされており、そういう真摯な姿勢に、本当に人吉市民として感謝を申し上げたいと思っております。そういう副市長の経歴と、活動的な副市長でございますので、大方の人吉市民は大変期待していると思っております。

そこで、髙橋副市長から見て人吉市の魅力、また人吉市がよそよりも不足しているものはどんなものがあるのか。それと、本当に人吉市の活性化に必要なものは何でしょうか。また、中心市街地の活性化に求められるものは何でしょうか。このことをお尋ねいたします。かつ

て同じような質問を林前副市長にしたことがございます。その折、人吉市の活性化の核になるものは、ほかのどこにもない球磨川と温泉であり、これを磨き上げることが重要であると。また中心市街地については先ほどの質問の中でも紹介しましたように、個々の店舗の魅力を磨き上げること。景観を統一することが大切。さらには、地域が情報を共有することと、こういう答弁をされておりました。髙橋副市長はどうお考えでしょうか。率直な御意見をお願いしたいと思います。

○副市長（髙橋　隆君）　皆さん、こんにちは。議員の御質問にお答えしたいと思います。

まず、議員御質問の本市の魅力でございますけれども、常々市長が申し上げてますように、人吉市には三つの宝がございます。一つは、人吉球磨の山々と清流球磨川。二つ目は、相良700年の歴史がはぐくんだ文化財や地場産業、温泉、焼酎。三つ目は、先ほどもお話が出ました比類なき価値を持つ肥薩線産業遺産群でございます。それに加えて私が感じる本市の最大の魅力は、人のよさだと思います。例えば、町を歩いていると知らない人にでも小・中・高校生が、おはようございますと元気にあいさつしていただけます。それから、２月28日の某新聞に投書がございましたけれども、ひとよし春風マラソンを走った熊本市在住の方、女性の方ですけれども、熊本城マラソンに落選してひとよし春風マラソンを嫌々ながら走ったけれども、沿道のたくさんの声援と、ゴール後の住民の手づくりの郷土料理で冷えた体を温めることができたと。人吉市の住民の皆さん、本当にありがとうという投書がございました。これがまさに人吉市の魅力ではないかと感じているところでございます。

次に、不足しているものでございますが、地域資源が豊富で都会から離れているということもあるのでしょうか、少子高齢化、低賃金、雇用不安などある中で、現在は地域間競争や世界との競争であります。10年後、50年後の人吉を考えたときに、若干のんびりしているのかなというところが思っているところでございます。また、当市には地域活性化のためにさまざまな団体がございます。それぞれ頑張っておられますけれども、役割分担の明確化、それから情報共有が若干できてないのかなというところが感じるところでございます。それから地域活性化のためには、市長も申し上げてますように、外者、ばか者、若者というところでの外者をうまく利用する必要があるのではないのかなというふうに思っているところでございます。また、人吉市を全国的にＰＲすることも若干不足しているのかなと感じているところでございます。

以上、申し上げたことは人吉の方はもう既に御存じだと思います。しかし、これら不足していることを思っているというだけでは前には進みません。郷土の偉人、一井正典が思いを形にするというふうにおっしゃったように、形にする人、林副市長が言われた「磨き上げる人」が行政、民間を含めて多く出てきていただくということを期待しているところでございます。

最後に市全体、中心市街地の活性化に求められることでございますが、一言で言えば「人

吉藩の復活」ではないかなというふうに思ってます。かつて鍛冶屋町には鍛冶屋が、大工町には大工が、紺屋町には染物屋さんがあり、二日町、五日町、九日町には市があったように、人吉七町が昔の城下町ある風情の町並みとして復活して、そして七町を中心として経済やお金が回る仕組みをつくる。そして、人吉の強みである農業と観光をもっと磨き上げて外貨を稼ぐ、また宗教観のような教育を充実させて人吉の自然、歴史、文化を大切にしていく風土をつくっていくことが求められるのではないかと感じているところでございます。

副市長として、引き続き健康には十分留意しながら粉骨砕身、人吉市のために、発展のために全力を尽くしたいと思っております。

以上、お答えいたします。（「議長、14番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　14番。田中哲議員。

○14番（田中　哲君）　ただいまの髙橋副市長の示唆に富んだ答弁、本当にありがとうございました。地元に長くいると、よいところも悪いところも見えなくなってきます。これからもどうぞよきアドバイザーとして長くこの人吉市の応援隊でいてもらいたいと思います。また、職員のほうにも精励をしていただきますように、お願いをしておきたいと思います。

次に、中小企業振興基本条例についてでございます。よく日本の企業は９割以上が中小企業と言われ、人吉市を含め人吉球磨の企業ほとんどが中小企業だろうと思います。その中小企業は近年の少子高齢化や人口減少、それに続くデフレ経済、取り巻く社会構造は大変大きく変化しております。極めて厳しい経営状況にあるのではないでしょうか。これまで中小企業は経済活動を通じて地域の雇用、文化、生活の向上に重要な役目を担ってきております。それほど地域住民に密着しているこの中小企業の衰退は、ただ単に企業の問題ばかりではなく、地域産業の空洞化、個人所得の減少、それにまさに自治体の財政の危機を招くおそれさえあると言われております。そこで、人吉市の商工業者のここ数年の企業数の動向、できれば業種ごとに、その年度の期間は動向数の変化がうかがえる期間でお尋ねをいたします。それに、市の貸付金のここ数年の動向、またそれから見えてくるものをどういうふうに分析されておるのか。それに、今後の対応ということでお尋ねいたします。

○経済部長（松田知良君）　お答えいたします。

本市の商工業者のここ数年の事業所数、業種ごとの動向でございますが、人吉商工会議所が調査、把握しておりますデータの平成21年12月末から平成23年12月末までの過去３年間の統計によりますと、平成21年末で2,333軒、平成22年末で2,278軒、前年比55軒の減少。平成23年末で2,269軒、前年比９軒の減少といった状況にございます。なお、平成24年末のデータにつきましては現在集計中でございます。

業種ごとの動向でございますが、主な業種で申し上げますと、平成22年から平成23年末の２年間で、卸売・小売業が48軒の減少、建設業が12軒の減少、医療・福祉業につきましては12軒の増加、総合サービス業が10軒の増加となっております。全業種の合計で２年間で64軒

減少している状況にございます。業種によっては増加したものもございますが、全体的には事業所数が年々減少いたしております。

次に、本市融資制度の利用状況でございますが、平成15年度の利用者件数24件をピークに、昨年度は１件の利用にとどまっております。御利用が少ない要因といたしましては、リーマンショック後平成20年10月に国が金融危機対策といたしましてスタートしました国の緊急保証制度、いわゆるセーフティネット認定による融資制度の利用者の増加にございます。この制度は、中小企業者が金融機関から融資を受ける際に信用保証協会が全額保証するというものでございまして、金融機関の損失リスクを大きく軽減するものでございます。現在もこの制度は延長継続されており、利用者は平成20年の220件をピークに、昨年度は41件という実績でございました。本市の支援制度といたしましては、国、県等の融資制度を補完するために中小企業融資に係る一部を補給する利子補給制度を設けておりまして、昨年度の利用者は149件の利用がございました。ことし３月には中小企業金融円滑化法の期限が到来しますが、依然としまして地方経済を支える中小企業者の経営状況は厳しいものがあると認識いたしております。引き続き国、県及び金融機関、商工会議所を初めとする経営支援機関との情報交換、さらなる連携を図りながら中小企業振興に取り組んでまいりたいと存じております。

以上、お答えいたします。（「議長、14番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　14番。田中哲議員。

○14番（田中　哲君）　ただいま答弁いただきまして、景気を反映して卸・小売業、サービス業、それに建設業が減少しているという答弁でございました。また、融資面からも融資の額も少なくなっていると。このことは設備投資が少なくなっているという裏づけではないでしょうか。さもありなんと感じたところでございます。まさに人吉市の経済にとって憂慮される事態と、このように思っております。どうぞ引き続き、中小企業振興のために御尽力いただきたいとこのように思っております。

８点目の２回目でございますが、人吉市でただいまの答弁にありましたように、ここ数年業種によっては倒産、縮小、撤退といったことが現実となっておりまして、本当に憂慮される事態となっております。このような地域経済の現状を踏まえ、現状と地域に合った中小企業振興基本条例をつくり、地域に密着した中小企業の振興を進めようとする自治体がふえていると聞いております。この中小企業振興基本条例の概念と内容、それにこの実効性を上げる施策というのはどういうものがあるのかということでお尋ねいたします。また、近隣自治体のこの条例制定の動向等もお尋ねいたします。

○経済部長（松田知良君）　お答えいたします。

概念と申しますか条例制定の目的でございますが、中小企業が地域の経済において果たす役割の重要性にかんがみ、中小企業の振興の基本となる事項を定め、中小企業の健全な発展を図ることにより、地域経済の活性化及び発展に寄与するためでございまして、中小企業基

本法第６条に基づき地方自治体の責務を果たすため制定されるものでございます。実効性を上げる施策といたしましては、熊本県の施策を例にとりますと、中小企業者への県発注工事等の受注機会の増大、融資及び補助制度の充実などがございます。近隣自治体の条例制定の動向につきましては、熊本県の平成19年３月に施行したのを初め、水俣市、八代市、山鹿市、菊池市、合志市が制定しており、熊本市が平成25年４月に施行予定という状況でございます。

以上、お答えいたします。（「議長、14番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　14番。田中哲議員。

○14番（田中　哲君）　この点についての３回目でございますが、中小企業の振興の専門家としての髙橋副市長から見て、今後の地方の中小企業のあり方と、この中小企業振興基本条例はどう考えておられるのかをお尋ねいたします。

○副市長（髙橋　隆君）　お答えいたします。

2012年版の中小企業白書によりますと、日本の企業数は423万社、そのうち420万社が中小企業でございまして、実に99.7％、雇用ベースでは66％を占めてございます。このデータから見てもおわかりいただけますとおり、中小企業が我が国経済の活力の源泉であり、その果たす役割の重要性にかんがみ、国は中小企業施策の基本理念、基本施策を定めた中小企業基本法を制定しております。中小企業基本法の第３条におきまして、独立した中小企業の多様で活力ある成長発展を基本理念といたしまして、同法第４条におきまして、同法第３条の基本理念にのっとり中小企業施策を総合的に策定、実施する国の責務を定め、同法第６条では、国と適切な役割分担を踏まえ、その地方に応じた施策を策定、実施することを地方公共団体の責務として定めているところでございます。景気の低迷、少子高齢化、人口減少など地域がますます厳しくある中にあっても、日本には未来を担う小さな地場産業がたくさん、地場の企業がたくさんございます。人吉市にもそのような企業が多数存在しているところでございますので、人吉市としましても引き続き地場の企業の育成を図ることが必要だと考えております。また、中小企業基本法第４条及び第６条に基づきまして、国、県、市の連携、そして役割を明確化いたしまして、地域の特性や実情を踏まえた中小企業振興計画の策定や独自施策の追加など、創意工夫しながら進めることが重要ではないかと考えているところでございまして、先ほども申し上げましたとおり、地元でお金を回す仕組みをつくっていくということが重要なんではないかというふうに考えているところでございます。

以上、お答えいたします。（「議長、14番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　14番。田中哲議員。

○14番（田中　哲君）　この中小企業振興基本条例の４回目でございますが、田中市長にお尋ねいたします。私はこの条例の制定が即、中小企業の振興、それに中心市街地の活性化につながるものとは思っておりません。しかし、人吉市の進めてきた企業誘致もこれからますます困難になっていくものと思われます。企業誘致は誘致で進めていただき、また田中市長も

これから地場産業の企業を育成していくとよく言われております。また一方、この地域における中小企業の重要性を考えるときに、これからの中小企業の方向性、それに行政の責務、地域住民の理解は、大変重要なことだろうと思っております。そういう観点から中小企業の重要性を市民みんなで共有し、認識し合うことがこれから必要になってくるのではなかろうかと思っております。そういう市民の意識が中心市街地活性化にもつながるものと思いますが、この中小企業振興条例についてどう思われるのか。また、制定に向けての考え等がございましたらお尋ねいたします。

○市長（田中信孝君）　お答えいたします。

中小企業を中心市街地の商店というふうにとらまえる狭義のお話もあろうかと思います。ただ先般も申し上げましたとおり、何せ郊外型のスーパーへ人は人は流れていくようでありまして、中心市街地の今後の整備というものは非常に重要なことだろうと思って、あれやこれやと構想は描いているところであります。まとまってそう地権者が多くないという地域も出てまいりまして、今後中心市街地をどう生かしていくか、いわゆる地場産業、地元のお買い物といいますか、地場産業、地元の商店でぜひお買い物していただきたいという思いはもうずっと強く持っておりまして、きじ馬スタンプ協同組合、さまざまな連携を模索し、そして実現をしてまいりたいと思っているところでございます。今度リフォームを引き続き1,000万円の予算でさせていただきますけれども、今後きじ馬スタンプ協同組合の加盟店をさらに、地場の加盟店をふやして、そこにその補助金を差し上げる半額は商品券でお渡しをしたいというふうなことも考えているところでございます。

いわゆる中心市街地の活性化の狭義の意味での中小企業振興基本法もその一つではあろうと思っているところでございます。よって、中心市街地が空洞化しないように、人口減少、そして高齢化といった社会的課題に加え、グローバルな経済の波にも今日本は洗われているわけでありまして、中小企業の経営、非常に厳しい状況下にあるということは認識をいたしております。そういう中で中小企業を応援していこうということで、稼ぐ、儲かる経済都市を総合計画にも掲げさせていただいております。その中心と申しますか、地域経済を支えてきた主役は中小企業事業者の皆様でございまして、健康で笑顔で暮らすためにはまずは雇用の場の確保、生活安定が絶対条件、そのためにはよく売れるまちづくりが必要ではなかろうかと思っております。また、新年度でも考えていきたいというふうに思っておりますことは、やはり今、茂木経済産業大臣も先月御視察になられたという高松市の丸亀町商店街、ここをぜひ私も視察をさせていただきたいというふうに思っておりまして、そのときどのように中心市街地が結束をし変わっていったのか、そのやはりどうしても中心になる人が必要でありますが、そういうことも含めまして今後丸亀町に、または葉っぱビジネスに、または先般御講演をいただきました四万十ドラマにさまざまな学びを求めていきたいというふうに思っているところでございます。そのような中心市街地を初めとする中小企業の皆様方、しかも特

に地場産業の活力を支えていただいている方々に、国は平成22年６月に中小企業憲章を制定いたしております。国の中小企業に対する基本理念、基本原則、行動支援が定められており、本市もその真意を重く受けとめまして、これまでもさまざまな制度を整備し、金融機関、商工会議所、中小企業大学校、熊本県、国の機関と連携を深めながら中小企業の育成、経営基盤の強化に努力してきたところでございます。

したがいまして、おっしゃるとおり企業誘致ということも大きな課題でありますし、中心市街地が空洞化しかけておりますけれども、ここをしっかりとした、もう一度杭を打ち直す、そういう意味でも議員に御提案いただきました条例の制定というものも一つの手法であり、極めて重要なことだというふうに認識をいたしているところでございます。今後他の自治体の条例施行後の戦略的な効果、実効性、必要性などを十分に調査して検討してまいりたいというふうに思っているところでございます。

以上、お答えいたします。（「議長、14番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　14番。田中哲議員。

○14番（田中　哲君）　今回初めて提案しましたので、そこまで考えておられないというようなことであろうかと思いますが、やはり人吉市の中小企業、または中心市街地を考えるときにこういう条例、その中に例えば地域貢献度等を加味するような、そういった条例も有効になるやもしれませんので、今後の課題としてぜひとも考慮していただきますように要望しておきたいと思います。

次にですが、中心市街地の活性化という命題は、景気低迷と少子高齢化、それに人口減少という中でこの消費者のパイはますます縮小していくものと思います。本当に難しい命題であろうと思っております。高度成長期のように企業誘致もままならない中では、本当に昔のようなにぎわいを取り戻すことは難しい気もいたしております。特に、人吉市の中心市街地は消費者の立ち場からすると、これも先ほど市長答弁にもございましたが、車社会に対応した駐車場がないと。中心市街地の核となる施設もない。バス等でこの周辺から乗り入れるターミナル等もそろっていないと。こういうことであれば、確かに魅力ある店舗はあると思いますが、そういうものがあっても町全体の底上げは難しいのではなかろうかと思っております。

そこで、同じような悩みを持ち、成功した商店街ということで、先ほどは市長は丸亀商店街ということでございましたが、私もかつて研修したことがございます鹿児島県の鹿屋市、御存じの方もあるやもしれませんが、この町も衰退していた中心市街地の活性化を何とかしていこうということで、市街地の中心部において中心市街地活性化基本計画を策定し、一帯が再開発された結果、にぎわいを取り戻されておりました。その核となる施設は公共施設を中心とする再開発ビル（複合交流施設）、通称リナシティかのやでございます。少々この施設を説明いたしますと、国土交通省所管で建設されたということでございます。建物は４階

建てでございました。１階が商業施設や郵便局、銀行などの業務施設、それにバス待合所。２階が芸術文化学習プラザや福祉プラザ。３階が健康スポーツクラブ、それにミニシアター、小さな映画館でございます。４階が屋上庭園のような機能を持った施設が整備されておりました。その中の公共施設分２階、３階を鹿屋市が購入して、市民交流センターとして指定管理者に運営に当たらせているということでございました。ビルの中にはコミュニティー放送のサテライトスタジオ、先ほど申しました小さな美術館や映画館もあり、映画館については大隅半島に十数年ぶりに映画館が復活したと喜ばれておりました。また、ほかに周辺施設として、国のまちづくり交付金を利用しイベント広場、それに同交付金を利用し今ではその施設の建物、リナシティかのやの敷地も購入しているということでございました。ビルの前は国土交通省の肝属川水辺プラザ事業として水辺ステージを整備され、きもつき川水辺館が設置されておりました。新聞報道等では、地元の新聞でございますが、大隅地方一のにぎわいを取り戻したとあったわけでございます。もちろん近くには駐車場とバスターミナルも整備をされておりました。ちなみに、リナシティとはRenewal Active City（リニューアル・アクティブ・シティ）の略語で、公募の結果、小学生による命名ということございました。こういう施設が中心市街地に必要とわかっていても、なかなか民間主導で行うのは難しいのではなかろうかなと思っておりますし、何よりも私以上に中心市街地の方々も真剣に考え、いろいろな構想は持っておられるのだろうと思っております。

そこで、今までにそういう市街地再開発の話はなかったのかどうか。あったとすればなぜ前に進まなかったのか。今後行政から新たに中心市街地の再開発を提案されることはないのかお尋ねいたします。

○経済部長（松田知良君）　お答えいたします。

本市では平成11年に中心市街地活性化基本計画を策定し、人吉商工会議所ではまちづくり構想、いわゆるＴＭＯ構想を策定した経緯がございます。この計画にはバスターミナルや市役所等公共施設を誘致し再開発事業を行う計画もございましたが、ハード事業が大きな資金を必要とすることや、地権者等の理解も必要であったことから実現には至りませんでした。その後平成19年にマニフェストにおきましてアミューズメント構想が掲げられましたが、市民との対話の中で、用地取得等の困難さや建設資金の問題が大きな壁となり、断念せざるを得ない状況にございました。

今後、行政から再開発を提案することはないかという御質問でございますが、災害に強いまちづくりを進めるため、新庁舎建設を最優先課題と位置づけておりますので、厳しい財政状況の中再開発につきましては、現状では事業困難という状況にございます。しかしながら、中心市街地は町の顔であり、人吉球磨の拠点としての機能を十分発揮するための市街地活性化は大変大きな課題として受けとめております。今後もあらゆる戦略や事業を検討しまして、にぎわい創出の実現に向けて官民一体となって取り組んでまいりたいと存じます。

以上、お答えいたします。（「議長、14番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　14番。田中哲議員。

○14番（田中　哲君）　ただいま部長答弁で、再開発については事業困難という状況であると。その理由といたしまして地権者の理解、用地取得等の困難、または建設資金の問題等々と述べられたわけでございます。しかし、この再開発問題は私は困難な問題とは思いますが、このことをやはりやり遂げないと、人吉市の中心市街地の活性化はあり得ないのではないかと、このように思っております。これからもどうぞ行政側としてはあきらめずに、常に官民一体となってたゆまぬ努力を続けていってもらいたいと、このように要望しておきます。

次でございますが、田中市長にお尋ねいたします。市庁舎建設の予定地についての質問でございます。田中市長は東日本大震災を踏まえ、防災機能を持った市庁舎建設の重要性をよく言っておられます。災害時の危険ばかりでなく耐震性も問題ありと指摘されております。また、文化庁からも早く出てくれと移転を指摘されている現庁舎の移転、建てかえ問題は、もはやもう避けては通れない問題と市民みんなが認識しているのではなかろうかなと、このように思っております。この市庁舎建設に関しては、市庁舎建設に関する特別委員会でも論議され、またこれから幾つもクリアしなければならない問題があると思います。候補地の一つとして防災機能、それに駐車場をそろえ、またバスターミナル等の機能を兼ねた市庁舎を中心市街地に建設というのはどうでしょうか。前期に市庁舎建設予定地を２カ所に絞り込む中で、東九日町に市庁舎の建設を検討したこともあったわけでございますので、できないことではなかろうと、不可能ではなかろうと思っております。市庁舎建設についてはこれからであろうと思いますが、そういう機能を兼ねて持った市庁舎が中心市街地に建設できれば、本当に中心市街地の核にもなると思われますし、中心市街地の多くの皆さん方の災害時の避難場所として意味があると思われますが、田中市長はどう考えておられるのか。また、市庁舎建設候補の一つとして考えておられるのか、その点お尋ねいたします。

○市長（田中信孝君）　お答えいたします。

平成19年３月定例市議会で行われた市庁舎建設に関する特別委員会の委員長報告の中で、移転候補地を１カ所に絞り込むまでには至らなかったわけでございます。それは議員よく御承知のことだろうと思います。九日町周辺の中心市街地一画と今の別館が建っております旧農協跡地の２カ所を移転候補地として結論いただいたところでもございます。

そこで、中心市街地の活性化策として九日町周辺の中心市街地を候補地の一つとして考えているかという御質問でございますが、このことにつきましては現在議会におかれましても、市庁舎建設に関する特別委員会が設置されているところでございまして、また執行部においても職員で組織します市庁舎移転建設研究委員会を立ち上げておりまして、まさしく議会と執行部とが歩調を合わせ一体となった検討、検証が進められている状況下にあると存じます。そのような中で私の考えを申し述べますと、やはり前回の特別委員会の意見というものは尊

重すべきだととらまえておりますので、現時点では移転候補地としては２カ所からスタートをしていかなければならないと考えているところでございます。今後もこの二つの候補地を有力な移転候補地といたしまして、移転のメリット、デメリットを比較、検討し、議論を進めていく必要があるわけでございますが、以前も私の持論として述べさせていただく機会がございましたが、相良700年の歴史にかんがみたまちづくり、区割りは尊重したいというふうに考えているところでございます。具体的には球磨川の左岸にあります川南を公益的施設が集中する行政ゾーン、一方で川北つまり球磨川の右岸を商業・工業ゾーンとして栄えてきた相良家の歴史があり、国宝青井阿蘇神社の門前町として人吉藩の城下町であるという歴史、文化、成り立ちを基軸とした、人吉らしいまちづくりにはこだわりたいと考えているところでございます。また、市を挙げて、市の総力を傾注して向かうべき50年に１度のこの事業は大プロジェクトでございまして、資金調達を含めた財源の確保といった大きな課題や、ＰＦＩといった民間資金の活用方法、市内の交通体系の整備、先ほどはバスターミナルというお話もございましたけれども、クリアすべき課題は大変ハードルの高いものがメジロ押しとなっているところでございます。しかしながら新市庁舎のあるべき姿といたしましては、平成23年３月11日の東日本大震災の発生に伴い地域の防災に対する関心は非常に高まっておりますので、市役所の災害時の役割の重要性を考えますと、やはり市庁舎は高い耐震性や安全な立地条件を確保し、水道などのライフラインが途絶えた場合でも安全安心な災害拠点として機能し続ける防災及び災害に強い建物である必要性を感じているところでございます。そして何よりも、市民の利便性というものを最大限に考慮する必要がございます。バリアフリーへの対応やプライバシーに配慮した窓口機能の整備、また現在は本庁舎と別館とが機能分担しており、健康福祉部におきましては本庁舎と保健センターとに機能が分散しているため、来庁者の用件によりそれぞれの部署に行き来しなければならず、市民の皆様に不便をかけている点は否めないところであります。市民ニーズに対応できる利便性を向上させるためのワンストップサービスが可能な庁舎、かつ市民に優しいユニバーサルデザインに配慮した庁舎を考えていくことは、必須の条件と考えているところでございます。

以上のような、新市庁舎のあるべき姿を考慮し模索しながら、一刻も早い庁舎建設移転の実現に向けて、まずは移転場所の選定に重点を置き議論を交わしてまいりたいというふうに考えているところでございます。

以上、お答えいたします。（「議長、14番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　14番。田中哲議員。

○14番（田中　哲君）　この問題はきのう新聞報道で、６月までには移転候補地を絞り込むというような報道がございました。それは、そういうふうに６月までに絞り込むという予定なのかどうかということを、市長でも部長でも構いませんが、そこからちょっと確認したいと思います。

○市長（田中信孝君）　お答えいたします。

昨日の新聞報道に６月までには移転候補地を絞り込むということでございました。これは御承知だろうと思いますけれども、議会の調査特別委員会からの申し入れでございまして、それに呼応して研究会がその絞り込みの作業に入るということでございます。

以上、お答えいたします。（「議長、14番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　14番。田中哲議員。

○14番（田中　哲君）　その点で一応確認しておきたいと思いますが、その絞り込む段階において前期のこの２カ所の候補地、これはそのことから出発されると思いますが、先ほど市長も言われておりますように、市民の利便性とかそういうことを申されました。そういうことで、市民の声、ニーズを取り上げられる場所、機会を絞り込む過程において考えておられるのかどうか、そこを確認しておきます。

○市長（田中信孝君）　お答えいたします。

先ほども申し上げましたとおり、２カ所からスタートするというふうにお答えをしているところでございます。市民の声を聞くのかということでございますけれども、調査特別委員会並びに研究会で検討したいと思っております。

以上です。（「議長、14番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　14番。田中哲議員。

○14番（田中　哲君）　直接的な市民の声は今までのことを踏襲するということですね。直接的には、その期間には市民の声を聞かない、聞かないと言ったら失礼ですが取り上げないと、そういうことですね。もう今からですよ。絞り込む過程においては、もう前期の……だから確認です。だから、その絞り込む過程においてはそういう機会は、何といいますか、つくらないとか、そういうことでしょうか。（「検討します」と呼ぶ者あり）検討します。はい、わかりました。じゃあその期間においても検討しますということですね。わかりました。

この候補地問題、本当に大変難しい問題であろうと思います。これからの人吉市の将来を見据え、防災面や財政面からの検討はもちろんでございますが、利便性等あらゆる市民のニーズも検討の上選定していただきますように要望いたしまして、一般質問を終了いたします。

○議長（永山芳宏君）　ここで暫時休憩いたします。

午後３時06分　休憩

午後３時21分　開議

○議長（永山芳宏君）　休憩前に引き続き再開いたします。（「議長、５番」と呼ぶ者あり）

５番。平田清吉議員。

○５番（平田清吉君）（登壇）　皆さん、こんにちは。本日４番目の質問者の５番議員平田清

吉でございます。本議会におきましても一般質問の機会を与えていただきましてありがとうございます。

通告に従いまして、一般質問を行います。今回の通告内容は、市長の施政方針から２点、便利で住みやすいふるさと定住都市ひとよしについてと、新たな組織機構改革による機動性の高い組織づくりについて質問させていただきます。

まず１点目ですが、先日の本議会開会日の席上、市長の施政方針の中で、便利で住みやすいふるさと定住都市ひとよしの都市基盤・建設分野において、本施策における八つの取り組み項目のうち三つの項目が実施済みと述べられました。その実施済みとされた三つの項目とは、一つは安全・安心のまちづくり施策のうちの公営住宅等長寿命化計画に基づく市営住宅の修理改善を行う施策のことと受け取っております。あとの二つは、市民のための交通手段の充実施策のうちの同じくま川鉄道に関する施策のことであり、一つはくま川鉄道の年間利用者数を４万人とする計画の支援強化施策、もう一つはくま川鉄道の中長期財政経営計画の支援強化施策であるというふうにとらえましたが、間違いないでしょうか。また、これら３項目は今後も引き続き実行していかなければならないものであり、これからも引き続き取り組んでいかれるとの解釈でよかったでしょうか。そして、現在も取り組み中の残り五つの項目とはどのような施策なのか、また、それら施策の現在の進捗状況はどのようになっているのかを、実施済みとされた施策についても補足説明があるならば説明をしていただき、市長の御答弁をお願いいたします。

○市長（田中信孝君）　お答えいたします。

実施済みの３項目につきましては、御発言のとおりでございます。実施済みでない５項目についてでございますが、まず、市民のための交通手段の充実という観点から、市民のために便利な自宅から自宅まで送迎する乗り合いタクシーを実現する。これと、地元商店と提携しきじ馬スタンプを乗り合いタクシーに使えるようにするという２項目がございます。次に、人吉球磨広域連合の活性化という観点から、蟹作スマートインターチェンジ促進協議会を設置し建設を促進するということと、くま川鉄道の鉄道施設等の維持管理、車両更新等、観光列車化を推進するという２項目でございます。最後に、安全・安心のまちづくりという観点から、市内工務店等地元木材の活用を条件に、住宅新築、改築、耐震化を補助（50万円）するという内容のものでございます。いずれもその実施に向けて調査、研究や関係機関等々との協議を進めているという状況でございます。

また、それぞれの進捗状況についても御質問をいただいておりますので、若干お時間をいただくことになろうかと思いますが、項目ごとに御説明をさせていただきたいと思います。

まず１点目、市民のために便利な自宅から自宅まで送迎する乗り合いタクシーを実現するという内容についてでございますが、高齢化が進展する中で、御自宅から近くのバス停や乗り合いタクシーの停留所までの移動すら困難な方や、運転免許証返納に伴い移動手段を持た

ないといった交通弱者と呼ばれる方々の増加が見込まれる中で、その対応策として掲げさせていただいたマニフェストでございます。現行制度の中でも、人吉市福祉タクシー料金助成事業や介護タクシーといった制度もございますが、利用者が限定され、なおかつ利用回数等にも限度がある内容となっております。これまで他の自治体における取り組み事例等の調査、研究も行いながら検討を重ねているところではございますが、路線バスや乗り合いタクシー等も含めた総合的な交通体系のあり方とともに、財政負担等も考慮しながらさらに検討を進めてまいりたいと存じております。

次に、地元商店と提携し、きじ馬スタンプを乗り合いタクシーに使えるようにするという内容でございますが、きじ馬スタンプの満点カードを乗り合いタクシーで使用することについては、きじ馬スタンプ協同組合様の一定の了承はいただいているところでございますが、あくまでも路線バス廃止に伴い運行される乗り合いタクシーという公共性を御理解いただいての了承でございまして、通常のタクシー利用時については現在のところ使用は認められないとの見解でございます。乗り合いタクシーの運行事業者が各社そろってきじ馬スタンプの加盟店となり、きじ馬スタンプのポイント発行まで行っていただけるのであれば、通常のタクシーでの利用も可能となるところでございますが、タクシー乗車に際しポイントを発行するためにはポイントを発行するためのカードリーダーを全車両に搭載する必要が生じてまいります。カードリーダーの搭載には１台当たり約14万円程度の負担が必要となりまして、全車両への搭載はタクシー事業者にとってはかなり大きな負担となるのが実情でございます。現時点では、きじ馬スタンプ協同組合の事業としてきじ馬スタンプ満点カードをタクシー券に引きかえられる機会が年数回ございますので、その引きかえられたタクシー券を乗り合いタクシーで御利用いただくことは可能でございます。この取り組みにつきましては、関係する機関のそれぞれの内情というものが応分にございますので、引き続き協議、検討を進めてまいりたいと思っているところでございます。

３項目めの、くま川鉄道の鉄道施設等の維持管理、車両更新と観光列車化を推進するという内容についてでございますが、鉄道施設等の維持管理につきましては、橋梁の塗装、レール交換、まくら木交換などくま川鉄道株式会社におきまして計画的に進められておりまして、その経費の一部を人吉球磨の１市９町村から経営安定化補助金として補助を行っております。また、車両更新と観光列車化につきましては、平成25年度から２カ年にわたり５両の車両を導入する計画で、くま川鉄道株式会社で関係機関との協議が進められているところでございます。この項目につきましては、いずれもくま川鉄道株式会社が主体的に、かつ計画的に進められているところでございまして、市といたしましても連携を図りながら常時支援を行っているところでございますが、維持管理といった恒常的な内容でありますことから、進捗状況といたしましては継続中という判断のもとに、実施済みとしてとらえていないという状況でございます。観光列車化が再来年度には完了する予定でございますので、その時点では実

施済み、そして継続中ということになろうかと思っております。

次に４項目めの、蟹作スマートインターチェンジ促進協議会を設置し、建設を促進するという内容でございますが、御承知のとおり平成21年３月には人吉球磨の１市９町村で人吉球磨スマートインターチェンジ整備促進協議会を発足いたしておりまして、これまで要望活動や先進地研修、勉強会等を行ってきたところでございます。現在は協議会の事業といたしまして、人吉球磨スマートインターチェンジ基本構想策定業務の委託発注をいたしているところでございまして、基本構想が策定され次第、建設に向けた具体的な議論を深め、建設に向けてさらなる取り組みの強化を図ってまいりたいと存じております。これも任期中には完了予定であります。したがいまして、項目にもございます協議会を設置し建設を促進するという点では実施済みではございますが、事業そのものがまだ経過途中という観点から継続中という判断をいたしているところでございます。

最後に、市内工務店等地元木材の活用を条件に住宅新築、改築、耐震化を補助（50万円）するということでございますが、平成24年度より実施しております住宅リフォーム促進事業におきまして限度額20万円の補助をいたしておりますが、平成25年度の住宅リフォーム促進事業におきましては、リフォームに木材を使用する場合、地元産材の使用を要件に加え、実施に向け計画をいたしているところでございます。また、耐震化につきましては昭和56年５月以前に建設された住宅を対象に、平成24年度より住宅耐震診断事業を実施し、平成25年度は住宅耐震改修事業につきましても実施に向けて計画をいたしているところでございます。

以上、お答えいたします。（「議長、５番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　５番。平田清吉議員。

○５番（平田清吉君）　現在も取り組み中の残り五つの項目は、いずれも大きな予算と施策実施の成果把握に大きな時間を要することから、施策の完遂については困難を伴うところがあるかとは思いますが、便利で住みやすいふるさと定住都市ひとよしづくりのため、さらなる御尽力をお願いしたいと思います。また、本期間中には完了するということで努めていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

続きまして２回目、市長のローカルマニフェストの都市基盤・建設項目において、具体的な取り組み内容については詳しく伺っておりませんが、第５次人吉市総合計画のまちづくりの政策戦略第５における都市基盤・建設の基本計画（施策）のうちの３番、生活道路の整備と生活交通の確保の項目における生活道路の整備についてお尋ねいたします。現在、市が市道として認定している路線は635本。その市道路線の生活道路を見てみますと道路の幅員や設置環境、設置場所等の状況によりまして、道路側溝が敷設されているところと敷設されていないところが市内各所に見られます。しかもその敷設されている道路側溝には、これもまた側溝ふたが設置されているところとされていないところが随所に見られます。道路側溝の敷設の状況においては、敷設年数の経過とともに道路周辺の住宅環境が変わり、住宅庭や駐

車場スペースの舗装化、そして道路面の完全舗装化や宅地化による稲作地や畑作地の減少といった時代の変化と、近年の降雨量の増加によりまして旧態依然の道路側溝の断面が現在の雨量に合わず、しかも突然の集中豪雨や梅雨どき並びに台風シーズンともなりますと、側溝に流れ込む雨水が側溝からあふれ出す状態となり、多くの雨水が路面上を流れたり敷地内に流れ込むという、住民にとって危険を感じさせる状態になるところが市内各所に見られるようになりました。また、道路側溝に設置されたふたが、車が通るたびにがたつき音を発生させ、周辺地域住民への騒音の元凶となっているところも数多く見られます。このがたつき音は、道路の側溝自体の施設年数、経過による経年劣化の傷みと変形、そして多くの車両通行による破損にも原因があると考えられますが、この生活道路の整備や維持修理を進めること、また、道路側溝の敷設や維持修理並びに側溝ふたの設置や側溝ふたの維持修理を進めていくことは、人吉市における安全・安心のまちづくり、そして便利で住みやすいふるさと定住都市ひとよしをつくるための基盤であり、さらに快適で利便性の高いまちづくりにつながるものと確信しております。また、市道認定路線は古くから市民の生活道路として活用されており、道路の幅員が４メーターにも満たない道路が数多く存在していることは皆さん周知のことと思います。また、ある市道生活道路におきましては、普段の交通量が多く、しかも大型車両の通行も多いことから短期間で路面の傷みが激しくなるところや、交通量は少ないが道路設置から多くの歳月を経過しているため経年劣化が激しく、路面の傷みが激しくなっているところも市内各所に点在しております。

そこで、この市道生活道路の修理舗装や修繕舗装の工事のときに、道路側溝の修理整備工事も並行して進行できないかお尋ねいたします。

○建設部長（中村明公君）　お答えいたします。

道路側溝につきましては、市内各所の市道においてふたなし、破損、欠落等が見られます。また、側溝本体の損傷個所が存在することも認識しているところでございます。舗装工事に並行して側溝の改良ができないかということでございますが、現在人吉市で行っている舗装修繕工事は、社会資本整備総合交付金事業、いわゆる補助工事で事業を進めております。側溝整備は補助の対象外となっておりますことから、道路側溝の改修を並行して行うということになりますと、市の単独予算として対応することとなりますので、予算の関係上どうしても同時施工は非常に厳しいものがあるというふうに考えておるところでございます。道路側溝の改修及び修繕につきましては、要望も多くいただいておりまして、なかなか御要望にこたえていないのが現状でございます。現在、改修及び修理につきましては、ふたをかぶせる方法、新しく入れかえる方法、また、がたつきによる騒音にはゴム製の緩衝材で対応する場合もございます。側溝ふた及び本体の損傷程度、路面の状況、幅員、交通量等いわゆる現地状況により施工方法を決定し、工事を行っているところでございます。

以上、お答えいたします。（「議長、５番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　５番。平田清吉議員。

○５番（平田清吉君）　ただいま建設部長から答弁がありましたとおり、この道路側溝ふたのがたつきによる騒音や側溝ふたの破損対応につきましては、現在道路河川課への通報、連絡により、迅速にとはいきませんけども、がたつき騒音の軽減を図っていただいております。また、破損した側溝ふたにつきましても、少しは時間かかりますけども交換修理等の対応をしていただいております。本当に助かっております。しかし、いずれも根本的な修理改修には結びついていないのが現状であります。道路側溝自体の年数経過による老朽化対策については、大きな予算が伴うことは十分に理解しておりますが、遅々として進んでいない感があります。市民の安全・安心のまちづくりのためにもさらなる御尽力をお願いするとともに、期待していきたいと思っております。

続きまして３回目、道路側溝の老朽化の進んだ箇所に限って側溝内には多くの土砂が堆積し、夏ともなると雑草が繁茂して側溝から顔を出し、降水時には排水の阻害となり市民の安全を脅かす要因ともなっております。側溝本来の役割がなされていない箇所、これが市内各所に見られます。このように道路側溝内に堆積した土砂のしゅんせつや除去について、今後どのように対処していこうと考えておられるのかお尋ねいたします。

○建設部長（中村明公君）　お答えいたします。

道路側溝内の土砂堆積物のしゅんせつにつきましては、多くの町内からの要望もございまして、対応に苦慮しているのが現状でございます。現在は、山間部の道路で土砂等の堆積により側溝が閉塞し災害の発生のおそれがあることから、道路の災害が予測される箇所を重点的にしゅんせつを行っているため、市内の側溝しゅんせつが御要望どおり対応できていないのが現状でございます。以前は地元町内会でも側溝のしゅんせつを行っていただいていた町内もございましたが、最近では高齢化により掃除等もできなくなったのでお願いをしたいと、そういったことも聞かれ、市への要望がふえてきております。予算の都合等もありますことからお時間をいただきまして、御要望があった場合は直ちに現場の調査を行い、土砂堆積量の確認を行いまして、側溝の余裕断面等を調査するとともに、周辺の住宅等に与える影響や通行車両の交通に与える影響を確認し、早急な対応が必要な箇所につきましては、土砂等のしゅんせつを行っているところでございます。側溝の土砂しゅんせつは、延長が長く堆積土砂の量が多い場合は、当然業者の方にお願いすることとなりますので予算措置が必要になり、前もっての予算の確保も非常に難しいということでございまして、現場を確認した後で、予算の要求を行うために対応に時間を要している状況でございます。当然職員で対応できる場合は、職員で時間を調整し対応するように心がけております。

以上、お答えいたします。（「議長、５番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　５番。平田清吉議員。

○５番（平田清吉君）　人吉市の高齢化も30％を超える時代になりまして、地域住民で対応で

きない状況にあります。便利で住みやすいふるさと定住都市ひとよしづくりを目指すには、市道生活道路の道路側溝の修理整備におきましても、常に現状維持的修理整備が最善であるとの考え方による路面及び側溝修理整備に傾注するのではなく、地元住民が要望しているまちづくりに合った道路の修理整備を心がけるとともに、常に市民への安全・安心のまちづくりの提供を目指して、最善な修理整備に当たっていただきたいと願っております。

続きまして２点目ですが、市長の施政方針の中で、現在新たな組織機構改革による機動性の高い組織づくりに着手されており、本年４月１日から一部部課等の統合再編を行いスタートさせると述べておられます。今回の統合再編に当たっては、市長公室と総務部及び建設部が大きく改編されようとしていますが、これは平成24年度から８年間かけて現行職員342人体制から26人減の316人体制とする人吉市第３次定員適正化計画に伴うものの一環でもあるのでしょうか。その中で現行地域生活課を総務部防災安全課に改め、危機管理室を一つの部屋にすると述べられたように記憶しております。そこで第１回目、組織機構改革により本年４月１日から設置される総務部防災安全課の分掌事務または所掌事務についてお尋ねいたします。

○総務部長（坂崎博憲君）　皆様、こんにちは。それでは新たな組織機構改革についての御質問についてお答えをさせていただきます。

組織機構改革により、25年本年の４月１日から設置される予定の総務部防災安全課の分掌事務についての御質問でございます。現在の危機管理係を課に昇格させ、防災安全課と名称変更し業務に当たることといたしております。独立した課とすることで消防、防災、交通安全、国民保護などにより特化をした体制で取り組み、機動性の高い組織として防災体制の充実強化を図ることをいたしております。防災安全課の執務室につきましては、３階に移設することといたしておりまして、４月から運行開始予定の防災行政無線の無線室を３階に設置をすることといたしておりますので、これは旧監査事務局でございます。その同室の隣接スペースに執務室を設置することといたしております。

そこで分掌事務でございますが、現在の危機管理係の業務をそのまま新組織に引き継ぐことといたしております。消防団に関すること、災害対策及び水防対策の総括に関すること、防災無線に関すること、国民保護に関すること、樋門樋管に関すること、自衛官募集事務に関すること、防犯活動及び暴力追放に関すること、交通安全対策に関すること、危機管理計画に関することなどでございます。

以上、お答えいたします。（「議長、５番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　５番。平田清吉議員。

○５番（平田清吉君）　私の記憶違いで大変失礼いたしました。危機管理室なるものを単独に設けるのではなく、総務部防災安全課そのもの一課を庁舎３階の一室に設けられるということで、よくわかりました。

続きまして第２回目、総務部防災安全課における所掌事務の中に、危機管理計画に関することを事務とするという説明でありましたが、本市におきましてはこの危機管理計画書なるものを策定されておられるのでしょうか、お尋ねいたします。

○総務部長（坂崎博憲君）　危機管理計画の策定についてお答えをさせていただきます。

危機管理計画の策定については、現在策定をいたしてはおりません。本市の場合、総合的に危機管理に対応する行動計画等を定めた、今申し上げました危機管理計画は策定をしておりませんが、より具体的に各種災害等に対応した個別の計画を策定をし対応に当たっているところでございます。まず、地震災害や風水害、原子力災害に対応し、災害発生時の職員の参集基準や住民の避難収容の計画、大規模地震が発生した場合の行動マニュアルなどを掲載した人吉市地域防災計画や人吉市水防計画、また国民保護法に基づき武力攻撃や大規模テロ等の武力攻撃事態等が発生した場合、住民の避難や救援等を的確かつ迅速に実施するために策定しました国民保護計画等の行動計画書で対応をすることといたしているところでございます。また、今議会には新型インフルエンザのパンデミックに対応する条例案も御提案を申し上げているところでございます。今後におきまして、住民の生命、身体、財産を保護することを目的として、予期せぬ危機の発生等に的確に対応するために個々の計画を総合的かつ計画的に行うよう整備を図ってまいりたいというふうに考えているところでございます。

以上、お答えいたします。

○議長（永山芳宏君）　ここで会議時間を延長いたします。（「議長、５番」と呼ぶ者あり）

５番。平田清吉議員。

○５番（平田清吉君）　本市におきましては、まだ危機管理計画書なるものは策定されていない、個別の行動マニュアルにおいて対応されているとのことでよくわかりました。

続きまして３回目、本市におきましては、今後この危機管理計画書なるものを策定される意思があるのでしょうか。もし仮に本市におきまして、今後この危機管理計画書なるものを策定し危機管理に当たる、また高度な危機管理体制を構築しようとするためには、自衛隊、警察、消防関係者等で危機管理の経験者を危機管理専門員として委嘱、雇用して、出身関係機関との連絡を密にし、災害時の協力関係を高めていくことも重要であると考えております。危機管理専門員を配置される考えはないかお尋ねいたします。

○総務部長（坂崎博憲君）　お答えいたします。

危機管理計画書の整備については、今後検討してまいりたいというふうに考えているところでございます。

今後、危機管理に当たる防災専門員を活用することについての御質問でございますが、人吉市地域防災計画並びに水防計画等の策定に当たりましては、現在も気象庁の専門官、国土交通省、県、警察や消防署等の関係者の方に御協議をお願いし、情報の提供や御支援を受けながら計画書の策定をいたしているところでございます。また、大規模地震等あらゆる災害

に対応したより高度な危機管理体制が必要となることから、職員へのより専門的な知識を取得するための研修の実施等人材育成も重要であると認識をいたしておりまして、各種研修会へ職員を派遣しているところでもございます。防災アドバイザーとしての危機管理専門員の配置につきましては、必要性は感じておりますけれども人材確保の困難さの面、配置体制や予算面等課題もございますので、現在のところはまだ配置は予定していないところでございます。今後必要に応じ、検討してまいりたいというふうに存じます。

以上、お答えいたします。（「議長、５番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　５番。平田清吉議員。

○５番（平田清吉君）　昨今の地球環境の悪化により、世界中想像もつかない大規模災害が発生し、発生する可能性が高くなってきております。しかも今やあらゆる災害において、決して想定外との言葉は使えなくなってきております。ましてや近年日本でも北海道南西沖地震、阪神・淡路大地震、新潟県中越大地震、岩手・宮城内陸地震、そして東日本大震災、また鹿児島南部、紀伊半島中部、北部九州阿蘇地方の大規模土砂災害等々大きな災害が発生しております。皆さんもよく御存じのとおり、災害を受けた地区の復旧は遅々として進まず、復興・復旧には10年以上要することもあります。言うまでもなく、亡くなった方々のとうとい命は二度と返りません。ましてや二度と被災前と同じ生活には戻れないのです。大きな市債を背負うことになるかもしれません。そして何よりも多くの人吉市民の命を失うかもしれません。また昨今では、国を越えた大気汚染問題も発生しております。これら災害に対するためにはあらゆる状況を想定して市民の命や健康だけは守れるように、市民の危機管理意識を高揚させ、危機管理体制を構築しておく必要があると確信しております。そのためには危機管理に対する人材の確保が必要であり、人材の育成が重要であると考えます。定員適正化計画に抵触するかもしれませんが、機動性の高い組織づくりのためにもぜひ危機管理専門員の委嘱配置の一考をお願いしておきたいと思います。

最後になりましたが、今月をもちまして定年退職される皆様、本当に御苦労さまでした。退職したからと安心されることなく健康には十分注意されまして、さらに市政の発展のために御助言賜りまして、いつまでも御活躍くださいますようお祈り申し上げます。

以上をもちまして、私の一般質問を終わります。

○議長（永山芳宏君）　ここで暫時休憩いたします。

午後３時58分　休憩

午後４時14分　開議

○議長（永山芳宏君）　休憩前に引き続き再開いたします。（「議長、15番」と呼ぶ者あり）

15番。仲村勝治議員。

○15番（仲村勝治君）（登壇）　15番議員の仲村勝治です。通告に従いまして、一般質問いた

します。

まず行政改革より、定員管理について、組織機構について。市民の声より、お城の石垣にイルミネーションを、新聞報道についての順により質問いたします。

平成24年３月人吉市第３次定員適正化計画が策定されました。この計画は平成24年から平成31年度までの定員削減計画であります。この計画の中に、第２次定員適正化計画の実績が記載されています。第２次定員適正化計画の定員削減については、国の新地方行革指針に基づいて実施されました集中改革プラン、平成17年度から平成21年度までの期間と重なる年度でございます。平成16年度から平成22年度の期間の削減計画では、退職者数70人に対し採用者数30人で、削減数は40人であります。実績では退職者数82人に対し採用者数39人と、削減数は43人であります。この削減数は、学校給食の調理業務の民間委託、学校用務員の退職者不補充、施設の指定管理者制度の導入等により達成したとあります。定員適正化計画では職員数は三つの分野に分かれます。一つは一般行政職、もう一つは特別行政職であります教育、それに公営企業等に区分されます。第２次定員適正化計画では、特別行政の教育関係の職員数の削減が多いと思います。一般行政職の職員削減はされたのか、平成17年から平成24年までの一般行政職員数をお尋ねいたします。

人吉市第３次定員適正化計画では、目標年の平成32年４月の一般行政職員数は228人を目標とされています。平成32年の人吉市の人口推計は３万2,380人であります。熊本県内の類似団体で一般行政職員数を比較いたしますと、平成24年４月の時点で、宇土市182人、人吉市250人、差は68人で宇土市のほうが少のうございます。住民基本台帳人口での比較では、平成24年６月の時点で宇土市３万8,065人、人吉市が３万5,252人であります。人口の多い都市の一般行政職員数が人吉市より少ない、この原因は何なのかお尋ねいたします。

○総務部長（坂崎博憲君）　それでは、定員管理についての御質問にお答えをさせていただきます。

教育部門と地方公営企業等を除く平成17年度以降の一般行政の職員数でございます。平成17年度261人、18年度261人、19年度257人、20年度252人、21年度253人、22年度249人、23年度250人、24年度250人と推移をして、17年度と24年度の比較において11人の削減となっております。なお、議員御指摘のとおり、教育部門におきましては17年度の62人から平成24年度の41人と、一般行政より多い21人の削減となっておりますが、このことについては学校給食センターの民間委託、スポーツパレスへの指定管理者導入、学校職員等の非常勤職員化などによるものでございます。

また、本市と類似団体でもございます宇土市との比較ということでございますが、平成24年４月１日現在で宇土市の一般行政職員数は182人でございます。宇土市との比較において本市は68人上回っている状態でございます。その理由ということでございますが、厳密には専門的かつ詳細な分析が必要かと存じております。今回は宇土市に直接お尋ねした結果と、

現時点で把握できる定員管理、調査のデータなどに基づいてお答えをできる範囲での御答弁とさせていただきたいというふうに存じます。宇土市におかれましては厳しい財政状況の中、昭和50年代から現在まで継続して行財政改革に取り組まれておりまして、昭和57年４月１日現在で424人であった職員数が、30年後の平成24年度には266人となっております。約37％の削減となっているところでございます。中でもここ10年間では17％を超える大幅な削減を行っておられ、類似団体と比較すれば大幅に少ない状況でございます。この間職員採用等を抑制するとともに、平成６年から民間委託の推進や保育園等の民営化、勧奨退職制度の実施、機構の見直しに取り組まれておりまして、平成17年度からの集中改革プランの期間中においても公共施設への指定管理者制度の導入等に取り組んでこられたとのことでございます。また、その間人口は人吉より逆に３万3,000人台から3万8,000人台へと増加をしており、相対的にも人口当たりの職員数が少ない自治体となったということでございます。また、もともと職員数が少ないという前提に立って、早くから人材育成、職員研修にも力を入れているとのことでございまして、自治大学校の長期研修にも毎年複数の職員を派遣しているとのことでございました。同時に民間委託、民営化への取り組みも早く、業務改善にも継続して取り組んできたところでございまして、人員をかけずに運営できる仕組みができているとのことでございました。

これらを踏まえて宇土市が本市と比較して職員数が少ない理由を考えてみますと、本市が定員適正化計画のもと本格的に定数削減に取り組み始めたのは平成９年以降でございまして、昭和50年代から取り組まれている宇土市とは既にスタート時点で10年以上の開きがあること、また現在に至るまで途切れることなく数次にわたる定員適正化計画を策定され、継続的かつ厳正に実行されてきたこと、さらには定員削減と並行して機構の見直し、業務の改善、人材育成に資する人事研修制度の改革に積極的に取り組まれてきたことなどが挙げられるのではないかと考えているところでございます。

以上、お答えいたします。（「議長、15番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　15番。仲村勝治議員。

○15番（仲村勝治君）　２回目の質問に入ります。人吉市第３次定員適正化計画の今後の退職、採用計画の８年間、前期計画では退職者数26人、採用者数が16人、後期計画では退職者数が38人、採用者数が22人、前期と後期合計で退職者数は64人、採用者数が38人でございます。削減率が7.6％、26人の削減でございます。これは市長が施政方針で述べた26人と思います。人吉市第２次定員適正化計画では退職者数が70人で、採用者数が30人の計画でございました。第２次と第３次を比較するとどうして第３次の計画書のほうが採用者数が多いのか。今後の財政規模の縮小が厳しく予想される中、市の組織機構の改革、事務事業の見直し、整理するなどをして採用者数を少なくするべきと思うが、第２次計画と第３次計画では採用者数が増加している、その増加していることですね。それは私は採用者数は少なくしたほうがいいと

は思っていますが、人吉市は公的な施設が少なくなっています。「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・」大体公的な施設がなくなってございますが、一定の公務員は必要だと思っております。今回の第３次定員適正化計画で採用者数を退職者数の半分としたその根拠は何なのかお尋ねいたしたいと思います。

○総務部長（坂崎博憲君）　それでは、理由の根拠についてということでございます。

定員適正化計画における年度ごとの採用者数についてでございますが、本計画は８年間の長期計画の中で削減しておりまして、基本方針の中で将来にわたって職員の年齢構成のバランスを確保するために期間中も新規採用を継続することといたしておりますので、期間を通した退職者数に対する削減数を考慮しながら、年度ごとに採用職員数を平準化していくことといたしているところでございます。具体的には全部の期間において採用を毎年４人程度とすることを原則といたしまして、同時に職場環境の激減緩和のために単年度当たりの削減数もできるだけ平準化したいと考えているところでございます。その観点から今後の退職者数、退職者見込み数を見てみますと、平成29年３月末の定年退職者数が16人と突出して多く、それ以外はおおむね４人から９人で推移をしていく予定でございます。ついては、期間中最も退職者が多い平成29年だけは採用予定者を例年よりふやして10人とすることにより、激減による職員の負担の軽減を図ってまいりたいと考えております。

以上、お答え申し上げます。（「議長、15番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　15番。仲村勝治議員。

○15番（仲村勝治君）　第２次定員適正化計画では平均６名が基本だったと思います。今回の第３次は４人ということなんですが、それで激減を緩和していくということですが、途中でほかの事情があった場合にはこの計画の見直しちゅうとも考えますから、そこのところをよろしくお願いしておきたいと思います。

それでは次に入ります。人吉市の適正な職員数について質問いたします。一般行政職員数の適正な数は非常に難しい問題と思います。少ないほうが住民にとっては人件費がかからずいいに決まっています。しかし、専門性がなくなる可能性があります。財政が危機的状況になるとみずからも身を削る努力を示さないと、住民の納得は得られないと思います。厳しい定員削減を進めないと赤字団体になる可能性もございます。そして住民の負担が増加する可能性もあります。2035年の人吉市の人口は約２万6,000人と推計されております。この人口２万6,000人の適正な一般行政職員数、これはどれくらいと考えられておりますか、お尋ねいたします。

○総務部長（坂崎博憲君）　将来の適正な職員数というお尋ねでございます。

現在の定員適正化計画の目標値は、簡素な指数であり指標の意味がつかみやすく、小部門別の細かい比較が可能である類似団体別職員数を参考指標として採用しているところでございます。したがいまして、目標値を計算する算式などには推計人口の数値等は入っておりま

せんが、国立社会保障人口問題研究所が公表しております将来推計人口などの予測をもとに、本市においても人口減少傾向にあるとの前提で職員も削減する計画を策定しておりますので、そのことを踏まえて適正な職員数について御答弁をさせていただきたいと存じます。ただし、2035年人口２万6,000人の時代における適正な職員数を推計することは、私どもが現在持ち合わせております材料では非常に困難でございます。ついては、現時点での人口１万人当たりの教育部門と地方公営企業等を除く一般行政職員数を活用して、参考となる数値をお示しすることによって御答弁にかえさせていただきたいというふうに存じます。

本市の直近のデータである23年４月１日現在の人口１万人当たり、先ほど申し上げました教育部門と地方公営企業等を除く一般行政職員数は71.13人でございます。人口に対する職員数を現行の水準で維持したと仮定すれば、2035年人口２万6,419人の場合の職員数は188人となります。よって、将来において当該年度にこれを超えることがないように、削減計画を立てる必要があるのではないかと推測をいたしております。ちなみに、今回の定員適正化計画によりますと、計画終了します平成32年４月１日、つまり2020年時点での一般行政職員数の見込み数は228人でございます。これを当該年の将来推計人口３万2,380人で割りますと、除しますと、１万人当たりでは70.41人となります。この数字は現在の水準でございます71.13人を下回っておりますので、人口を見据えた削減計画として今回の定員適正化計画は妥当なものと判断しているところでございます。

以上、お答えいたします。（「議長、15番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　15番。仲村勝治議員。

○15番（仲村勝治君）　はい、わかりました。

その次の、人吉市の定員回帰指標について質問をさせていただきます。地方公共団体の定員管理について参考となる指標が二つございます。一つは類似団体の職員数でございます。もう一つは定員回帰指標でございます。類似団体の指標は常に比較に出てきますが、定員回帰指標はどういった指標なのか、この指標を人吉市は利用されたことがあるのかお尋ねいたします。

○総務部長（坂崎博憲君）　定員回帰指標についてのお尋ねでございます。

定員管理の推進に当たっては、市民の方々への説明責任の観点からも、客観的な参考指標の比較が必要であることは間違いがなく、今後とも参考指標を活用した定員管理の状況の公表について検討していく必要がございます。これらの参考指標といたしましては、総務省から提供される定員回帰指標、類似団体別職員数の２種類がございます。議員お尋ねの定員回帰指標とは、人口、面積による多重回帰分析により回帰方程式を求め、平均的な職員数をあらわす指標のことでございます。この定員回帰指標は平成20年度から提供されておりましたが、平成23年度から総務省の研究会において見直しをされることとなりまして、現在は道府県だけに提供がなされておりまして、本市を含む一般市においては平成22年度を最後に、計

算に必要な人口、面積などの係数の提供もなされておらず、本市の参考指標として定員回帰指標を活用できない状況にございます。したがいまして、平成24年３月に策定した現在の第３次定員適正化計画の中では、定員回帰指標を参考指標としては採用をせず、類似団体別職員数を参考指標として採用しているところでございます。

以上、お答えいたします。（「議長、15番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　15番。仲村勝治議員。

○15番（仲村勝治君）　私はこの定員回帰指標は人口と面積だけではじくということですから、大体ほかの比較ができるかなという感じがしてましたが、今の回答で指標を総務省が出さないということですから、いたし方ないと思います。

それでは、次の職員の人事評価について質問いたします。平成24年度の人事行政の運営等の状況の公表に、平成23年度の勤務評定の状況が表にされております。評定項目は能力評価、評定時期は毎年12月、活用分野として人材育成、昇任、配置とあります。部長から一般職まですべて能力評価となっております。人事評価には能力評価と業績評価があります。これに採用時の特別評価というのもございますそうですが、この能力評価と業績評価の内容、人吉市はどうして能力評価しか採用していないのか、その理由は何かお尋ねいたします。

○総務部長（坂崎博憲君）　人事評価のお尋ねについてお答えをさせていただきます。

本市の人事評価制度における能力評価と業績評価について、まず御説明をいたします。能力評価とは実際の業務で発揮された能力を評価するものでございまして、職位ごとに職務遂行に必要な能力を定義し、これらの能力が実際の業務でどのように発揮されたかを評価いたします。能力に基づく実際の行動を評価基準として定めるために、評価基準自体が行動指標を目標として活用できるものでございます。また、職務行動を評価することから、努力したプロセスを評価することができるわけでございます。次に、実績評価とは、組織目標から引き出したみずからの目標の達成度を評価するものでございまして、組織の全体目標に基づいて達成すべき個人目標をみずから策定し設定を行い、その達成度を評価いたします。上からのノルマではなく、自分自身で目標を設定することでやる気を引き出し、また、目標設定や評価の過程で、上司である評価者と部下である被評価者とのコミュニケーションによる組織の活性化を図るものでございます。

能力評価の内容につきましては、評価対象は部長、課長等の管理職、課長補佐、係長等の監督職、主席、主任、主事等の一般職の３職位でございます。評価は１次評価、２次評価の２段階といたしておりまして、それぞれの被評価者に応じて評価者が行います。一般職の場合は、１次評価者が課長、２次評価者が部長となっております。評価期間は年１回とし、その期間は４月１日から翌年の３月31日まででございます。実施基準日は12月１日としておりまして、基準日以降につきましてはその修正が必要な場合に限り評価の修正を行うことといたしております。評価に当たっては、着眼点に定める行動例の発揮頻度について評価基準に

基づき、Ｓ、Ａ、Ｂ、Ｃの４段階で評価した上でそれぞれに配分された評点を合計することによって合計評点の算出を行います。これは100点満点でございます。また、この人事評価制度は人材育成を主たる目的としておりますので、評価結果については面談の上、被評価者に通知をし、その弱み、強みを伝え、長所を伸ばし短所を補うための助言指導をあわせて行うことといたしております。評価項目は８項目ございまして、一般職では組織活性化、企画・計画、改革・改善、実践・行動、対人関係、向上心・積極性、知識・専門性、公務員倫理となっております。監督職の場合はこれらの項目から公務員倫理を除き、組織管理が新たに加わり、さらに管理職の場合はそこから知識・専門性を除き、行政経営が新たに加わるというものでございます。

次に、なぜ業績評価を実施していないのかとのお尋ねでございますけれども、本市の評価制度は能力評価と実績評価の２本立てといたしており、18年度から能力評価を先行して実施してまいりました。当初は実績評価を19年度以降に導入することといたしておりましたけれども、施行に当たっての研修等の中で、組織目標を設定する前提としてマニフェストと整合性がとれていない総合計画や行政改革大綱など、上位計画の行政経営のビジョンが整備されていないと現場の混乱を招くと判断いたしましたので、これらの整備を待って導入することといたしております。総合計画につきましては平成24年度に、新行政改革大綱につきましては平成25年度から施行されますので、業績評価につきましても平成25年度から試行導入を図ってまいりたいと考えているところでございます。

以上、お答えいたします。（「議長、15番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　15番。仲村勝治議員。

○15番（仲村勝治君）　25年度から導入予定ということですが、その前に新任課長に対して人事評価制度の研修が毎年行われていると思いますが、この研修内容はどういったことか、今言われたところを課長研修するわけですか。ちょっとお尋ねいたします。

○総務部長（坂崎博憲君）　現在行っている人事評価の研修はどういうものかというお尋ねについてお答えをさせていただきます。

評価者研修は、評価の注意点に対する説明の後は、評価者同士で実際の体験を検討していくワークショップ形式で実施をいたしております。身近な事例でお互いにケーススタディを重ねるしか共通認識を培う方法はないのではないかとの考え方からでございます。このことにより新任課長から経験豊富な部長職までが、垣根を越えて話し合い、知恵や経験が相互に共有され、また新たな気づきや実践が創造されることを期待しているところでございます。人事評価や人材育成はあくまでも人が行うものでございますので、人と人との相互作用で成り立つものと考えております。このような取り組みを通して知恵や経験が人から人へ伝わり組織内に蓄積されることで、よりよい評価制度となることを目指しているところでございます。

以上、お答えいたします。（「議長、15番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　15番。仲村勝治議員。

○15番（仲村勝治君）　それでは人事評価について、国家公務員法等の一部を改正する法律が平成19年７月６日に公布され、平成21年４月１日に施行されたとあります。この法律は、人事評価に関し能力及び実績に基づく適正な人事評価を行うとされておりますが、国はこれを実施していると思いますが、人吉市においてもこの人事評価方法を国に準じて行う予定があるのかお尋ねしておきたいと思います。

○総務部長（坂崎博憲君）　人吉市の評価制度自体は育てる、育成のほうに現在のところは力を入れているところでございます。今後国の、必要があればそういうものも流れとしてはなっていくものとは思いますけども、今のところはまだそういう状況にはないということでございます。（「議長、15番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　15番。仲村勝治議員。

○15番（仲村勝治君）　人事評価は非常に大事なものでございますから、この国が取り入れている評価制度、国に準じて地方も取り入れるべきではないかと思いますので、よろしくお願いしておきたいと思います。

それでは、次の組織機構についてお尋ねしていきたいと思います。広域連携の考えについてでございますが、10年余りにわたった平成の大合併が一段落した現在、合併しなかった人吉球磨の自治体は人口減少、税収減等により厳しい財政環境になったと思います。合併した自治体は総務省が進める定住自立圏により、地域の連携、協力により人口の定住が進むと思われます。人吉球磨の自治体は、職員の減少、事務事業の増加にどう対処するのか、住民にとっても重要な問題であります。これまで国は広域行政、一部事務組合等の活用を推進してきました。人吉球磨にも二つの事務組合、一つの広域行政組合があります。広域的な視点から、今後の人吉球磨の自治体間の事務がどういう方向で進むのかお尋ねいたします。

○総務部長（坂崎博憲君）　広域連携についての考え方についてお答えをさせていただきます。

国におきましては、平成23年５月に公布をされ８月に施行されました地方自治法改正により機能的な共同処理方式の一つでございます行政機関等の共同設置について、その対象が地方自治体の内部組織、行政機関及び事務局等にも拡充をされたところでございます。この機能的な共同処理方式とは、別な法人をつくらない広域連携の方式でございます。地方自治法上の共同処理の制度には、別法人を設置する一部事務組合及び広域連合、別法人をつくらない協議会、行政機関等の共同設置及び事務の委託の５種類がございます。ここでいいますところの機能的な共同処理方式とは、別法人をつくらない３種類のことでございます。また、この法律改正に先立ち総務省において平成21年に地方公共団体における事務の共同処理の改革に関する研究会が設置され、報告書をまとめられております。これによりますと、市町村は住民に最も身近な総合的な行政主体として、これにふさわしい十分な権限と財政基盤を有

し、高度化する行政事務に的確に対処できる能力を有することが求められているというふうにされております。今後の事務処理のあり方を考えた場合、市町村の多様性を前提に、各市町村がみずからの課題に適切に対処できるようにしていく必要がございます。その際の選択肢の一つとして共同処理方式による広域連携が考えられますが、地方公共団体のニーズを踏まえながら、その仕組みが一層活用される方式を検討し、自治体組織の強化、効率化を図ることが重要とされているところでございます。また、この報告書では、共同処理方式に適した事務について整理がなされております。具体的に申し上げますと、事務処理の中で事務内容の定型性が大きい分野でございまして、税務（特に滞納整理、固定資産評価）電算システム、会計管理・出納、選挙管理委員会事務局、監査委員事務局、生活保護、国保・介護保険（事務）、農業委員会事務局、土木（設計・積算・検査）（維持管理）、入札・契約、物品調達、庁舎管理、公園管理、公営住宅、国土調査（これは地籍調査でございます）、各種調査・統計、教育委員会事務局（学校教育、文化財でございます）、都道府県からの移譲事務（開発許可とか特養ホーム指導監督等でございます）、広域観光などが挙げられております。次に、対人サービスの中で事務内容の定型性が大きい分野では、消費生活センター、保健（これは相談・健診・健康指導等でございます）、地域包括支援センター、小学校・中学校、保育所、配偶者暴力相談支援センターなどが挙げられております。また、県におかれましても国の流れに準じまして、本年度市町村間の広域連携の検討を支援するために、熊本県市町村広域連携支援補助金を制定されたところでございます。この内容につきましては、広域連携の先進地の調査、アドバイザーの招致、広域連携実施計画作成のための調査等に係る費用について、25万円を限度として２分の１の補助を当該市町村等または当該市町村等のうち補助対象事業に係る事務局を担当する市町村等に補助されることとなっております。今後はこの制度を活用しながら、さらなる人吉球磨の広域連携のあり方を勉強してまいりたいというふうに存じております。

以上、お答えいたします。（「議長、15番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　15番。仲村勝治議員。

○15番（仲村勝治君）　機能的な共同処理方式の方法が大体わかりましたが、農業委員会ということを話されましたが、農業委員会は公選が入るからちょっと難しいのではないのかなという感じが私は今しました。これはしっかりとまだ勉強してみないとわからないと思います。

それでは、次の協議会の設置についてお尋ねいたします。２月28日の新聞に掲載されました記事の協議会、この協議会は今言われた機能的な共同処理方式の協議会の中に入ると思うんですが、そのうちの任意の協議会、管理方式と普通の協議会方式があるんですが、そのうちの任意の協議会と思うんですが、その内容についてお尋ねいたします。

○総務部長（坂崎博憲君）　それでは、お答えいたします。

先日の新聞報道にありましたように、現在人吉球磨地域の広域連携による行政体制強化に

向け、昨年10月から県と一緒になりまして事務レベルの勉強会を実施しているところでございます。この中で先ほど御答弁いたしました事務の中から、税務、特に徴収事務、保健、これは健診相談などでございます、及び消費生活相談業務の３分野で、具体的な広域連携策について検討していくいことととし、去る２月12日人吉球磨広域行政組合定例理事会の後に、県の担当者から広域連携の内容説明が行われ、今後勉強会を開催していくことについて人吉球磨の市町村長の了承をいただいたところでございます。その際、市町村長からの意見といたしまして、公共工事の設計等に関する職員の能力アップに向けた取り組みもやってもらいたいとの御意見がございましたので、まずは税務、保健、消費生活の３分野で検討を進め、次の段階で工事設計等について検討することで了承をいただいたところでございます。また、今後のスケジュールにつきましては、平成25年度から各分野ごとの勉強会を実施していく予定でございますが、勉強会の実施方法といたしましては、できるだけ既存の任意協議会を活用し効率的に行っていくこととされております。したがいまして、現時点では広域連携に向けた勉強会を発足させていくということが了承された段階でございますので、いわゆる議決が必要な協議会を設置するような段階には至っていない状況でございます。今後この勉強会が発展し、将来的に共同処理を実際にやっていく段階になれば、当然このような協議会の設置という話になってくるのではないかというふうに考えているところでございます。

以上、お答えいたします。（「議長、15番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　15番。仲村勝治議員。

○15番（仲村勝治君）　組織機構の最後の定住自立圏についてでございますが、平成大合併後は先ほど言いました広域行政圏のあれを定住自立圏を推進する方向に総務省は切りかえたようでございます。それで、定住自立圏というのを質問に入れていたんですが、この定住自立圏は非常に中心市の人口規模が厳しくなかなか入れないようでございますので、人吉球磨ではこれは不可能と判断しましたので、この質問は省略させていただきます。

次の、市民の声に入りたいと思います。市民の声のお城の石垣にイルミネーションをということなんですが、鹿児島県湧水町の二渡集落のイルミネーションは、星のさんぽ道としてとても有名であり、見物する人も多いと聞いております。私はまだ見に行っていませんが、見に行った人の多くはとても感動したと言われます。人吉市でもぜひイルミネーションの見物ができるようなところをつくってほしいと話をされました。そこで、人吉城址は保存管理整備も終了し、今後は人吉城址の利用活用の時期に来たと考えます。現在人吉城址の照明、ライトアップは大手門、長塀、角櫓、水ノ手門がされています。水ノ手橋上流の石垣についてはまだライトアップの考えはないように思います。今回要望いたしますイルミネーションの照明は球磨川右岸の散歩道路、または球磨川発船場付近から見物できるような人吉城址、御下門の左側の石垣がちょうど見えるそうですが、この石垣に大型のイルミネーションの設置ができないかお尋ねいたします。

○経済部長（松田知良君）　お答えいたします。

議員御指摘のとおりクリスマスシーズン前後になりますと、各地のすばらしいイルミネーションの話題がテレビ等で放映され、インターネット上でも人気スポットのランキングなどが公開されております。近いところでは再春館製薬所など、有名なスポットになりますと地域内外から集客をできる素材となっております。確かにお城の石垣のイルミネーションを喜ばれる方もいらっしゃると思われますが、日本百名城に指定をされている人吉城跡に現代的なイルミネーションがふさわしいのか、あるいは施設やコケ等の周辺環境への影響はどうなのか、現在行っている石垣のライトアップと比較してどうなのかという問題点も浮上してまいりますので、十分な検討が必要だと考えます。それに、国指定の史跡でございますので、イルミネーションが一定期間にわたる施設になることが考えられることから、人吉城跡保存管理計画上どうなのかといった本質的な課題もあると存じます。

ただ、イルミネーションに限らず、市のじゅぐりっと博覧会等で取り組まれておりますまちあかり、日本百名城人吉お城まつりのたいまつ行列を初め、光のページェントは若者や女性を初め多くの人々に喜ばれるアイテムでございます。本市においても冬季シーズンになると、通り沿いの多くの御家庭や施設でイルミネーションを飾っていただき、冬の夜の風物詩ともなっておりありがたく思っているところでございます。今後は城跡に限らず、どの場所でどのような光の効果がふさわしいのか、あるいは美しいのかを含め、光の効果の利用、検討をしてまいりたいと存じます。

以上、お答えいたします。（「議長、15番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　15番。仲村勝治議員。

○15番（仲村勝治君）　鹿児島のほうは冬のイルミネーションですが、人吉は夏場の短期間にやったらいいんじゃないかという考えがございますが、これはおいおい検討していただくといたしまして、最後の新聞報道について市長にお尋ねしたいと思います。

「・・・・・」人吉新聞に報道されました人吉球磨クリーンプラザの監視型制御システムの開始式のあいさつについて、３点についてお尋ねしたいと思います。専門家を交えた検証、それからクリーンプラザのあるべき姿、施設の運用を検討検証するというあいさつがございました。これ、私は広域行政組合の議員ではございませんし、一般住民の人からこの新聞報道の内容を詳しく尋ねてくれということなもんですから。開始式のときには時間がなかったから十分な話はできなかったと思うんですが、今言った専門家を交えた検証というのはどういうことなのか、そういうあいさつの中での新聞記事を説明願いたいと思います。お尋ねいたしたいと思います。

○市長（田中信孝君）　お答えします。

まずもって、御質問の内容は人吉球磨クリーンプラザに関することでございまして、人吉球磨広域行政組合理事会代表理事として述べたことが新聞に掲載されたものであることを申

し添えておきたいと思います。

お答えします前に、人吉球磨クリーンプラザの現状ということで少し御説明をさせていただきます。クリーンプラザは平成14年12月の供用開始から、早いもので10年を経過したところでございます。この間、同施設は安全性に重きを置き、さらには公害防止協定を確実に遵守、極めて安定した運転を継続してきております。しかし、厳しい地方財政の状況と反比例するかのように、プラントを維持していくための管理費、さらには設備機器の補修費は年々増加、圏域の自治体の財政圧迫の要因ともなっていることも確かでございます。廃棄物処理施設は、施設を構成する設備機器や部材が高温多湿や腐食性雰囲気に暴露、さらには機械的な運動により摩耗していくことから、国の廃棄物処理施設長寿命化計画においては適時適正な方法で更新することが施設全体を合理的に延命化する重要な要素であるとされているものの、平成22年度から取り組んでおります５カ年大規模改修事業には多額の自治体の負担をお願いしているのもまた事実でございます。具体的な数値で申しますと、平成23年度一般会計23億2,000万円のうちクリーンプラザの管理運営に要する経費は約９億5,000万円でございます。これは予算全体の47％をクリーンプラザの管理運営費で占めているわけであります。じゃあ人吉市の負担は幾らかといいますと、この９億5,000万のうち４億5,000万円を負担いたしております。一般会計に占める割合はこの23億に対しまして41％にもなっているわけでございます。

私がＤＣＳの点火式で申し述べましたことは、要は将来の維持管理に要する経費については専門家による検証、意見を交えながら、最小の経費で最大の効果を出していくということをお伝えしたかった、その一点であります。これだけの多額の経費を要しているということを、やはり我々は行政に携わる首長といたしましても、理事会といたしましても専門家ではございませんので、専門家のやはり意見を、または調査を求めながらこの多額の費用を要する経費を１円でもやはり財政圧迫の要因とならないように経費削減に努めていくというのは、我々の当然のことではないかというふうに思っているところでございます。よって、この発言に対して、どのような意図で御質問されているのかわかりませんけれども、このことは組合、理事会、組合議会の総意であるということも申し添えさせていただきたいと思います。要は経費の削減、この一点であります。特に人吉市は４億5,000万円負担をしているわけでありまして、これを削減するということはやはり緊急的な課題でもあると。または、このごみ減量化に対して取り組む我々の大きな課題でもあるというふうにもとらまえているところでございます。その点をぜひ御理解をしていただきたいというふうに思うところであります。

以上、お答えします。（「議長、15番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　15番。仲村勝治議員。

○15番（仲村勝治君）　私、このクリーンプラザの質問するときに、ほとんど電子制御でされているところですよね。電子制御されているところは電源が不足した場合はほとんど使い物

にならないと思うんですが、故障したときも使われなくなるか、そういう危機的な管理についてはそこのところも十分検討していただくようにお願いして、私の一般質問を終わりたいと思います。よろしくお願いしておきます。

○議長（永山芳宏君）　いいですか。

○15番（仲村勝治君）　電子制御装置の今回は交換だったんですよね。修理、パソコン等、新聞記事によるとですね。その電子機器が故障した場合、機械全体がとまってしまうような状態になるから、そういう状況も検討の中に入れて考えてみてほしいということなんです。今、新聞報道とはちょっと違うんですが。というところで私の質問は終わりたいと思います。

○議長（永山芳宏君）　質問の趣旨がわからなくなってるんじゃないですか。

○15番（仲村勝治君）　今のは、今の最後のほうの危機管理のところは私の要望でございまして、質問はさきの新聞報道が主でございまして、今の市長の説明で十分でございますので、ありがとうございました。よくわかりました。あとのことは私の要望でございますので、よろしくお願いします。

これで私の一般質問は終わりたいと思います。

○議長（永山芳宏君）　以上で本日の議事は全部終了いたしました。

本日は、これをもって散会いたします。

午後５時14分　散会

平成25年３月第１回人吉市議会定例会会議録（第４号）

平成25年３月７日　木曜日

１．議事日程第４号

平成25年３月７日　午前10時　開議

日程第１　一般質問

１．松　岡　隼　人　君

２．三　倉　美千子　君

３．宮　﨑　　保　君

４．笹　山　欣　悟　君

２．本日の会議に付した事件

・追加日程

議第45号　平成24年度人吉市一般会計補正予算（第７号）

議第46号　平成24年度人吉市公共下水道事業特別会計補正予算（第４号）

議第47号　平成25年度人吉市一般会計補正予算（第１号）

議第48号　平成25年度人吉市水道事業特別会計補正予算（第１号）

議第49号　人吉市職員の退職手当の支給に関する条例等の一部を改正する条例の制定について

・議事日程のとおり

３．出席議員（18名）

１番　　宮　﨑　　保　君

２番　　高　瀬　堅　一　君

３番　　村　口　　隆　君

４番　　大　塚　則　男　君

５番　　平　田　清　吉　君

６番　　犬　童　利　夫　君

７番　　松　岡　隼　人　君

８番　　井　上　光　浩　君

９番　　豊　永　貞　夫　君

10番　　川　野　精　一　君

11番　　笹　山　欣　悟　君

12番	西	信八郎 君
13番	村 上	恵 一 君
14番	田 中	哲 君
15番	仲 村	勝 治 君
16番	三 倉	美千子 君
17番	森 口	勝 之 君
18番	永 山	芳 宏 君

欠席議員　なし

４．説明のため出席した者の職氏名

市長	田中信孝 君
副市長	髙橋　隆 君
監査委員	篠﨑國博 君
教育長	堀　秀行 君
市長公室長	久本一富 君
総務部長	坂崎博憲 君
市民部長	山本政義 君
健康福祉部長	松岡誠也 君
経済部長	松田知良 君
建設部長	中村明公 君
市長公室次長	愛甲秀樹 君
総務部次長	中村則明 君
市民部次長	椎葉幹夫 君
健康福祉部次長	福山誠二 君
経済部次長	大渕　修 君
建設部次長	木村秀敏 君
企画課長	小澤洋之 君
財政課長	告吉眞二郎 君
会計管理者	松江隆介 君
水道局長	田中幸輔 君
上水道課長	那須義徳 君
教育部長	赤池和則 君
教育部次長	東　俊宏 君
農業委員会事務局長	舟戸幸弘 君

５．職務のため議場に出席した事務局職員の職氏名

局	長	赤　池　謙　介　君
次	長	村　並　成　二　君
次	長	山　本　繁　美　君
書	記	白　坂　禎　敏　君

午前10時00分　開議

○議長（永山芳宏君）　おはようございます。出席議員が定足数に達しておりますので、本日の会議は成立いたしました。よって、これより会議を開きます。

議事に入ります。

本日は、昨日に引き続き一般質問を行います。議事日程は、お手元に配付してあるとおりでございます。

日程の追加について

○議長（永山芳宏君）　ここで、日程の追加についてお諮りいたします。

一般質問の前に、議第45号平成24年度人吉市一般会計補正予算（第７号）から議第49号人吉市職員の退職手当の支給に関する条例等の一部を改正する条例の制定についてまでの５件につきまして、日程に追加することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（永山芳宏君）　御異議なしと認めます。よって、議第45号から議第49号までの５件を一括して日程に追加し、直ちに議題といたします。

追加日程　議第45号から議第49号

○議長（永山芳宏君）　執行部より、提案理由の説明を求めます。

○市長（田中信孝君）（登壇）　皆さん、おはようございます。ただいま追加提案いたしました議案につきまして、御説明を申し上げます。

議第45号平成24年度人吉市一般会計補正予算案（第７号）は、去る２月26日に国において成立をいたしました緊急経済対策を盛り込んだ平成24年度補正予算における補助内示等の追加補正でございます。歳入歳出にそれぞれ６億94万5,000円を追加し、歳入歳出の総額を155億9,109万3,000円とするものでございます。

議第46号平成24年度人吉市公共下水道事業特別会計補正予算案（第４号）は、さきに提案いたしました平成24年度人吉市一般会計補正予算案（第７号）と同様の理由による追加補正でございます。歳入歳出にそれぞれ2,400万円を追加し、歳入歳出の総額を13億4,809万円とするものでございます。

議第47号平成25年度人吉市一般会計補正予算案（第１号）は、人吉市職員の退職手当の支給に関する条例等の一部改正に伴う退職手当の減額補正でございます。歳出におきまして、総務費から「134万円」を減額いたしております。なお、予備費を同額増額いたしておりますので、歳入歳出総額に変更はございません。

議第48号平成25年度人吉市水道事業特別会計補正予算案（第１号）は、さきに提案いたしました平成25年度人吉市一般会計補正予算案（第１号）と同様の理由による退職給与金の減

額補正でございます。収益的支出における水道事業費用を98万4,000円減額し、支出総額を４億8,645万7,000円とするものでございます。

議第49号人吉市職員の退職手当の支給に関する条例等の一部改正案は、国家公務員の退職給付の給付水準の見直し等のための国家公務員退職手当法等の一部を改正する法律が公布、施行され、国家公務員に係る退職手当制度が改正されたことに準じて、本市職員の退職手当の支給水準を引き下げるため所要の改正を行うものでございます。改正の主な内容といたしましては、条例上設けられている調整率を100分の104から100分の87に段階的に引き下げるものでございます。

詳細につきましては、所管の責任者から御説明申し上げます。議員各位におかれましては、慎重御審議の上、御協賛賜りますようお願い申し上げます。

訂正をお願いいたします。議第47号でございます。議第47号の３行目、「総務費から434万円」というふうに読まなければいけないのを「134万」と読んだそうでございます。434万が正解でございます。訂正をお願いいたします。

○総務部長（坂崎博憲君）（登壇）　議員の皆様、おはようございます。一般質問前の貴重なお時間をちょうだいいたしまして恐縮に存じます。

それでは、議第45号並びに議第47号の補足説明をさせていただきます。

まず、議第45号平成24年度人吉市一般会計補正予算案（第７号）でございます。今回の補正予算の内容は、先月２月26日に成立をいたしました国の平成24年度第１次補正予算、日本経済再生に向けた緊急経済対策に対応した予算措置でございます。国の補正予算に対応した事業といたしまして、社会資本整備総合交付金事業及び学校施設環境改善交付金事業でございまして、社会資本整備総合交付金事業が２月26日付で、学校施設環境改善交付金事業が２月27日付で補助採択の内示がございましたので、予算措置をお願いするものでございます。なお、事業を国の補正予算に対応させることにより、財源的に大変有利なものとなっておりまして、補助金が交付されることに加え、補助裏の起債充当率も100％に引き上げられますことから、事業実施に必要な当面の一般財源も通常の補助事業に比べて少額となっております。また、起債の元利償還金も50％が普通交付税に算入されることとなっているところでございます。

それでは、予算書の１ページをお願いいたします。第１条の歳入歳出予算の補正につきましては、事項別明細書により、第２条の繰越明許費の補正の追加・変更につきましては、第２表繰越明許費補正により、第３条の地方債の補正の変更につきましては、第３表地方債補正により、それぞれ御説明いたします。

４ページをお願いいたします。第２表の繰越明許費補正は、追加の10件と変更の１件でございます。追加の10件につきましては今回国の補正予算に対応した事業でございますので、本年度内での事業完了が見込めないため繰り越しをお願いするものでございます。

５ページの上のほうをお願いいたします。変更の８款土木費、４項都市計画費の社会資本整備総合交付金事業村山公園施設改築事業につきましては、平成24年度人吉市一般会計補正予算（第６号）で繰越明許をお願いをしております事業でございまして、通常の補助事業に加えまして今回の国の補正予算に対応した事業費分を増額するものでございます。

次に、第３表の地方債補正の変更でございますが、県営事業負担金債から学校施設環境改善交付金事業債までの４件は、いずれも今回の国の補正予算に対応した事業費の増額に伴い限度額を変更するものでございます。

８ページをお願いいたします。歳入でございますが、14款国庫支出金、２項国庫補助金、４目土木費国庫補助金9,949万5,000円の増額は、市道青井西間線外５路線の道路補修事業や、道路路面性状調査などの委託料、市営住宅外壁改修事業、公園整備事業などに対します社会資本整備総合交付金の増額によるものでございます。５目教育費国庫補助金１億4,175万円の増額は、小学校の老朽化した水道管等の改修事業や、プール改築事業に対する学校施設環境改善交付金の増額によるものでございます。21款市債は、第３表地方債補正で御説明を申し上げましたので説明を省略させていただきます。

次に、歳出でございます。９ページをお願いいたします。６款農林水産業費、１項農業費、５目農地費62万7,000円の増額は、県の補正予算に計上されました県営事業に対する県営錦南部５期農免農道整備事業負担金でございます。８款土木費、２項道路橋梁費、２目道路維持費１億900万円の増額は、市道の維持補修工事や道路路面性状調査などの委託料でございます。３項住宅費、２目住宅建設費2,658万6,000円の増額は、市営住宅前田団地の外壁改修事業を実施するものでございます。

10ページをお願いいたします。４項都市計画費、３目公園整備費5,300万円の増額は、石野公園施設改築測量設計委託料と、村山公園施設改築工事でございます。村山公園施設改築工事につきましては、公園内の遊具やトイレなどを改築するものでございます。10款教育費、２項小学校費、３目学校建設費４億4,784万5,000円の増額は、小学校３校の老朽化いたしました水道管等の改修事業や小学校３校のプール改築事業でございます。14款、１項、１目予備費を3,611万3,000円減額いたしております。

以上で、議第45号平成24年度人吉市一般会計補正予算案（第７号）についての補足説明を終わります。

続きまして、議第47号平成25年度人吉市一般会計補正予算案（第１号）について補足説明をさせていただきます。予算の説明に入ります前に、この補正予算に関連します議第49号人吉市職員の退職手当の支給に関する条例等の一部改正について御説明をさせていただきたいと存じます。国家公務員に係る退職手当制度の改正に準じまして、本市職員の退職手当の支給水準を引き下げることを目的に所要の改正を行うものでございまして、退職手当条例上設けられている調整率を現行の100分の104から100分の87に段階的に引き下げるものでござい

ます。ただし、内容につきまして国と異なりますのは、平成25年度４月１日から適用するものであり、また、その引き下げの間隔も国の９カ月と異なる12カ月となっております。したがいまして、国等とは年度ベースでは１年おくれで３カ年かけて調整率を段階的に引き下げていくこととしておりまして、平成25年度は現行の100分の104から100分の98に、平成26年度は100分の92に、最終平成27年度において100分の87とするものでございます。なお、県内他自治体のうち退職手当事務を共同処理している37市町村については、既に条例改正済みであり、その他の共同処理未加入の団体も３月議会での条例改正、４月施行の方向で動いておりまして、いずれもさきに御説明申し上げました本市の改正と同じ内容となっているところでございます。このような状況を踏まえまして、本市におきましても25年４月から施行させていただきたく、本議会に関係条例の改正を追加提案をさせていただいているものでございます。

それでは、議第47号平成25年度人吉市一般会計補正予算案（第１号）、予算書の１ページをお願いいたします。第１条歳入歳出予算の補正につきましては、歳入歳出総額の補正はございません。

５ページをお願いいたします。今回の補正は歳入の補正がなく歳出の補正のみでございます。２款総務費、１項総務管理費、１目一般管理費、３節職員手当等の退職手当を434万円減額いたしておりまして、定年退職予定者４名分の退職手当を減額するものでございます。14款予備費に退職手当の減額分434万円を増額いたしております。

以上で、議第47号平成25年度人吉市一般会計補正予算案（第１号）について補足説明を終わらせていただきます。よろしく御審議いただきますようお願いを申し上げます。

○議長（永山芳宏君）　ただいま説明がありました議第45号から議第49号までの５件に対しての質疑は、あす８日の一般質問終了後に行いますので、よろしくお願いいたします。

日程第１　一般質問

○議長（永山芳宏君）　それでは、これより一般質問を行います。（「議長、７番」と呼ぶ者あり）

７番。松岡隼人議員。

○７番（松岡隼人君）（登壇）　おはようございます。７番議員の松岡隼人です。一般質問に先立ちまして、本年度をもちまして退職されます久本市長公室長、赤池教育部長、愛甲市長公室次長、そして松江会計管理者を初め、職員の方におかれましては長年市政発展のために御尽力賜りましたことに対しまして、心から敬意を表しますとともに感謝を申し上げます。また、私個人に対しましても御指導、御鞭撻いただきまことにありがとうございました。今後も健康に十分留意されまして、場所は変われどこれまで積み重ねてこられました知恵と経験を生かし、引き続き市政発展のためにお力を貸していただきますようよろしくお願い申し

上げます。

それでは、通告に従いまして一般質問を行います。今回は発達障がい支援について、地域子育て支援センター事業について、就学前の子育て支援について、人吉市花まる教室事業について、教育振興基本計画についてです。

まずは、発達障がい支援について。この件につきましては、これまでも議論を私も行ってまいりましたし、昨年の12月にも西議員が一般質問を行われました。そのとき市長が、保健センターでの健診等を通じて、今後も早期発見と早期受診につながるよう努力するとおっしゃいましたが、私はこの一言にとても違和感を感じました。といいますのが、もうそれは既に何年も前から人吉市はやっているとの認識が私にはあったからです。12月に部長から答弁がありましたように、人吉市はさまざまな取り組みを行っており、現場の人吉市に対する評判はとてもいいものがあります。私としては早期発見と早期受診につながる努力の先のもっと具体的な考えを聞きたいとの思いがありますので、今回質問を行います。

まずは、12月議会で西議員もおっしゃっていましたような保育園現場の課題についてどのような考えをお持ちでしょうか。また、今後どのような対策、もし検討されているようでしたらお尋ねをいたします。

○健康福祉部長（松岡誠也君）　皆さん、おはようございます。それでは、御質問にお答えいたします。

最初に、発達障がい支援のこれまでの現在行っているような部分も含めまして、今後の展望ということについてお話をさせていただきます。発達障がい支援の今後の展望につきまして、現在行っている保健センターでの乳幼児健診等での早期発見、家庭訪問、福祉課で行っております障がい児の療育事業の推進、保育園等での障がい児保育、さらに重要な親への相談指導などきめ細かなサービスやかかわりが引き続き重要だと考えております。

今後ということになりますが、より一層充実するために、人吉球磨一丸となって今一番課題となっております専門医、もしくは専門機関の整備ということに努めることが必要であると考えております。具体的には、市または郡の医師会や医療機関への働きかけ、また県への協力の働きかけなどが必要と考えているところでございます。特に保育園で今、12月も御質問いただきましたように、課題となっているのは、いろんな保育園の対応に対して専門機関が不足していることでなかなかすぐの対応ができていないというところですので、そこが専門医の設置の必要性ということにつながってくると考えているところでございます。

以上、お答えします。（「議長、７番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　７番。松岡隼人議員。

○７番（松岡隼人君）　今、トータル的な今後の人吉市の取り組み、または方針について答弁をいただいたというふうに思っておりますが、その中で一番最後のほうにありましたとおり、保育園現場での課題、西議員がおっしゃってましたように小規模の保育園に関しましては、

例えば医師の診断、そして手帳がないと支援ができないというような、軽度障がい児保育事業に関しての支援ができない状況があるということに関しまして、私はしかし、そういう子供がいるということをかんがみまして、何らかの手立て、対応ができないかというふうに考えているんですが、その点に関しましてはいかがお考えでしょうか、お考えをお聞きします。

○健康福祉部長（松岡誠也君）　保育園における軽度障がい児の保育ということについての問題ですけれども、12月に西議員にもお答えしましたとおり、どうしても専門的な判断が必要だというふうに考えているところです。以前は保健センターの保健師による現場を見た上での判断なども参考にしておったところですけれども、やはりそれではいけないと。専門機関による診断なり判定が必要だというふうに現在は考えておりますので、そういうふうな方針で今いるところでございます。

以上です。（「議長、７番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　７番。松岡隼人議員。

○７番（松岡隼人君）　確かに、専門医不足に関しましては私も認識を同じくしているところです。ただ、どうにかしてそれは解決しなければならない問題だというふうに私も考えておるんですが、12月の西議員の質問に対する答弁では、県などに働きかけを行っていくというふうな答弁があったかと思いますが、この専門医不足に関しまして、例えば人吉市、または人吉球磨圏域でどうにかしようという考えはございませんか、お尋ねします。

○健康福祉部長（松岡誠也君）　お答えいたします。

まずは人吉球磨圏域での協議のテーブルにのせて、具体的な協議に入ることが重要であると考えております。そのためには人吉球磨での市町村長の会議とか保健福祉関係の課長等の会議において、人吉球磨一丸となって発達障がい支援センターの整備について県へ要望してまいりたいと考えているところでございます。また、ことしの２月15日に開催されました人吉保健所主管の会議であります第６次球磨地域保健医療計画会議におきまして、発達障がい支援につきまして問題提起をしたところでございますが、県の担当課長から障がい児への支援施設として県北にあります、大津町に熊本県発達障害者支援センターがありますけども、県南にもぜひ１カ所同様の施設を整備していただきたいと、県の振興局から県の本庁のほうに要望しているという回答があっております。今後さまざまな会議の中でそのような要望をしてまいりたいと考えているところでございます。（「議長、７番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　７番。松岡隼人議員。

○７番（松岡隼人君）　今、部長の答弁がありましたように、私も発達障がい者支援センターを県南、または人吉球磨に設置していただくように、強く県に働きかけていただきたいというふうに要望しようと今考えておったところです。人吉市、または人吉球磨圏域に関しましてはかなり熱心にといいますか、支援に取り組んでいただいているというふうに認識をしております。しかし、やはりまだまだ課題等がありますので、ぜひ今部長がおっしゃったよう

に、本市または人吉球磨全体として支援を充実させていただきますようにお願い申し上げまして、この質問に関しましては終わります。

続きまして、地域子育て支援センター事業に関しましてですが、平成11年から14年間取り組まれましたこの事業が、本年をもって打ち切られます。まずはこれまでの取り組みと成果についてお尋ねをいたします。

○健康福祉部長（松岡誠也君）　お答えいたします。

人吉市地域子育て支援センターは、子育て不安に対する相談、助言や、子育てサークルへの支援など、地域の子育て中のお母様方に対する育児支援を目的としまして、平成11年に開設しております。保育園連盟にお願いしまして、持ち回りで実施していただき、これまでの14年間で３カ所の保育園にお世話になったところでございます。各園の御尽力により、子育て中のお母様方に御利用いただき、安心して子供を育てるという目的に寄与してきたものと考えております。

以上です。（「議長、７番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　７番。松岡隼人議員。

○７番（松岡隼人君）　これまで子育て不安の解消等に寄与してまいったというふうな答弁だったと思いますが、ではなぜこの事業を打ち切られるのか、またこれまでその事業で行ってきたサービスについては今後どうされる予定なのかお尋ねいたします。

○健康福祉部長（松岡誠也君）　お答えいたします。

厳しい財政事情等の観点から本庁すべての事業の見直しを行うこととなり、子育て支援拠点事業として同じ目的を持って同じ対象者に対して実施しておりましたセンター型としての人吉市地域子育て支援センターと、広場型の九ちゃんクラブを整理統合することとしたものでございます。具体的な事業で申しますと、異年齢児 ―― 異なる年齢のお子さんですね、異年齢児活動及び年齢別活動、親子エアロビクス、子育て講演会、出前保育、サークル活動等についてはセンター型も広場型もともに実施しておりました。センター型のみで行っておりました年齢別活動はできなくなることになりますが、異年齢児活動で補うことができるものと考えております。また、センター型の中心となっておりましたサークル活動の支援につきましては、広場型の充実を図り、サークル活動立ち上げ等の支援を強化してまいりたいと思います。一方、広場型のみで実施しておりました高齢者や九日町商店街の方々などとの世代間交流は引き続き行ってまいります。今後、子育て支援拠点事業は広場型のみで実施することになりますが、安心して子育てができるよう支援してまいる所存でございます。

以上です。（「議長、７番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　７番。松岡隼人議員。

○７番（松岡隼人君）　今の部長の答弁から、広場型と整備統合することによって、これまでのセンター型の事業も網羅できるというような内容だったかと思いますが、一つサークル活

動に関しまして、サークル活動立ち上げの支援というような今答弁だったと思うんですが、サークル活動をやっていくための支援は今センター型で行われているというふうに認識しておりますが、そのあたりについてはどのようにお考えでしょうか。

○健康福祉部長（松岡誠也君）　お答えいたします。

サークル活動については、先ほど申し上げたように立ち上げの部分とある程度の初期的な支援は行っていけると思いますけれども、今あっているような形で全体的な最後まで面倒をみるというような形にはならないかと思っているところでございます。（「議長、７番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　７番。松岡隼人議員。

○７番（松岡隼人君）　立ち上げの支援だけというような答弁だったかと思いますが、この事業を受けておられました保育園では、市としての事業がなくなっても保育園ではこのような中身、内容の事業は続けたいというような意思を今お持ちのようですが、それらとの連携、または支援というのは考えていらっしゃいますか、お尋ねします。

○健康福祉部長（松岡誠也君）　今この事業をお願いしている保育園においては、事業が統合された後も引き続きやっていきたいというような意向を持っていらっしゃることについては、私たちも聞いております。それは大変ありがたいことだと思っておりますし、事業としては一応市の手から離れるわけですけれども、できるだけ支援はしていきたいと考えているところでございます。（「議長、７番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　７番。松岡隼人議員。

○７番（松岡隼人君）　決して金銭的な支援という意味ではなくて、例えば一番初めのきっかけですね、情報としてやはり一番初めに子供たちに接するのは健診のときとか、行政がかかわる場合が多いと思うんですよね。そういうところでの、まずは情報発信ですよね。例えば、こういう事業もあっていますというようなことなどは、市のほうでも引き続きやっていただけるんじゃないかといいますか、やっていただければいいんじゃないかというふうに思っておりますので、そのあたりの件についてもしっかりとサポートをお願いしたいと思います。

私の妻も人吉市外出身でして、こちらに知り合いもなく、この事業には大変お世話になりました。前回の保育園さんであっていたときから通っておりまして、ここで友人ができ、子育ての不安やストレスを随分と和らげていただいたというふうに、私もこの事業の成果に関しましては自分自身が身をもって実感しているところです。今後センター型の事業はやらないということですが、やはりこういう交流の場は必ず必要であるというふうに私も思っておりますので、引き続き広場型と統合されるという話でしたが、できる限りその支援が、差異性が落ちないようにといいますか、十分な支援をとっていっていただきたいというふうに思います。

続きまして、就学前の子育て支援について質問をいたします。私がこの質問をするに至っ

た背景といたしまして、本市の子育てについての考え方や方向性がわからないといった声が、主に子育てに関係していらっしゃる方から多く聞かれることが挙げられます。その原因といたしまして、軽度障がい児保育事業の基準が年度途中に急に変更になったこと、地域子育て支援センター事業が年末に急に廃止になると告げられたこと、認可保育園が１園増加することを知らされたのが昨年度の初めだったこと、そして既存の事業に関しましても県と協議を行っておられること等が挙げられます。本市の子育て支援は、平成22年２月に策定されました人吉市次世代育成支援行動計画に基づいて進められていると思っております。が、今私が申し上げましたことはこの計画に記されておりますが、急に変更になったことや、記されておりませんが新たに加わったことです。つまり、この計画に沿ったことが行われていないため、保育園現場は不安を抱いておられると思います。私は計画は変わるものだと思いますので、計画を変えるなというものではありません。計画を変えるときは関係者と十分協議して、計画を変えた後は関係者にきっちりと周知すべきだというものです。そこがしっかりとできていないために関係者に不安を与えているのではないかというふうに思っております。

そこで、具体的にお尋ねをしたいと思いますが、この行動計画には計画の取り組みを市民と行政が一体となって進めるために、市長の附属機関である人吉市次世代育成支援対策推進協議会を次世代育成支援対策推進法第21条の規定に基づく地域協議会「人吉市次世代育成支援対策推進協議会（仮称）」に改め、市民、団体、企業と行政が対等で連携して取り組める体制づくりを進めるというふうに記してありますが、この現在の状況をお尋ねいたします。

○健康福祉部長（松岡誠也君）　お答えいたします。

平成21年度に策定しました人吉市次世代育成支援行動計画の後期計画の推進体制としましては、まず庁内推進体制を整え、次に市民と一体となっての地域全体での推進体制へとつなげるということになっておりました。庁内推進体制としましては、市長、副市長、各部長が参加します行政経営会議におきまして、事業等の状況報告並びに検討を行っているところでございます。しかしながら、地域全体での推進体制を進めるための人吉市次世代育成支援対策推進協議会の設置には至っていないところでございます。すべての事業においてＰＤＣＡサイクルの中で進めていくことは大変重要でございますので、市民と行政が一体となって進めるような体制を今後構築してまいりたいと思います。（「議長、７番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　７番。松岡隼人議員。

○７番（松岡隼人君）　具体的にどのようにしてその市民と行政が一体となって進めるような体制、具体的な形が今ありましたらお尋ねしたいと思います。

○健康福祉部長（松岡誠也君）　お答えいたします。

先ほど申し上げた次世代育成の後期計画ですけれども、５年間なんですが今ちょうど半分が経過したところでございます。それで、その間にいろんな状況の変化とか、検証と見直しが必要な部分も出てきているところでございます。それを次の計画の策定にどうつないでい

くかというようなことも含めまして、協議する体制づくりを進めたいということですけれども、具体的にはいろんな保育園とか幼稚園とか小中学校を初め、ＰＴＡ、保護者等の関係者の皆さんの代表にお集まりいただいて協議をする組織かなというふうに考えているところです。（「議長、７番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　７番。松岡隼人議員。

○７番（松岡隼人君）　この計画に関しましては、先ほど部長もおっしゃいましたように、平成22年度から26年度までの５年間について定めた計画ですが、社会情勢の変化が激しい現在では定期的な見直しが不可欠となります。毎年の取り組みの評価とあわせて必要に応じて計画の見直しを行いますとこの計画にも記されておりますが、私もまさにそのとおりだというふうに思ってますが、それらは毎年なされているのでしょうか、お尋ねいたします。

○健康福祉部長（松岡誠也君）　お答えいたします。

先ほど答弁させていただきましたように、まだいわゆる協議会組織は立ち上げができておりませんので、庁内での行政経営会議に報告する、そこで了承いただくという形で毎年の計画は推進してきたという形でございます。（「議長、７番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　７番。松岡隼人議員。

○７番（松岡隼人君）　この計画をつくられたときは、人吉市次世代育成支援対策推進協議会をつくられてこの中で計画をつくられたと思います。計画ができた後も同じような体制をつくって計画の見直し、さらには計画の見直しと評価を行っていくというふうにこの行動計画には記されておりますし、私もそうするのが一番いいだろうというふうに思ってます。しかし、やはりその計画をつくられた後、協議会がつくられずに、先ほどの部長の答弁からありましたように、行政だけでＰＤＣＡサイクルに沿って評価をしてきたというところに、やはり保育園等の現場との情報共有や意思の疎通ができてないんじゃないかと。そこが原因で、今人吉市の子育てに対する方向性がわからないとかという声を聞くんじゃないかというふうに私自身思ってます。ぜひやはり協議会をつくられるということで認識してよろしいんでしょうか、つくっていただきまして、次の計画をつくることも大事ですけれども、現在進行中の計画をしっかりと変更点は変更する、そして追加は追加するということを市民と、また関係者とともに進めながら、そして次の計画にもつなげていっていただきたいとそのように考えております。ぜひ早急にこれは対応をしていただきたいというふうに思います。

続きまして、人吉市花まる教室事業について質問を行います。本市教育委員会が人吉市花まる教室事業を行いたいということを私が知ったのは、２月19日の全員協議会のときです。それからすぐにインターネットで花まる学習会を調べ、そして高濱先生の著書を取り寄せ、授業風景のＤＶＤを見せていただき、また知り合いの塾、経営者にお話を聞いたりとできる限りの調査は行ってまいりました。高濱先生の考え方、その中で著書を拝見したりするに当たっての考え方につきましては私も共感できるところがたくさんございました。しかし、実

際にこの授業を体験するということは、現在のところ私自身できておりません。今回はこの花まる学習会の中身について、いいとか悪いとかいうことを議論するものではありません。人吉市花まる教室というのは本市が取り組む新しい事業ですので、本市教育委員会がこの事業に取り組むと決定されるまでの過程と人吉市花まる教室の事業内容、そして今後の展望、この大きく三つに分けて質問をさせていただきたいと思います。

まずは、この事業を行わなければならない理由が教育委員会にはあるはずですので、事業実施に至る背景といたしまして、本市の子供たちを取り巻く事情について、社会状況や学校現場、家庭環境の現状をどのようにとらえ、またその中でどのような課題があるというふうに認識をしておられるのかお尋ねをいたします。

○教育長（堀　秀行君）　おはようございます。

まず最初の御質問については、事業実施するに至った経緯といいますか、経過を中心にしての御質問だったろうというふうに私は受けとったわけでございますが、そのスタンスでお答えをしたいというふうに思います。

本市は人吉市教育目標に基づく努力目標の一つに確かな学力の育成を挙げ、その具体的な取り組みとして、一つには基礎・基本の徹底と活用力を育てる授業づくり、二つ目は、言語活動の充実とＩＣＴ機器を効果的に利用した指導方法の工夫、三つ目は、指導と評価の一体化と学習意欲の向上、こうしたことに取り組むことにしておるところでございますけれども、これまで本市は教職員の公務員の負担感軽減、あるいは児童・生徒のＩＣＴ教育能力の向上や、わかりやすい授業を展開することによる学力の充実、向上を図るため、文科省、総務省の補助金、交付金事業を活用し、学校ＩＣＴ教育の環境整備を行ってまいったところでございます。そして、その有効な利活用のあり方について人吉市立教育研究所情報教育部会や各学校の校内研修等で実践的研究を行ってきたところでございます。また、児童の基礎学力の定着、向上を図るための夏休みパワーアップ教室を開催し５年が経過し、市長のローカルマニフェストの中の一つである放課後ただ塾構想を具現化した放課後パワーアップ教室を開催して２年が経過したところでございます。

一方、御紹介にもありました人吉市出身の高濱正伸氏が主宰している花まる学習会という私塾は、埼玉を拠点に関東地域を活動エリアとして、思考力や集中力の向上、学ぶ意欲、自立心、思いやりの心、すなわち感性と申しますか、あるいは規範意識などをはぐくみ力強い子供の成長を図るユニークな指導がなされ、しかも受講した児童・生徒の学力を高い水準で向上させた実績を残されています。この取り組みは、文科省が推進している生きる力をはぐくむ教育と合致するものでありまして、教育界やマスコミ等から高い評価と注目や関心を寄せられ、特集番組までも全国放映されており、今や教育界でも最も旬な存在であると言えると思っております。本市の子供たちの学力につきましては、これまでの全国学力学習状況調査の結果から、国語や算数、数学とも基礎的な学力は身についておりますけれども、活用に

関する問題についてはまだ課題があるように思われます。特に、活用にかかわる問題では、自分の思いや考えを述べたりする表現力や、条件に従って記述していく力が身についていない現状があると認識しているところでございます。この現状と課題を克服するためには、基盤となる思考力、集中力を鍛え上げることが最も重要であると考えておるところです。

そこで、人吉市花まる教室は、花まる学習会の思考力の基礎や集中力を鍛え上げるノウハウを活用するとともに、これまで整備した学校ＩＣＴ機器であるタブレットＰＣや電子黒板を活用して、放課後パワーアップ教室を理解し、進展させた運営形態として児童の確かな学力の定着につなげていきたいという思いが背景にあるところでございます。

以上でございます。（「議長、７番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　７番。松岡隼人議員。

○７番（松岡隼人君）　今、教育長から本市のこれまでの取り組みや、この事業を行うに至るまでの経過をお話しいただいたと思います。その中で課題といたしまして挙げられたことが、活用にかかわる問題が課題だというふうに今おっしゃいましたが、その問題につきましては、急に出てきたものでしょうか、それとも昔からあったものでしょうか。昔からあったとしたら、本市の教育委員会としてこれまで具体的にどのような取り組みを行ってこられたのか。また、本年度から事業を行われる予定になったんですが、その手段といたしまして、この人吉市花まる教室事業を選択するまでに、どのようなほかの手段が検討され、どのような議論が行われたのか、お尋ねをいたします。

○教育長（堀　秀行君）　応用力が人吉の子供たちには欠けているのかなと。基本の学力は身についておりますけれども、先ほどもちょっと触れましたが、欠けているのかなという現状は今までもあったところでございます。それに対して教育委員会としては教頭会、校長会を通して、この応用力をつける学校現場での学習活動、教育活動に努めてほしいということは機会あるごとにお願いをしてきたところでございます。それに先ほど申し上げましたように、パワーアップ教室とか、放課後パワーアップ教室がそれに幾らかでも役に立つというようなことも考えながら、その事業はこれまで進めてきたところでございます。そういうかかわりの中で御理解をいただければというふうに思っているところでございます。

以上でございます。（「議長、７番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　７番。松岡隼人議員。

○７番（松岡隼人君）　本市の子供たちは応用力に欠けているというふうに認識をされているということでした。これまでパワーアップ教室等取り組んでこられておりますが、これは私は基礎、基本の徹底だというふうに認識をしております。今回のは応用力を高めるための事業ということですが、人吉市花まる教室以外に、じゃあ応用力を高めるためのほかの手段はなかったのか、そのあたりどのような議論がされたのかをお尋ねします。

○教育長（堀　秀行君）　そういう議論を、テーブルで議論をするという機会はそんなになか

ったというふうに理解をしておるところですが、その必要性というのは高いものがございますので、そういうことも念頭に置きながら今後も取り組んでいきたいというふうに思っているところでございます。その他の手段としては、特段こういう手段でやりましょうとかいうような、そういう方法を共有して進めるということは具体的にはなかったかと思います。

以上でございます。（「議長、７番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　７番。松岡隼人議員。

○７番（松岡隼人君）　これまでの経過といたしましては、応用力がないというのはわかっていたが、ちょうどこの花まる事業を知ることによってこれが最適だというふうに教育委員会でとらえられたんだろうというふうに、今の教育長の答弁から理解をします。

続きまして、具体的な内容をお尋ねしてまいりますが、その前に、教育長はこの花まる学習会の授業を何回くらい体験されたんでしょうか。そのときの具体的な内容と、どこがどのようによかったのか、見られたときの感想を含めて、まずはお尋ねをいたします。

○教育長（堀　秀行君）　実際に高濱先生が行われた授業そのものを見てはおりません。ただ、花まる学習会がどういう理念のもとに、どういう子供の教育をやっているかということの様子をまとめたＣＤについては見させていただいたところで、それだけで理解が十分いったかどうかは別として、そういう経験はございます。ただ、高濱先生が直接おいでになって講演会をされました、総合福祉センターで。その折には参加をして、先生の考え方等についてお聞きをし理解したつもりでございます。

以上でございます。（「議長、７番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　７番。松岡隼人議員。

○７番（松岡隼人君）　今の教育長の答弁をお聞きいたしまして、直接授業は見てないと。しかし理念からこの事業はいいんじゃないかという判断をしたというふうにしか、ちょっと受けとれないんですけど、その中で、その応用力がつくというふうに思われたんでしょうか。そこが私はその授業を体験されなくて、どのような教具を用いてどのような授業をされ、その中でどこがどういうふうに、例えば学校現場の授業と違い、またはほかのやり方と違い、そのよさというのが果たして理解できるのだろうかというふうにちょっと疑問が今生じたところですけど、本当にこの事業は応用力がつくんでしょうか、お尋ねします。

○教育長（堀　秀行君）　実は私は社会教育を17年ほどやっておりました。その中でやはり社会教育の分野での子供の教育、児童・生徒の教育ということに携わってきた者の一人でございます。そういう中で学習面も含めて、あるいは野外活動も含めて、いわゆる花まる学習会のメソッド等似てるな、共通しているところがあるなと思いながら自分の昔を思い起こしたわけでございます。そういう中で私の経験から申しますと、応用力等々も含めて子供の健全育成やら、あるいは心身ともに豊かな心を培っていくということはできると思いますし、そういうメソッドも花まる学習会の中には十分ありますので、これを活用すればいいという判

断もあったわけでございます。

以上でございます。（「議長、７番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　７番。松岡隼人議員。

○７番（松岡隼人君）　授業は見ていないが、長年のこれまで現場に携わってこられました経験から大丈夫だという判断をされたということだというふうに受けとりたいと思いますが、じゃあ具体的にその内容、この人吉市花まる教室に関してですが、どのようなことをされるのか、だれがどのような教具を利用して、どこの学校の何年生を対象に、いつどのくらいの時間やっていくのか、その授業の内容の詳細についてお尋ねをしたいと思います。

○教育長（堀　秀行君）　授業の内容ということでございますが、花まる教室につきましては、小学校２年生の希望者を対象として、放課後の空き時間の１時間を活用して週１回実施いたします。平成25年度は１学期を準備期間とし、花まる教室の教材、教具を活用して、試行的に６月から１小学校において実施することにいたしております。その検証を行った後、10月から市内６小学校において一斉に本格実施するとともに、タブレットＰＣの活用準備を進めていく予定でございます。人吉市花まる教室開設の準備、運営につきましては、花まる学習会から１年間派遣される講師１人、指導主事、学力充実支援員が対応することにしておりまして、そのときに私が十分念頭に置いておりますのは、そういうこの授業が現場の教師に負担をかけないように進めてまいりたいと思っているところでございます。また、花まる学習会代表の高濱先生を講師に、教諭、保護者、児童・生徒などを対象として、確かな学力の育成や生きる力をはぐくむための講演会等を年２回計画しているところでございます。

以上でございます。（「議長、７番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　７番。松岡隼人議員。

○７番（松岡隼人君）　詳細について今お伺いしたところですが、１点、どのような授業をされるのかということですが、口頭ではなかなか説明しにくいかもしれませんけど、どのような教具を使って、何パターンぐらいの授業があるのか。例えばパワーアップ教室だとすれば算数と国語というような形で決まっていると思うんですけど、この小学校２年生を対象に何種類ぐらいの授業、授業という言葉が適当かどうかわからないんですが、教室をされるのか。どのような教具を使われるのか。そのあたりも教えていただきたいと思います。

○教育長（堀　秀行君）　教材、教具についてのお尋ねでございます。まず、教材については「サボテン」計算教材というのが花まる学習会で独自につくられたものがございますので、その活用、それから「あおぶり」という教材もございますので、これも活用していくと。それから教具としては「キューブキューブ」という教具がございまして、それも活用していく。あるいは「アルゴ」というのもございますので、そうしたものを活用していくということで予定をしているところでございます。

以上でございます。（「議長、７番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　７番。松岡隼人議員。

○７番（松岡隼人君）　今、名称を聞いたんですが、すいません、私もなるべく調べようと思っていろいろ調査をしたんですが、何せちょっと時間が足りなかったもんですから、自分も知りたいのと内容を明らかのすることを目的にお尋ねをしておりますが、今おっしゃった名前はそれは問題集なんですか。それとも何か器具といいますか、何なのかというのと、あとそれは市で購入されるのかというのをちょっとお尋ねしたいと思います。

○教育長（堀　秀行君）　今申し上げましたものにつきましては、教材、それは練習問題等も含めて教材。大きく分けてあとは教具、いわゆる教えるための器具といいますか、道具といいますか、そういうものがございます。そういうもので学習を展開していくということにしておるところでございます。

あと一つありましたね、何やったかな。（「予算です」と呼ぶ者あり）購入予算は市費で購入するということでしております。今パワーアップ教室も、それから放課後パワーアップ教室も受講料を取ったりはしておりません。負担はかけないようにしておりますので。そして教材も幾らか準備をしながら提供しているわけです。そういう意味で同じように負担がかからないような配慮はしているつもりでございます。

以上でございます。（「議長、７番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　７番。松岡隼人議員。

○７番（松岡隼人君）　今の教育長の答弁から、その教具につきましてはどうなんですか。例えば学校で１セットとか、人数によってグループに１セットとかという形になるのかなというふうに想像しますけど、教材についてはこれは希望者だったと思うんですけど、小学校２年生の希望者。その全員に対してその問題集を市費で買って渡すというふうに理解してよろしいんでしょうか。

○教育長（堀　秀行君）　教材についてはそのように理解していただきたいと思いますし、教具については継続的に使えるものでございますので、共用したり、貸し出しをすることはあるかもしれませんけれども、貸与したりすることはあるかもしれませんけれども、基本的には継続して使っていくということでございます。

以上でございます。（「議長、７番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　７番。松岡隼人議員。

○７番（松岡隼人君）　少々見えにくいところもございますが、次に、学力充実支援員が運営にかかわる、指導主事とですね、というふうな答弁がありましたけど、具体的にこの学力充実支援員さんはどんなことを行うのか。また、今なさっている仕事に加えまして、この事業を学力充実支援員さんが進めていくということは物理的に可能なのか。そしてどのいうふうな運営を行っていかれるのかというのをお尋ねします。

○教育長（堀　秀行君）　学力充実支援員は先ほど申し上げましたパワーアップ教室、あるい

は放課後パワーアップ教室に専従をさせて、子供たちの基礎的な学力向上のために頑張っていただいているところでございます。その方も今度は花まる教室に支援をしていただく重要な役割として、子供たちの指導に当たっていただくということにしております。ただ、当面は花まる教室から講師を派遣していただいて、こういうメソッドでこういう展開で人吉市花まる教室をしたらいいというようなことの指導・助言をいただきながら進めていくと。それを支援員が十分身つけたならば、その専属として位置づけていくということも考えているところでございます。

以上でございます。（「議長、７番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　７番。松岡隼人議員。

○７番（松岡隼人君）　それでは結果的には、学力充実支援員がこの人吉市花まる教室の授業の講師として、花まる学習会の教具を使って事業といいますか、教室を進めていくというふうに理解してよろしいんでしょうか。

○教育長（堀　秀行君）　基本的にそういうふうにとらえていただいて結構ですけれども、教育委員会には２人の指導主事がおります。そういう指導主事との連携、あるいは指導主事からの指導・助言も受けながらやっていくという体制を考えているところでございます。

以上でございます。（「議長、７番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　７番。松岡隼人議員。

○７番（松岡隼人君）　詳しい内容は、この花まる学習会さんでなさっている内容につきましては、私もインターネットやＤＶＤでしか確認をしておりませんので深いところまではわかりませんが、学力充実支援員さんがこの教室を講師となって進めていくというのは可能ですか。お尋ねします。

○教育長（堀　秀行君）　そうなりますと、辞令上にそういう業務をちゃんと位置づけながらやってもらうという形になるだろうと思いますので、可能性はあると思います。

以上でございます。（「議長、７番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　７番。松岡隼人議員。

○７番（松岡隼人君）　辞令上というわけじゃなくて、この何て言うんですかね、結局この事業は私は人だと思ってます。その講師といいますか、進める方の技量が相当大きく影響するのではないかというふうに予測をするわけですが、そのあたりについて可能かどうかということをお伺いします。

○教育長（堀　秀行君）　学力充実支援員を募集しますときに、教員の資格を持っている者ということで今募集をして業務に当たっているところです。やはり業務の内容についてははっきりと委嘱状といいますか、辞令に位置づけないとほかの仕事をやらせるというようなことがあってはなりませんので、そういうことで位置づけるということは僕は大事なことだろうというふうに思っております。先ほど少し申し上げましたように、じゃあ技量がつくまで、

すぐそういう業務命令をもらってもできるかというと、またいろんな不安があるところは事実でございますので、花まる教室から講師を１年間派遣していただいていろんなノウハウを享受していただきながら、支援員の技量も含めていろんな必要な力をつけていただくということになるだろうというふうに思います。

以上でございます。（「議長、７番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　７番。松岡隼人議員。

○７番（松岡隼人君）　学力充実支援員さん、今、全学校に１人ずつですか、いらっしゃると思いますが、任期は１年間だったというふうに思ってます。仮に、学力充実支援員さんが各学校に１人ずつそろわなかった場合の対応等は考えておられるでしょうか。また、その１年ずつ、一応任期は１年ですので、ことし１年間花まる学習会から講師の方に来ていただいて、今現在いらっしゃる学力充実支援員さんに対する指導は可能なのかなというふうに考えますが、次年度以降はどのような引き継ぎ考えておられるかというのをお尋ねします。

○教育長（堀　秀行君）　学力充実支援員は嘱託職員としての位置づけもございますので、期間は１年間の更新でございますけれども、８年間はできるという条件もありますので、その条件を活用しながら進めていくということになるだろうというふうに思いますし、25年度も欠員が生じましたので採用するためにハローワーク等に情報提供して募集をしたところですけれども、これについては試験もして面接もして採用する手順を踏んでいくわけです。幸い本年はそれを超える人数の応募がございました。だからといって安穏としているわけではありませんけれども、もし欠員が生じたらそういう努力をさせていただきたいというふうに思っているところでございます。

以上でございます。（「議長、７番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　７番。松岡隼人議員。

○７番（松岡隼人君）　仮に欠員が出たとき、そこの学校はだれが授業されますか、お尋ねします。

○教育長（堀　秀行君）　先ほど申しましたように、欠員が生じたら次年度に支障がこないために臨時に改めて支援員を募集するということにしておりますので、支援員として、例えば24年度は２人ほどお辞めになりますけれども、その後の体制は今度、先ほども申し上げましたように募集をして採用者を決めたわけです。だから、そういうことで25年度も継続的に活動をしていただく、指導をしていただくという体制は整えているつもりでございます。

以上でございます。（「議長、７番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　７番。松岡隼人議員。

○７番（松岡隼人君）　学力充実支援員さんひとりにかなり重いものがのしかかるんじゃないかなというふうに今の答弁を聞きながら思ったわけですが、それで大丈夫だと、いけるというふうに踏んでらっしゃると思いますけど、やはりチームをつくって回るとか、何らかの運

営の工夫は必要じゃないかなというふうに思いますので、そのあたりを今後、今も検討されていると思いますが、しっかりと検討されたほうがいいんではないかなというふうに感じました。

次に、学校で行われるわけですが、その学校への説明や情報共有、そしてお互いの意思疎通はできているでしょうか。先ほど先生方には負担をかけないようにという教育長の説明がございましたが、全員協議会のときは何かちょっと、先生方でもそういうのを活用したい方がいらっしゃれば活用してもらっても結構ですというような説明があったんではなかったかなというふうに記憶をしております。この事業に対しまして、そのあたりの学校現場との連携、情報共有はどのようになっているでしょうか。また、先生たちの授業の中にそのような教材を取り入れるというようなことに関しての考え方といいますか、スタンス。それと先ほど教育長は、社会教育の分野で自分はやってきたと。その分野で経験してきて、これは授業を見ていないが、自分の経験から大丈夫だというふうに答弁があったと思いますが、今回の事業は学校教育課で取り組まれておりますが、なぜ社会教育課ではされないのか、その点についてお尋ねいたします。

○教育長（堀　秀行君）　花まる教室については、確かに社会教育的な側面もございます。あると私は思っております。しかし、今後学校施設を利用するということもございますし、学力充実支援員に頑張っていただこうと、指導をお願いしようということにしておりますので、学校教育の流れの中でするわけではございませんけれども、そうした利便性も考えながら学校で実施するということにしたわけでございます。花まる教室の内容については、例えば野外に行って体験活動をさせて、その中から生きる力といいますか、感性を培うということも一つのメソッドの中にありますので、そういうことも含めながら学校教育と連携をさせると。先ほども言いましたが、その花まる教室のメソッドが学校教育の中にも取り入れられれば、それは取り入れていただくということで、もちろん押しつけをするわけではございませんけれども、していただいても結構だというスタンスでございます。なお、花まる教室の事業については、これは学校長会あるいは教頭会等で御説明をしておるところでございます。ただ、学校の先生全部集めて説明をしたという経緯はございません。しかし、求めがあれば私たちは教育委員会として学校に出向いて先生方の理解を得る努力は惜しまないつもりでございます。

以上でございます。

○議長（永山芳宏君）　松岡議員、休憩とりましょうか。ここで暫時休憩いたします。

午前11時29分　休憩

午前11時43分　開議

○議長（永山芳宏君）　休憩前に引き続き再開いたします。（「議長、７番」と呼ぶ者あり）

７番。松岡隼人議員。

○７番（松岡隼人君）　内容についてお尋ねをしてまいりましたが、まだまだ未確定の部分等があるようですので、ぜひしっかりと運営体制などを整えていただきたいと思いますが、続きまして、展望につきまして、今後この事業を進めていかれるというふうに思いますが、３年後、５年後、10年後はどのように考えていらっしゃるのか。今後の展望についてですね。

それと、花まる学習会では幼児期での学びもかなり重点を置かれているんではないかというふうに私自身考えておりますが、そのあたりの幼児期への事業展開等については本市はどのように考えていらっしゃいますか、お尋ねいたします。

○教育長（堀　秀行君）　ちょっと戻るかもしれませんけれども、今度３月24日にシンポジウムといいますか、パネルディスカッションを一中ですることになっております。そういうところに御参加いただいて御理解を深めていただければありがたいなという思いも伝えておきたいというふうに思います。

展望でございますけれども、花まる学習会の教材、教具というのは、小学校高学年や中学校においても十分に活用できる内容であるというふうに見られております。２年、３年あたりが一番いいのかなという見解もあるように聞いておりますが、しかしながら今申し上げましたように小中学校でも十分活用ができるというふうなことでの理解は、全部の先生方ではありませんけれども、先生のお話を聞かれた先生方は理解をされておりますし、授業を参観された方はそういうお気持ちも持っておられる先生もいらっしゃるということも御紹介したいと思います。そういうことで、小中学校教育課程における活用につきましては、市教育委員会からの強制・強要は絶対にしないことを前提に、学校教職員からぜひ活用したいとの要望があれば対応できる環境を準備してまいりたいと思っております。

また、幼児についてはまだ未知なところもありますので、検討課題として与えていただければありがたいなというふうに思います。人吉市花まる教室は、特に小学校低学年を対象に継続的にコンスタントに実施することにより、高い成果ができるものというふうに期待をしているところでございます。したがいまして、パワーアップ教室同様に長期的に継続的な事業として位置づけをし、対象学年を２年生のみから１年生や３年生をも対象学年とすることも念頭に置きながら、そしてそういったことを十分状況を分析しながら判断して取り組んでまいりたいというふうに存じます。数年後には花まる教室において低学年が思考力の基礎や集中力を磨き、高学年がパワーアップ教室において基礎学力の定着と向上を図り、そして両教室を通して学習意欲のスイッチが入りますと、これまで以上に将来かなり有望な人材をこの人吉の地から輩出できるのではないかと期待をしているところでございます。そうなれば、市長もよく申しておりますけれども、管外からも人吉市の学校に通わせていきたい、そういう機会を与えていきたいという状況も出てくるんじゃないかなという夢も持っているわけでございます。

以上でございます。（「議長、７番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　７番。松岡隼人議員。

○７番（松岡隼人君）　はい、わかりました。長期的、継続的にやっていくということでした。また、当初は２年生ですが、今後１年生、３年生まで拡大していくというような内容だというふうに理解をいたします。

それでは、この事業を実施することによって、本市の子供たちはどうなるのか。また、それはいつ、どのような形ではかるのか。具体的な評価方法とか評価時期、そういうのもありましたらお尋ねいたします。

○教育長（堀　秀行君）　この事業によって子供たちがどう成長したのか、あるいはどういう力がついたのかということについては、今のところまだ始めておりませんので、今後の経緯の中で様式等も決めながら十分検討を、あるいは分析をしていきたいというふうに考えているところでございます。

以上でございます。（「議長、７番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　７番。松岡隼人議員。

○７番（松岡隼人君）　なかなか子供たちも学校に通いながら、そして週に１回このような教室を受ける、そして家庭でも学習をし、塾に通われる方もいらっしゃるかもしれない。そのような中で単に評価といいましてもなかなか厳しいところはあるというふうに感じておりますが、いろんなアンケートをとるとか、何ができるようになったとか、評価の仕方はそれでもあるんじゃないかなというふうに思ってますので、ぜひそこで子供たちがこのように伸びたとかいうことを示していただければなというふうに思います。

この事業に関してですが、子供にとってプラスになることは間違いないと私も思っておりますし、私もできることはできる限り協力をしてまいりたいというふうに思っております。ただ、まだまだその運営面などについては決定されてないこと、または不測の事態等も起こってくる可能性があるのかなというふうに考えましたので、やはりそのあたりは教育委員会のほうでしっかりと整えていただいて、事業を進めていっていただければなというふうに思います。

最後に、教育振興基本計画についてお尋ねをいたします。この件に関しましては私も過去に中身について一般質問を行っておりますが、進捗状況についてお尋ねをいたします。

○教育長（堀　秀行君）　お答えいたします。

人吉市教育振興計画につきましては、国の教育振興基本計画や、県が定めました熊本県教育振興基本計画、通称くまもと「夢への架け橋」というふうに呼ぶことが多いようでありますが、その教育プランを参酌して、平成24年度に策定された上位計画であります第５次人吉市総合計画と整合性を図りながら、平成24年度当初から作成に着手しているところでございます。具体的には、策定へ向けて課長補佐、係長級の職員で構成しました作業部会を立ち上

げ、教育における現状と課題の分析、アンケート調査、計画の構成等の検討を行い、課長級で構成しました検討委員会で素案の案を作成して、教育委員による十分な協議・検討も行ったところでございます。そういう段階で今いるということを御紹介しておきたいと思います。

以上でございます。（「議長、７番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　７番。松岡隼人議員。

○７番（松岡隼人君）　今回この教育振興基本計画についてお尋ねをしましたのは、先ほどの人吉市花まる教室事業からの関連でありまして、人吉市花まる教室事業といいますのは手段だというふうに思っています。この手段を実施するための、やはり人吉市としてのビジョン、そして教育委員会としてのミッション、これが根本にあるはずだというふうに私自身思っておりますし、現在もそれに向けて策定中ということでした。ただ、どちらかというとその教育振興基本計画が示されて、人吉市としてのビジョンを示されて、だからこういう事業をしますよという流れが私の中では自然なのかなというふうに思っておりますが、今回手段のほうが先に出てきておりましたので、今回お尋ねするところですが、大体いつごろ、この教育振興基本計画というのは策定されるのか。また、そのあたりの手段が先に出てきて、ビジョンがまだだという状況をどのように考えていらっしゃるのかについてお尋ねします。

○教育長（堀　秀行君）　まず、この基本計画については今月27日に定例の教育委員会で諮りますので、それまでもちろんいろんなパブリックコメントを求めながら成案としていくという過程も必要だろうと思います。しかしながら、最終的には３月末の教育委員会で御承認していただければなというふうな手順を考えているところでございます。

それから、逆ではないのかというふうな御意見でございました。議員おっしゃるとおり、その流れも一つはあると思います。ただ、今回私どもがとった流れというのは、作成しております人吉市教育振興基本計画に関しましては、「平成28年」に全面改正されました教育基本法に基づいて策定するものでございまして、議員御承知のとおりだと思います。地域の実情に応じた教育の振興を図るため、本市の教育振興に関する方策を総合的に取りまとめ、教育の課題を解決し、取り組むべき方向性を示して、今後の教育に対する新たな要望に対応することを目的とした計画であることは御承知のとおりでございます。この教育振興基本計画の計画期間は、平成25年度から28年度となっておりますが、教育委員会としましてはこれまでも上位計画であります人吉市総合計画のもと、人吉市教育基本方針を掲げ、人吉市教育目標を示しながら各事業を展開してまいったところでございます。今回の花まる教室事業に関しましても、市長のローカルマニフェストの一つであります放課後ただ塾構想を具現化した放課後パワーアップ教室の進化、あるいは進展を目指して、人吉市教育目標における知・徳・体の調和のとれた力をはぐくむ学校教育の推進の中の確かな学力の育成に基づき計画を行って実施するものでありまして、これまでの流れに沿った、あるいは方針に沿った中でこの計画を作成しようとするものでございます。手段というふうにおっしゃいましたけれども、

そういう個々の事業についてはいろんな手段があると思います。ただやっぱり事業そのものの位置づけをちゃんとすることは必要でございます。しかし私どもとしては今回とった手法は、今までの総合計画や人吉市の基本方針の流れの中でこの事業を考え、そして位置づけ、そして実施しようとしているところでございます。いろんな考え方があると思いますが、委員会はそういうスタンスでこの計画策定に携わったところでございます。

以上でございます。

大変失礼しました。答弁の訂正をさせていただきたいと思います。「平成18年」に実際は教育基本法は改正されておりますけれども、「平成28年」とか申し上げたそうですので訂正をさせていただきたいと思います。（「議長、７番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　７番。松岡隼人議員。

○７番（松岡隼人君）　今答弁いただきましたが、先ほどの子育て支援のときにも申しましたが、計画は私は変わるというふうに思ってます。その変わることに関しましては問題ないというか、変わって当然だというふうに思ってますが、やはり芯としてはそういう計画があって、それに基づいて議論をしていったほうが、よりわかりやすさがあるし、皆さん向かう方向も足並みをそろえて向かっていけるんじゃなかろうかというふうに思っています。おっしゃるとおり教育振興基本計画がなくとも、現在教育委員会としての計画もお持ちだということも存じておりますし、それに従ってやっていくという答弁だったというふうに思います。

何はともあれ、やはり私がいつも申し上げてますとおり、子育て、教育というのは行政だけで取り組む必要はないと思います。というよりも、もっともっと地域とか学校とか我々とかいろんな方たちをいっぱい巻き込んで、そして子育てをしていくべきだというふうに考えます。もちろん家庭での子育て、教育は基本、それは外せないということは当然のことですが、やはりそのような仕組みを今後もとっていただいて、ともに地域全体で、やはり世界に出て活躍できるような人材をこの人吉、また人吉球磨からどんどんどんどん輩出できるように、お互いといいますか、一緒に取り組んでまいればと思います。

以上をもちまして、一般質問を……（「議長」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　田中市長。

○市長（田中信孝君）　発言の機会を与えていただきたいと思います。

○議長（永山芳宏君）　はい。田中市長。

○市長（田中信孝君）　「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

・・・・・・・・・・・・・」（「議事進行」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　ここで暫時休憩いたします。

午後０時01分　休憩

―――――――――――――

午後１時18分　開議

○議長（永山芳宏君）　休憩前に引き続き再開いたします。再開がおくれたこと、申しわけございません。

═══════════════════════════════

発言の申し出

○議長（永山芳宏君）　ここで、市長より発言の申し出があっておりますので、これを許可いたします。

○市長（田中信孝君）　先ほど松岡議員に対する発言に関して、「・・・・・・・・・」から「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・」という発言のすべてを取り消しさせていただきたいと存じます。よろしくお願いいたします。

○議長（永山芳宏君）　ただいま、市長より発言を取り消したい旨の申し出がありましたのでお諮りいたします。申し出のとおり許可するに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（永山芳宏君）　御異議なしと認めます。よって、発言の取り消しの申し出は許可することに決しました。（「議長」と呼ぶ者あり）

はい。田中市長。

○市長（田中信孝君）　それでは、議長のお許しをいただきましたので、相互理解を目的に、子育て、教育に関する私の所信を申し述べさせていただきたいと思います。

12月議会で西信八郎議員のいわゆる発達障がい児に関する御質問の後、我々は行政として一体何ができるのか。やはりそれの中心になるのはやはり保健センターであると。だから、保健センターの健診これがしっかりしなければならないというふうな思いで答弁をさせていただきました。それから今日まで何を考え、どのように具体的に行動したのかというのをお話をさせていただきたいと思います。

まず、ゼロ歳児の新生児から、そして18歳の高校生まで、我々行政も含めましてこの人吉という地域社会がどのように子供たちにかかわっていくのか、すべて我々に責任があるというふうに感じているところであります。与えられるチャンスはできるだけ広げ、そしてそのチャンスにもろ手を上げて子供たちに参加していただきたい、そして自分の経験や自分の体験を大きく広げることによって、それを自信となし、成長としていっていただきたい、それが私の願いであります。そしてひいては、グローバルプレーヤーとして人吉出身の一井正典先生を初め、日野熊蔵先生を初めさまざまな偉人先人、この足跡を確かなものとして自分のものとして、グローバルプレーヤーとしてぜひ世界に羽ばたいていただきたい、そういう思

いをずっと抱き続けているところであります。

そこで、幸いなことに保健センターでは新生児含めましてさまざまなかかわりをさせていただいているところであります。特に新生児は、保健師が１軒１軒お尋ねして、そしてお子様の状態、または家庭の状態、さまざまな悩みや相談にあずかっているところであります。そしてゼロ歳児健診、３歳児健診、５歳児健診、そのような中でも深くかかわっていく、これが最も大切であろうと思っております。が、しかし、私も約21年前ＰＴＡにかかわりを持たせていただきましたけれども、熱心にＰＴＡ活動に参画をしていただく方々はごく一部でございました。もっと大勢の保護者の皆さん方に参加をしていただきたい、どうしたら保護者の皆さん方が一緒になってＰＴＡ活動をしていただけるかという努力もしてきたところでございます。そのような中、一つのクラスがまとまれば、どんどんどんどんその輪が広がっていくという体験もさせていただいたところでございます。このゼロ歳児から18歳まで、その中には程度の度合いは別にしましても軽度障がいから重度障がい、さまざまな障がいを抱えた子供たちもおります。この子供たちを早く認定していかなければならないと。これにはスピード感を持ってやらなければならないということは、西信八郎議員の答弁の中でも申し上げているとおりであります。しかし、いかんせんこの子供たちにかかわるためには、どうしても専門家の手が要ると。その専門家というその人たちも非常に少ない。じゃあどうやって我々は、そういう子供たちにかかわることができるか、そういう子供たちにも大きなチャンスを与えることができるか。そういうことを考えていかなければならないというふうに思っているところでございます。

そこで、最も私たちが今大切にしていかなければいけないのは、お父さん、お母さん、保護者の方々とのコミュニケーション、これは欠かせない、これが一番重要ではないかというふうに思い立ったところでございます。そこで、ゼロ歳児、つまり新生児から、そして就学前、保育園も含めまして就学前、小学校、中学校、まずは保護者、お父さん、お母さん、このコミュニケーションの輪を広げていきたい。一つ一つの家庭の皆さん方の悩みを聞き御相談にあずかることによって、人間関係を構築していきたい。そういう中で家庭教育というものにも今後あずかっていく必要があるのではないか。専門家の養成というのはなかなか人吉市だけではできません。先ほども部長が答弁しましたように、これはかなりの年月がかかるというふうに思いますけれども、やはり県南にもそういう健診の施設、センターが必要である。それは先ほど申し上げたように要望もしているところであります。または、定期的な巡回ができないかという提案もさせていただいているところでございます。

そこで、いわゆる教育部と健康福祉部が今後連携を密にし、それぞれの御家庭とのコミュニケーションを図っていかなければならないと思っているところでございます。まずは、そこから、我々に今できること、専門家にしかできないこともありますけれども今我々にしかできないこと。それは何なのかというと、コミュニケーションの絆を深めていく、広げてい

く、輪をそれをまた確かなものにしていく、それが我々にとって一番大切なことではなかろうかと気づいたところであります。そして、新生児から我々はかかわることにいたしました。で、この教育部とそれから健康福祉部、この連絡調整会議を４月１日からスタートする予定にいたしております。今まで子供ということに関して、庁舎のキャパシティも関係するわけでございますけれども、本来なら同じ並びで子供課とか、または高齢者課とか、一つのくくりで対応するというのが、新潟県の三条市の一つの事例もございました。早くそういう環境にしてまいりたい、そしてさまざまな対応をさせていただきたいというふうに思っているわけでございますけれども、私の昨日の答弁にもありましたとおり、保健センターと健康福祉部の中心というのはばらばらになっているところでもあります。ですから、今後連絡会議を行いながら、そして私たちは子供にかかわっていくんだと。そして、何が課題なのか、どういう問題を解決しなければいけないのか、どうしたらうまくいくのかという、そういう子育て、教育、連絡会議を開かせていただきたいというふうに思っているところでございます。

さまざまな教育の機会を与えていかなければならない、そういう責務が我々大人にはあるというふうに先ほど申しました。その一端として、例えばパワーアップ教室も開催をさせていただいておりますけれども、やはりパワーアップ教室を開催させていただいて今日まで来る中で、果たしてこれだけでいいのか、いわゆる左脳教育だけでいいのか。いわゆる人が夢中になっているときは右脳、これが活性化されている。そこで集中力、思考力というものが醸成されてくる。そのためには左脳教育ではなく、その右脳の発達を促すような感性豊かな子供をつくっていきたい、そういう願い、それが花まる教室であります。私は、今後ともゼロ歳児から高校生まで一朝一夕にはできないかもしれませんけれども、いつも心の中にその教育、子育てということをテーマに心に刻んで歩んでいるところでございます。

以上、所信を述べさせていただきました。（「議長、７番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　７番。松岡隼人議員。

○７番（松岡隼人君）　今、市長の子育て、教育に対する考え方をお聞きしたわけですが、私も小学校２年生と３歳の息子がおりまして、人吉市には大変お世話になっているというのは身をもって感じております。人吉市のその子育て支援の充実、特に現場の方たちのその対応はすばらしいものがあります。それは、先ほども申し上げたとおりです。市長が先ほどおっしゃいましたように、子供ですよね、教育委員会と福祉課を一体とするという考えに関しましても私は、いつでしたか、昨年か一昨年か厚生委員会で視察に行きまして、本市もそうするべきであるということで一般質問をさせていただいておりまして、今市長がおっしゃったような考え、同じような考えを私も持っております。ただ、私個人としても親としても、まだまだ勉強段階です。しかし市長がおっしゃるように、自分の息子、そして人吉市の子供たちを世界で活躍できるような人材に育てていきたいという気持ちは私も持っております。現場で汗をかくことも欠かさずやっていくつもりでございますし、本市とともに子育て支援、

そして教育、これはもう一生懸命私自身も取り組んでいこうとそのように思っております。

以上で、全部の一般質問を終了いたします。ありがとうございました。（「議長、議事進行」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　３番。村口隆議員。

○３番（村口　隆君）　先ほど市長のほうから、ややもすれば議員の発言を抑制しかねない新聞を私のほうにこの議場で手渡されました。その取り扱いについて議会運営委員会の開催を要求いたします。

○議長（永山芳宏君）　ここで暫時休憩いたします。

午後１時32分　休憩

午後２時00分　開議

○議長（永山芳宏君）　休憩前に引き続き再開いたします。

先ほど村口議員の議事進行の発言内容に関しましては、正副議長及び議会運営委員会の正副委員長と協議をいたしました結果、本日の一般質問終了後に議会運営委員会を開催いたしますので、よろしくお願いいたします。（「議長、16番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　16番。三倉美千子議員。

○16番（三倉美千子君）（登壇）　皆様、こんにちは。16番議員の三倉でございます。３月を迎えまして、やっと寒さが和らぎ春を感じるところとなりました。身軽な気分になれましたが、年度末を迎え１年がたつのが早く感じますし、同時にいろいろやらねばならない行事等も多く多忙感に悩まされるところでもあります。

質問は４項目通告しております。１項目めは、特定健診について５点。２項目めは、人吉インターチェンジのトイレ設置について２点。３項目めは、ラフティングについて２点。４項目めは、市民の声より１点です。通告に従いまして、一般質問を行ってまいります。

まず、１項目めの特定健診についてでございます。特定健診につきましては、５年前の平成20年度から全国の市町村が受診率と保健指導率を国が定めた目標値を目指し、受診率を上げようと工夫をしながら目的達成のため努力をされてきました。目標値は平成20年度が33％、21年度が40％、22年度が50％、23年度60％、24年度65％で、保健指導率は45％です。ここで質問をいたします。１回目の質問です。１点目、人吉市の平成20年度から24年度までの５カ年間の健診率及び保健指導率をお尋ねいたします。

○健康福祉部長（松岡誠也君）　お答えいたします。

特定健診受診率でございますが、平成20年度は32.9％、21年度は35.2％、22年度は34.6％、23年度は32.5％でございます。24年度につきましてはまだ速報値でございますけども、34.6％となっております。

続きまして、特定保健指導の実施率でございます。これは、特定健診を受診された方の中

でメタボリックシンドロームのリスクが高い方への保健指導でございます。平成20年度は22.1％、平成21年度が36.2％、22年度が30.0％、23年度が22.1％でございます。24年度につきましては速報値で21.7％でございます。

以上、お答えします。（「議長、16番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　16番。三倉美千子議員。

○16番（三倉美千子君）　平成23年度で健診受診率が32.5％、保健指導率が22.1％ですので、目標値の約２分の１ということになります。町内会長さん、保健推進委員さん、私たち議員も地区の意見交換会などで受診を受けられるよう説明をし努力してまいりましたけども、思ったより成果が上がらなかった感があります。

そこで、次に２回目の質問をいたします。２点目の熊本県内14市の特定健診率と特定保健指導実施率の平均値と人吉市の順位、及び球磨郡６町村で国の目標値に到達している町村数をお尋ねいたします。

○健康福祉部長（松岡誠也君）　お答えいたします。

平成23年度の熊本県内14市の特定健診受診率の平均値は29.5％となっており、人吉市は32.5％ですので、14市中の８番目でございます。また、県内14市の特定保健指導実施率の平均値は29.1％となっており、人吉市は22.1％で、14市中10番目でございます。

続きまして、球磨郡の９町村で国の目標値に到達している町村数でございますが、特定健診受診率につきましては１村のみでございます。また、特定保健指導実施率につきましては３村となっております。

以上、お答えします。（「議長、16番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　16番。三倉美千子議員。

○16番（三倉美千子君）　平成23年度の熊本県内14市の受診率の平均値が29.5％、人吉は32.5％。保健指導率の平均値が29.1％、人吉は22.1％。球磨９町村で国の目標値に到達しているのが１村のみということです。これは熊本県内でもこの１村のみのようですが、保健指導実施率では、目標値に到達したのが３村、県内では14カ所という状況で、国が示した目標値にほど遠いものがあります。

ここで、３回目の質問をいたします。国は、年度ごとに段階的に特定健診受診率、保健指導率の目標を示しておりますが、平成24年度の健診受診率65％の根拠をお尋ねいたします。

○健康福祉部長（松岡誠也君）　お答えいたします。

国が定める特定健康診査等基本指針においては、特定健診の実施に係る目標として、平成24年度における健康診査の実施率を70%以上とするということにしており、その中で各保険者の種別及び被保険者、被扶養者別での事情を勘案し、対象者の構成なども考慮に入れ、市町村国保につきましては65％を目標値として設定しております。本市におきましても、その国の目標値に則して目標を設定したところでございます。

以上、お答えします。（「議長、16番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　16番。三倉美千子議員。

○16番（三倉美千子君）　ただいまの答えですと、65％は国の指針に合わせてということですけども、かなりハードルが高いなという感があります。それはもう間違いないですけども。

次に４回目の質問をいたします。先月私にも平成25年度の市民健診の申込書が送ってきました。基本健診の項目に、国民健康保険加入者で40歳から74歳を対象年齢とする特定健診がありましたので、４点目の質問を少し変えて質問をしたいと思います。４点目、特定健診を今後何年続けられるのかお尋ねいたします。

○健康福祉部長（松岡誠也君）　お答えいたします。

特定健診につきましては、高齢者の医療の確保に関する法律に基づき、人吉市国民健康保険としての特定健康診査等実施計画を作成し、これに基づいて実施しております。この計画は国の特定健康診査等基本指針に則して５年ごとに策定する計画でございまして、平成20年度から24年度までの第１期の計画期間が今年度で終了し、現在平成25年度から29年度までの第２期の特定健康診査等実施計画を策定しているところでございます。今後の特定健診、特定保健指導につきましては、この第２期計画に基づき引き続き継続してまいります。

以上、お答えします。（「議長、16番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　16番。三倉美千子議員。

○16番（三倉美千子君）　今後平成25年度から29年度までの５カ年間実施されるということです。

続いて５回目、５点目の質問をいたします。今後も特定健診の受診率の数値目標を設定されるのかお尋ねいたします。また、設定されるとすれば何％でしょうか。

○健康福祉部長（松岡誠也君）　お答えいたします。

現在検討されています国の特定健康診査等基本指針の改正案によりますと、平成29年度において市町村国保の目標とすべき特定健診の実施率は60％、特定保健指導の実施率は60％となっております。現在国の方向としては、特定保健指導に力を入れる方向に変わってきております。本市の第２期計画は現在策定中でございますので、市としての目標値はこの国の指針を参考にしながら検討してまいりたいと考えているところでございます。

以上、お答えします。（「議長、16番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　16番。三倉美千子議員。

○16番（三倉美千子君）　今後は第２期として平成25年度から平成29年度までの５カ年間、特定健診を続けられ、受診率の目標は大体60％とのことですので、これまで以上にやり方なども工夫して、市民が皆で目標達成に向けて頑張っていかなければなりません。行政も受診率の高い自治体を視察するなど、よいアイデアがあれば参考にするのも一考だと思います。これで、特定健診については終わります。

次に、２項目めの人吉インターチェンジのトイレ設置についてでございます。平成25年度予算に人吉ＩＣ交通結節点、トイレ整備設計委託料及び整備工事費が計上されておりますが、ここで１点目です。トイレの設置場所はどこかお尋ねいたします。

○市長公室長（久本一富君）　皆さん、こんにちは。お答えいたします。

今回整備をいたしますトイレの設置箇所につきましては、平成23年度に人吉球磨地域公共交通活性化協議会におきまして整備を行い、現在供用をいたしております人吉インターチェンジバス待合所の北側に併設する形での整備を考えております。なお、整備につきましては、予定箇所の敷地が独立行政法人日本高速道路保有債務返済機構の所有ということになってまいります。整備のための土地の占用許可申請が必要となってまいりますので、詳細な位置等につきましては、今後協議を進めてまいりたいとこのように考えております。

以上、お答えいたします。（「議長、16番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　16番。三倉美千子議員。

○16番（三倉美千子君）　それでは、次に２点目です。トイレの規模はどれくらいかということと、また経費の負担について、市単独なのか他の町村にも負担を求めるのか。バス待合所整備の際は町村の負担がありましたので、特に質問しておきたいと思います。また、着工時期はいつごろになるのかお尋ねいたします。

○市長公室長（久本一富君）　お答えいたします。

まず、トイレの規模につきましては、男女兼用の多目的トイレ１基、それと男性用の小便器１基ということで計画をいたしております。ただ、先ほど申し上げましたように、土地の所有者でございます日本高速道路保有債務返済機構との協議によりまして、今後また変更等も生じる可能性もあるということでございます。

次に、経費の負担につきましては、市単独なのか、町村にも負担を求めるのかということでございますが、今回のトイレ整備につきましては、本市が事業主体となって事業費を国土交通省の補助事業のメニューの一つでございます社会資本整備総合交付金事業の効果促進事業として取り組む計画でございます。したがいまして、今回のトイレの整備につきましては、町村の負担はなく、人吉市が国の補助金を活用しながら単独で行うものでございます。

次に、工事の着手時期はということでございますけど、25年度、新年度に入りましてトイレ整備に係る設計委託の発注、それから先ほど申しました所有者でございます日本高速道路保有債務返済機構との協議、そしてそこに占用許可申請を行いまして、10月をめどに工事の発注を行いたいということで考えているところでございます。

以上、お答えいたします。（「議長、16番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　16番。三倉美千子議員。

○16番（三倉美千子君）　今の説明ですと、事業費が1,200万、国庫補助金が720万となってますので、市単独で市の支出金が480万というわけですね。これで人吉インターチェンジのト

イレ設置については質問を終わります。

次に、第３項目めのラフティングについてお尋ねいたします。１点目の見物場所の整備についてでございます。これは市民の方等からの要望でもあります。私は里帰りすることもあり、国道219号の球磨村をよく通るのですが、助手席のときはのんびりときれいな景色に目をやり、おしゃべりを楽しみながら、川を下る球磨川下りの様子などを眺めるのが楽しみです。また、勢いよく元気な様子で楽しげににぎやかに球磨川を下るラフティングを見るのも大好きです。昨年８月の終わりごろ、国道219号の駐車スペースに車をとめて下をのぞいている人がおられましたので、私も車をとめて川を見ますと、ラフティングのボートが数隻おりました。楽しげに遊んでいる様子でしたが、よく見えないですね。完全に何をしているかはよく見えなかったんですが、一人の人は人吉の方で、他の人は他県の方でした。二人とも「一回はラフティングを経験してみたいと思ってるんです。何をして楽しんでいるのか樹木が邪魔でよく見えません。木は切れないんですか」との問いかけに、尋ねてみましょうかねと言って別れました。その後、人吉の方とお会いする機会がありまして、ラフティングについて私が下った経験をお話しますと、「私も前から下りたいと思っておりました。よし、下ろう」と言われました。決心がついたみたいですね。私も数年前からラフティングで球磨川を下りたいと思っていまして、先輩議員に呼びかけておりましたが、実現しないままでした。その後、議員では最年長者になり、１歳でも若いうちにとの思いが募ってまいりました。それで、一昨年ドイツを旅行したときに、にぎわいのある観光地で川幅30メートルくらいの川を、若者が大声ではしゃぎながら楽しげにラフティングのボートが２隻下っていくのを、橋の上から偶然に見ることができました。このときの思いで、昨年娘家族と６人でラフティングを楽しむことが実現いたしました。長年の思いが実現し、よかったという思いで心が豊かになりました。ラフティング会社の方からは、80歳の方も下られましたよとのお話もお聞きしました。車をとめ球磨川をのぞいている方々も川で楽しんでいるのがよく見えると、家族と、あるいは友人と一緒に顧客になられる可能性は十分にあると思いました。集客の機会ととらえてはいかがでしょうか。

ここで、１回目の質問です。まず、球磨川下り及びラフティングを楽しむ人は、年間何人ぐらいいらっしゃるのでしょうか、お尋ねします。また、２番目にラフティング等の様子を見物できるような場所、国道219号の樹木の整備はできないかお尋ねいたします。

○経済部長（松田知良君）　皆様、こんにちは。お答えいたします。

球磨川下り及びラフティングの年間の利用者数の質問でございます。まず、球磨川下りでございますが、人吉発船場から渡発船場までの清流コースは、冬季のこたつ舟を初め通年の営業でございます。渡発船場から球泉洞までの急流コースは、11月から３月までを除く４月から10月までの運行となっております。年間の乗船者数は、ここ５年間の数値でございますが、平成19年が４万6,814人、平成20年が４万4,494人、平成21年が４万5,147人、平成22年

が３万8,237人、平成23年が３万6,379人となっております。次にラフティングでございますが、球磨川ラフティング協会に加盟されている会社だけでも現在17社ということで、それぞれが運航されており、基準となるコース、実施期間が明確に定められているわけではございませんが、実施期間はおおむね４月から10月で、早いところでは３月、遅いところでは11月も活動されているようでございます。ラフティングの利用者数でございますが、本市並びに球磨村の利用者数の調査に回答いただいた該当会社13社の数値でございまして、実態と少々開きがあるということを御理解いただきたいのですが、平成22年で２万4,157人、平成23年で２万6,080人となっております。

次に、ラフティングを見学できる場所の整備についての御質問でございますけども、球磨村の球磨川沿いを走る「国道211号」からは、四季折々の美しい風景を楽しむことができ、車を停車して球磨川の風景や釣り人、球磨川下りの舟、ラフティングの様子を眺めている方を見ることができます。また、ＳＬ人吉や九州横断特急などの列車から見る球磨川の風景も非常に人気があるところでございます。ラフティングは球磨村の渡から球泉洞までの約10キロ区間を下るのがポピュラーなコースで、その沿線国道沿いにはさまざまな駐車スペースがあり、整備状況もそれぞれ違うため、議員御指摘のとおり川の眺めを木などが遮っている状況も見受けられます。今月１日にはくま川下りによる川開き祭が開催され、今月16日にはＳＬ人吉が運行再開されるなど、本格的な観光シーズンの幕あけとなり、ことしもたくさんのお客様にお越しいただける努力が必要と考えております。球磨川や国道219号沿いの環境整備につきましては、河川管理者である国土交通省や道路管理者の熊本県、地元である球磨村などの関係機関と協議や、整備についての要望などをお伝えしてまいりたいと存じます。

以上、お答えいたします。

すいません、訂正させていただきます。「国道211号」と言ったようですけども、「国道219号」でございます。申しわけありません。（「議長、16番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　16番。三倉美千子議員。

○16番（三倉美千子君）　今、大体の状況がわかりました。次に２点目、観光資源としての活用についてに入ります。

私は看護学院の教員のころ、卒業遠足として球磨川下りを取り入れたことがあります。球磨川下りを経験した生徒がほとんどいなかったわけです。それと、卒業して進学、就職のため県外に出ていく生徒も多くいて、人吉での経験と思い出づくりとして、生徒の希望もあり取り入れたのでした。その生徒たちの中には今も遠くにいる人もいて、ときどきは懐かしく思い出してくれているという電話がかかってきたり、得意げに人吉のアピールをしてくれているかもしれないとも私自身考えております。昨年８月の同じ時間にラフティングで楽しんだ家族に「お泊まりは」と尋ねました。そうすると「八代に行きます。そして泊まります」との返事が返ってきました。それ以上は言えませんでしたが、「人吉の温泉はとてもいいん

ですよ、人吉にお泊まりになりませんか」とラフティングや球磨川下りとセットで、また修学旅行に組み入れることが実現できれば、人吉の活性化につながると考えたところです。実際、修学旅行のメニューに組み入れている学校もあるとホテル関係者からお聞きはしております。また、ラフティングも球磨川下りもまずは私は地元の人が体験してみる、それだけでも活性化につながると思っておりますし、自信を持ってＰＲができるはずです。進められた人から「あなたは下ったことがありますか」と尋ねられたときに「下ったことがあります」と答えるのと、「下ったことありません」ではＰＲの効果は格段の差があると思います。

ここで２回目の質問をいたします。ラフティングを観光資源として連携をして活用できないか、お考えをお聞かせください。

○経済部長（松田知良君）　お答えいたします。

九州で唯一体験できる球磨川のラフティングは、平成５年に一つの会社からスタートし、繰り返しになりますが現在では球磨川ラフティング協会に加入されている会社だけでも17社が存在しております。人吉球磨を代表する観光資源として、旅行エージェントを初めとする観光関連業界の皆様にも広く知られているところでございます。人吉市といたしましても、ポスターを制作したり、さまざまなパンフレットに掲載するなどＰＲに取り組んでいるところでございます。観光資源としての安全性の確保についても、平成23年には球磨川ラフティング協会のほか、国土交通省や関係市町村、球磨川漁協協同組合、人吉警察署、人吉下球磨消防組合などの関係機関で組織された球磨川水面利用安全対策協議会が発足し、水難事故を防ぐべく安全体制を確保した事業推進にも取り組まれております。地元での認知度という点でございますが、球磨川ラフティング協会のほうでも河川清掃活動や子供たちへの乗船体験などを通して、事業への理解を求められているところでございます。体験型観光として、身近でより受け入れられますように、地域内外へのＰＲ活動をさらに広められるようお願いしてまいりたいと存じますし、協力も行いたいと考えております。ラフティングにつきましては、今後も球磨川下りと同様に、人吉球磨を代表する非常に重要な観光資源の一つとして認識し、ラフティング協会を初めとする関係機関との連携を図り、事業推進を進めていきたいと考えております。

以上、お答えいたします。（「議長、16番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　16番。三倉美千子議員。

○16番（三倉美千子君）　いろんな対策が行われていることが理解できました。私も人に勧めております。人に勧めておりますが、勧めて事故が起きたらどうなるかなとか少々気になっておりましたけれども、今お聞きしてちょっと安心しました。関係機関と連携を図って事業推進を進めていきたいと考えておられるとのことですので、ぜひ実行していただきたいと思いますし、実行されることを期待しておきます。また、市の職員の皆さんも体験してみてください。いろんな自信がつくと思います。私も年はとってもまだ捨てたもんじゃないという

ような感覚ができましたし、皆さんに自信持って勧められるんですよね。私は大体海育ちですので水は怖くないです。ただ、塩水と真水ということで違いはありましたけれど本当に楽しくて、また下りたいなとそういうような感じを持ちましたので、ぜひ皆さんにお勧めしておきます。これでラフティングについては終わります。

それでは、４項目めの市民の声よりを質問いたします。１点目の、人吉インターチェンジに高速バス利用者用の駐車場を設置できないかについてでございます。私は、高速バスを月に最低１回、多くは二、三回利用することがあります。熊本で午後からの会議ですと、11時５分発の高速バスに乗ることが多いのですけれども、待合所でよく駐車場のことが話題になります。「１日300円で駐車できるところが空いてないことがあり困った。バスの時間まで数分しかないので仕方なく近くの道路脇にとめてきました」また、「近くの病院にとめさせてもらったが次回からはとめないようにと言われました」などなどです。私も困って知人の庭にとめさせてもらったこともありますが、そこから歩いて往復すれば10分までもないですがかかります。そして、時間がなくて川岸の草原にとめた経験もあります。とにかくバスに乗りおくれると熊本の会議に間に合わないもんですから、仕方がなかったなと思いながらおりますけれども、今もインターまで送ってもらえないときは毎回駐車場は空いているだろうかと心配しながら、早目に出かけることにしています。先日も待合所で、人吉の方が11時５分発のになると駐車場がなくて困りますねと話しかけてこられました。私は球磨郡の方々と会議に出かけることがあります。多良木町から山江村から球磨村の役員さんたちと一緒なんですけども、先日も500円でも1,000円でもよいので近くの田んぼを駐車場にしてもらえないかなとの要望がありました。遠くから来られる方々の気持ちがよく理解できますので、そのたびに私は駐車場ができたら多くの人が助かりますねって同情してきました。今回人吉インターチェンジのトイレ設置が提案されてますし、トイレが設置できますと特に遠くから来られる高速バス利用者の方々は喜ばれます。そうですね、多良木から出れば三、四十分かかりますし、私と一緒に出かける役員さんもそう言われてます。寒い時は特にトイレが欲しいという要望があっております。

ここで質問です。今回のトイレ設置のように、国庫補助金などを利用して人吉インターチェンジに高速バス利用者用の駐車場を設置できないかお尋ねいたします。

○市長（田中信孝君）　お答えいたします。

議員御指摘のとおり、人吉インターチェンジのバス停留所の市の無料駐車場、民間の有料駐車場とも多くの利用が見られ、時間帯等によっては満車の状況にあるというのは認識いたしておるところでございます。そのため、高速バス利用者の利便性向上のために一層の駐車場の必要性につきましても、承知をいたしているところでございます。この点に関しまして、高速バス及び人吉市内における路線バスの運行主体でございますが、九州産交ホールディングスの産交バス人吉営業所にも協議を行っているところでございます。その中で、バス事業

者におかれましても、人吉インターチェンジにおける高速バス利用者のための駐車場が足りていない状況は認識されているようでございます。現状での対応策の一つといたしまして、本市といたしましては産交バス人吉営業所と人吉インターとを結ぶ路線バスを１日10往復運行しておりまして、人吉営業所敷地内におきましても８台程度のバス利用者のための駐車スペースを確保されておりますことから、路線バスと高速バスの利用を組み合わせることによりインターチェンジバス停留所付近での駐車場の心配をせずにバスの御利用がいただけるものと考えております。ただし、これは人吉市内の方でありまして、やはり上球磨、中球磨の方々はわざわざ人吉営業所のバス停までというのはなかなか遠く感じられるのかもしれません。この点につきましては今後利用促進のためのＰＲ活動を進めてまいりたいというふうに思っております。また、インターチェンジにおいては１日100便以上の高速バスが発着しておりまして、バス停留所周辺においては路線バス、タクシー送迎の車両等多くの利用が見られることから、人吉球磨地域の重要な交通結節点として、先ほどお話にもありましたトイレの整備も含め、駐車場確保の課題など周辺の環境整備につきまして、さまざまに検討を行っていく必要があるというふうに考えているところでございます。

以上、お答えいたします。（「議長、16番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　16番。三倉美千子議員。

○16番（三倉美千子君）　今、市の高速バスの専用の駐車場、６台とめられますね。高速バスのお客さん用のバス停ってお聞きしていましたけど、市のものと思ってなかったんですね。ところがいつも満車なんです。私もこの質問をするために朝行き、お昼できれば行き、夕方、12時前くらい行きますけれども、そうですね、朝の７時台だったらば車は２台くらい残ってますけど、300円のところも３分の１くらい残ってますけど、10時過ぎますと市のところは６台とも、そしてナンバーが同じなんですよね、何台かは。そのうちのナンバーは同じです。ですから通勤用に使われるんじゃないかなとも思ってます。自転車が十二、三台とめてあります。その自転車というのは、例えば私が知ってる保健所の方もあそこまで来て高速に乗って熊本に帰って、熊本から通勤されている方もあるからですね、自転車の置く場所も本当に助かっておられると思うんですけど、私の場合は自転車じゃなくて車ですので歩けば20分以上かかるんです、家からでも。そして産交バスといったら全然反対のところですので、やっぱり車の置き場所が欲しいなって。結局球磨郡の方がおっしゃったように500円でも1,000円でも出すからというような要望も出てます。今市長のお話聞きますと、全然考えられないわけじゃなくて検討していただくということですので、ぜひ設置ができるようによろしくお願いいたします。

以上で、質問を終わります。

○議長（永山芳宏君）　ここで暫時休憩いたします。

午後２時42分　休憩

午後２時56分　開議

○議長（永山芳宏君）　休憩前に引き続き再開いたします。（「議長、１番」と呼ぶ者あり）

１番。宮﨑保議員。

○１番（宮﨑　保君）（登壇）　こんにちは。１番議員の宮﨑保でございます。未曾有の東日本大震災も早いもので２年が過ぎようとしていますが、いまだに数多くの方々が避難所生活や転居生活を余儀なくされています。復興・復旧についてまだまだ進んでいないように思われます。一日も早い復興・復旧を心より願っております。また、昨日３月２日から３日にかけて北海道では発達した低気圧の影響で、暴風雪により９名ものとうとい命が奪われました。災害はいつ起きるかわからないということだと思います。御冥福を心よりお祈り申し上げます。

それでは、通告に従いまして、１項目めとして環境問題より、質問内容が若干前後しますが人吉市環境基本条例について、希少動植物について、自然保護について。２項目めとして市民の声より、人吉梅園の梅まつりでありましたときの消毒について一般質問をさせていただきます。

まず、環境基本法は1993年11月19日に制定されています。今までにも何人かの議員より、環境基本法が制定されてからすぐに環境基本条例の必要性について質問を繰り返しておられたように思います。その質問に対してはそのときは必要ない旨の回答に終わっていたように記憶しております。環境基本法が制定されてから19年以上もたっている今になってなぜこの条例が提案されたのか、その経緯をお聞かせください。

○市民部長（山本政義君）　皆さん、こんにちは。それでは、お答えいたします。

環境基本法は1993年11月19日に制定され、その第36条において、地方公共団体においても国の施策に準じた施策及びその他のその地方公共団体の区域の自然的社会的条件に応じた環境の保全のために必要な施策を、これらの総合的かつ計画的な推進を図りつつ実施するものとされました。これまでこの基本条例の制定については、笹山議員を初めＯＢの議員、６月議会では大塚議員からも質問があったところでございますが、人吉市においては地球温暖化対策、環境への負荷の少ない持続可能な循環型社会の構築など、環境基本法にいうところの環境保全の基本理念を十分認識した上で、これらの理念を市の総合計画の中に盛り込むことにより、同計画が環境基本条例と同様の性質を持つと考えてまいりました。第４次総合計画に引き続き第５次総合計画においても環境保全、自然との共生、循環型社会の形成を柱に、さまざまな環境関連施策を展開してまいりました。しかしながら、私たちを取り巻く環境に関する状況は多様化してきており、さまざまな問題が生じてきています。これらを解決する対策を講じていく上で、人吉の目指す環境のあるべき姿をより明確にするとともに、市、市民、事業者は何をしなければならないのかを共通認識として形づくることが必須であり、そ

れらを明文化する環境基本条例の制定が今こそ必要であるという認識のもとに、今回の御提案に至った次第でございます。

以上、お答えいたします。（「議長、１番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　１番。宮﨑保議員。

○１番（宮﨑　保君）　今、経緯についてお聞かせくださいましたが、今回の環境基本条例に対しまして、私は配慮がなされていないというふうに思います。なぜならば環境基本条例の第２項の定義の中に、「人の活動による環境に加えられる影響であって、環境の保全上の支障の原因となるおそれのあるもの」といったことが入っていませんし、また、今問題となっている中国から飛来するＰM2.5問題、原発問題、水俣病問題など生活環境問題として目の前に立ちふさがっているというふうに思います。こういったことからも、環境の負荷、また公害ということを定義として明記すべきではないでしょうか。お尋ねしたいと思います。

○市民部長（山本政義君）　お答えいたします。

用語の定義についてのお尋ねでございますけれども、環境への負荷、公害は、環境についての基本的かつ重要な用語です。これについては人吉市だけではなく全国共通の概念であると考えましたので、条例案においては用語の定義を環境基本法第２条の規定によるといたしました。環境基本計画におきましては、環境基本法の条文もあわせて掲載するなどして、基本的かつ重要な用語の定義について確認できるように検討いたします。

以上、お答えいたします。（「議長、１番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　１番。宮﨑保議員。

○１番（宮﨑　保君）　今の答弁の中で、環境基本計画の中で基本的、重要な用語の定義については確認できるように検討するということでありましたが、環境基本条例に対して市民のコンセンサスを得るために意見を求められたと聞いておりますが、その方法は、また結果は、質問内容についてはどうだったのか、お尋ねしたいと思います。

○市民部長（山本政義君）　お答えいたします。

環境条例素案につきましては、市民や団体代表、学識経験者などで構成される環境審議会において審議の上、答申いただいたものを、平成25年１月22日から２月５日までの間、市民の皆様に対し御意見を募集いたしました。広報ひとよしやホームページでパブリックコメントの実施のお知らせを掲載し、人吉市役所本館、別館、校区コミセン、ホームページにおいて、素案や資料、記入用紙などを備えつけ、皆さんにごらんいただいたところでございます。結果としまして、お二人の方から７件の御意見をいただき、厚くお礼を申し上げます。

いただいた御意見の中には、動植物の保護、保全、保護管理は記してあるが、外来種の駆除については記されていないというものがございました。これについては環境審議会において、シカなどの害獣駆除も考える必要があるという意見から、保全だけではなく、管理という文言を入れました。外来種駆除につきましても同様に、生態系の多様性の確保、動植物の

保護管理の項目であると位置づけ、平成25年度に策定する環境基本計画において検討しますとお答えをしております。ほかにも、公害、環境への負荷、地球環境の保全の定義が条例案の中にないという意見などをいただいております。お寄せいただいた御意見とその回答について、報道機関への情報提供、ホームページなどで報告したところでございます。

以上、お答えいたします。（「議長、１番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　１番。宮﨑保議員。

○１番（宮﨑　保君）　ただいま、結果として２名の方から７件の意見しかなかったということでありますが、こういうやり方で本当によかったのか。多くの市民の目に触れ、多くの意見を聞くやり方としてこの方法でよかったのかお尋ねしたいと思います。

○市民部長（山本政義君）　お答えいたします。

広く意見を聞く方法の一つとして、このようなパブリックコメントがございます。今回は環境審議会の審議とパブリックコメントという二つの方法で市民の皆様の御意見を聞かせていただきました。

以上、お答えいたします。（「議長、１番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　１番。宮﨑保議員。

○１番（宮﨑　保君）　ただいまの答弁を聞いていますと、ただやりましたというだけでなく、今後につきましては意見が出やすいように対策をとっていくべきではないでしょうか。今後は意見をどのように取り入れ、また環境基本条例にはどのように反映していくのかお聞かせください。

○市民部長（山本政義君）　お答えいたします

環境基本条例案におきましては、第９条市長は基本方針の実現を図るため、人吉市環境基本計画を策定しなければならないとしています。今後の具体的な基本計画策定においては、各種各層の団体ヒアリングや有識者の意見を聞く会、市民参加による環境調査などの開催を予定しております。たくさんの御意見を出していただき、市民の皆さんとともに計画を策定してまいりたいと考えております。

以上、お答えいたします。（「議長、１番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　１番。宮﨑保議員。

○１番（宮﨑　保君）　今の答弁の中に、環境調査などを開催していくとありましたが、ここで少し動植物について把握しておく必要があると思いますので、今から幾つかの希少動植物について質問したいと思います。

新聞報道等によりますと、昨年10月に熊本県のいわゆる絶滅危惧種に次の動植物が指定されました。中でも人吉に関する動植物が含まれていましたので把握されているかお尋ねをしたいと思います。まず、最初にゴマシオホシクサという植物について私が調べた範囲ではありますが、前原勘次郎先生という方が人吉市内で発見されたものであると聞いています。そ

れにつきまして現状について把握されているかお尋ねしたいと思います。また、二つ目に、私もまだその植物について見たことがないのでわかりませんが、確か４年ほど前だったと思いますが、新聞報道にミズタカモジという植物が数十年ぶりに発見されたという記事が載っていたと思います。この植物に対して、全国的また熊本県、人吉市の取り組みはどのようになっているのか。三つ目でありますが、ツクシガヤという植物について御存じですか。現在の状況について、またこのツクシガヤの発見のいきさつや人吉における現状について、以上の植物３点についてお尋ねしたいと思います。

○市民部長（山本政義君）　お答えいたします。

ゴマシオホシクサ、ミズタカモジ、ツクシガヤについて、具体的に把握はしておりませんけれども、熊本県のレッドデータブックによりますと、ゴマシオホシクサとは水湿地に生育するホシクサ科ホシクサ属の被子植物で、本州中部から九州に分布しています。県内では人吉市や錦町に見られていたそうですが、近年は生育が確認されず、絶滅または絶滅に近い状況にあるということでございます。熊本県のレッドデータブックにおいては、絶滅危惧ＩＡ類に指定されております。

ミズタカモジは水田跡などの湿地に生育する被子植物、イネ科の植物で、日本在来の野生の麦でございます。1924年に植物学者の前原勘次郎氏が本市で採取した標本が、新種の確認のきっかけとなったそうでございます。最初の標本以降、本市での生息を示す確実な記録がなかったのですが、2010年４月に山形大学農学部の笹沼恒男准教授が、人吉市内のあぜに自生しているミズタカモジを確認されました。最初の確認から86年ぶりのことであり、新聞報道でも取り上げられたところでございます。このミズタカモジは、熊本県のレッドデータブックでは絶滅危惧ＩＡ類に選定されております。

ツクシガヤは河川、水路などの浅い水辺やその周辺に生育する被子植物、イネ科の植物で、熊本県のレッドデータブックでも絶滅危惧ＩＡ類に選定されています。小泉源一先生という植物学者が人吉盆地の大村で採取したものを、1924年に新属新種として記載されたそうでございます。現状としましては、以前は人吉球磨地方の各地に見られましたが、水路の河川の工事、圃場整備事業など減少したと言われております。

以上、お答えいたします。（「議長、１番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　１番。宮﨑保議員。

○１番（宮﨑　保君）　では、続きましてハッチョウトンボについてお尋ねしたいと思います。このハッチョウトンボとはどのようなものか。また、人吉市における現状は把握されているのか。どういうところで観察できるのかをお尋ねしたいと思います。

○市民部長（山本政義君）　お答えいたします。

ハッチョウトンボについても具体的に把握しておりませんが、熊本県のレッドデータブックによりますと、ハッチョウトンボはトンボ目トンボ科に属し、体長は約２センチ、羽の長

さが約1.5センチという日本最小のトンボです。本州と九州に生息し、県内では人吉球磨地域と上天草市の白嶽湿地が主な生息地です。生育環境は日当たりのよい草丈の低い植物が見られる湿地や休耕田です。しかしながら、人吉球磨では湿地の減少と休耕田の陸地化で生息地が急激に減少しているということで、熊本県のレッドデータブックでは絶滅危惧Ⅱ種に選定されています。かつては県南、県央地域でも確認されていたそうですが、現在は絶滅状態と言われております。観察できる場所としては、熊本県のホームページには、相良村の深水湿原（瀬戸の堤）が掲載されております。

以上、お答えいたします。（「議長、１番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　１番。宮﨑保議員。

○１番（宮﨑　保君）　今まで多くの人吉市内に関する保護を必要とする動植物に関しての指摘がされています。例えば、人吉市に大村横穴群の保存に関して、周囲に生息するマツバランといった植物が刈り取られていたことに関して問題提起がされたことがあると聞いておりますが、そのことについては事実でしょうか。

○市民部長（山本政義君）　お答えいたします。

マツバランはシダ植物の一種、高さ10センチ程度に成長する常緑多年草で、世界の熱帯、亜熱帯に分布しております。熊本県のレッドデータブックでも絶滅危惧ＩＢ類に選定されています。日本ではマツバラン１種のみが自生し、国指定史跡である大村横穴群のがけ面にも自生しております。教育委員会に確認しましたところ、大村横穴群の保存管理上、岩盤の崩落の物理的原因となる樹木については原則伐採を行っていますが、マツバランは地下茎ですので岩盤崩落に直接影響を持つ植物ではないということで、自生地という御指摘を受けた以降は定期的除草も含めてマツバランの除去を行わないように配慮をしているところでございます。

以上、お答えいたします。（「議長、１番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　１番。宮﨑保議員。

○１番（宮﨑　保君）　多くの絶滅危惧種、つまり緊急に保護を必要とする動植物について質問を行いました。人吉においてもこれらの絶滅危惧種に対して何ら調査、把握、保護策といった基本的な事柄がなされていないというふうに思います。こうした絶滅危惧種と呼ばれる動植物は、その多くが私たち人々の活動によってその生息が脅かされ、今や絶滅寸前まで至っているという多くの研究者の指摘により指定されていると思います。そういった中、熊本県は１月18日から国内最小のトンボであります先ほど言いましたハッチョウトンボ、ダイコクコガネ、蝶類のウラジロミドリシジミ、ゴマシジミ、ミドリシジミの昆虫５種類と、ダイサギソウ、ゴマシオホシクサ、コモチイヌワラビの植物３種を含め計47種類を希少野生動植物に指定し、県内全域で捕獲、採取を禁止する県野生動植物の多様性の保全に関する条例を策定し、違反者に対しては１年以下の懲役か100万円以下の罰金に科することを発表されま

した。このように熊本県においては、その希少動植物の保護に関して取り組みを強化されておりますが、人吉市においても保護についてどのような取り組みをされるのかお尋ねをしたいと思います。

○市民部長（山本政義君）　お答えいたします。

希少動植物の保護については、環境基本条例案第７条で基本方針の４号に、「人と野生生物の適正な関係の構築について理解し、野生生物の生息場所又は生育環境に配慮するとともに、生態系の多様性の確保、動植物の保護管理その他豊かな自然環境の保全に努めること」と挙げているところでございます。今後、環境基本計画策定の中で、人吉市としてどのような取り組みができるか検討してまいりたいと思います。

以上、お答えいたします。（「議長、１番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　１番。宮﨑保議員。

○１番（宮﨑　保君）　では、ここで角度を変えて質問したいと思います。

私が聞いたところによりますと、生息していた希少動物が工事をされたことによっていなくなってしまったということを聞きました。人吉市が工事の発注をされる際、こうした希少動物の生息に関して、いわゆる環境への配慮はなされているのかお聞きしたいと思います。

○市民部長（山本政義君）　お答えいたします。

環境基本条例案にも第11条、「市は、庁内の緊密な連携及び施策の調整を図り、体制の整備等必要な措置を講ずるものとする」としており、全庁的に環境対策を推進するよう取り組んでまいりたいと思います。

以上、お答えいたします。（「議長、１番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　１番。宮﨑保議員。

○１番（宮﨑　保君）　環境問題について今までいろいろ質問をしてまいりましたが、今後も積極的な取り組みをお願いしておきたいと思います。また、委員会の審査の中で十分な論議をお願いしておきたいと思います。

では次に、市民の声より、人吉梅園の消毒について質問に入りたいと思います。去る２月24日の人吉梅まつりのときに消毒のにおいがしたといった御意見がありましたが、撒布に使用された消毒はどういったものを消毒として撒布されたのか。また、撒布はいつごろされたものでしょうか。撒布された消毒液はおおむねどのくらいまでにおいが残るのかをお尋ねしたいと思います。

○経済部長（松田知良君）　お答えいたします。

梅まつりで消毒のにおいがしたということでございますが、私どもは特に感じなかったのでございますが、当日そのようなことで不快を感じられたお客様にはこの場をおかりいたしましておわび申し上げます。

では、御質問にお答えいたします。まず、梅園に撒布された消毒の種類でございますが、

石灰硫黄合剤と言われる農薬でございます。効果といたしましては殺菌、殺虫効果があり、カイガラムシ類やダニ類、さび病、うどんこ病対策などに用いますが、強アルカリ性で強い硫黄臭が発生するといった特徴もございます。

次に、いつ撒布をしたのかということでございますが、市が管理委託いたしております人吉市梅園管理組合にお尋ねしたところ、１月30日と２月２日に動力噴霧器での撒布を行ったということでございました。

次に、においが残る期間はとの御質問でございますが、ＪＡグリーン下球磨にお尋ねしたところ、通常は２週間くらいであると思われるが、天候などにより変わることもあるだろうとのことでございました。

以上、お答えいたします。（「議長、１番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　１番。宮﨑保議員。

○１番（宮﨑　保君）　では、その撒布されました消毒について、梅の実に対しての残留性はないのかお尋ねをしておきたいと思います。

○経済部長（松田知良君）　お答えいたします。

梅の実に残留しないかとの御質問でございますが、農薬は農薬取締法に基づき国の登録を受けなければならないとなっており、登録して初めて製造、販売、使用ができることとなっております。また、登録までには薬害試験だけでなくさまざまな安全性評価試験や環境への影響試験が要求されており、こうした試験を用いて詳細な安全性評価が行われます。中でも、食品への農薬残留につきましては、食品衛生法により残留農薬基準が設定されており、この基準につきましては、平成18年から施行されたポジティブリスト制度によりすべての農薬が対象となっておりますが、石灰硫黄合剤は人の健康を損なうおそれのないことが明らかである特定農薬として規制の対象外となっております。こうした安全性評価で、人や農作物、環境への影響を明確にしてから適正な使い方を定めた重要な手段として使用基準があり、その使用基準を守って使用した場合には、農作物への残留農薬も人に影響が出ないように管理されております。この状態を確認して初めて農薬として登録されます。梅園で使用いたしました石灰硫黄合剤につきましても、こうした手続を経て登録された農薬であり、管理組合におかれましても使用基準を守って使用されたものでございますので、梅の実への残留はないものと考えるところでございます。

以上、お答えいたします。（「議長、１番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　１番。宮﨑保議員。

○１番（宮﨑　保君）　今の答弁の中で、梅の実に対しては使用基準を守って使用しているので、残留性はないと考えているとのことでありますので、一安心したところでございます。また、においが残る期間については、先ほど言われましたように通常２週間くらいですが、そのときの天候等によって変化があるということですが、人吉梅まつりの当日までににおい

が残らないように撒布時期などの指導はできないものかお尋ねをしておきたいと思います。

○経済部長（松田知良君）　お答えいたします。

梅まつりに影響がないように指導してほしいとのことでございますが、梅の消毒につきましては本来、梅の木の適切な管理と、その後の実の収穫に影響がないようにということで実施しているものでございますので、適期及び適正な撒布ということが重要になってまいります。しかしながら、撒布数週間後に梅まつりが開催されますので、祭りに御来場いただく皆様への配慮も当然必要であると考えます。よって、今後はそうしたことに十分配慮しながら、適切な対応をしてまいりたいと考えておるところでございます。

以上、お答えいたします。（「議長、１番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　１番。宮﨑保議員。

○１番（宮﨑　保君）　この梅まつりは人吉市のイベントの一つでもあります。そしてまた報道機関によりますと、市内外からことしは天候、開花ともに恵まれ5,500名という昨年を大きく上回る方々が来場されたということであります。その来場された方々が不快な思いをされないように、消毒の撒布時期などにつきましても、指導のほうよろしくお願いをしておきたいと思います。

最後になりましたが、ことし３月末をもって退職されます９名の職員の皆様、長い間市政発展のために大変御尽力いただき、御苦労さまでございました。また、退職されましても体には十二分に注意され、市政発展のためによき助言等をいただきますようよろしくお願いしたいと思います。また、地域での活躍も期待しております。今後もいろんな面での指導をよろしくお願い申し上げまして、これで私の一般質問を終わります。

答弁ありがとうございました。

○議長（永山芳宏君）　ここで暫時休憩いたします。

午後３時29分　休憩

午後３時42分　開議

○議長（永山芳宏君）　休憩前に引き続き再開いたします。（「議長、11番」と呼ぶ者あり）

11番。笹山欣悟議員。

○11番（笹山欣悟君）（登壇）　皆さん、こんにちは。11番議員の笹山でございます。本日最後の登壇となりました。執行部の明確な答弁をいただきまして、簡潔に終わっていきたいと思います。今しばらくおつき合いをよろしくお願い申し上げます。

一般質問に入ります前でありますが、３月末日をもちまして退職されます職員の皆様におかれましては、長い間の公務員としての市政発展のための御奉仕、そして大変御尽力されましたことに対しまして、感謝とお礼を申し上げたいと思います。大変お疲れさまでした。また、私も職員時代からそれぞれの立ち場で御指導賜りましたことにつきましても、感謝とお

礼を申し上げたいと思います。今後は一市民として、健康に留意されまして、御活躍いただきますようにお願いを申し上げます。

それでは、通告に従いまして、一般質問を行ってまいります。今回は市長の施政方針より、第５次総合計画とローカルマニフェストの検証、第５次行政改革大綱、人吉市環境基本条例、人吉市花まる教室、郷土の偉人先人教育について５項目。市民の声から、マダニウイルス感染対策についての１項目について通告をいたしました。

まず初めに、第５次総合計画とローカルマニフェストの検証についてであります。市長は施政方針において、総合計画における六つの政策ごとにまとめてローカルマニフェストの進捗状況を述べられました。時間が限られているということで、進行中、実施済み、継続中、代替、凍結といった五つの判断の基準のうち、実施済みの項目について報告をされたところであります。時間的な配慮をいただきましたことについては、大変ありがたく思っているところであります。しかしながら、五つの判断基準のうち実施済みのみを報告されても、残りの判断基準についてどのような状況にあるのか、気になるところであります。そこで五つの判断基準についてどのような進捗状況なのかお尋ねをしておきたいと思います。

なお、昨日の一般質問等においてそれぞれ項目ごとにローカルマニフェストに係る部分について若干答弁があっているところであります。平田議員の一般質問におきましては、「便利で住みやすいふるさと定住都市ひとよし」の分野について答弁がなされましたので、その項目につきましては私も理解をいたしましたので、重複は避けて答弁をいただければと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

○議長（永山芳宏君）　ここで会議時間を延長いたします。

○市長（田中信孝君）　お答えいたします。

ローカルマニフェストと第５次総合計画における戦略につきましては、重複させておりますため、総合計画におきます政策となる戦略ごとに多少お時間をいただき、進捗状況を御説明申し上げたいと思います。

戦略１の産業・経済に関する「農業と観光で稼ぐ・儲かる経済都市ひとよし」の分野におきまして、現時点で未実施のものは５項目ございます。まず、D51蒸気機関車復活のための署名、募金活動の推進についてでございますが、現在肥薩線に関する学術調査や観光ＰＲを進めている中で、より全国へと効果的に情報発信を行っていくため、専用のホームページを立ち上げ本年度中に公開することにいたしております。D51形蒸気機関車の復活に向けては、まずこのホームページを活用し全国から署名を集めることにしまして、その書式も掲載する予定であります。地域住民の皆様はもとより、全国のＳＬファンの方々からたくさんの署名をいただけるよう、情報発信に努めてまいる所存でございます。

次に、トップセールスによる積極的な企業誘致についてでございますが、現在も進行中とさせていただいており、厳しい経済状況にありますが、今後も引き続き立地企業の受け皿づ

くりと企業誘致に取り組んでまいります。

昭和の人吉温泉郷、街並みの復活についてでございますが、中心市街地において温泉郷を復活することにつきましては、多額の建設費に対する財源及び温泉資源の枯渇、保護の問題等により、市の直接投資は断念したところでございます。また、街並みの復活でございますが、現在策定中のグランドデザインに実効性を持たせるべく、新たな助成支援策としましてファサードの整備、補助を計画しております。鍛冶屋町通りの街なみ環境整備事業についても推進してまいりたいと存じております。

石野公園の施設、機能の見直しについてでございますが、平成22年度に市役所内にワーキングチームを設置して、今後の石野公園のあり方を含め検討を行ってまいりました。今後市の関係部課長で構成する石野公園運営委員会、市民有識者等による組織である石野公園事業審議会を経て、方針を決定してまいりたいと存じます。

広域観光推進協議会の設置と広域観光の活性化についてでございますが、これまで人吉球磨広域行政組合の理事会におきまして、圏域の浮揚に係る広域観光の重要性について訴えてまいりましたが、少しずつその環境が整いつつあるところでございます。組織的には現在、県の球磨地域振興局が所管する人吉球磨地域観光推進協議会と人吉球磨広域行政組合、そして本市が総括をしております広域観光組織ひとよし・くま旬夏秋冬キャンペーン実行委員会の３組織を中心に、今後の広域観光の進め方について随時協議を行っているところでございます。

戦略２の教育・文化に関する「美しき相良700年の歴史文化都市ひとよし」の分野におきまして、現時点で未実施のものは２項目ございます。まず、多目的運動広場建設の早期実現についてでございますが、現在九州管内類似都市における施設の建設費及び維持管理費の調査を行っているところでございます。

次に、カルチャーパレスの大規模改修と図書館の蔵書の増冊についてでございますが、まず、大規模改修の現在の進捗状況でございますが、昨年12月に発注いたしました大規模改修基本設計委託業務がことし３月中ごろには完成し、基本設計が完成する予定でございます。また、図書館の蔵書につきましては、平成23年度末人口100人当たり目標蔵書冊数263冊に対し実情は260冊で、目標達成率99％でございます。

戦略３の自然環境・安全に関する「母なる清流球磨川が輝く自然安全都市ひとよし」の分野におきまして、現時点で未実施のものは４項目ございます。まず、川辺川ダム建設白紙撤回を求めダムによらない治水対策への積極的な取り組みについてでございますが、昨年11月に第４回のダムによらない治水を検討する場の幹事会が県の球磨地域振興局で開催され、遊水地の新設や球磨川の掘削といった治水対策をすべて実施した場合の、はんらんシミュレーションが示されたところでございますが、この会議以降新たな会議は開かれていない状況でございます。シミュレーションによりますと、上流域となる本市では洪水リスクとして残念

ながら床上浸水被害の可能性が残ると示されております。これに対しまして、中、下流域に位置します八代市や芦北町、球磨村などは家屋や農地への浸水をほぼ防げる計算のようでございます。そのような状況の中、本市としましては他市町村と同様のレベルを求めるのは至極当然のことと考えておりまして、今後も国、県、流域市町村と連携をとり、床上浸水被害を最大限防げるための努力をしていく必要があると存じております。

次に、防災行政無線の早急な整備についてでございますが、平成24年度に整備を進めてまいりました同報系の防災行政無線は、親局設備や中継局、子局の各設備の工事がほぼ完了し、今後は試験電波の発射及び各機器の動作確認等竣工検査を行い、いよいよ４月から本格運用を開始することといたしております。

クリーンプラザの大規模改修とごみ減量大作戦の実施についてでございますが、大規模改修につきましては、人吉球磨広域行政組合において平成22年度から平成26年度までの５カ年間で大規模改修事業が計画されております。ごみ減量大作戦につきましては、マイバッグの持参運動、レジ袋無料配布中止、その後の有料化でございますが、これらを初め生ごみの水切りの徹底、ごみ分別の徹底、資源ごみのリサイクル、再生利用等を行い、ごみ減量の推進に取り組んでいるところでございます。

熊本県下の都市で一番水道料金が安く、おいしい水を供給し続けるための施設更新についてでございますが、引き続き熊本県下の都市で一番水道料金が安いということにつきましては、マニフェストどおり値上げは行っておりませんので、現在県下14市では一般的な家庭で使用する20立方メートルの水道料金は一番安くなっております。また、おいしい水を供給し続けるための施設更新を行うことにつきましては、老朽化した管及び施設などの耐震化に向けて更新を行っているところでございます。

戦略４の健康・福祉に関する「笑顔があふれ、幸せいっぱい健康福祉都市ひとよし」の分野におきまして、現時点での未実施のものは４項目ございます。まず、高齢者に対する交通機関に使用するフリーパスの無料配布についてでございますが、現在類似事業を実施されている自治体の情報収集に努めているところでございます。このマニフェストにつきましては、単独で議論するよりも、市民のために便利な自宅から自宅まで送迎する乗り合いタクシーを実現するを初めとする幾つかの具体的マニフェストで構成されております市民のための交通手段の充実と、包括的かつ統計的に進めていくほうが効果的であると考えているところでございます。このため、関係部署で意見交換を行い、その後も鋭意協議を行っておりまして、マニフェスト実現のための議論、検討を進めておるところでございます。

次に、老後の安心生活総合支援を含んだ新健康管理センター建設の早期実現についてでございますが、高齢者の皆様に元気で長生きしていただけるように、地域包括支援センター機能を強化する必要がございますので、特に高齢者の総合相談窓口の機能を強化することで、高齢者が抱えるさまざまな問題に対応してまいることで実現を図ってまいりたいと存じてお

ります。まず、地域包括支援センターが高齢者の総合相談窓口であることの周知を図るため、わかりやすく親しみやすい愛称の公募を行ったところでございます。市民の皆様にこの愛称が浸透し御活用いただきますと、これまで以上に広範囲の方に支援の手を差し伸べることができるのではないかと考えているところでございます。そして、御相談に来られた方には、その方にとって最適な問題の解決方法をお示しして、高齢者が元気で長生きできるように支援をしてまいりたいと考えております。

向こう三軒両隣による声かけネットワークの組織化についてでございますが、民生委員、児童委員や高齢者相談員の活動を中心に、校区社協の小地域ネットワークの拡充に努め、御近所による見回り体制の構築を図ってまいりました。また、見守り対象者に関する福祉情報と小地域ネットワーク情報を一本化した災害時要援護者避難支援システムを活用し、要援護者一人一人の福祉台帳を作成して、町内会を初めとする自主防災組織に対して、要援護者に関する必要な情報を提供するなど、安全・安心な地域づくりの整備を進めているところでございます。

子供の医療費無料化枠の中学生卒業時までの拡大についてでございますが、これまで他市の状況等を見ながら実現に向けての試算等の準備をしてまいりましたが、厳しい財政の状況からいまだ実現には至っていないところでございます。

戦略５の都市基盤・建設の分野に関しましては、昨日の平田議員の答弁と重複いたすため割愛させていただきます。

最後に戦略６の地域・自治に関する「信頼と連携で力を合わせる市民主役都市ひとよし」の分野におきましては、現時点で未実施のものは４項目でございます。うち、新たな組織機構改革により機動性の高い組織の創設につきましては、来年度の平成25年４月１日をもちまして実施済みとさせていただきたいと考えております。

次に、行政評価制度の有効活用で、経費の削減と職員の意識改革の徹底化についてでございますが、今年度はローカルマニフェスト実現のため、企画課、財政課、総務課、３課合同によります実施計画ヒアリング、予算関係ヒアリング、行政評価ヒアリングを実施しております。総合計画に位置づけられている主要な事務事業130事業のヒアリングを行い、この中から約30事業を抽出し、担当課において再度事業の見直しを行っております。初年度ということで、削減効果は600万円ほどとなっております。

市庁舎及び図書館等の公共施設の延長時間、曜日の設定の検証、市民に配慮した開所時間の見直しについてでございますが、本庁舎につきましては、１日当たりの利用者数がここ数年ほぼ横ばいで推移していること、窓口間の利用状況に偏りがあることなどの現在の状況、今後の課題を踏まえつつ、定員適正化による職員数の減少、現況調査や現場対応などの職員の庁外勤務の増加、コンビニ収納の開始など新たなサービスの充実も考慮に入れた上で、日数、時間数の削減も含めて検討しているところでございます。次に、図書館につきましては、

現在既に夏休み期間については午後６時までの時間延長を行っておりますが、それ以外の期間の開館時間帯の見直しにつきまして、時間延長にかかる経費と市民サービスのバランス及び安全・安心の確保において最大の効果が上がりますよう、さまざまな角度から調査検討を行っているところでございます。

最後に、市民の利便性を向上させるための税金などのコンビニ収納についてでございますが、施政方針の中でも掲げさせていただきましたが改めて申し上げますと、４月に納期限を迎えます市営住宅家賃を手始めに、固定資産税及び都市計画税、軽自動車税、市・県民税の普通徴収分、国民健康保険税並びに介護保険料につきまして、各コンビニエンスストアで納めることができるようになる見込みでございます。今後最終的には稼働テストを行い、問題がなければ４月から収納開始の手はずとなっており、市民の皆様の納税等に関する利便性は格段に向上するものと考えておるところでございます。

以上、未実施における進捗状況についてお答えをいたします。（「議長、11番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　11番。笹山欣悟議員。

○11番（笹山欣悟君）　未実施の項目について進捗状況、市長のほうから答弁いただきました。未実施の状況を聞いておりますと、すぐにも25年度入ったらすぐに実施済みになるような項目、もしくはどうかなと、まだまだ検討が必要な箇所、それぞれに今課題が浮き上がったのではないかなというふうに思うところであります。そのような中で、基本的に市長のマニフェスト、４年間のマニフェストという形になりますので、ならあと２年間の中でどれだけの達成が見込めるのかと、これも一つ気になるところであります。やはり基本的には４年間のうちの２年間でこれだけのことをやりましたというふうなことで、はっきり明らかになりましたけれども、ならば今の未実施の部分の中で、ならあと２年間でどれだけの達成が見込めるのか、その点を今の時点でどのように検討していらっしゃるのか、この点について改めてお尋ねをしておきたいと思います。

○市長（田中信孝君）　お答えいたします。

まず、D51形蒸気機関車の復活につきましては、最終的には運行主体であるＪＲ九州の経営判断の中で決定されていくものであります。このため当面の間はホームページを通じた署名活動に力を注いでいくことになります。その上で、ある程度の数の署名が得られた段階、あるいはＪＲ九州において復活運行の兆しが見えてきた段階で、今度は正式に募金活動を行うことになるというふうに考えているところでございます。

次に、トップセールスによる積極的な企業誘致につきましては、引き続きあらゆる人脈、ネットワークの中で企業誘致活動を展開し、できるだけ早く結果が出せるよう努力してまいりたいと存じております。そのためにも受け皿となる人吉中核工業用地の早期完成を目指してまいりたいと存じているところでございます。

昭和の人吉温泉郷、街並みの復活につきましては、鍛冶屋町通りを基点としまして、既存の温泉施設を含めた歴史、文化を大切にした城下町の風情が漂う町並み整備が進むよう、新たな補助金要項を策定いたしまして、できるだけ早期に多くの商店街に御利用いただき、魅力ある統一的な修景を推進してまいりたいと存じております。

石野公園関連につきましては、庁内ワーキングを中心にまとめております人吉クラフトパーク石野公園活性化基本計画の策定が最終段階に入っているところでございます。計画の策定後は、これに基づきハード的なものは実施計画を策定し、ソフト的なものは順次進めてまいりたいと考えているところでございます。

広域観光推進協議会の設置と広域観光の活性化につきましては、まずは組織的な広域観光の一本化ということで、関係の皆様方にお願いをしてまいりましたが、特に人吉球磨地域観光推進協議会が県の出先的な組織となっておりまして、すぐすぐの一本化は難しいという状況になっております。しかしながら、人吉球磨広域行政組合における観光所管部署の設置、くま川鉄道の本格観光路線化への動きなど、広域観光の活性化という観点では今後大きく進展していくものと考えておりまして、ここ一、二年広域観光への取り組みが本格化する中で、組織間の連携はもちろんのことでございますが、関係組織の整理、広域観光推進協議会としての組織の一本化に拍車をかけてまいりたいと考えているところでございます。

次に、多目的運動広場建設の早期実現につきましては、平成25年度においてプロジェクトチームを設置し検討を行い、平成26年度において基本計画策定を行う予定でございますが、建設につきましては多額の事業費を要することから、多目的運動広場の建設時期は延期せざるを得ない状況でございます。当面は既存施設の整備を図りながら、できる限り市民の皆様方の御要望にこたえられるよう検討し、努力してまいりたいと考えております。

カルチャーパレスの大規模改修と図書館の蔵書の増冊につきましては、先ほど述べましたように、３月中ごろに完成いたします大規模改修基本設計書をベースに、今後は実施設計、本工事へと進めてまいりたいと存じております。中でも喫緊に改修を必要とする項目につきましては、平成25年度中にも改修工事に取りかかり、本格的な工事は平成26年度を予定しております。しかし、どの改修工事も高額な費用が伴いますので、特にここ数年の厳しい財政状況を勘案しながら慎重に優先順位を定めて進めてまいりたいと存じます。図書館の蔵書冊数につきましては、平成26年度末100人当たりの蔵書冊数285冊を目標に取り組んでおり、目標達成できるものと考えております。

次に、ダムによらない治水対策についてでございますが、この項目に関しましては地域の自然と住民の安全を守るという面で、終わりのない、ゴールのないテーマであります。しかしながら、一つの節目としましては、本市が納得できる内容で国が示す球磨川流域の河川整備計画の策定というものがマニフェストの達成、いわゆる実施済みとしてカウントできるのではないかと存じているところでございます。したがいまして、国、県、流域市町村の動向

も見据えながら、また議論を重ねながら、スピード感を持って取り組んでまいりたいと存じます。

防災行政無線の早急な整備につきましては、今後の整備計画におきまして、平成25年度に第２期整備事業といたしまして、同報系の戸別受信機の設置や、移動系の防災行政無線の整備を進めてまいりたいと考えております。

クリーンプラザの大規模改修につきましては、１回目でもお答えしましたように平成26年度まで計画されておりまして、平成25年度の主な改修事業といたしまして自動燃焼制御システム更新、加熱機の改修が予定されており、平成26年度が最終年度として計画されております。また、ごみ減量大作戦につきましても、さまざまな取り組みを行っているところでございますが、まだ十分に住民に周知できていない点もあるようでございますので、引き続きさらなる住民への周知度の向上を目指すため、住民の皆様方にもお買い物時のマイバッグ持参推進、ごみ出し時の生ごみの水切り徹底、生ごみ処理機の補助制度の周知、可燃・不燃ごみから資源ごみへの分別の徹底等について、あらゆる機会を通じて住民へ情報を発信してまいりたいというふうに考えているところでございます。

県下でも最も安い水道料金の維持と水道施設の更新につきましては、今後もおいしい水を供給し続けるため施設の更新を継続して実施してまいりますとともに、県下都市の中で最も安い水道料金を維持するため、さらに経営の効率化及び経費の削減を図り、健全経営に努めてまいりたいと存じております。

次に、高齢者に対する交通機関に使用できるフリーパスの無料配布につきましては、先ほどお答えしましたように、市民のための交通手段の充実と包括的に議論、調整を図りながら、長寿健康づくり支援策の充実、実現に向け、財源等も含めまして引き続き慎重に検討してまいりたいと考えているところでございます。

新健康管理センターの建設につきましては、高齢者に対する総合的な支援を行う施設と考えているところでございますが、建設につきましては、新健康管理センター単独ではなく市庁舎の建設にも絡め、今後検討してまいりたいと考えておりますが、まずは包括支援センターの名称変更と内容充実を図っていくことによって実現してまいります。

向こう三軒両隣による声かけネットワークにつきましては、先ほど御答弁申し上げましたとおり、組織化という点ではおおむね達成できているものと考えております。今後は見守りが必要な対象者を漏れなく把握する体制づくりとともに、日常的な見守りが災害など緊急時の支え合いに生かされるよう、自主防災組織の強化を図りながら、地域と行政が一体となって機動的なネットワークづくりを目指してまいりたいと存じます。

子供の医療費の無料化枠の拡大につきましては、厳しい財政事情の中ではございますが、中学校卒業時までの拡大の実現は厳しくなってまいっております。今後段階的な拡大に向けて準備を進めてまいる所存でございます。

次に、行政評価制度の有効かつ積極的活用につきましては、４月の組織機構改革により、財政、企画、行政経営の関係３係が企画財政課として新たに一つの課になり、今まで以上にスピード感を持った対応が可能となりますので、より有効かつ積極的に活用してまいりたいと存じております。

市庁舎及び図書館等の延長時間、曜日の設定の検証、開所時間の見直しにつきましては、本庁舎においては平成25年度中に見直し方針を決定し、早ければ年度内にも遅くとも平成26年度当初には実施できるよう取り組んでまいりたいと考えているところでございます。次に、図書館につきましては、これまでの管理等に加えてさらに今後アンケート調査などで利用者の御意見を伺いながら、平成25年度において延長開館の試行、26年度において延長開館ができるよう取り組んでまいりたいと考えているところでございます。

以上、今後の見込みについてお答えをいたします。（「議長、11番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　11番。笹山欣悟議員。

○11番（笹山欣悟君）　見込みについて、本当に25年度中にできるもの、もしくは26年度で恐らく見込みに届くもの、それぞれの項目を市長の判断の中で今答弁をいただきました。なかなかやっぱり継続的なものもかなりあったかというふうに思っているところであります。今回全般的な部分について答弁をいただきましたので、それぞれ個々個々の課題についてはそれぞれの課題が若干出てきたのかなとは思っております。ただ今回は、そういった全体的な部分を改めて踏まえておくという立ち場で質問をいたしましたので、今回はこれ以上質問は取りやめておきたいと思っております。それぞれの項目の中で、今後さらに１年後、もしくは２年後の中で実施できる見込みの部分について、課題等について質問する項目等が出てきた場合については、改めてその時点でその項目ごとに質問を行っていきたいというふうに思っておりますので、今後さらに今の２年間の中で未実施の部分がどれだけそういった達成度が出てくるのか、そういったことを執行部におかれましても努力をしていただきながら、私たち議会の立ち場からもその部分については是々非々の立ち場で議論をさせていただきたいと、そういうふうに思っておりますので、今後ともよろしくお願いを申し上げたいと思います。

次に、第５次行政改革大綱についてということであります。これにつきましては、平成24年６月議会におきまして第４次行政改革大綱について、成果と課題それから第５次行政改革大綱にどのように反映させるのかと、そういった立ち場で質問を行っているところでもあります。施政方針におきまして、第５次行政改革大綱の策定を行ったというふうに述べられたわけなんですね。ただ、議会に対してはまだ報告があっていないのではないかなと私はちょっと思っているところでありますが、そういったところで行政改革大綱の具体的な部分については私もまだ理解をするといいますか、理解をすることができない、そういった状況にあるんじゃないかなと思っております。

そこで改めてここでお聞きしておきたいのは、その第５次行政改革大綱の昨年６月議会の質問以降策定に至るまでの経過、それから今回の第５次行政改革大綱の考え方、この点について改めてお尋ねをしておきたいと思います。

○総務部長（坂崎博憲君）　それでは、行政改革大綱についての経緯及び考え方についてお答えをさせていただきます。

まずは、第５次行政改革大綱策定の経緯から御説明をさせていただきます。平成24年８月に職員で構成します第５次行政改革大綱策定プロジェクトチームを設置いたしまして、９月から６回にわたって具体的な取り組み項目の検討を行ってまいったところでございます。また、大綱そのものにつきましても、平成24年３月に職員への行革に対するアンケート調査を行いまして、策定作業を進めてまいったところでございます。その後平成25年１月、ことしの１月でございますけれども、１月に行政改革懇談会に素案の御説明を行い、御意見をいただいております。さらに２月に入りまして14日に政策審議会、20日に行政経営会議と、それぞれの審議を経たところでございます。

次に、第５次行政改革大綱の考え方につきまして御説明をさせていただきます。今回策定いたしました第５次行政改革大綱は、地域主権型社会に対応した本市の行政改革を定めるものでございまして、第５次人吉市総合計画の効果的な推進を図るために補完、連携するもので、側面から支え推進する役目を担って策定をしたところでございます。これまでの行政改革大綱は総合計画と時期を重ねてはいるものの、必ずしも連動しているというわけではございませんでした。そこで第５次の大綱では、第５次総合計画の基本理念におけるまちづくりのための行政改革を推進する目的で、第４次行政改革大綱で設定をいたしました四つの市役所の目指す姿を踏襲しつつ連携して進めてまいる予定でございます。さらに、地域を経営するという視点に立ち、政策、財務、行政改革を３本の柱として関連づけながら、コスト意識、スピード意識、サービスの質の向上に努めるなど経営感覚を持って地域をマネージメントしていくと位置づけをしているところでございます。

このようなことから、施政方針において述べさせていただいておりますとおり、推進期間を第５次人吉市総合計画の終期、終わりと合わせまして、平成31年度までの７年間といたしているところでございます。また、具体的な取り組み項目につきましては、第４次行政改革大綱までと同じように各課独自の専門的な取り組み項目に加えまして、今回は全課に共通する取り組み項目も６項目設定をしておりまして、これらの取り組み項目を含めて全部で23項目について取り組んでいくことといたしているところでございます。

以上、お答えいたします。（「議長、11番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　11番。笹山欣悟議員。

○11番（笹山欣悟君）　第５次行政改革大綱の考え方を答弁いただきましたが、第４次行政改革大綱の考え方とは若干違った考え方で取り組みをされるようであります。そうしながらも

第４次の行革大綱における部分を踏襲をする部分は踏襲をしながら反映をさせていくというふうにされているようでありますが、そこで、実際第４次の行政改革大綱に取り組まれたときに、未実施の部分がかなり出てきたのかなと思ってるところなんですね。かなりの項目において未実施の部分が出てきたというふうに思っております。昨年６月の議会の中においても、そういった第４次行革大綱と第５次の総合計画の整合性、それから第５次行革大綱のどのような反映なのかと、そういったところも聞いとるわけなんですね。そのときについては、先ほど部長答弁されましたように、基本的には総合計画の下位計画としての位置づけ、それからその計画ともより実務型の計画として策定をされておりますので、取り組む具体的な事務事業というのがそういった形で総合計画に載っているわけなんですね。その中でやはり第５次の行革大綱の中では、それらの事業を達成するためのツールと、そういった意味での行革大綱になっているのではないかなというふうに思っております。そのような中で先ほど答弁されましたが、第４次と同じように独自の専門的な項目、それから全課で取り組む項目、それを合わせて23項目で取り組みをされるというようなことでありますけども、ならばその23項目の中で第４次行革大綱で未実施であった部分が、どの程度反映されているのかなというところが若干気になるところなんです。その辺についての、第４次行革大綱における未実施の項目について、今回の第５次の行革大綱についてどのように反映されているのか、この辺をちょっとお尋ねをしておきたいと思います。

○総務部長（坂崎博憲君）　それでは、未実施の項目についてどのように反映したのかという議員の御質問にお答えをさせていただきます。

第４次行政改革大綱におきましては81の具体的な取り組み項目の中で、結果としては未実施が34件あったわけでございますが、今回第５次の大綱を策定するに当たりまして、第４次で未実施となっておりました項目や、実施項目のうち引き続き取り組む項目が11項目ございます。このうち幾つかを具体的に申し上げますと、市民との協働の推進、職員のおもてなし力の向上、職員提案制度の見直し、新たな人材育成基本方針の策定、組織目標管理制度の導入などでございます。

以上、お答えいたします。（「議長、11番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　11番。笹山欣悟議員。

○11番（笹山欣悟君）　その具体的な項目については私も見ていませんので、ちょっとまだ理解できないところなんですけれども、ただ別の観点から私が気になっているのは、先ほど部長のほうも推進期間７年と、総合計画に合わせて今回は７年と定めて取り組んでいくというふうに答弁されました。第４次行革大綱についてはスピード感を持って取り組むという立ち場から３年間にされたわけなんですね。それ以前の第２次、もしくは第３次については５年間で取り組んできたと。５年で取り組んでもなかなか長い期間の取り組みというふうなことで、第４次についてはさらにスピード感を持たなければいけないと、そういった形で３年間

を設定されたというふうに思っております。そして、今回は７年という策定機関なんですね。ですので、そういった行革体系の流れと比較したときに、７年という期間は非常に長過ぎるのかなと私はちょっと思ったところなんですね。それで、今回７年間と期間を設定をされた、その根拠についてまだ若干ちょっと私理解できませんので、その辺について改めてお尋ねをしておきたいと思います。

○総務部長（坂崎博憲君）　推進期間の７年の根拠はという御質問でございます。先ほどの御質問の中でもお答えをさせていただきましたが、今回の第５次行政改革大綱は推進期間を第５次人吉市総合計画の終期、終わりに合わせまして、平成31年度までの７年間といたしているところでございます。第４次の大綱が３年となっておりましたので、単純に比較しますと前回よりスピード感に欠けると思われるのではないかと存じますけれども、今回の大綱は第５次総合計画の効果的な推進を図るために基本理念を総合計画と同じくし、これらを側面から支えて推進する役割を担っているところでございます。第５次総合計画は地域経営の軸になるものと。その基本構想に掲げられた地域の目指す姿は市役所のすべての部署、職員が共有すると。その達成に向けて効率的、効果的に行政を経営していくために、総合計画と行政改革を連携して進めていくということとしているところでございます。以上のような考え方に基づきまして、推進期間を７年といたしたところでございます。

以上、お答えいたします。（「議長、11番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　11番。笹山欣悟議員。

○11番（笹山欣悟君）　総合計画の基本理念を補完すると、そういった意味では部長の答弁は理解できるところではあるんですが、ただ総合計画を見たときに、総合計画については４年ごとの前期計画、そしてそれを見直したさらに４年間の後期計画と。そういった前期計画と後期計画というような２本立ての総合計画になっていると私思ってるんですね。そういったことを考えれば、私は前期計画に合わせた行政改革大綱であってもよかったのではないかなと。そしてそれをさらに進めるための後期計画に合わせた行政改革大綱をきちんと定めると。そういったことでもよかったのかなというふうにもちょっと考えたところなんですね。ですので、改めて前期計画と後期計画との関連性、それについてはどのように考えていらっしゃるのか、この点についてもお尋ねをしておきたいと思います。

○総務部長（坂崎博憲君）　それでは、前期計画、後期計画との関連性についてお答えをさせていただきます。

先ほど答弁いたしましたとおり、第５次行政改革大綱は推進期間を総合計画の終期、終わりに合わせているところでございます。今回の第５次行政改革大綱は、大綱の考え方そのものは７年間という期間で推進していくわけでございますが、具体的な23の取り組み項目につきましては、毎年見直しを行いながら進めていくということにしているところでございます。行政改革は当然ながらスピードがある改革を求められておりますので、取り組み項目につい

ても最長でも３年以内には結果を出すこととし、総合計画と同様に取り組み項目の内容を見直しながら進めてまいりたいというふうに考えているところでございます。

以上、お答えいたします。（「議長、11番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　11番。笹山欣悟議員。

○11番（笹山欣悟君）　毎年そういった形で見直しをされるということであれば、それなりの効果が得られるのかなというふうにも判断しますので、その点については理解をするところでもあります。

あと１点です。実は先ほど行政改革懇談会においていろんな意見を聞かれたというふうに答弁をされたところであります。第４次の行政改革大綱においても行政改革懇談会の意見を聞かれて、第４次の大綱をまとめて冊子として説明をいただいたときには、そういった行政改革懇談会の意見等は掲載をされて、かなり懇談会の中からもいろんな意見が出てたんじゃないかなと思っているところなんです。ですので、今回策定をされた第５次の行政改革大綱について、そういった行政改革懇談会の意見というのがどのような形で、どのような意見等が反映されているのか、この点についてお尋ねをしたいと思います。

○総務部長（坂崎博憲君）　それでは、懇談会からの意見について御説明申し上げたいと存じます。

まず、第４次行政改革大綱の意見書の中の懇談会の委員の皆様から意見といたしましては、取り組み項目の未実施が34項目と多く、３年間という短い期間で実施するのであれば十分なリサーチが必要であるとの意見でございましたので、第５次の大綱ではＰＤＣＡサイクルの中でリサーチをするという考え方を埋め込みまして、事業のマネジメントを進めてまいる予定でございます。また、職員の接遇面での御意見がございまして、以前と比べると職員の接遇が大分よくなってきているというお褒めの言葉もいただきましたが、まだまだ向上心が足りないのではないかという御指摘もいただいております。したがいまして、引き続き職員のおもてなし力の向上を取り組み項目に設定いたしまして、取り組んでいくことといたしているところでございます。このようにしまして、第４次行政改革大綱の検証の中での委員の皆様からいただいた御意見は、第５次大綱の策定に当たり反映をいたしたところでございます。

次に、第５次行政改革大綱の素案を御説明した際の御質問、御要望についてでございますけれども、行政経営の定義、補完性の原理とはどのようなものなのかなどの御質問や、わかりづらい表現などをもっとわかりやすくすべきとの御意見もいただいております。また、行政改革とは市役所だけや職員だけが行うものではなく、サービスを受ける側の市民の意識改革も必要ではないかなどの御意見もいただいたところでございます。

以上、お答えいたします。（「議長、11番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　11番。笹山欣悟議員。

○11番（笹山欣悟君）　懇談会の中でもかなり積極的な議論をされてるんじゃないかなという

ふうに判断をしたところであります。いろいろと聞いてきましたけども、実は一番最初に質問すべきだったのかなと今ちょっと思っているところなんですけど、今までいろんな行革大綱について聞いてきましたけれども、具体的に私たち大綱案を示されてませんので、これ以上はなかなか具体的な根拠について聞くことができないわけなんです。やはり施政方針において、大綱を策定したというふうな施政方針を説明されたんであれば、やはりそういった行革大綱について施政方針を説明する前に、議会に対してはこういった大綱を策定したんだというふうな説明があってしかりなのかなというふうにもちょっと考えるところなんです。やはり私は当然、議会開会前に全員協議会等でこういった形で策定をしたので、というような説明をしていただきたかったというふうに思っているところであります。その点についてどうお考えでしょうか。

○総務部長（坂崎博憲君）　議会に事前に説明すべきではなかったかということでございます。まさしくそのとおりでございまして、先ほど一番最初に日程を御説明申し上げまして、かなりタイトな日程でやってきたもんですから、日程の都合で議員の皆様に対しましては笹山議員御指摘のように内容の説明がまだできておりません。大変申しわけなく思っているところでございます。議員の皆様には、機会をいただきまして改めて内容の御説明をさせていただきたいというふうに考えているところでございます。また、今回の大綱の取り組み項目につきましては、全課で取り組む項目を設定しているところでございますが、これらの項目につきましては、各課の課長を行政改革リーダーとして配置をし、推進員とともに各課において項目ごとの目標を設定していただくこととしているところでございます。このような一連の作業を今後各課にお願いするわけでございますけれども、４月には組織機構改革を控えております関係で、新たな組織においてこれらの作業を行いたいとも考えているところでございます。新たな組織において定めた具体的な取り組み項目の内容についても、再度今回大綱を説明させていただいた後に、また４月になって再度議員の皆様に詳しく御説明をさせていただきたいというふうに考えているところでございます。説明が行き届かなくて大変申しわけなかったと思っているところでございます。お許しをいただければというふうに思います。どうぞよろしくお願いを申し上げます。

以上でございます。（「議長、11番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　11番。笹山欣悟議員。

○11番（笹山欣悟君）　スケジュール的に厳しい部分があったかもしれませんが、やはり25年４月から恐らく行革大綱を実施されるというふうに私は思ってましたので、そういったことでちょっと聞いたわけなんです。ぜひ早目に議会に対しても、もう25年４月から第５次の行革大綱が実施されると思いますので、なるだけ早い時期に大綱等について説明をいただきたいというふうに思いますので、よろしくお願いを申し上げたいと思います。

次に、環境基本条例についてであります。この条例につきましては、私は平成17年３月議

会、それから19年６月議会、また24年３月議会というふうに取り上げて質問を行ってまいりました。制定につきましては、近い将来視野に入れていかなければならないと、そういう認識をされながらも、自然環境の保全、また保持、そしてその自然を宝として次の世代に受け渡していくことも大きな環境の課題として、理念、戦略、戦術を打ち立てて魂の入った条例として提案をしていきたいと。そのためには今しばらく時間をいただきたいというふうなことで、少しずつ前向きな答弁をいただいてきたというふうに思っているところであります。そして今議会、環境基本条例を提案されたところであります。先ほど宮﨑議員も質問をされましたので、重複する部分につきましては避けながら、また委員会での審査事項でもありますので、二、三、基本的な部分だけちょっとお尋ねをしていきたいなというふうに思っております。

まずは、今回の環境基本条例の策定に至るまでの経過についてお尋ねをしたいと思いますし、もしくは環境審議会に諮問をされていますので、環境審議会での意見等についてはどのように反映をされたのか、この点についてお尋ねをしておきたいと思います。

○市民部長（山本政義君）　お答えいたします。

昨年の10月22日に市長から人吉市環境審議会に対し、環境基本条例の制定について諮問を行いました。同審議会は市民、事業者、学識経験者、関係行政機関15名で構成され、市長の諮問を受け引き続き11月26日、１月10日と３回にわたり環境基本条例案について審議を行ってもらいました。審議会ではさまざまな御意見が出たところでございまして、そのうち、人吉らしさ、人吉としての環境のあるべき姿を文言として入れるという意見は、条例の前文に文章として反映されております。また、滞在者や通過者の責務も明確にするべきだという意見があり、滞在者や通過者を市民等に含める形に反映されました。ほかにも市民等も事業者も良好な近隣関係の形成に努めること、事業者の環境面での社会貢献、環境教育は重要であり独立した条文とすること、水系を含めた広域的な観点に立ち他団体や近隣市町村と連携すること、野生生物の保護と適切な管理を併記すること、市民との協働を条文とすること、市民の責務などの表現など、さまざまな御意見を盛り込んだ形で条例の答申案をまとめられ、１月18日に審議会会長から市長に提出されたところでございます。市では答申案をもとに１月22日から２月５日まで２週間にわたりパブリックコメントを募集し、いただいた御意見を参考にし、法令審議会において条例案として精査を行い、議会に御提案をさせていただいたところでございます。

以上、お答えいたします。（「議長、11番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　11番。笹山欣悟議員。

○11番（笹山欣悟君）　環境審議会の答申を受け入れられて、人吉らしさとか、人吉としての環境のあるべき姿を文言として用いられたと。結局は人吉らしい環境基本条例を提案されたということかなと今感じたところなんです。確かに条文の項目の中でも、それぞれに網羅を

されたと思ってます。環境の推進を図るとか、それぞれの事業者等の責務、それから環境教育に関する項目ですね。もしくは広域的な連携、また市民との協働等、それぞれにうたってあると、そういうふうに私も感じたところであります。ただ、こういった条文を見たときに、果たしてそういった環境を推進するためには、基本的にはやっぱり財源が必要になってくるんじゃないかなというふうに思うわけなんです。そこで、私はこの条例の中に、そういった財政的な措置を盛り込むことも必要ではなかったのかなというふうにも考えるわけなんです。そういった財政的措置について、これについてはどのようにお考えなのか、お尋ねをしておきたいと思います。

○市民部長（山本政義君）　お答えいたします。

環境基本条例制定後は、環境基本計画を策定するようになっておりまして、基本方針を施策として具体化させていくことになります。その際には、予算措置が必要なものについては確保してまいりたいというふうに考えております。

以上、お答えいたします。（「議長、11番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　11番。笹山欣悟議員。

○11番（笹山欣悟君）　その環境基本計画を今から策定されるようでありますが、その中で環境基本計画を策定して、その中で必要な部分については財源確保を行っていくと、そうやって取り組んでいかれるというようなお考えのようでありますけれども、私はこれだけ環境基本条例をきちっと定めるんであれば、条例の中でそういった財政的な措置を、基本的な財政的な措置についてはやっぱり環境基本計画の中で、具体的な部分については確保しなければならないと思いますが、その全体的な財政的な措置についてはやはり環境の保全を図る、今からの環境推進を図っていくと、そういった部分での財政的措置については、条例の中で担保をして取り組んだほうが、よりそういった環境の推進に進むのかなというふうに考えたところなんです。そういった意味で条例の中に財政的措置まで、財政的な措置を講ずるというような文言をうたい込んでおけば、環境基本計画等を定める中でもそういった財源の確保等がある程度容易に担保できて取り組むことができるというふうにもちょっと考えたもんですから、その辺についてちょっとお尋ねをしたところであります。これについては私の考えでありますので、これについてはそういった私の私見的な考えということでお伝えをしておきたいというふうに思っているところであります。

具体的な部分については、こういった形でお尋ねしてきましたが、条例そのものについてではありませんけれども、今社会問題となっています大気の環境汚染という中で、ＰＭ2.5について非常に社会問題化されてると思っております。それで、条例そのものとは関係ありませんけれども、執行部のほうにも通告をしておりましたので、この点についてお聞きをしておきたいというふうに思ってます。

まずは、そういったＰＭ2.5についての現状と対策についてどのように取り組んでいらっ

しゃるのか、これについてお尋ねをしておきたいと思います。

○市民部長（山本政義君）　お答えいたします。

微小粒子状物質（ＰM2.5）関係でございますが、現在熊本県からの情報をもとに市のホームページに掲載し、市民に対し情報を提供しているところでございます。熊本県人吉保健所と連携を持ちながら、現状把握と対策に努めているところでございますが、２月27日の夕方、環境省で第３回のＰM2.5に関する専門家会合が開催され、大気汚染の対応などについて話し合いがなされたところでございます。一昨日３月５日午前７時過ぎには、熊本県から全国で初めて国が定めた暫定指針値の１日平均値70μg/㎥（マイクログラム／立方メートル）を超える可能性があるという情報提供がなされましたので、早速市のホームページに掲載するとともに、学校、幼稚園、保育園、福祉施設、社会教育施設などに情報提供を行ったところでございます。３月11日には熊本県が市町村に対しての説明会を開催する予定となっており、国の動向を含めて対策についての情報提供があるものと考えております。

以上、お答えいたします。（「議長、11番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　11番。笹山欣悟議員。

○11番（笹山欣悟君）　確かに注意喚起がなされたということで、ここ毎日、新聞等を見てみますと情報等が掲載されている。またはテレビ報道等でも回っている状況かなというふうに思っております。先ほど部長答弁の中で、それぞれの機関に情報提供をされたというふうに答弁をされたと思っております。幼稚園、もしくは学校、それから福祉施設等についてもそういった情報提供をされたというふうに答弁されましたけれども、それではそういった情報提供を受けたそれぞれの所管課においては、どのような対策とか取り組みをされていらっしゃるのか、この点についてお尋ねをしておきたいと思います。

○教育部長（赤池和則君）　こんにちは。お答えいたします。

情報提供を受け、人吉市教育委員会では、市内の小中学校に速やかに通知をするとともに熊本県ホームページに記載されるＰM2.5の速報値を確認しながら、各学校ごとに適切な対応をとるように指示をいたしたところでございます。市内の小学校数校では３月５日の午前中は屋外での体育や外遊びをやめ、体育館内で遊ぶようにしたところもありました。今後も注意喚起が行われた場合、または人吉保健所の速報値が高くなった場合には、各学校の判断で屋外での激しい運動をできるだけ減らす、マスクの適切な着用等の措置をとる、また、呼吸器系や心疾患の症状のある児童・生徒には十分な健康観察を行うなどの対策をとることといたしているところでございます。それから、社会教育施設におきましては、中央公民館、校区公民館等で実施する屋外行事につきましては、状況に応じて屋外での活動を控える、会場を変更するなどの対応をしてまいりたいと存じます。それから、体育施設におきましては、県から注意喚起情報が発令された場合におきましては、利用者からの雨天時等による利用日の振りかえ申請と同様の取り扱いとしまして、対応をしてまいりたいというふうに存じてい

る次第でございます。

以上、お答えします。

○健康福祉部長（松岡誠也君）　健康福祉部関係につきまして、お答えいたします。

県や市のホームページの確認と、県の大気環境情報メール等により情報収集に努めております。そこで基準値を超えるという予測が出た場合は、各保育園や障がい者関連施設、高齢者の方が利用される施設等へ健康福祉部各課からファックスやメール等で注意喚起を行っておるところでございます。先日の注意喚起の連絡により、各保育園では当日の園外活動をやめ、換気も控えるなどの対応をされました。中には、速報値をチェックしながら外遊びや遠足等も調整していくという内容の文書を保護者に配付された保育園もございます。また、障がい者支援施設も同様に、屋外での行事等を控え、マスクを着用するなどの対応をされたとのことでございました。

以上、お答えいたします。（「議長、11番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　11番。笹山欣悟議員。

○11番（笹山欣悟君）　それぞれに早急な対応を実施されてるなというふうに感謝申し上げたいと思います。毎日毎日かかわることでありますので、早目のこういった対応というのは非常に必要なことではないかなと思っているところであります。ただ、そういった施設を利用される方についてはそのような注意喚起、情報等が提供されると思いますが、県のホームページ等を見れば私たち市民もそれなりに情報を得ることはできますけども、なかなかそういったホームページ等見れない方もいらっしゃると思ってるわけなんですが、そういったことで市民に対しての周知とか広報、これについてはどのように考えていらっしゃるのか、これを１点お尋ねをしておきたいと思います。さらには市民の方、数人の方から情報をいただきました。といいますのが、災害情報等についてはエリアメールで一斉送信をされて情報が確認できるようになってます。ですので、県のホームページに自分からアクセスして登録して情報をもらうというのもいいかもしらんけども、なかなかそこまですることが面倒くさいじゃないですけども、できない人もおるんじゃないかと。こういった状況であれば、そういったエリアメールを使って市民等に対して一斉に送信をするというようなことができれば、それぞれに市民が意識をするんじゃないかなと。それだけの情報提供が速やかにできるんではなかろうかなと。そういったことをエリアメールで情報提供できないのかなという相談も受けたところなんですね。ですのでそういったエリアメール等が利用できないか、この点についてもお尋ねをしておきたいと思います。

○市民部長（山本政義君）　お答えいたします。

先ほど答弁いたしましたけれども、現在は市のホームページに県のホームページをリンクし、最新情報を提供しているわけでございます。御質問のエリアメールにつきましてでございますが、自治体から送信可能な情報は、避難指示や避難勧告などの緊急性の高い内容に限

定されておりますので、現時点では自治体によるＰM2.5関連の情報のお知らせはできないことになっております。なお、先ほど申しましたけども、県の３月11日の会議を受けて、さらなる情報提供の方法を検討し、市民の皆さんへの周知を図っていきたいというふうに考えております。

以上、お答えいたします。（「議長、11番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　11番。笹山欣悟議員。

○11番（笹山欣悟君）　エリアメールでの送信はできないと、非常事態の情報しか送信できないというようなことなんですね。今の時点ではそうかもしれません。ただ、このごろこういった形でＰM2.5に対する問題というのが社会問題化してきてるわけなんです。それを考えますと、国の対応等もはっきり言って後手後手に回っての対応がなされとるんじゃないのかなというふうに思うところでもあります。そういった国の指導を受けながら県が対応を図る、また県の対応を諮りながら市が対応を図るというようなことで、非常に遅い取り組みになってくるのかなと思うわけなんです。そういった中で、テレビとか新聞報道等によって情報については私たちは得ることはできますけれども、災害とは言いませんが、今のこういった社会問題化している状況を考えますと、こういったＰM2.5についても大気汚染という人吉だけに限らず熊本県、もしくは九州、全国を汚染する一つの大気汚染の災害ではないかなというふうなことも考えられると私は思っています。そういったことを考えれば、市民生活が安心・安全に生活ができるような状況を、きちっとつくり出すことが行政の責任でもあるのかなということも一つ考えるわけなんですね。そういうことを考えますと、ことしそういった状況で発生してきた部分になってますので、もしよかったらそういった今災害等の緊急の場合にしか使えない状況があるけれども、そういった大気汚染にかかわる災害というふうな判断もしながら、こういった情報についても市民等に対して速やかな送信、情報提供等ができないかどうかと、そういった取り組みを協議をされることもできないのかなと思うわけなんですね。ですので、できたらそういった部分についても、私は自治体みずからが前向きに動いていただいて、市民にきちっとした正しい情報の提供という判断の中で協議、検討をしていただければ助かるなと思うところであります。これについては、そういった方法が検討ができるのかどうか、そういったところも含めて要望といいますか、検討していただきたいというふうにお願いをしておきたいと思いますので、ぜひ前向きな取り組み等をお願いできればと思います。よろしくお願い申し上げたいと思います。

以上で、環境基本条例関係については終わっていきたいと思います。

次に、人吉市花まる教室事業についてということであります。このことにつきましては、本日トップバッターの松岡議員のほうが質問をされたところであります。基本的な事業の背景とか目的等については、それぞれやりとりがあってますので、私も理解をしたところであります。ましてや、市長から市長の教育観、これについても答弁をいただきましたので、一

定の理解をしたところであります。質問を取りやめようかなともちょっと思ったところでありますが、私なりに１点、２点ちょっと気になるところがありますので、その点についてお尋ねをしていきたいなというふうに思っているところです。

基本的に花まる教室事業につきましては、放課後パワーアップ教室を拡大をして、進化をさせながら低学年を対象として取り組まれると、そういうふうに理解をしております。そこで、現在行っておられます放課後パワーアップ教室、これについての効果と成果、それから課題、これについては施政方針でも若干述べておられるとは思ってますけども、どのように分析しておられるのか、この点についてお尋ねをしておきたいと思います。

○教育長（堀　秀行君）　お答えをいたします。

放課後パワーアップ教室につきましては、笹山議員御承知のとおり、市内全小学校におきまして４年から６年の受講希望者を対象に、今年度は４月に児童の募集を行い、５月８日からことし３月５日までの間、週１回程度の１時間、国語、算数のプリント問題を解かせて指導を行い、平均28回実施したところでございます。参加児童数は、市内全小学校では４年生が166人、５年生が124人、６年生が127人の合計いたしまして417名でございまして、１年間根気よく頑張ってくれたなというふうに感心しているところでございます。また、学習サポーターは39人、学習サポーター補助は67人、合計106人の方々に無償ボランティアとして御協力をいただきました。この場をおかりいたしまして、衷心よりお礼と感謝を申し上げます。ありがとうございます。子供アンケート結果では、週１回の回数に関しては、「もっとしたい」と「ちょうどよい」を合わせて92％。楽しかったかという質問には、「大変楽しかった」と「少し楽しかった」それを合わせますと93％。今後参加したいかという問いには「ぜひ参加したい」と「参加してもいい」を合わせて86％の数字となりました。意欲を持って楽しく参加してくれているのではないかと思っているところでございます。また、保護者アンケートによりますと、勉強した週１回の回数については、「ちょうどよかった」というのが90％となっております。また、感想として、「子供たちが喜んで学習に取り組むようになった。とてもありがたい」などなどの感謝と喜びのメッセージを多数いただいたところでございます。小学校の先生方にアンケート実施はしていないところですが、直接・間接的に聞かれる感想ではおおむね好感を持っていただいているようでございます。課題といたしましては、学習サポーター等の確保が最も重要課題だと言えます。やはりサポーターの方々も年々高齢化されているという状況もありますので、そうした課題も含めてやはりサポーターの確保について今後しっかりしていかなければならないんではないかなというふうに感じているところでございます。さきに申し上げましたように、106人もの学習サポーターなどの先生方に御協力をいただいておりますが、参加児童が多いため一人一人に応じた指導ができているのかなという不安をいただいているサポーターもいらっしゃるというふうに聞いているということでございます。今後はこの事業の周知をもっと図り、教員免許をお持ちの退職

された先生方に御理解と御協力をお願いして、この事業を進めてまいりたいと思っているところでございます。

以上でございます。（「議長、11番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　11番。笹山欣悟議員。

○11番（笹山欣悟君）　おおむね子供さんからも保護者の方からも、また先生からもそれなりにいい評価をいただいている、そういうふうに今感じたところであります。ただ、やはりそういった中であっても学校の先生ともちょっとお話をする機会があったわけなんですが、その中でも実際放課後パワーアップ教室については直接携わってはいないけども、ただなかなかそこまで子供たちが学校に残っているというふうなことで、下校するまでは自分たち先生の責任があるというようなことで、非常に気になっていると、そういったことを思ってらっしゃるようであります。その中でも若干プリントを忘れたりとか、いろんなちょっとした問題等も発生しているというふうなことも聞いたところなんですね。そう考えますと、やはり学校の先生にとっても、負担感がちょっとあるのかなというのを感じるところであります。そのような中でさらに花まる教室事業を学校内で取り行っていくということになると、さらに若干やっぱり先生方の負担感にもつながっていくのかなというふうに考えるわけなんです。そこで、先ほど松岡議員への答弁、やりとりの中でも、私が求める部分について答弁があってたのかなというふうに思ってるところなんですが、やはり私はそういった学校の直接現場で指導される先生方、この先生方のその声をどのように聞いていらっしゃるのか、その辺について学校の先生方に説明をされていらっしゃるのか、もしくはそういった学校の先生方の声をどのように聞いていらっしゃるのか、この点だけちょっと確認をさせていただきたいというふうに思います。

○教育長（堀　秀行君）　お答えをいたします。

人吉市花まる教室につきましては、市内校長会及び市内教頭会におきまして説明を行ったところでございます。また、花まる学習会代表の高濱氏による講演会を１月24日に社会福祉協議会の大会議室で実施いたしております。学校関係者を対象に実施をいたしましたが、多数の御参加をいただいたところでございます。１月25日には西瀬小学校におきまして、市内校長、教頭及び教諭を対象に講話及び公開授業を実施したところでございます。公開授業については先ほど松岡議員にも申し上げましたが、私は他の公務がございまして、ちょうど文化財防火デーでございましたのでそちらの対応をしたところでございます。関係者の声を集約する作業はしておりませんが、公開授業時に参加された先生からは、とても参考になったなど高い評価を得ているところでございます。これも御紹介しましたが、今月24日にはシンポジウムを準備しているところでございます。ぜひ御参加していただければと思います。また、先生方の意向を聞くということも一つの手立てだろうというふうに思いますので、必要に応じて、もちろんほとんど校長会や教頭会の校長、教頭を通して聞いているというのが現

状でございますので、直接するとすればアンケート調査なんかが必要かなというふうには思っておりますが、そういうのも検討してまいりたいというふうに思っているところでございます。

以上でございます。（「議長、11番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　11番。笹山欣悟議員。

○11番（笹山欣悟君）　確かに公開授業に参加された先生方の意見を聞きますと、本当に先ほど教育長答弁されましたように、参考になったとかよかったとか、そういった評価の声を私も先生からお聞きしました。そのような中で、実はこういった花まる教室事業というものをこのように取り組まれますよというふうに話をしたときに、ちょっと首をかしげられたんですね。というのか事業そのものを知らなかったと。そういった事業があること、事業が進むということ、それを知っておられなかったというふうなことがありました。その中でいろいろと話をする中で、実は25年度からこういった形で進みますよという話をした中で、そうかなと、果たしてどうかなというふうに話をされましたので、直接そういった現場で働かれていらっしゃる先生の、一部の先生ではありますが、声を私聞きましたので、その辺をちょっとお伝えをしておきたいなというふうに思うところであります。

今や体罰の問題とかいじめとか不登校、それから学力向上、それから教職員の不祥事問題等、はっきり言いますと負の部分について非常に今社会問題化、クローズアップされていると、そういったことを認識されていらっしゃいます。しかしながら、ほとんどの先生方がまじめに、また情熱を持って子供を真ん中にというふうな考えで日夜頑張っているというふうに自負をしていらっしゃいます。確かにそういったことは間違いない事実だと私も思っています。ただ、そのような中で教育内容の要求については、現場からの声を聞いてほしいということも話をしていらっしゃいましたし、そういった現場の実態をどれだけ十分に把握をしていらっしゃるのかと、その辺を考えたときに、非常に不安を感じていらっしゃる、そういった状況がございます。学校はやはり日ごろの授業準備とか生徒指導、それから書類提出で朝から夜まで手いっぱいの状況であると。またその中で、学校という場所を使うことにつきましては、教職員も知らないふりはできないというふうに話をしていらっしゃいます。それがまた負担感となって問題が生じてくるんじゃないかなというふうに予想をしていらっしゃるわけなんですね。また、２年生が対象ということになりますと、出席とか欠席の確認とか、また放課後の下校指導等についても、やはり安全確保等の部分について、自分たちも気を配らなければならないというふうに話をしていらっしゃいます。また、その学力の定着、もしくは向上を図ると、こういったことにつきましては学校現場でも重要な課題というようなことで認識をされてますし、またその課題を具現化するためにも先生方の教材研究の時間確保が急務じゃないかなというふうに考えていらっしゃるようであります。例えば、部活動支援員を設置をすると、そういったことで時間確保ができないだろうかとか、もしくは最近で言

いますと１学期当初から学級運営ができないと。学級崩壊ですね。学級崩壊をしている事例がかなり多くなってきているというふうに学校の先生方、認識をしていらっしゃいます。ですので、今やっていただきたいことは、人材の確保をしてほしいと、そういうふうに話をされているわけなんです。現場では人材確保をお願いしたいというふうに話をしていらっしゃいます。その中で、今各学校に支援員を配置をしていらっしゃいますので、非常にその辺については大変助かっているというようなことでありますけれども、やはりまだまだ支援員が不足しているというふうに認識をしていらっしゃるようであります。ですので、ぜひ予算を確保していただいて、そういった支援員を増員して、子供たちを複数体制できめ細やかに見る体制、もしくはそういった教育環境を整える、こういったことも自分たちは急務の課題なんじゃないかなと、そういうふうにも考えていらっしゃるわけなんです。ですので、そういったことを実際直接私聞いたもんですから、やはりこういった先生方の声は重要かなというようなことで判断しましたので、今回こういった場でお伝えをしたいということで話をさせていただいたわけなんですけれども、そういった現場で働く先生方も一生懸命取り組んでいらっしゃる中で、やはり私はそういったことを先生方が考えていらっしゃいますので、学校の先生方の理解を求めることも一つやっぱりきちっとしなければいけないんじゃないのかなと思ってます。学校の先生方がきちっとこういった事業に対して理解を深めることによって、さらにお互いの取り組みを理解をしながら、例えばそのパワーアップ教室なり花まる教室事業については、その学校の教育現場を補完する立ち場できちっとやっていくんだと、そういった部分はきちっと理解を求めることが必要なんじゃないかなと思います。そういったことをすることによってお互いの効果が、相乗効果が働いてそれぞれ子供たちに生きる力、はぐくむ力、そういった部分をきちっとした教育の環境が行われるんじゃないかなと、そういうふうに考えます。ですので、そういったことを考えますと私は、教育長もさっき必要があればというふうに答弁されましたけども、ぜひそういった学校の先生方の現場の声をお聞きしていただきながら、こういった事業等がそれぞれの理解を深める中で取り組まれるようにお願いをしたいなというふうに思っているところであります。ぜひそういうふうにお願いをして、６月に試験的に、試行的にされますので、その期間の中でも結構だと思いますけどもそういった取り組みをぜひお願いをして、この事業が子供たちにとってよりよい事業になるように私は思っておりますので、これについては私もいろんな情報等を調べますとかなり評価をする部分がありますので、ぜひそういったことを考えていただきながらこれは取り組んでいただきたいというふうに要望しておきたいと思いますので、ぜひよろしくお願いを申し上げたいと思います。

○議長（永山芳宏君）　笹山議員、ここで休憩をとります。

暫時休憩いたします。

午後５時16分　休憩

午後５時29分　開議

○議長（永山芳宏君）　休憩前に引き続き再開いたします。（「議長、11番」と呼ぶ者あり）

11番。笹山欣悟議員。

○11番（笹山欣悟君）　あと少しですので、よろしくお願いを申し上げたいと思います。

次の、郷土の偉人先人教育についてということで通告しております。私の通告がよくなかったようでありまして、執行部の皆様には御迷惑をおかけしたことだと思います。大変申しわけございませんでした。郷土の偉人の顕彰事業を行ってきていらっしゃいますけれども、まず初めにお聞きしておきたいのは、そういった郷土の偉人に関する先人教育ですね、教育についてどのように取り組んでいらっしゃるのか、この点についてお尋ねをしておきたいと思います。

○教育部長（赤池和則君）　お答えします。

平成20年に改定された学習指導要領の総則に、伝統と文化を尊重し、我が国と郷土を愛する心の教育の具現化とその充実を図る取り組みを積極的に推進することが示されております。これを受けまして、熊本県教育委員会では、道徳教育用郷土資料「熊本の心」が改訂され、人吉市でも平成21年３月に人吉市郷土資料「相良七百年歴史と伝統が息づく人吉市」を作成いたしました。この郷土資料の中には丸目蔵人佐、東白髪、一井正典、犬童球渓、日野熊蔵など多くの郷土の偉人が取り上げられており、これらの郷土資料を用いての道徳や社会科、総合的な学習の時間の授業が実施されています。また、西瀬小学校では道徳資料「虹の架け橋西瀬橋物語」を独自に作成され、郷土の偉人について授業に活用されております。

以上、お答えします。（「議長、11番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　11番。笹山欣悟議員。

○11番（笹山欣悟君）　先ほど部長答弁されました、平成21年３月に作成されたというこの「相良七百年歴史と伝統が息づく人吉市」という郷土資料、これ私もちょっと見てみました。非常に中身がすばらしくて非常に役に立つなと思ったところなんですね。これだけすばらしい資料をつくってありましたので、こういった資料を使って副読本というふうな形で活用される、非常にいいことだと思っております。ただ、これを大いに活用すると本当にそれぞれ生徒の知識が深まるのかなというふうに思っているところなんですが、実際この副読本については、学校の中ではどのように活用されておられるのか、この点をちょっとお尋ねをしておきたいと思います。

○教育部長（赤池和則君）　お答えします。

人吉市郷土資料は児童・生徒用として大畑小学校に30冊、他の小学校に50冊ずつ、第一中学校に190冊、第二中学校に210冊、第三中学校に30冊を備えつけ、その中の写真や年表、地図、グラフ等の豊富な資料を活用しての授業が実施されております。そのほか、市民の皆様

にもごらんいただくために、人吉市図書館に30冊、人吉城歴史館に10冊を配付いたしております。また、人吉市教育委員会内に設置しております人吉市立教育研究所郷土教育部会では、平成21年度より各小中学校での授業に役立つように、人吉市郷土資料の授業での活用法について研究を行い、本年度24年度は児童・生徒の心の中に漠然としてあるふるさと感を引きだす多面的な活用の研究というふうなことで取り組みまして、武家政権の成立の歴史を、人吉球磨における相良氏の支配体制の確立と鎌倉幕府の動向を関連させることで、歴史をより身近なものにする授業の実践例などを紹介しております。このようにその研究成果は人吉市立教育研究所研究紀要（人吉市の教育）に掲載するとともに、毎年開催されております人吉市立教育研究所発表大会等におきまして報告をされ、市内小中学校での郷土資料の活用促進につながっているところでございます。

以上、お答えします。（「議長、11番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　11番。笹山欣悟議員。

○11番（笹山欣悟君）　それぞれの学校、もしくは図書館等に配付されて、道徳とか社会科の授業等で活用されているということであります。本当にこの資料、よくまとめられておりますので、小学校での活用以外にも私たちが読んでも非常に役に立つすばらしい資料ではないかなと思うわけなんです。そういったことを考えると、学校のそういった社会科とか道徳の授業だけに限らず、こういった資料を身近に生徒たちが持つことによって、例えば家庭の中で私たち保護者がこういった資料に接することもできるということになれば、私たちもそれで人吉の郷土がどういったものになっているのか、もしくはそういった偉人の人たちがどういった形でいらっしゃるのか、常に意識することができるんじゃないかなと思うわけなんです。ですので、保護者も役に立つような取り組み、そういったことができないかなというふうに思うところなんですが、そういった形で生徒たちに配付をすると。学校の中に備えつけて授業だけに活用するんじゃなくて、配付することによってそれぞれの家庭の中でもそういった意識づけが図られるのかなと考えるところなんですが、そういった配付をするようなことはできないのか、お尋ねをしたいと思います。

○教育部長（赤池和則君）　お答えします。

この人吉市郷土資料については平成21年３月に初版600冊を作成し、主に中学校の教材として市内の学校に配付いたしました。その後小学校や関係部署からの要望が多く、平成23年３月に第２版として600冊を増冊いたしました。が、１冊当たりの単価がおよそ1,100円かかっております。こういう事情で市内全児童・生徒への配付は難しいというふうに考えているところでございます。

以上、お答えいたします。（「議長、11番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　11番。笹山欣悟議員。

○11番（笹山欣悟君）　１冊1,100円とかなり高価な資料だと思います。ただ、それだけであ

っても私はそれだけのすばらしい価値があるのかなというふうに思ってるところなんです。そういったところで、本当に学校の授業だけで使うというのはもったいないなというふうに感じるところであります。家庭の中に身近に置いてあるとしますと、そのほうがいろんな郷土に関して、身近にいろんなところで感じることができる、また常に私たちが意識を働かせることができるのかなと思ってるわけなんです。そういったことを考えればいろんな形で人吉市民の方が郷土の歴史、偉人等について知識を深めていくことができるというふうに考えますので、そういったことを考えれば確かにかなり高額ですので、生徒への配付は困難があるかもしれませんが、例えば中学校でもいい教材として使われている状況があれば、例えば小学校６年生が卒業されるときの記念品として配付をするとか、そういった形で少しずつ広げていくことも可能なのかなと思うところであります。ぜひ私はこういった形で広く、こういった郷土資料の本が市民の方に広まって、市民の方が常に目にされるような環境になれば非常に役立つのではないかなと思いますので、その辺検討できないか、検討をお願いしたいなと思っているところでもあります。

それとまた別に、これまでには郷土の偉人についての顕彰事業等がそれぞれ行われてきたところでありますが、今までのそういった顕彰事業を見てみますと、一過性に終わっているような気がしているところでもあります。偉人を顕彰するということは非常にいいことだと思いますけれども、私はそういった偉人の顕彰を私たち自身が忘れることがないように常に意識を持つような取り組みというのができないかなというふうに思うところですが、そうするためには常に市民が意識を持って継続的に何らかの取り組みができていると、そういったことが必要だと考えますけど、そのような継続的な事業展開、こういうのができないのか、この点についてお尋ねをしておきたいと思います。

○市長公室長（久本一富君）　お答えいたします。

近年企画課が所管した主な顕彰事業といたしまして、まず平成13年に本市が生んだ偉人であり、かつ名誉市民でもある髙木惣吉氏を取り上げたドキュメンタリードラマ「海軍少将髙木惣吉」の制作を初め、昨年の市制施行70周年記念事業に先立ち、同じく本市が生んだ偉人でございます、そしてまた名誉市民でもある日野熊蔵氏を取り上げたドキュメンタリードラマの制作、そしてまた70周年記念式典の際は川上哲治氏にスポットを当て、「温故知新　人吉の光・日本の光を未来へ」というテーマでゲストを呼んでの対談を行っております。そしてまた県内及び県外の方々にも本市の偉人をＰＲしてきたところでございます。

議員の御指摘の中で、一過性の顕彰に終わっているのでは、そしてまた顕彰した事業展開こそが大切、重要ではないだろうかという内容の御指摘をいただいたところでございます。通常、事業を継続的に展開するに当たりましては、どうしても予算的な制約、人的な制約、それから時間的な制約が伴うことになります。そのような中で我々執行部といたしましては、偉人を知らしめるという意味で、ある程度までの掘り起こしという観点に力量を置いて、そ

して事業展開していくことが肝要であり責務であるかと存じます。もちろん、掘り起こしに終わるということではなく、偉人を顕彰するに当たりましてはどうしても行政だけではなく市民を巻き込んでの展開こそが非常に大事になってくるものと考えるところでございます。そのような意味でも、議員御指摘のとおり、毎年度の恒常的なハード面の予算、そしてまた人員配置は執行部側では措置されていないのかもしれませんが、先ほどの御質問にもありました教育委員会で作成いたしました読本というような比較的ソフト的な観点からの事業は、継続事業の一環としてカウントできるものではないかと存じます。さらには、現在石野公園におきましてはひなまつりの期間中を利用いたしまして、「栄光の軌跡」というタイトルで川上哲治氏のユニフォームや、そしてまた写真などを展示中でございまして、公園の展望所には常設の偉人展を開設し、ドキュメンタリードラマで使用いたしましたハンス・グラーデ機の実物展示や、そして撮影の際の風景をパネルにしたものも常時展示をしているところでございます。しかしながら、広く市民一般に周知されていないという現状も正直うかがえますので、今後も引き続き周知に努めてまいりたいと存じます。

また、行政からのアプローチだけではなく、市民みずからが発起された顕彰事業も多々あるわけでございます。平成22年10月に矢黒町の桃李温泉石亭の館におかれまして、御親族の方が中心となり髙木惣吉記念館を開設され、戦時中の資料や遺品を展示されているところでございます。そしてまた、昨年の一井正典生誕150周年記念事業におきましては、市民有識者を中心に実行委員会を機動的に組織をされまして、人吉カトリック教会においての献花式や講演会、さらには町なか人物展等を展開されたことは記憶に新しいところでございます。そしてまたさらに、西九日町商店街振興組合におかれましては、こちらも市民の方々が中心となり、町なかに郷土の偉人の石碑を制作をされ設置をされたという実績もございます。その他継続事業という点では、教育部におきまして、人吉城歴史館での計画的な偉人展、さらには市内の小中学生を対象に、日野熊蔵氏や川上哲治氏のドキュメンタリードラマを教材に用いまして授業も計画をされているようでございますので、今後も周知のタイミングを逸することなく、各所管課において取り組む必要がある事業、そしてまた市民の方々が中心となっての顕彰事業を効果的に融合させながら、一過性で終わることがないよう継続事業に取り組んでまいりたいと存じますので、御理解を賜りたいと思います。

以上、お答えいたします。（「議長、11番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　11番。笹山欣悟議員。

○11番（笹山欣悟君）　それぞれに継続的な事業を展開をされてらっしゃるようでありますけども、それが一過性になるんじゃなくて常に市民の方に意識を持って取り組まれるようにすることが必要なのかなとは思います。ハード的な部分、ソフト的な部分を含めながら、ぜひそういった郷土の偉人もしくは人吉市のそういった歴史が、私は市民の方が自信を持っていろんな方たちに話をできるような、そういった意識づくりにつながるような取り組みも必要

なのかなというふうに考えますので、そういった形での継続的な展開を図りながら常に偉人の方を顕彰していくというふうな事業展開ができればなというふうに考えますので、その点を含めて検討いただきたいなというふうに思いますので、そういったことで終わっていきたいと思います。

最後になりました。市民の声から、マダニウイルス感染対策についてであります。これについても社会問題となっておりまして、マダニウイルス感染による国内５例目となる死亡事例も発表されたということであります。新聞報道、テレビ報道等によってそういったように大きな社会問題となっているようでありますけれども、このマダニウイルス感染に対する市の考え方、もしくは対策についてどのようにお考えなのかお尋ねをしておきたいと思います。

○健康福祉部長（松岡誠也君）　お答えいたします。

マダニウイルスでございますが、正式には重傷熱性血小板減少症候群、略称をＳＦＴＳと呼んでおります。2009年に中国中央部で原因不明の疾患が集団発生したことにより本感染症の存在が明らかとなり、日本においてはことし１月以降、山口、愛媛、宮崎、広島で死亡例が確認され、最近になって2005年に長崎で死亡された方も同様の原因であることが確認されております。症状につきましては、発熱、倦怠感、食欲低下、嘔吐、下痢、ときには頭痛、筋肉痛などの神経症状、せきなどを引き起こすようでございまして、有効な抗ウイルス薬はなく対症療法が治療の主体となっております。原因はマダニにかまれることによる感染が主なもので、潜伏期間は６日から２週間、致死率は十数％と言われております。死亡された患者に最近の渡航例がないことや、2005年に死亡例があることから、ウイルス自体は以前から日本に存在しており、検出できるようになったことで発見され始めたと考えられているようでございます。マダニは日本全国の森林、草地等野外に広く生息しており、感染を防ぐためにはマダニにかまれないように注意するという自衛手段が主な対策となっております。医療機関には国、県を通じて情報提供がなされておりますので、市といたしましては、市民の皆様に対して予防対策の周知を進めてまいりたいと考えております。

以上、お答えいたします。（「議長、11番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　11番。笹山欣悟議員。

○11番（笹山欣悟君）　自衛手段しかないということで、非常に怖いなというふうに思っているところであります。実際マダニは、イノシシとかシカとかを初めとする野生動物、それから放牧をしている牛とか、身近には屋外で飼っている犬とか猫とかにもついている可能性があるわけなんですね。そういったことを考えますと、もしマダニウイルスに感染しているそういった動物がいると考えた場合には、身近なところにそのようなウイルスに感染する危険性というのが常にあるのかなというふうに考えるわけなんです。そういったことを考えますと、やはり何らかのマダニからの感染を防ぐための対策を講じる必要があるんじゃないかなというふうに考えます。もしくは、例えば感染の仕方によっては、例えばイノシシとかシカ

とかを解体をするとした場合の、もしウイルスに感染しとった場合の血液からの感染とか、そういったシカ肉等を生肉で食べたときには感染がどうなるのかとかいろんなことが、もし感染をしとったということを考えた場合にはいろんな危険性、そういったことをすることによってウイルスに感染する可能性があるのかなというふうな危険性が常に考えられるんじゃないかなと考えるわけなんです。ですので、そういった危険性があるのかないのかわかりませんが、そういった血液によっても感染するというような情報もあるような気がしてるんですが、そういったことを考えますとやっぱりそういった危険性というのを市民に対してもある程度の知識として、周知とか広報をしておく必要があるのではないかと、その辺をちょっと考えるわけなんですが、その辺についてはいかがでしょうか。

○健康福祉部長（松岡誠也君）　お答えいたします。

ＳＦＴＳの感染経路につきましては、マダニにかまれることによる感染が主な経路でございますが、感染患者の血液、体液からの感染も報告されているようでございます。また、発症は確認されておりませんが、哺乳動物への感染も見つかっていることから、体液等を介した動物からの感染も可能性としてはあり得るものと考えられております。一方で、空気感染や飛沫感染の報告がないこと、ＳＦＴＳウイルスは酸や熱に弱く、一般的な消毒用アルコールや台所用洗剤などで死滅するとされております。春から秋にかけてはマダニが活発に活動する季節であり、ワラビ狩りなど市民の皆様が野外に出る機会も多くなってまいります。同じくダニを媒介とするツツガムシ病なども重症化することもございますので、市の広報紙やホームページを通じたＳＦＴＳについての注意喚起を行うとともに、家庭に生息するダニとは種類が違うことなど、過度な不安を与えないよう正しい知識の普及に努めてまいりたいと考えております。

以上、お答えいたします。（「議長、11番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　11番。笹山欣悟議員。

○11番（笹山欣悟君）　過度な不安を与えますとパニックに陥ることも考えられますので、その点については先ほど部長答弁されましたように、過度の不安を与えないように、しかし正しい知識は知識として知らしめることが重要だと思います。

私たちの身近にそのような危険性が潜んでいるということをやっぱり常に私たちは身近な問題として考えていく必要があると思いますので、ぜひその辺の早目の対策、もしくは周知、広報等を今後検討していただきますようにお願いを申し上げまして、一般質問を終わります。

○議長（永山芳宏君）　以上で本日の議事は全部終了いたしました。

本日は、これをもって散会いたします。

午後５時55分　散会

平成25年３月第１回人吉市議会定例会会議録（第５号）

平成25年３月８日　金曜日

１．議事日程第５号

平成25年３月８日　午前10時　開議

日程第１　一般質問

１．村　口　　隆　君

２．西　　信八郎　君

３．豊　永　貞　夫　君

４．井　上　光　浩　君

日程第２　議第45号　平成24年度人吉市一般会計補正予算（第７号）

日程第３　議第46号　平成24年度人吉市公共下水道事業特別会計補正予算（第４号）

日程第４　議第47号　平成25年度人吉市一般会計補正予算（第１号）

日程第５　議第48号　平成25年度人吉市水道事業特別会計補正予算（第１号）

日程第６　議第49号　人吉市職員の退職手当の支給に関する条例等の一部を改正する条例の制定について

日程第７　委員会付託

２．本日の会議に付した事件

・議事日程のとおり

３．出席議員（18名）

１番	宮　﨑	保　君
２番	高　瀬　堅　一	君
３番	村　口	隆　君
４番	大　塚　則　男	君
５番	平　田　清　吉	君
６番	犬　童　利　夫	君
７番	松　岡　隼　人	君
８番	井　上　光　浩	君
９番	豊　永　貞　夫	君
10番	川　野　精　一	君
11番	笹　山　欣　悟	君

12番	西	信八郎 君
13番	村 上	恵 一 君
14番	田 中	哲 君
15番	仲 村	勝 治 君
16番	三 倉	美千子 君
17番	森 口	勝 之 君
18番	永 山	芳 宏 君

欠席議員　なし

４．説明のため出席した者の職氏名

市長	田中信孝 君
副市長	髙橋　隆 君
監査委員	篠﨑國博 君
教育長	堀　秀行 君
市長公室長	久本一富 君
総務部長	坂崎博憲 君
市民部長	山本政義 君
健康福祉部長	松岡誠也 君
経済部長	松田知良 君
建設部長	中村明公 君
市長公室次長	愛甲秀樹 君
総務部次長	中村則明 君
市民部次長	椎葉幹夫 君
健康福祉部次長	福山誠二 君
経済部次長	大渕　修 君
建設部次長	木村秀敏 君
企画課長	小澤洋之 君
財政課長	告吉眞二郎 君
会計管理者	松江隆介 君
水道局長	田中幸輔 君
上水道課長	那須義徳 君
教育部長	赤池和則 君
教育部次長	東　俊宏 君
農業委員会事務局長	舟戸幸弘 君

５．職務のため議場に出席した事務局職員の職氏名

局	長	赤　池　謙　介　君
次	長	村　並　成　二　君
次	長	山　本　繁　美　君
書	記	白　坂　禎　敏　君

午前10時00分　開議

○議長（永山芳宏君）　おはようございます。出席議員が定足数に達しておりますので、本日の会議は成立いたしました。よって、これより会議を開きます。

議事に入ります。

本日は、昨日に引き続き一般質問を行い、一般質問終了後、議第45号から議第49号までの５件に対する質疑を行います。その後、委員会付託をいたします。議事日程は、お手元に配付してあるとおりでございます。

日程第１　一般質問

○議長（永山芳宏君）　それではこれより、一般質問を行います。（「議長、３番」と呼ぶ者あり）

３番。村口隆議員。

○３番（村口　隆君）（登壇）　皆さん、おはようございます。３番議員の村口隆でございます。よろしくお願いします。早いもので、２年がたち折り返しの地点になりました。あと任期も２年でございます。昨年ある政治家の方が言われておりましたが、議員は任期は４年間と。その４年間の中でやり切るように活動しないと、次の選挙を考えた時点で市民のための政治はできなくなると。精一杯４年間やり切って、そしてそこでやり切れば、今漂う閉塞感もなくなるんではないかということを言われていたのを思い出しました。私もその言葉を聞いたときに、まさしくそのとおりだなと思いまして、私の座右の銘でもありますが、義を見てせざるは勇無きなりと、この言葉を胸に刻み込んで残り２年間を精一杯頑張っていきたいと思っております。

それでは、通告に従いまして２項目質問させていただきます。それでは、まず１項目めの、市道青井相良線について質問させていただきます。

平成23年12月の一般質問にて、坂田鮮魚店前のＴ字路が改良されてから２年になりますが、23年の12月の一般質問の答弁で、安全な通行確保のため地域の御要望として熊本県警及び球磨地域振興局と協議を行いたいと考えていると答弁されました。もう１年以上たちますので、今までの協議内容及び今後の対応について何らかの方向性が出ているのか、その点を一つお尋ねいたします。

○建設部長（中村明公君）　おはようございます。お答えいたします。

この交差点につきましては、住民の方が非常に危険を感じておられるということで御質問いただきましたので、その後に人吉警察署に協議をお願いいたしまして、現地立ち会いを行っております。この交差点の線形につきましては、変更することが難しいとのことでございましたので、交差点の中央線を越えて通過する場合の車両の安全確保の対策といたしまして、特に夜間の場合の走行に対する注意喚起を行うことを目的といたしまして、道路びょう、チ

ャッターバーというんだそうですが、これを設置したところでございます。

以上、お答えいたします。（「議長、３番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　３番。村口隆議員。

○３番（村口　隆君）　今答弁を聞きますと、道路に反射する道路びょうをつけられたということなんですが、その道路びょうがことしの２月ですか、多分２月だったと思いますが、今外れております。この道路びょうを外された理由をお尋ねいたします。

○建設部長（中村明公君）　お答えいたします。

交差点内に中央線の明瞭化を図るということで、この道路びょうを設置したところでございますけれども、現在は撤去をいたしております。その理由でございますが、この交差点を含め、毎年行われております春風マラソン大会に先立ちまして、大会ごとに関係機関とマラソンコースの安全対策につきまして協議を行っておりますが、大会中にランナーが込み合ったり、道路びょうの存在に気がつかれずにつまづいて接触や転倒事故等が起こり得る可能性があるのではないかということで、対策案として路面を一時的にカバーしたり、カラーコーンや誘導員などの配置による対策の検討を行いましたけれども、いずれの場合も最善の方法ではないとの結論に至りまして、道路びょうの撤去を行っております。撤去後でございますが、黄色破線による路面標示を実施しておりますけれども、その後この道路びょうに変わるものとして取り外しが可能なラバー製、ゴム製のポールコーン設置を考えておりましたが、これにつきましても万一、二輪車等が触れた場合の危険性や、現状のままのほうが望ましいとそういう声もございまして、しばらくの間経過を見守りながら、地元関係町内の御意見も参考に検討していきたいと考えておるところでございます。

以上、お答えいたします。（「議長、３番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　３番。村口隆議員。

○３番（村口　隆君）　ありがとうございます。春風マラソンの安全対策ということで取られたということですが、確かにあそこに道路びょうがあるのとないとでは、マラソンのランナーの方にとっては非常に大きな走りやすい走りにくいというような違いがあるのではないかなとは私も思います。先日部長から聞いた話で、あそこは直角にせんといかんという話で今のような形になっているということだったんですが、マラソンのランナーの人のことも考えて、町内の人のことも考えるならば、やはりマラソンの人もあそこ結構鋭角になってますんで、鋭角に走るよりは、もとのようにして真っすぐ走ったほうがランナーの方も走りやすいんじゃないかなと私は思います。で、あそこは町内の方が私も今回相良町、宝来町と１軒１軒回ったんですけど、やはり必ずあそこの話が町内で出るんですよね。あそこばどやんかしてくれんねて。どやんかならんとねて。こういう話が非常に多く今回聞かれました。もとのように戻るのであるならば、こちらが市道で向こうが県道ということですので、市道側のほうに、もとのようにして停止線をつける、それでもいいんではないかなと思うんですが、

部長から聞いた話では直角につけないかんということで、そういうことでしたので、今後またいろいろ検討される機会があれば、ぜひとも町内の総意としてはあそこを真っすぐもとのほうに戻してほしいというのが総意でございますので、もう部長わかっておられると思いますが、何とかそういうふうに実現できるように検討していただければと思います。

続きまして、青井相良線のイチョウですね、イチョウ並木なんですが、イチョウはまずいつ植えられたのでしょうか、お尋ねいたします。

○建設部長（中村明公君）　お答えいたします。

イチョウを街路樹として植栽した時期につきましては、正確にはわかっておりませんが、昭和24年ころの区画整理事業の際に植えたものではないかというふうに思われます。その後平成12年度から15年度におきまして、国道445号から国道219号の間の歩道を整備しております。国道445号の交差点から約300メーターまでの区間につきましては、街路樹の間引きや植えかえを行いまして、植栽された当初からしますと少なくなっておりますが、現在両側を合わせて91本のイチョウがございます。

以上、お答えいたします。（「議長、３番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　３番。村口隆議員。

○３番（村口　隆君）　ありがとうございます。それでは次に、イチョウの落ち葉に対する雨の日の危険性です。これも今回非常に多く出た町内の方の話だったんですが、とにかく雨の日が単車が怖いと。雨の日イチョウに乗ったら、もうひやひやして見とかんといかんと。滑んなっとじゃなかろうかとか、そこでブレーキをかけたらつこけなっとじゃなかろうかとか、そういうのをひやひやして見ておらんといかんということでしたので、その雨の日の危険性、それについてはどういうふうに考えておられるのかをお尋ねいたします。

○建設部長（中村明公君）　お答えいたします。

イチョウの葉っぱについては地域の住民の皆様が大変御協力いただいて感謝をしているところでございますけれども、特に今申し上げられましたとおり、雨が降りましてイチョウが路面に張りつくと非常に取りにくいということもございまして、それによって転倒事故が発生する可能性というのは少なからずあるというふうに思います。

そこで、そういう落ち葉などによりまして転倒事故が発生した場合の補償でございますけれども、事故発生の要因、それからその事故が発生した状況等によって異なるとは思いますけれども、一概には申し上げられませんが、市道における事故につきましては、道路管理者の賠償責任が場合によっては問われる場合もありますので、その時々のケースによりまして判断していきたいと考えております。とにかく十分に対策を講じていきたいと、未然に事故を防止したいというふうに考えておるところでございます。

以上、お答えいたします。（「議長、３番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　３番。村口隆議員。

○３番（村口　隆君）　ありがとうございます。認識されているということで、今後もう一つ嘆かれてたのが、どんどんあそこの沿線の方たちが高齢化してきていると。そしてまた、新しく建った家はほとんどが共働き世帯ということで、先を考えると今はまだいいけど清掃の人手がいなくなるんではないかと。十分に清掃ができなくなる日がもうそう遠くない将来来るのではないかと。実際現時点でも、家がないところは市のほうで清掃されてると思うんですが、そういった状況になっているところ、区間もあるようでございます。そういった将来、もう遠くない将来、そういったことが十分予想できるんですが、そのときにはどういう対処をされるのか、その点についてお尋ねいたします。

○建設部長（中村明公君）　お答えいたします。

街路樹と申しますのは、安全かつ快適な道路交通環境や、良好な道路景観の形成、沿道における生活環境の確保等の機能を有しておりまして、道路緑化技術指針におきましては、夏に豊かな緑陰を提供するとともに、冬は暖かい日差しを確保することができる落葉樹が季節感も豊かで望ましいと述べられておりまして、街路樹といたしましてはイチョウなどの季節感の感じられる落葉樹が奨励されているところでございます。御質問のありました青井相良線のイチョウも、春の新緑や秋の紅葉など季節感豊かなイチョウ並木として市民の皆様や観光客の評判が大変よく、私どもといたしましても本市を代表する景観の一つとして今後も残していきたいと考えております。

それから10年から20年後を見越して、この落ち葉の清掃について今後どのように考えるかという御質問でございますけれども、市内の街路樹の維持管理といたしましては、現在樹形の整形や成長のコントロール、落ち葉対策等の目的で、木の種類によりまして１年から６年くらいの間隔で基本剪定を行うように計画をいたしております。青井相良線のイチョウにつきましては繁茂している木が多かったことから、平成23年度に基本剪定を行い、樹形の整形を行うとともに枝と葉の量を減らしておりますので、これまでの落ち葉の量からすればかなり減少していると思われます。また、落ち葉の状況から判断いたしまして、現在行っております街路樹管理業務委託において落ち葉の清掃等も行っておりまして、平成24年度におきましては、青井相良線のこの落ち葉の清掃を１回、その他の路線におきましても数回、落ち葉の清掃を行っております。今後につきましては、以上述べましたように、基本剪定を定期的に行いながら、落ち葉の量をコントロールするとともに、樹種によりましては議員御指摘のとおり、沿線住民の高齢化等を考慮しながら、落ち葉の清掃を街路樹の維持管理業務委託の中に入れるかどうか今後検討してまいりたいというふうに考えております。

最後になりましたが、日ごろから市民の皆様には落ち葉の清掃を初めとする市道の美化につきましては、大変御理解と御協力をいただきまことにありがとうございます。この場をおかりいたしまして、厚く御礼を申し上げます。

以上、お答えいたします。（「議長、３番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　３番。村口隆議員。

○３番（村口　隆君）　ありがとうございます。部長の今の答弁でありましたように、非常にあそこは私ももう小さいときから通ってるんですが、季節感があって、本当によそから来られた方は、すごいイチョウ並木だなということをよく言われます。私たちは上薩ですのでイチョウはないんですが、やはりこれがもしうちの前の通りもあったならかなり大変だろうなといつも掃除される姿を見ながら思って通っている次第でございます。例えば、１回そこで単車が滑って死亡事故が起きたとかなれば、恐らくもう全部切れという話も出るんじゃないかなと私思うんですよね。そうなればせっかく今まで地元が支えてきた通りも本当にだめになりますので、そういったところには非常に気を配っていただき、事故が起きないように、雨の日の対応、また今後高齢化、共働き世帯がふえても市のほうできっちり対応していただくように要望して、このイチョウの件の質問は終わります。

次、これはもう非常に住民の方の苦情が多かった質問なんですが、石柱ですね。石柱というのが妥当かどうかちょっとわからないんですが、50センチくらいの高さの丸い石の石柱がずっと何百本と、何百本か数えてないんでわかりませんが、設置してありますが、その石柱はまずいつ設置されたのか、またその目的は、なぜあそこに設置をされてるのかについてお尋ねいたします。

○建設部長（中村明公君）　お答えいたします。

歩道整備につきましては、平成12年度から15年度にかけまして歩道内の改良、カラー舗装及び車どめ支柱設置等の整備を実施しております。平成12年度におきましては改良、舗装、延長が379メートル、平成13年度において延長は281メートル、平成14年度が延長が253メートル、平成15年度におきましては延長が336メートルを行っております。この中で車止めの支柱の設置目的でございますけれども、全面道路が幅員が8.8メートル、２車線確保され、さらに歩道も両側に幅員3.5メートルで、車道と歩道が分離されておりますが、より歩行者が安全で安心して通行できるように、車道から歩道への車両の飛び込み防止や出入り口による歩行者の巻き込み防止のため、車両の減速を図る目的として車道側の歩道内に車どめ支柱、直径が25センチ高さが60センチございますが、これを278カ所設置いたしております。

以上、お答えいたします。（「議長、３番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　３番。村口隆議員。

○３番（村口　隆君）　ありがとうございます。278本ですね。私も45本くらいまでは数えたってですけどちょっと時間がなくて数え切らずに、次数えに行こうと思ったらちょっと数え行きむかさずにですね、何本あっとかなと実際思っとりましたので、きょう278本というのがよくわかりました。今部長が言われたように、歩行者の安全は非常に私は確保できると思います。ただ、子供の通学路にもなっとっとですけど、住民の方に聞けば、あそこに子供が座るときがあるそうなんです。ちょうど腰かけるというかですね。あの交差点のところですね、

相良公園のところの交差点のところ。あそこに腰かけて、あそこ信号が、もう部長わかられると思いますがあそこ長かっですよね、信号が。長かもんですから、あそこに腰かけて信号が青になるのを待ってるそうなんです。それが見てて非常に怖いと。住民の方がですね。やっぱり長かもんで子供も腰かけると。したら例えば、あそこは何回も事故が起きてますんで、車が突っ込んできた場合、その車どめに座っていますんで恐らく大変な事故になるんじゃないかと。それが非常に怖いというのが、あそこの交差点の近くの住民の方が言われておりました。私もそれを聞いたときに、それからうちの子供も６年生にいますんで、いろいろ話を聞いたりすれば、やはりあそこの信号が長かけんあそこにやっぱり座るみたいな話を聞いております。目的はそういうことで、そういう歩行者を守るということですね、わかりました。

それでは、設置をするときに沿線の人たちには説明はされたのか。また設置をするときに説明をされてるのであるならば、その沿線の人から意見が何かなかったのか、意見や要望はなかったのか。その点についてお尋ねいたします。

○建設部長（中村明公君）　お答えいたします。

設置に当たりましては、周辺の皆様に説明会を実施いたしておりますけれども、当時の資料が残っておりませんので、要望等の内容につきましては把握できておりません。

以上でございます。よろしくお願いいたします。（「議長、３番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　３番。村口隆議員。

○３番（村口　隆君）　ありがとうございます。私が約35軒聞いて回ったっですけど、何人かの方が、設置されるときにそこに設置される説明があったということで、ただ、ここにはつけんでくれと。うちの出入り口だからここにはつけんでくれと言うたにもかかわらず、つけんといかんみたいな話で、そのままつけられたみたいな話が、これ１軒じゃないんです。４軒、５軒、話が出てるんです。私もそれはそのときの話ですので、住民の方が言われるのを信じてそういう話だったんだなと思うんですが、非常に、何でここにつけんでくれと言うたとにつけたとかなと思っておられる方は確かにいらっしゃいます。あそこの事故の件数を調べてみました。これは私が聞いた範囲です。32軒に聞いてまず31軒の方が、間口の石柱は取ってほしいと。１軒だけはそのままでいいですということでした。割合にするなら約97％の方が外してほしいというのが実情であります。そしてあそこにはたくさんアパート、マンション、あの通りにあります。そこには私も聞いておりません。ですから恐らく私が聞いたのが三十数名ですから、それにその倍くらいの方はあそこの沿線に住んでおられると思いますので、恐らくやはり９割くらいの方は取ってほしいと思っておられるんじゃないかなと思います。

それで、次の質問なんですが、設置後に苦情等はなかったのか。苦情があったなら何件くらい出ているのかをお尋ねいたします。

○建設部長（中村明公君）　お答えいたします。

設置後の苦情でございますけれども、件数の把握はいたしておりませんが、店舗や事業所、医院、住宅の駐車場の出入り口で車両の接触事故、それから見えにくく運転しづらいなどの苦情や、車どめ支柱の撤去についても要望をいただいております。さらに、市政懇談会におきましても撤去等の要望がなされておるところでございます。

以上、お答えいたします。（「議長、３番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　３番。村口隆議員。

○３番（村口　隆君）　ありがとうございます。すいません、先ほど私事故の件数は言うたですかね。私が聞いたんです。37件、あそこで事故じゃなくて車ぶつけておられるんです。私たちは商売柄、当たったのを物損事故というんですけど、一つの通りで物損事故が37件というのは、これはもう非常に異常に多い数字だと思います。あって二、三件じゃないのかなと思うんですが、そういった状況です、今。どういった事故が、すいません、事故と言ったらちょっと語弊かもしれません、どういった事例があっているかと言いますと、まず先ほども言われたように、お医者さんとかお店とかそこら付近に来たお客さんがぶつけて帰られる。それと、住民の方はもうそこにあるのがわかっておられますので、住民の方はほとんど当てられないんですけど、そこに遊びに来た人、訪ねてきた人、その方がほぼ当てて帰られるそうなんです。まだ言われるならまだしも、当ててガシャって音がしてそのまま帰られるケースもあるということで、非常に心苦しいと。ですからもうお客さんが来たら、自分が先に出てそこで誘導すると。特に夜なんか全く見えませんので、ですから何もないと思ってバックしてきなっけんですね。だけんこういったとにかく初めて来られた方、もしくは訪ねてこられた方がぶつけられるケースが多いみたいです。それと一つあったのが、ガソリンスタンドの軽のミニローリーといいますか、灯油を積んでいる、あれが石柱に気づかずにバックして危うくひっくり返るとこやったそうなんです。ちょうどうまい具合、その石柱が中に入って傾いたらしくて、そのときは非常に怖かったということも言われておりましたし、もう一点、これは本当にお気の毒なのは、車屋さんが納車に来て当てて帰られたそうです。もうこれもその納車されたところの家の方が、もう何と言っていいかわからないくらい気の毒だったということで言っておられました。こういった本当にあそこは町内の方がストレスを感じておられるんですよね。そういった状況が実際起こっております。

次に、あそこは市道部分は設置されていますが、相良公園のところの交差点から西瀬橋よりの県道ですか、あちら側は実際設置されておりません。なぜ同じ道路なのに、市道と県道の違いはあるかもしれませんが、市道側だけ設置してあちら側には、県道側には設置してないのか、その点についてお尋ねいたします。

○建設部長（中村明公君）　お答えいたします。

非常に事故が多いということで、石柱の上に反射板等を設置して対応したんですけれども、なかなかそれも入られるときは用心をされるけども、今度はまたバックして戻られるときに

気づかずにその石柱に当てられると、そういうふうに聞いておりまして、なかなか効果が発揮できないというふうに存じているところでございます。

それで、市道と県道の設置の有無についての理由でございますが、市道は先ほど御報告申し上げましたが、平成12年度から平成15年度におきまして歩道整備事業を行っておりまして、その後県道人吉水俣線につきましても球磨地域振興局による事業が行われております。市道の整備区間は、路面排水改良のための側溝整備を同時に整備し、また住宅への出入りの段差を少なくするために歩車道境界ブロックの高さを10センチメートルといたしております。一方、県道でございますけれども、Ｌ型側溝で歩車道境界ブロックの高さが15センチでございまして、これで設置されております。県道との違いもございまして、球磨地域振興局にその辺のことをお尋ねいたしましたが、当時の詳細な内容につきましてはわからないけれども、歩車道境界ブロックの高さが15センチ以上あるので、それであれば車両どめの支柱はいらないのではないかということでございました。

以上、お答えいたします。（「議長、３番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　３番。村口隆議員。

○３番（村口　隆君）　ありがとうございます。10センチと15センチの高さで安全度が大分違うということだと思います。ただ住民の方は、特に後から引っ越して来られた方とかは、その市道と県道の区別もついておられませんし、もう同じ道だ、同じイチョウもあって同じ道になってますんで、同じ道路だという感覚が非常にあられます。なんであっち相良はなかとにこっちばっかあっとねという話も多々聞きました。そういったことと、今一つ部長が言われたので、反射板ですよね、こう長いやつです。あれ動きますよね。あれで一つ言われたのが、子供があれが倒れたりするもんですから、行き帰りにやっぱり遊ぶそうなんです。それがまた危ないということだったんですよね。集団登校のときの旗とかであれをこう打ってるそうなんです。注意はするそうなんですけど、そういったことも実際あってるみたいです、その反射板に関してはですね。そういった状況が私が聞いた範囲では聞き取れました。

それでは、この項目の最後の質問になりますが、私は全部を取ってくれて言うわけじゃないんです。やはりそれは目的があって、歩行者を守るという目的があってつけてありますので、それはそれで私は十分役割を果たしていると思うんですが、せめて家の間口の入口の、駐車場の入り口部分だけは外すことが可能なのか、これについてお尋ねいたします。

○建設部長（中村明公君）　お答えいたします。

住民の皆様からの撤去要望につきましては、地元町内会長様からも御要望をいただいておりますので、後日現地立ち会いをお願いいたしておりまして、要望箇所の調査を実施した上で御意見等をお伺いしながら、十分検討させていただきたいと考えているところでございます。

以上、お答えいたします。（「議長、３番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　３番。村口隆議員。

○３番（村口　隆君）　ありがとうございます。十分検討されるということで、今も言われたように町内会長さんと立ち会って、そういうのが一番いいと思うんです。やはり町内の要望等を取り入れながらそういった話を聞きながら、一緒にお互いに情報を共有しながらやるということが、私は非常に大事だと思いますので、それはぜひ実行していただいて、できれば早い段階でその家の間口のところだけでも、駐車場の入り口のところだけでも取っていただければなと願うところでございます。あそこは先ほども言いましたように、宝来町の中でもあの交差点、イチョウの掃除、石柱、あの通りは宝来町の中でも非常に最大の問題点なんです。これはもう町内会長さんは十分に認識されておりますし、やはりあそこの沿線に住んでおられる方は、非常にこういうストレスを抱えられて住んでおられると私は思います。私が行っただけで、もう取ってもらえるもんと思われた方がたくさんいらっしゃいました。どやんかしてくれ、どやんかしてくれて。困っとっとばいて、そういう声ばっかりです。ですから、ぜひとも外す方向で検討していただければと思います。この件に関しては、質問を終わりたいと思います。

続きまして、２項目めの、人口減少対策で雇用対策とサテライトオフィスについて質問いたします。

高校生も卒業式を終え、進学や就職に向けてまた新たなステージへと進む時期になりました。この時期にいつも思いますのが、毎年どれだけの人が人吉に残り、またどれだけの人が人吉を出ていっているのか、これは非常に気になるところでございます。地方分権と言われておりますが、地方が真に自立し発展していくためには、その地域を支える人材、すなわち若い世代の力が私は必要不可欠だと考えます。本市に生まれ育った若者が他地域へ出て、さまざまな経験をすることはこれは私は非常に本人にとっても有意義なことですし、それを全く否定するつもりはございません。しかし、その後本市にその出ていった人たちがＵターンしているのかどうか、また、そのＵターンができるための受け入れ体制が本市にあるかどうか、この点が非常に大事なのではないかなと思います。若い人たちをどうしたら人吉に残せるのかという考えを会派で考えまして、その考えのもと私たち新・九州相良クラブでは４カ所に視察研修に行きました。まず、昨年10月に徳島県の神山町と美波町にサテライトオフィスについて、そしてことしの１月に年間60万円の予算で限界集落を立て直された、ローマ法王に米を食べさせた男としても有名な石川県羽咋市へ、そして先月20代から40代の方が中心となり約200名以上が集まり宮崎県日南市で開催された日南未来創造シンポジウムに、松岡隼人議員と雇用対策について、半年間で４カ所に視察研修に行ってきましたので、そこで学んだことを交えながら、今回雇用対策とサテライトオフィスについて質問したいと思っております。

まずは、質問に入る前に本市の現状を確認したいと思いますので、質問事項が少々多くな

るかと思います。私も聞き取ってそれを書き控えないといけないので時間がかかると思いますので、大変申しわけありませんがいつもより少しゆっくりと答弁していただければ助かりますので、どうかよろしくお願いします。

それでは、まず過去５年間の本市在住の高校生や専門学校生の卒業者の人数と、過去５年間に卒業後本市在住の高校生や専門学校生が他の地域に就職及び進学をした人数をお尋ねいたいします。

○経済部長（松田知良君）　皆様、おはようございます。それでは、お答えさせていただきます。

まずもって、資料、データにつきましては熊本県の学校基本調査及び球磨公共職業安定所通称ハローワーク球磨からの御提供でございますが、学校単位の資料でございまして、住居地まで特定できておりません。議員におかれましては本市在住の高校生の卒業者数の御質問でございますけれども、恐れ入りますが、人吉球磨地域の高校卒業者に関する資料、データでお答えさせていただきますことを、あらかじめお許しをお願いいたいます。

御質問の過去５年間の人吉球磨地域の高等学校の卒業者数でございますが、平成19年度1,016名、平成20年度964名、平成21年度890名、平成22年度922名、平成23年度845名で、５年間で高校生ですけれども合計4,637名でございますが、生徒数は年度によってばらつきはございますが、減少傾向にあるようでございます。

続きまして、過去５年間の本市在住の高校生、専門学校生が就職及び進学で人吉球磨以外に出ていった人数の御質問でございますが、これも資料の関係によりまして人吉球磨地域の卒業生でお答えさせていただきます。熊本県及びハローワーク球磨の資料によりますと、市町村別、進路別卒業者数及び専門学校卒業者数につきましては、人吉球磨地域の過去５カ年の合計で約4,680名が卒業されております。うち就職、進学により人吉球磨以外に転出されたのが約3,900名となっております。年間平均で780名が人吉球磨地域外に進学及び就職されている状況でございます。

以上、お答えいたします。（「議長、３番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　３番。村口隆議員。

○３番（村口　隆君）　ありがとうございます。すいません、ちょっと私聞き漏らしたかもしれんとですけど、申しわけございません。3,900名、年平均780名、これは外に出ているという解釈ですか。就職とか進学とか分かれてない。就職者が何人出ている、進学者、わかりました。ここはその追及するところじゃありませんので、わかる範囲でということで言っておりましたんで、それはそれで。私が通告していたのは、就職者数と進学者数が分けてわかればと通告しておりましたんで、出た人がということで理解させていただきます。3,900名ですね。わかりました。人吉球磨のことをトータルで考えるのは、もうそれは私はオッケーだと思います。人吉球磨、私は一つだと思っておりますんで、私が市内在住と言っておりまし

たが、それはそれで全然構いません。

次に、過去５年間に本市在住と書いておりますが、本市在住の高校生や専門学校生が卒業後人吉球磨に就職した人数ですね。できれば正規雇用と、わかればパート、アルバイト、契約社員、派遣社員等の非正規雇用に分けてわかれば教えていただきたいと思います。また、過去５年間でほかの地域の大学や専門学校を卒業して、本市にＵターン、就職でＵターンしてきている方の人数がわかれば教えてください。

○経済部長（松田知良君）　お答えいたします。

過去５年間、本市在住の高校生や専門学校生が人吉球磨に就職した人数でございますが、ハローワーク球磨並びに学校関係者にお尋ねしたところ、過去５年間の合計でございますけれども、約400名が人吉球磨に就職した実績がございます。なお、この中で正規、非正規のお尋ねでございますが、新卒者に関しては基本的にほとんどが正規雇用でございまして、新卒者の非正規への就職は年間で１件か２件程度とお聞きいたしております。

次に、５年間でＵターンにつきましてですけれども、５年間で他地域に進学した後新卒で人吉球磨に就職した人数でございますが、大学生や専門学校生につきましては通常個人活動で企業訪問によりまして内定、就職となるため、ハローワーク球磨においても主に職業あっせんの対象でなく把握されてない状況でございます。また、本市におきましても独自にそのような追跡調査を行っておりませんので、その人数につきましては把握できていないのが現状でございます。

以上、お答えいたします。（「議長、３番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　３番。村口隆議員。

○３番（村口　隆君）　ありがとうございます。わかる範囲でということでしたので、それで受けたいと思います

次に、本市における新卒者の平均初任給、それと平成23年度の有効求人倍率、また直近の有効求人倍率等がわかれば教えてください。お尋ねいたします。

○経済部長（松田知良君）　お答えいたします。

本市におけます各新卒者の平均初任給でございますが、熊本労働局の平成24年３月新規学校卒業就職者の初任給情報によりまして、職業安定所別の球磨管内情報でお答えさせていただきます。

高卒初任給が13万7,000円、短大卒初任給が14万8,000円、大卒初任給が19万6,000円という状況にございます。ハローワーク球磨のお話では、人吉球磨管内の雇用状況は少しずつではありますがよくなってきているようですが、賃金に関してはまだまだ厳しい雇用環境にあるとのことでございました。

それから有効求人倍率関係でございますけれども、平成23年度の有効求人倍率が平均0.47倍、直近の平成25年１月の有効求人倍率が0.57倍となっております。平成24年度におきまし

ては、業種によって差はありますが上向き基調になっているところでございます。

以上、お答えいたします。（「議長、３番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　３番。村口隆議員。

○３番（村口　隆君）　ありがとうございます。次に、本市は毎年約400名減少していると言われておりますが、過去５年間の本市への転入と転出の数と、本市が所有する遊休施設の施設数、また空き店舗対策行われてると思いますが、その実績及び現在把握されている空き店舗数が把握されておれば教えてください。お尋ねいたします。

○経済部長（松田知良君）　お答えいたします。

平成19年度から平成23年度までの５年間の本市人口の社会動態につきましてお答えさせていただきます。平成19年度が転入1,546人、転出1,852人、社会増加はマイナス306人でございます。平成20年度が転入1,564人、転出1,835人、社会増加はマイナス271人でございます。平成21年度が転入1,454人、転出1,599人、社会増加はマイナス145人でございます。平成22年度が転入1,472人、転出1,582人、社会増加はマイナス110人でございます。平成23年度が転入1,479人、転出1,514人、社会増加はマイナス35人でございます。過去５年間を合計いたしますと、転入7,515人、転出8,382人、社会増加はマイナス合計で867人でございます。

次に、本市が所有する遊休施設でございますが、本市が所有いたします遊休施設、いわゆる建物は現状ではございません。学校施設につきましては矢岳小学校、西瀬小学校鹿目分校及び田野小学校の３校は休校施設でございます。旧大塚小学校につきましては、地域のコミュニティー施設として活用されている状況にございます。

次に、空き店舗対策の実績でございますが、中心市街地の空き店舗につきましては、町なかのにぎわい創出商店街の活性化を図る創業支援事業といたしまして、２分の１以内の限度額、月額５万円で３年以内の家賃補助を実施しておりまして、入居者への便宜を図っているところでございます。平成19年度から平成23年度までの過去５年間の実績でございますが、平成19年度３件、114万円の補助でございます。平成20年度１件、18万円の補助でございます。平成21年度２件、72万円の補助でございます。平成22年度４件、110万4,000円の補助です。平成23年度５件、145万8,000円の補助でございました。また、今年度平成24年度は３件の136万8,000円の補助の予定でございます。

次に、現在の空き店舗数についてでございますが、日々空き店舗の空き状況は変わりますので、現在の正確な数とは言えないかもしれませんが、昨年、西は青井の駅前通りから東は九日町までの中心市街地を実態調査しました結果、約40件の空き店舗を確認いたしております。

以上、お答えいたします。（「議長、３番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　３番。村口隆議員。

○３番（村口　隆君）　ありがとうございます。すいません、ゆっくり言っていただいてあり

がとうございました。助かりました。今まで本市の現状をお尋ねしたわけなんですが、改めてこうやって数字に書いてみると、本当に非常に厳しいんだなという実感でございます。ただ、ちょっと私が心配したのが、ハローワークがもちろん管理するのは当然だと思うんですが、市でもやはりこういったのは情報を入れるべきではないかなて今率直に思ったところでございます。ある自治体では、私が調べたところでございますと、高卒者の進学率の上昇などによって他地域への流出した若年人口のＵターンは、地域の将来性を図る一つの指標になり得るということで、地元高校に協力を仰ぎ、この動きを重要視されている自治体もあるようでございます。ちょっと言葉は悪いかもしれませんが、戦うに当たっては私はこの情報というのは非常に大事だと思うんです。私はこの企業誘致というのは、自治体間の戦いだと思っております。確かに難しいかもしれません。それは十分承知ですが、戦いをするに当たって、私は不必要な情報はないと思っております。たくさん情報を集め、その情報がいつ役に立つかわかりませんが、そういった情報をたくさんとにかく集め、企業誘致という戦いに私は勝ってほしいと思います。やはり情報を制したほうが最後は勝つんじゃないかなというのが、私の考えでございます。平均初任給が全国平均が23年度が15万6,500円、高卒がですね。大卒が20万2,000円ということで、高卒に至っては１万9,500円、人吉と差がですね。大卒は6,000円ぐらいということで、高卒の場合でもこちらに残れば、生活費等は家に住めばほとんどかからないと思いますんで、そういった面を考えるならばあんまり、１万9,500円違いますがそんな開きはないのかなという気はします。また、23年度の有効求人倍率においては、本市が0.47倍ということで、厚生労働省発表の全国平均が0.65倍なので、全国平均とすれば0.18倍少ないということですね。一般に求人倍率が高い社会は、企業がより多くの労働者を求めており、それだけ経済に活気があると考えますので、そういった面から考えると非常に厳しい状況なのかなと思っております。

次に、転入と転出についてですが、これは減少傾向にあるのかなと今聞いて思いました。５年前が306人が23年度では35人ということですので、差がですね。これについてはずっと減少してきているので非常にいい傾向だなと思います。本市が所有する休校が、遊休施設はないということで、休校が矢岳、鹿目、田野ということと、また空き店舗が40件あるということでいろいろ情報ありがとうございます。

今回なぜ新卒者に絞ったかと言いますと、質問の背景としましては、非常に今厳しい社会情勢の中、一度就職して人吉を出てしまえばなかなか戻りたくても戻れないというのが現状にあると考えます。人吉を出て就職し、そこで結婚し、そしてそこに家を建てればなおさら戻ってくる可能性は低くなります。これが毎年こういったことが起きてると思うんです。だから、新卒のときに就職先が地元にあるかないかは、本人にとっても残りたくても仕事がないから出ていくという人もたくさんおりますので、そういった人たちにとっても、また本市人吉にとっても将来大きく変わってくるんではないかなと思っております。また、転出転入、

また市所有の遊休施設、空き店舗についてお聞きしたのは、サテライトオフィスに関係してきますので、それはお尋ねいたしました。今の現状を聞いて、厳しい状況にあるというのは再確認できました。じゃあ結論で簡単に言えば、雇用の場、企業誘致をふやせばいいんじゃないかということになりますが、そこが一昨日の答弁でもありましたようになかなかうまくいかないのが現状でございます。これはもう非常に厳しいところだと思います。しかし、ただ厳しい厳しいと口で言って嘆いていても何も変わりません。

じゃあ企業誘致が無理ならば、じゃあどうすればということで次の質問をしますが、新卒者を確保するに当たって、長期的な雇用対策とそういったのが本市によってどういう施策をとっておられるのかをお尋ねいたします。

○経済部長（松田知良君）　お答えいたします。

新卒者への長期的な雇用対策の施策についてでございますが、主な施策といたしまして、１点目といたしましては、人口減少に歯どめをかけ定住人口につながるよう、本市の命題であります若者の新たな働く場所、雇用の創出を目的とする企業誘致と存じております。２点目は、人吉商工会議所を事務局とします人吉球磨雇用対策協議会におきましては、労働力の確保と雇用安定を図ることを目的に、新卒者激励会や県と連携しました就職セミナーなどの事業を実施いたしております。また、新たな事業といたしましては、昨年からホームページを立ち上げ、ハローワークの週間求人情報をリアルタイムで掲載いたしまして、人吉球磨地域外となる全国にも情報発信しまして、多くの皆様に求人情報を提供しているところでございます。３点目でございますが、新卒者に直接関係するものではございませんが、人吉球磨能力開発センターにおきましては、技術指導によりましてスキルアップを図る就労支援を主な目的といたしまして、普通過程を初めとする五つの訓練課程を開講いたしまして、訓練事業を実施しております。平成24年度は、本年１月現在で延べ242人の人吉球磨の方々が受講され、地域の労働環境の向上、また雇用安定につながる人材育成を支援しているところでございます。

以上、お答えいたします。（「議長、３番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　３番。村口隆議員。

○３番（村口　隆君）　ありがとうございます。先月日南に、日南未来創造シンポジウムに行ってきたときのテーマが、５年後、10年後では遅過ぎる、しかし今ならまだ間に合うかもしれないというテーマでした。そのパネリストの中に、テレビ番組でも起業家として成功し取り上げられた宮崎県出身の30代の経営者の方がその場で言われておったんですが、今までその方のところにも企業誘致のお願いには多くの自治体から幾度となく話があったそうです。しかし、どこの自治体も話す内容はほとんど同じで何の魅力も感じなかったということでした。しかし企業誘致と簡単に言っても、企業にとってもなかなか厳しいのが現状だと私は思います。じゃあ厳しいならどうしたらいいのか。その方が言われていたのが、まさに私たち

が思っていたことでした。地方の生ける道は起業家の誘致、いわゆるサテライトオフィスということでした。私たちは松岡議員とサテライトオフィスについては情報を収集しまして、これは人吉でも十分にやれると考えていましたので、昨年徳島県の神山町と、徳島県の美波町に視察研修に行ってきました。また、先月の２月12日は安倍内閣の政務３役の方が全国各地で重要政策について国民と直接語り合う集会、車座ふるさとトークにおいて、その記念すべき第１回の集会をなんと神山町で開かれております。これは安倍総理がサテライトオフィスに非常に興味を持っておられての開催だったということでした。サテライトオフィスの目的は、雇用創出、過疎化、少子高齢化、産業の衰退等の地域の問題解決でございます。すべての事例を言いますと長くなりますので、神山町と美波町の取り組みについて少しだけかいつまんで説明してその次の質問に入りたいと思います。

徳島県内の限界集落の割合は、35.5％で全国平均の15.5％をはるかに上回っております。神山町では民間の方、町おこしグループのＮＰＯ法人グリーンバレーが、美波町では行政ですね、美波町が取り組んでいます。神山町は人口約6,300人、山間地で町の中心を人吉のように川が流れておりまして、その神山町で今起きている異変、それは社会動態人口、先ほどお聞きしましたが、これが2011年にプラスに転化、また2010年10月以降２年間でＩＴベンチャー企業が昨年までに何と10社サテライトオフィスを設置しております。私たちがちょうど視察に行ったときに大きな縫製工場跡地、もう畳まれた後ですね、の内装をちょうど工事されておりまして、そこをサテライトオフィスの拠点にするということでしたが、それがことし１月に神山バレー・サテライトオフィス・コンプレックスという名称でオープンしているみたいです。ここにはさらに10社予定されているとのことでした。将来の人口推計は厚生労働省の資料で知ることができますが、このグリーンバレーでは20年後の年少人口の推移値以上を目的に定め、逆算して、20年後逆算してそれでは年間何世帯どういう家族構成が移住してもらえば目標に実現できるかを定めて、具体的な取り組みをされておりました。それが人口動態のプラスにつながったと私は思っております。そこの理事長とも話したんですが、過疎を嘆くのはやめようと。そういったことでさまざまな取り組みをされております。不可能なことを考えるのではなく、できることをまずやろうということで、そういった考えのもと商店街の再生では空家町屋というプロジェクトをやられております。このプロジェクトはどういうプロジェクトかと言いますと、空き店舗が人吉は40ですか、空き店舗は人吉もあるということでしたが、その空き店舗に町にとって必要な店舗、起業家ですね、これを逆指名して、例えばこの空き店舗ではパン屋さんを募集します、この空き店舗ではカフェを募集します、この空き店舗では洋服屋さんを募集します。そういった逆指名をしてホームページに載せて、そして具体的なグリーンバレーが示してそれをホームページに載せたら、それで外からの転入者が来るそうなんです。そういう場所を求めているそうだということでした。これもすぐに決まったそうです。今私たちが行ったのは去年の10月ですので、まだまだそういっ

たところをどんどん空き店舗空き家を改築されておりました。その改築も今風につくっておられるんです。そういったのが魅力の一つかなと思うんですけど、その中で東京から来られておりましたＩＴの起業家の方にお話を聞きましたら、その方がこういうことを言っておられました。都会の雑踏の中、毎日満員電車に揺られて毎日くたびれて会社に着いたときにはいい仕事はできないと。何で神山に来たかと言えば、自然、川と山があって自然がいいと。それでストレスがなく十分に楽しく仕事ができると。この楽しくというのが私はポイントだと思うんです。こういったことで来ておるという話でした。そんな空気、また空間、そういったものをグリーンバレーがつくっておられるんですが、それが次から次と人を呼んでいると感じました。要は人ですよね。その神山グリーンバレーの大南理事長とお話をしましたら、考え方がとにかく、できない理由よりできる方法を考えろと。とにかく始めなさいと。失敗してもいいから始めなさいということで、いろんなそういう取り組みに取り組んでおられるということでした。すいません、長くなりまして。また、美波町は太平洋に面する約7,500人の町で、ここは町の遊休施設を利用されております。で、行政主導です。私たちが伺ったときにこれもたまたまちょうどＩＴの企業が進出してきたその日の開所式で、テレビでその開所の模様を流す日でした。その開所されて東京から来られた社長さんに話を松岡議員と聞いたんですが、最初はやはり美波も海のほうでなかなか都会から人をここに呼んでくるというのは苦労したそうです。しかし、ちょっと発想の転換で、求人情報にばっかり載せてたそうなんです。じゃなくて、この美波町はサーフィンの町だそうです。サーフィン雑誌に載せたそうです。美波町でサーフィンをしながらＩＴの仕事をしませんかと。そしたら殺到したそうです。そういった発想の転換で何とか乗り越えて、そのサテライトオフィスの設置にこぎつけたということでございました。しかし、これはこの社長は大体もともとは美波町出身の方なんです。ですから戻ってこられたというのは、私はこれは一つ大きなポイントだと思います。それでも美波町は取り組まれて間もない時間ですが、それでも２社が、一つは出身地の方が美波町のために何とかしようということで来られて、もう１社は完全に首都圏のほうから進出されてきております。どちらもランニングコストの補助や定住促進に係る住居改修費用の補助、またはハード整備費用の補助など県と協力しながら助成し、起業家の誘致を行われておりました。あと地域の方とも移り住まわれても非常に融合されてて、もう地域の方もその開所式に来られてたんですが、もう一緒に米をつくったりとか、一緒に釣りに行ったりとか、祭りは一緒に飲んだりとか、そういったのもやられているそうです。だから全然地域としても反対の意見は出てないということでした。

少し長くなりましたが、質問に入ります。私はこの人吉は神山町や美波町に負けず劣らず、球磨川を初めとしたたくさんの川もありますし、自然もたくさんございます。また、交通の便も鹿児島空港から考えるならば約１時間、飛行機の便数も徳島県に比べればはるかにあります。また、ネット環境も十分に私は整備されてると思います。首都圏で、そして首都圏で

ＩＴ事業で成功されている本市出身の方もいらっしゃいます。非常に私はいい環境にあると思うんです。本市において、人吉市においてサテライトオフィスに関する調査、研究をこれまでされたことがあるのかをお尋ねいたします。

○経済部長（松田知良君）　お答えいたします。

サテライトオフィスにつきましては、議員の御質問を受けましてその事業内容を確認したところでございまして、昨年から徳島県で先進的に取り組まれている状況の中で、本市におきましてはまだ調査研究を行った経緯はございません。

以上、お答えいたします。（「議長、３番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　３番。村口隆議員。

○３番（村口　隆君）　最後の質問に入ります。調査研究はないとのことですが、ならば今からやれば私は十分だと思いますし、やらないと何も始まらないと思います。人吉は年間に、よく市長が言われてますが、400人減少しているということで、これは何もしなければ、また今と状況が変わらないのであるならば、８年間で人吉市の六つの小学校、三つの中学校、この人数がいなくなるんですよね。少子化も考えれば、学校がなくなるということはないと思うんですが、少子化も考えれば十分にこういうことは予測しておかなければ私はいけないのではないかなと思っておりますが、先ほども言いましたように、５年後、10年後では遅過ぎる、しかし今ならまだ間に合うと。こういった神山町も美波町も短い期間で起業家誘致は成功されております。一昨日の市長の答弁で、研究者や研究機関を誘致したいということでしたが、これも私は一種のサテライトオフィスだと思っております。しかし本市において研究者や研究機関以外のサテライトオフィスの設置の可能性について、あるのかないのか、市長に最後見解をお尋ねいたします。

○市長（田中信孝君）　皆さん、こんにちは。

サテライトオフィスの本市での可能性でございますが、地方に若者が定住することを目的としまして、古民家等の空き家を活用するといった施策は徳島県が先進地の一つとして、昨年官民共同によるとくしまサテライトオフィスプロモーションチームが設置され、取り組まれていることを確認したところでございます。起業支援による経済効果だけでなく、定住促進による集落再生といった地域振興としての有効性、また中心市街地の空き店舗対策への効果や実効性など、実現すれば大変有意義な事業であるというふうに、今お話を聞いて感じていたところでございます。起業家を対象といたしますと、まずは起業家に本市に居住していただく遠隔勤務が前提となるわけであります。行政と民間の支援体制としてどのようなことが必要となるのか、その可能性につきましては、今後サテライトオフィスの概念や事業戦略の手法、メリット、デメリットなどにつきまして、御紹介のありました非常にすばらしい取り組みをしておられるようでございますけれども、徳島県神山町や美波町も参考にさせていただき、また、ここ数週間熊本日日新聞にも、各地の自治体の空き家対策や田舎暮らしを求

める人々のマッチングの課題、またはさまざまな問題など特集記事が掲載されておりました。これらも参考にさせていただきながら、今後勉強させていただきたいというふうに思っております。サテライトオフィス、それからエクステンションセンター、さまざまな考え方を複合的に今後検討する必要があるのではないかと感じたところでございます。

以上、お答えします。（「議長、３番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　３番。村口隆議員。

○３番（村口　隆君）　ありがとうございます。一昨日仲村議員の質問でもありましたが、この市役所でさえも新規採用を減らしているという現状です。私は市役所は民間じゃありませんが、人吉においては職員数、予算、この規模は一番人吉では大きな、ちょっと語弊があるかもしれませんが、一番大きな企業だと思っております。その市役所でさえ財政が厳しいのに、民間企業が厳しくないわけはないと思います。しかし、その中でも成功している自治体がありますので、企業誘致に関しては今の状況を考えるならば、私も非常に厳しいということは理解できます。だからこそサテライトオフィス、今検討されると言いましたので、これ十分検討する価値はあると思いますので、将来の子供たちのためにもぜひ前向きに検討していただければと思います。また、市長の一昨日の答弁で、香川県の丸亀市と徳島県の上勝町に行かれるということでしたので……違ったですかね、すいません。商店街のほうが違うですね、すいません。同じ徳島県のほうに行かれますので、神山町と美波町も近くでございます。足を運んでいただければと思います。また、肥薩線の100年レイル肥薩線世界遺産特別講演の開催があしたということで非常に盛り上がっていると思いますが、あした非常に行事が多くて、去年もこの場で言ったと思いますが、社会人の川上哲治杯も川上球場で開催されます。また、青井さんの蓮池の清掃もあしたみたいですので、わたしはどうしても川上杯のほうに行かなければいけないんですが、人吉市の若者が人吉市を背負ってあした戦います。お時間があられれば、多分講演があるので無理だと思いますが、ある方は応援に行っていただければなと思います。

最後になりましたが、今月をもちまして退職をされる職員の皆様、本当にお疲れさまでございました。今後も市政発展のため引き続き御尽力いただきますよう、また時期が来ましたら、なり手不足の町内会長にも立候補していただければと思います。また、特に赤池部長との一般質問のやりとりは私も忘れることはないと思います。ありがとうございました。

これで私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（永山芳宏君）　ここで暫時休憩いたします。

午前11時24分　休憩

午前11時38分　開議

○議長（永山芳宏君）　休憩前に引き続き再開いたします。（「議長、12番」と呼ぶ者あり）

12番。西信八郎議員。

○12番（西信八郎君）（登壇）　皆様、こんにちは。12番議員の西信八郎でございます。一般質問の前に、ことし３月31日付で退職されます職員の方々に、市政発展のため長年にわたりまして御苦労、御尽力いただきましたことと御指導、御鞭撻を賜りましたことに対しまして、心より感謝を申し上げます。退職後も体を御自愛いただきまして、さらなる活躍をされますよう楽しみにしております。

それでは、通告に従いまして一般質問をします。内容は１、保育行政としまして、認可保育園について、地域子育て支援センターの中止について、２、学校行政としまして、学校関係者評価の取り組みについて、３、市民の声より、電気自動車、電動バイクなどの充電ネットワークについてであります。

それでは、認可保育園について質問します。まず、皆さん御存じと思いますが、復習の意味で保育園の種類、認可保育園と認可外保育園の違いについて述べさせていただきます。

認可保育園とは児童福祉法に基づく児童福祉施設で、国が定めた設置基準、施設の広さ、保育士等の職員数、給食設備、防災管理、衛生管理等をクリアして都道府県知事に認可された施設です。保護者が仕事や病気などの理由で零歳から小学就学前の子供の保育ができない場合に子供を預かって保育を行います。児童福祉法のもと保育の公的責任に基づき運営され、運営費はおおむね国、県、市が補助を行い、保護者は所得に応じて運営費の約４分の１に当たる保育料を支払います。認可外保育園とは認可保育園以外の保育園のことで、補助金等の収入源が少なく、基準は緩やかとなっております。そのため保育の中身も行政の時々の政策に縛られず実践できるという大きなメリットもあります。

ここで質問いたします。今議会に上程されています議第10号平成25年度人吉市一般会計予算書の３款民生費、２項児童福祉費、２目児童措置費の19節負担金、補助及び交付金の中の保育所運営費負担金の説明の折、認可保育園が１園ふえるという説明でございました。どういった経緯で１園ふえることになったのか。県下の動向としては、ふえているのかどうか。認可保育園の１園当たりに大体幾らくらいの補助をしているのか。認可保育園をふやすことにおける市のメリット、デメリットは何か、お尋ねをいたします。

○健康福祉部長（松岡誠也君）　皆さん、こんにちは。それでは、お答えいたします。

市の保育園の現状といたしましては、これまで12の認可保育園と認可外の保育園が１園という体制で保育に欠ける児童を受け入れていただいており、待機児童がない状況でございました。しかしながら、各園が定員を常にオーバーしている状況でございます。

県下の認可保育園数の動向としましては、近年を見ますと平成22年度に１園、平成23年度に１園の増設があっており、現在587園でございます。県下の園児数を見てみますと、就学前児童数は横ばいながらも、平成21年４月で４万5,104人、平成24年４月現在で４万8,602人ということで、３年間で約3,500人、１割近く増加しております。

１保育園当たりの補助額についてでございますが、運営費等軽度障がい児及び障がい児保育、延長保育事業などで約１億円程度となります。今回ひまわり保育園の認可に当たって、保育に欠ける本市の児童一人一人がみんな等しくよりよい保育環境の中で園生活を送ることが大変重要なことだと考えております。認可外保育園の経営状況は大変厳しく、ひまわり保育園に対しては本年まで園児１人当たり年間約２万円、市の単独の補助を行ってまいりました。一方、認可保育園は国、県、市の補助をもって、園児１人当たり年間約100万円を上回る補助額となり、保育環境としての人的環境及び施設や遊具などの物的環境など、その差は大きいものでございました。よって、認可自体は県の権限によるものでございますが、市としましても認可に向けて県と協議を行ってきており、今後意見書を県に提出する予定となっております。これが認可する要因、つまりメリットということでございますが、あえてデメリットという視点で見ますと、市の財政的負担の増ということが考えられます。

以上、お答えいたします。（「議長、12番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　12番。西信八郎議員。

○12番（西信八郎君）　答弁にありましたように、園児一人一人がみんな等しくよりよい保育環境の中で園生活を送ることは私も重要であると思います。しかし、デメリットとしてとらえられている市の財政負担の増のほかに、私が思いますに、冒頭触れさせていただきましたが、認可外保育園の特徴、保育要件を問われないこと、認可の枠にはまらない自由な保育内容が可能なこと、延長保育、夜間保育、休日保育などいろんな保育が考えられることなど、このようなサービスを受けることが今後人吉ではできなくなると思うところであります。このことについてどう考えられるか。またこのことを期待して預けられている保護者に不満等はないのか。補助の面から見ますと園児一人に対します補助は認可外保育園が２万円、認可保育園が100万円となっていますが、ひまわり保育園に園児に対するサービスに不満をお持ちの保護者の方はおられたのか、お尋ねをいたします。

○健康福祉部長（松岡誠也君）　お答えいたします。

保育園はそれぞれの個性と特徴を生かして経営をされているところでございますが、ひまわり保育園におかれましても、これまで行われていた延長保育や、新たに夜間保育にも取り組まれることになっております。

次に、保護者の御意見についてですが、ひまわり保育園では理事会や保護者会などを通して何回も協議された結果、保護者の同意をもって申請に臨まれたと伺っております。昨年12月の保護者会でも、今後どのように変わるのかなどといった御質問があったとのことですが、反対の意見はまったくなかったということでございます。今後もさらに保護者の意見を聞くため、全員へのアンケート調査も実施される予定になっていると伺っております。ちなみに新年度の入所申請の状況を見てみますと、ほぼ全員の方が継続してひまわり保育園を希望されているということでございます。

以上、お答えいたします。（「議長、12番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　12番。西信八郎議員。

○12番（西信八郎君）　答弁にございました、新年度の入所申請の状況が、ほぼ全員の方が継続してひまわり保育園を希望されるということであります。保護者の方の理解はほぼあったと私も受けとめているところでございます。では、これからさらに少子化が進むと思いますが、認可保育園が13園となりまして、今後５年、10年経って子供の争奪戦や、経済的理由によりますサービスの低下等は、そういうふうにならないのか。また、人吉の子供が郡部に、郡部の子供が人吉に保育委託されておりますが、人吉が受け入れている方のほうが多いと思いますけども、将来的にこの子供たちもいなくなると思いますけれども、経営的面で大丈夫なのか。今回のことに関しまして、行政と保育園連盟との連携はどうだったのか、お尋ねをいたします。

○健康福祉部長（松岡誠也君）　お答えいたします。

県下の保育園数及び入園児数も微増であり、本市も県下同様の状況でございます。これから保育に欠ける児童は当面減ることはないと考えております。

また、郡部からの広域での受け入れにつきましては、本市からも他市町村へ委託しているケースもございますので、郡部から本市への受け入れがわずかながら上回るものの、おおむね相殺されるのではないかと考えております。

次に、保育園連盟との連携についてでございますが、昨年５月の園長会におきまして、ひまわり保育園が認可申請に向けて動き出されたことを御報告し、その上で認可されることでよりよい保育環境を確保することは望ましいことであると考えていることをお伝えしております。その時点で連盟の皆様方から特に反対であるという意思表示はございませんでした。その後も園長会等の機会あるごとに認可に向けての状況を御報告してきております。保育園連盟との連携につきましては、今後も引き続き園長会などへ出向き、連携強化を図ってまいりたいと考えております

以上です。（「議長、12番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　12番。西信八郎議員。

○12番（西信八郎君）　当面は園児は減らないということでしたが、今の少子化の中、いつしか減り始めると思われますので、そのときが心配であります。また、連盟との連携でありますが、園長会の機会があるごとに認可に向けての状況を報告されたということであります。しかし関係者から、いきなり昨年の末に認可保育園について聞かされたと言われる方もいます。

続きまして、関連事項でありますので、地域子育て支援センター事業中止についてを続けて質問させていただきます。このことにつきましては、昨日松岡議員も質問されておりますので重複するかもしれませんが、大事なところでありますので質問します。

12園で持ち回りで行われていた地域子育て支援センター事業が、なぜいきなり中止となったかお尋ねをいたします。

○健康福祉部長（松岡誠也君）　お答えいたします。

平成11年度から開始しました子育て支援センターは、本年度をもちまして14年目となりました。保育園連盟のおかげをもちまして、子育て支援の一翼を担っていただきましたことに、まず心よりお礼を申し上げます。今回の見直しに当たりましては、厳しい財政状況等の観点から、市全体の事業の見直しを行うこととなり、同じ目的をもって同じ対象者に対し実施しておりました子育て支援拠点事業のセンター型と広場型の機能を統合し、広場型である九ちゃんクラブの充実を図ることといたしました。センター型は２年を１期とし輪番制で実施をしていただいておりましたが、近年次の受け入れ先が見つからない状況の中、さざなみ保育園におかれましては６年間にわたりセンター型の運営に尽力いただき、大変感謝しているところでございます。市全体の緊縮財政の影響により、今回急々での見直しとなりましたことで、連盟へは十分な御意見を頂く時間が足りなかったことに対しまして、まことに申しわけなく思っているところでございます。今後は広場型である九ちゃんクラブにおきまして今までの活動に加えサークルの立ち上げの支援など、センター型の機能も取り入れて充実を図り、より一層子育て支援の強化を図ってまいる所存でございます。

以上、お答えします。（「議長、12番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　12番。西信八郎議員。

○12番（西信八郎君）　市全体の緊縮財政の影響により見直しとなったということでありますが、市民の中には、地域子育て支援センター事業や補助金のカット分を新たな認可保育園の財源としていると言われる方もおられます。この点についてはどうなのか質問をいたします。

○健康福祉部長（松岡誠也君）　お答えいたします。

ひまわり保育園の認可は園児一人一人のために平等によりよい保育環境を整備することが目的でありまして、子育て支援センターの統合やその他の補助金の見直しによります削減と何ら連動するものではございません。

以上、お答えいたします。（「議長、12番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　12番。西信八郎議員。

○12番（西信八郎君）　私もそういうことはあってはいけないし、連動しているものではないと思いますが、松岡議員がきのう質問で指摘されました、子育て支援に関係される方、または団体の方々に市の子育ての支援の方向性において、情報の共有がなされておらず、迷われているあらわれがこのような疑いになるのではないかと思うわけであります。厳しい財政の中、決められた予算を有効に使うため、限られた子育て支援における予算内で組み替えは必要であると思います。このような疑問が生じることを解消する手段として、課内でも事業評価はされていると思いますが、それを学識経験者数名からさまざまな意見、助言等をもらい、

参考として事業評価をまとめ公表し説明していけば、情報の共有と子育て支援の方向性を理解していただけるのではないかと思いますが、このようなことはできないのかお尋ねをいたします。

○健康福祉部長（松岡誠也君）　お答えいたします。

事業をＰＤＣＡサイクルによって見直し、評価、検証、改善することは大切なことだと考えております。昨日松岡議員にもお答えしましたように、内部の検証としては行政経営会議に報告し了承を得ておりますが、外部の学識経験者等による評価検証をいただくための次世代育成支援行動計画に基づく協議会が未設置でございますので、これの立ち上げに早急に取り組みたいと考えております。その上で保育園連盟を初め関係者の皆様と情報の共有、共通理解を図ってまいりたいと考えているところでございます。

以上、お答えします。（「議長、12番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　12番。西信八郎議員。

○12番（西信八郎君）　協議会の設置から始めるということでございました。私が今のような提案をしましたのは、教育委員会の事務に関する点検評価報告書がございます。これは学校について評価されたものでございまして、法的な裏づけがあってされていることでございますが、事業等について進める、進めるべきじゃないとか評価、非常に丁寧にされております。こういうものが子育て支援の事業等にもあれば、そういう関係者の方と共通の意識等が、情報等共有できるのではないかというふうに思っているところでございます。そういう意味で御提案をしたところでございます。

○議長（永山芳宏君）　ここで暫時休憩いたします。

午後０時00分　休憩

午後１時33分　開議

○議長（永山芳宏君）　休憩前に引き続き再開いたします。（「議長、12番」と呼ぶ者あり）

12番。西信八郎議員。

○12番（西信八郎君）　午前中の最後、要望事項を言っておりませんでしたので、そこから始めさせていただきます。

情報の共有と支援の方向性については明確になるように御努力をいただきたいと思います。このことを強く要望いたしまして、この項目を終わります。

次に、学校関係者評価の取り組みについてであります。平成19年６月に学校教育法が一部改正され、学校評価に関する規定が新たに設けられました。学校評価では保護者や地域の方々の協力を得て、学校関係者評価を実施するなど、学校評価の取り組みを一層充実し、学校運営の改善と発展に努めることとなり、人吉市においても平成20年度から学校関係者評価の取り組みが始まりました。平成20年度４月には文科省の委託事業ということで学校評価の

充実改善のための実践研究がなされております。その中で、鳥井正徳前教育長におきまして取りまとめがされております。その中で課題として、全職員が学校評価委員と接する機会を持つようにすることや、重点指導内容を日常に意識した教育活動を実践することなど、教職員の意識をさらに高める必要がある。学校関係者評価委員への情報提供の仕方や学校関係者評価委員会の持ち方などさらに工夫する必要がある。自己評価、学校関係者評価、外部アンケート等の項目を評価の内容、項目数、実施方法、学校評価目標や重点努力事項等の関連性などの視点からさらに検討する必要がある。各学校の評価項目やアンケート項目を分析し、人吉市全体として共通に評価できる項目を設定するなど、学校間の連携を進めていく必要がある。学校関係者評価委員の人数、任期、人選方法等、学校の実態にあった選任方法を確立するとともに学校評価委員等々の関係性や必要性を検証する必要がある。外部アンケートの実施、回収、集計、分析方法を効率化する必要がある。評価結果や改善策等の公表や、教育委員会への報告、またその後の取り組み方などこれから検討する必要がある。教職員学校関係者評価等がさらに学校評価に対する認識と理解を高めるための研修の機会を設定する必要がある、ということを課題として指摘されております。それから、20年度も入れまして５年がたちました。学校関係者評価の取り組みは現在どのような状況でしょうか。また、効果についてどのように教育委員会は評価しているのかお尋ねをいたします。

○教育長（堀　秀行君）　こんにちは。お答えをいたします。

平成20年１月30日に改定されました文部科学省の学校評価ガイドラインでは、学校関係者評価とは保護者、地域住民等の学校関係者などにより構成された評価委員会が、自己評価の結果について評価することを基本として行う評価というふうにされているところでございます。保護者や地域住民など学校関係者が学校と一緒になって子供のことを考え、それぞれの立ち場、視点から意見を出し合うことでよりよい学校をつくるために設けられたものでございます。本市におきましては、市内各小中学校に学校関係者評価委員会を組織し、本市の実態に合った学校評価のあり方等について研修及び研究を行ってきたところでございます。そのまとめの一端を議員から今御紹介をしていただきました。学校関係者評価の内容につきましては、毎年教育委員会が実施しております学校訪問時に各学校から説明を受けております。

学校関係者評価の効果といたしましては、保護者、地域の方々の要望、意見が聞かれ、学校の課題把握ができた。保護者や地域の学校に対する関心や期待がわかり、教職員の教育に対する責任と使命感を喚起できた。評価委員からは、学校の応援団として温かい目で見ていただき、学校の主体性を尊重したさまざまな助言をいただいている等々の効果があるというふうに学校長からも報告を受けているところでございます。教育委員会といたしましては、学校とそれに関係する人々が理解を深め合い、学校関係者評価委員会の意見を尊重し、学校運営に生かされていると実感しているところでございます。

以上でございます。（「議長、12番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　12番。西信八郎議員。

○12番（西信八郎君）　答弁から察しますに、学校評価の取り組みを通して、教職員が教育活動やその他の学校運営の成果や課題を共有し、協力して教育活動を行うことによって組織の活性化や学校運営の継続的な改善が図られ、保護者や地域の人々から教育活動、その他の学校運営に対する理解と参画を得て、地域に開かれた信頼される学校づくりが進んでいるようであります。

それでは、今後の課題と、どのような方向性で学校評価の取り組みを行っていかれるのかお尋ねをいたします。

○教育長（堀　秀行君）　お答えをいたします。

学校関係者評価については、積極的な活用により学校運営の改善と教育の質の保証向上が図られ、地域に開かれた児童生徒、保護者から信頼される学校づくりに多いに役立てるよう努めていかなければならないと考えております。効果につきましては、先ほど述べましたが、課題もあるわけでございます。その一つといたしましては、評価委員の評価のための学校訪問回数がまだまだ少なく、学校の実態が十分把握されていない状況での評価がしづらいという現状があるところでございます。教育委員会といたしましては、学校関係者評価委員や学校の意見を聞いて、コミュニティースクール等々の関係も考慮しながら、今後制度化も含めて、学校関係者評価のあり方について検討してまいりたいと考えておりますし、学校評価委員の会議などを設定して、忌憚のない意見を伺う、教育委員会が伺う機会も必要かなと思うところでもあります。しかし、委員の任期は１年でございますので、そのあたりで難しさがあるのかなと思っております。いずれにしろ、今議員から報告がございました課題は、引き続きの課題としてもあるわけでございますので、学校の校長、教頭あたりには常にそのことを念頭に置きながら学校の評価の業務に当たっていただきたいということをお願いしていきたいと思っているところでございます。

以上でございます。（「議長、12番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　12番。西信八郎議員。

○12番（西信八郎君）　私も学校関係者評価委員としまして、大畑小学校の評価委員を５年ほどさせていただいております。その中で感じましたのが、学校関係評価の取り組みが形骸化されないように、また疲労感のみが残る学校評価にならないように、教職員がやってよかったと成果を実感できるような評価になるように、教育委員会の指導等をよろしくお願いしたいというふうに思っているところでございます。

次に、市民の声より、電気自動車、電動バイクなどの充電ネットワークについて質問をします。

低炭素型社会、脱化石燃料社会という言葉を聞かない日はなく、車も技術の進歩とともにガソリン、軽油、ＬＰＧ等の化石燃料を大量に消費する時代から、エコ環境に配慮した車が

開発され日常生活に入ってまいりました。しかし、充電設備はまだ十分に整備されておりませんので、電気自動車をお持ちの市民の方から、遠方に行くときは充電所を見つけてから行動パターンを決めなければならないので不便であるということで、多分人吉をＥＶ車で訪れる方も充電所を見つけるのに困っておられるのではないか。旅館やホテルに充電システムを備えてあれば、車を充電しながらその利用客も泊まるというようなことができないだろうかというようなお尋ねをされたところでございます。ＥＶ車はまだ少ないんですが、充電ネットワークが整備されると並行してふえていくんではないかと考えるところでございます。

ここで質問をいたします。充電施設の整備について、国や県の補助はあるのでしょうか。また、それを活用するなどして、他の市や民間での充電施設の整備状況はどのようになっているのでしょうかお尋ねをいたします。

○市民部長（山本政義君）　こんにちは。それでは、お答えいたします。

電気自動車等の充電施設につきましては、熊本県がＥＶ・ＰＨＶタウン推進アクションプランに基づき、低炭素社会実現に向けて電気自動車等の普及促進を図るため、充電施設の整備に取り組んでいます。電動バイク併用の普通充電施設につきましては、県内市町村及び民間事業者が管理する場所に充電施設を設置する事業者に対し、本体及び設置費用を県が負担するという形で平成23年度から25年度までの３年間、設置場所候補地の募集を行っております。この事業を活用して、平成23年度にはスーパーや宿泊施設、駐車場などの民間事業者のほかに、天草市の観光施設や港、水俣市の駅など市町村が管理する場所も含めて27の設置場所が選定されております。また、急速充電施設につきましては、広域市町村圏を単位として整備することとされており、平成23年度においては、天草市役所本庁舎、天草市役所牛深支所、阿蘇ファームランド、水俣市総合医療センターに整備されたとのことであります。そのほか、県におきましては県内の中小企業者を対象とした車両や充電設備を整備する際の費用を対象とする融資制度がございます。また、国におきましては、クリーンエネルギー自動車等導入促進対策費補助金という事業があり、地方公共団体民間団体などが自動車や充電設備を整備する際の補助金を交付しています。

以上、お答えいたします。（「議長、12番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　12番。西信八郎議員。

○12番（西信八郎君）　県の普及に向けての取り組みもありますし、国の補助もあるということであります。熊本県の蒲島知事は、マニフェストの中に熊本イノベーションを進めるということの一つとして、電気自動車や電動バイクなど次世代モビリティーの普及を図るため、県内の道の駅や物産館などを活用した充電ネットワークを全国に先駆けて構築するとともに、水素燃料電池車の普及に必要な水素供給設備の導入に取り組みますとされております。これを受けて、県からの相談は市のほうになかったのか。また、市の公用車を初め、今後市としての取り組みの考えをお聞かせいただければと思います。

○総務部長（坂崎博憲君）　皆様、こんにちは。それでは充電器の整備についての今後の市としての考え方等につきましてお答えをさせていただきます。

電気自動車充電器の設置につきましては、平成24年７月に熊本県商工観光労働部新産業振興局から次世代モビリティー普及促進のための充電器整備事業として、市の施設への設置の相談があったところでございます。充電器設置事業の内容といたしましては、設置費用については全額県が負担をし、市が管理する観光施設等に充電器を設置し、維持管理については市にお願いしたいというものでございました。協議の中で充電器の日常的な維持管理、これは電源のオン、オフ、認証カードの管理等でございます、や利用者に対する設備の照明などに常時人員を配置する必要がございますことから、また、自然災害など不可抗力以外のいわゆるいたずらなどによる充電器の損傷については市の負担となることなどから、現状では市の施設への設置は難しいという結論に至ったところでございます。また、観光客の多い阿蘇ファームランドでも利用が月に５台程度であることなどを考慮しますと、まず宿泊施設など24時間対応が可能な民間施設への設置、自前で設置しているガソリンスタンドや自動車販売店などのＰＲを進めることが普及には効果的ではないかというふうに考えているところでございます。しかしながら、二酸化炭素排出量を削減し、低炭素社会を目指すという方向性は今後もさらに広がっていくものと認識をしているところでございます。電気自動車や充電器もその方向性に沿った次世代モビリティーの一つとして、技術の向上や地域での普及状況なども見据えながら、公用車や市の施設への導入につきましても、将来的には検討していく必要があるものと考えているところでございます。

以上、お答えいたします。（「議長、12番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　12番。西信八郎議員。

○12番（西信八郎君）　ただいま答弁がございましたように、宿泊施設などの民間施設への取り組み等を行政のほうからまた勧めていただければいいと思いますし、まず１台は行政のどっか施設に据えてＰＲしないとなかなか民間も取り組んでこられないんじゃないだろうかということも感じるところでございます。

CO_2排出量を削減し、低炭素社会を目指す環境に優しい人吉市をつくるためにも、検討のほどよろしくお願いいたしまして、私の一般質問を終わります。（「議長、９番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　９番。豊永貞夫議員。

○９番（豊永貞夫君）（登壇）　皆さん、こんにちは。９番議員の公明党の豊永貞夫でございます。まず冒頭に、３月末日で退職されます議員の皆様、これまでの……失礼いたしました、３月末日で退職されます職員の皆様、これまでの市政発展のための御尽力、本当に御苦労さまでした。４月からは立ち場は変わりますが、さまざまな形で市政発展のためにまた御支援をいただければと思います。これからもよろしくお願いいたします。

さて、来週の月曜日３月11日は東日本大震災から２年目を迎えます。この間遅々として進まない被災地の復興の状況を憂いているのは私だけではないと思います。一日も早い復興を願うものであります。３月６日の報道で陸前高田市の奇跡の一本松の復元がされたとの報道がありました。約７万本の松原の中で津波に流されずに残ったこの１本、樹齢270年、高さ27メートルもあり、津波に耐えて立つその姿から希望の松とも呼ばれ、被災地の復興のシンボルとなりました。昨年７月に同僚議員とともに陸前高田市へ視察を兼ねた災害ボランティアに行かせていただき、奇跡の一本松を肉眼で見ることができました。地元の方は何とかこのまま生かして残したいという願いもあったようですが、立ち枯れが進むことが判明し、今回のレプリカとしての復元となったようであります。これからもこの被災地の方々を復興のシンボルとしてこの一本松は見守ってくれることと考えます。

それでは通告に従いまして、質問してまいります。今回の質問は２項目、１、教育行政について、２、市民の声よりでございます。

まず、教育行政について、いじめ対策についてであります。いじめ問題は昨年全国的に関心が高まった問題で、９月議会でも質問しております。その背景として、一昨年の滋賀県大津市の中学生自殺問題が発端となり、教育委員会、学校の対応などの問題が報道により表面化し、それ以降テレビ番組でもさまざまな分野の専門家が議論し、学校でもいじめ防止、いじめ根絶に向けて協議がなされてきました。しかし、それ以降も子供の自殺は後を絶たず、議論されているその裏ではいじめが行われていたわけであります。本市では最悪のケースはないものの、昨年のアンケートの結果でもいじめの存在は明らかになりました。いじめにどう対策をとるのかが課題になったわけでありますが、12月定例会での田中市長の施政方針の中で、いじめ対策についての委員会の設置、サポートチームを編成する方針を示され、そして本定例会では委員会とサポートチーム編成によりいじめ防止に向けて本格的に支援体制をとることを示されました。その中で各学校に学校長を初め教職員、保護者代表、民生・児童委員などで構成される学校いじめ対策委員会の設置とありますが、この委員会はどういった機能を果たすのか、まずお尋ねいたします。

○教育部長（赤池和則君）　こんにちは。お答えします。

市内小中学校に設置されます学校いじめ対策委員会は、学校関係者だけでなく保護者や地域住民で組織し、より広く情報を集め、いじめ事案に素早く対応することを目的としております。この学校いじめ対策委員会では、いじめ発見のための調査、関係機関との連携、いじめ事案対応の指導方針及び指導方法等の協議を行うこととしております。

以上、お答えします。（「議長、９番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　９番。豊永貞夫議員。

○９番（豊永貞夫君）　いじめが起こった場合、素早く対応して協議していくということでございますけども、このいじめというのは昨年のアンケート調査からも、表面化しているいじ

めというのは人からも見えて素早く対応できるんでしょうけども、アンケート結果にもありました仲間外れや無視などといった、なかなか見つけられないいじめでは見つけにくい、素早く対応できないのではないかと思います。そういったさまざまないじめにも委員会で素早く対応する必要があるとは思いますけども、やはり情報収集が重要になってくると考えます。学校でいじめが発生し、委員会で対応を協議されていくと思いますけども、そのいじめられた子供に対する心のケアについての対応というのはどうされていくのか。また、いじめたほうの子供に対する対応。また、いじめるほうが一人の場合、あるいは集団の場合とありますけども、この辺の対応についてはどう考えているかお尋ねいたします。

○教育部長（赤池和則君）　お答えします。

いじめを認知した場合の対応について、次のように対応することとしております。いじめられている子供に対しては、１、つらさや悔しさを十分に受けとめる。２、具体的支援内容を示して安心させる。３、その子供のよい点を認め励まし、自信を与える。４、人間関係の確立を目指し、自己理解を深め、改善点があれば克服させる。このような手順で心理的なケアを行います。このケアの際には、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等を積極的に活用することが必要でございます。

また、いじめている子供に対しては、一人でも複数の子供がいじめにかかわっている場合でも次のように対応をいたします。１、事実関係、背景、理由等を確認する。２、不満、不安等の訴えを十分に聞く。３、いじめられている子供のつらさに気づかせる。４、課題解決のための援助を行う。５、役割体験等を通して所属感を高める。このような手順でいじめている子供たちに対しても心理的なケアを行うこととしております。

また、指導、支援後にもいじめが改善されない場合や、一定の限度を超えるような場合には、出席停止の措置や警察などの関係機関の協力を求め、厳しい対応策をとることも必要であるというふうに考えております。なお、いずれの場合も保護者との連携を図ることが大切なことでございます。

以上、お答えいたします。（「議長、９番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　９番。豊永貞夫議員。

○９番（豊永貞夫君）　答弁いただきましたように、それぞれのいじめるほう、いじめられるほうの心のケアというのが、やはり重要かと思います。また、保護者との連携というのも重要になってくると思います。このいじめ問題について児童・生徒みずからが日ごろからこの学校内で相談できるような窓口、こういったものが必要じゃないかと思います。国の24年度補正の中に、いじめ対策の推進としてスクールカウンセラー、あるいはソーシャルワーカーの配置を充実する補正があるようでございますが、各学校へのスクールカウンセラーの配置についての考えをお尋ねいたします。

○教育部長（赤池和則君）　お答えします。

平成24年度には児童・生徒の問題行動等の対応として、球磨教育事務所にアドバイザー１名、スクールソーシャルワーカー２名、スクールカウンセラー１名、市内の中学校１校にスクールカウンセラー１名が配属されております。また、本市教育委員会には、いじめ不登校問題の相談等に人吉っ子アドバイザーを３名配置しておりますが、現在学校に出向いております人吉っ子アドバイザー１名を２名にし、全小中学校を巡回できる体制にするために、当初予算には４名の予算を計上しているところでございます。

さらに、いじめサポート対策チーム内に関係機関の方々にも御参加をいただいておりますので、より連携をとりやすくなっているというふうに存じます。今、御提案ありました文部科学省のいじめ対策として推進されますスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの活用事業につきましては、より充実した支援体制づくりのために積極的に要請を出し、活用していきたいというふうに考えております。

以上、お答えします。（「議長、９番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　９番。豊永貞夫議員。

○９番（豊永貞夫君）　各学校にはスクールカウンセラーは配置は難しいようでございますが、人吉っ子アドバイザーを４名にして各学校を巡回しながら相談事業もされていくということでございますので、その辺で対応できるかなと思っているところであります。

今回、もう一つの教育委員会内にいじめ対策サポートチームを編成されました。このチームとしてどういった機能を果たされるのかをお尋ねいたします。

○教育部長（赤池和則君）　お答えします。

人吉市教育委員会内に設置しておりますいじめ対策サポートチームは、学校の要請を受けていじめ問題の情報の共有、関係機関との連携、ケース会議の開催などを行い、市内小中学校のいじめ問題の解決に向けて支援する組織でございます。本年１月31日に人吉警察署生活安全課担当者、人吉っ子アドバイザー、人吉市家庭児童相談員、人吉市保健センターの保健師、球磨教育事務所いじめ不登校アドバイザー、人吉市人権擁護委員が参加し、第１回の連絡協議会を開催いたしたところでございます。この中で、本市のいじめ防止に向けた支援体制の確認や、人吉市のいじめ認知状況についての協議を行いました。また、今後いじめに関する対応事例等について研修をしていくことを確認をいたしたところでございます。今後、学期１回の割合で定期的に開催するとともに、学校からの支援要請を受けた場合は随時開催する予定でございます。

以上、お答えします。（「議長、９番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　９番。豊永貞夫議員。

○９番（豊永貞夫君）　サポートチームの中に県下初の警察官も編成されているということで、この学校の中のいじめに関して９月議会の中でも述べましたように、学校内だけで解決できるいじめと学校内だけでは解決できないいじめ、これが存在することで、学校内だけでいじ

めを解決しようとすることで、やはり隠そう隠そうという働きがこれまであったように思われます。こういったこのサポートチームの中にいろんな分野の、また警察も含めてですけれども、入ることでやはり第三者的な視点からもいろんな警察的な、法的な部分でもいろんなアドバイス、いろんなケースに合わせて対策がとれると思いますので、こういったサポートチームというのはやはり重要かと思います。各学校に委員会が設置されていて、その各学校でいじめに対する解決策とかされると思いますけども、ここで解決できないのをサポートチームが要請をされて初めて対策をされるということでございますので、やはりそういった対策にならないような学校づくりというのがやはり重要でございます。いじめというのはいじめるほうが100％悪いと私は思っておりますので、そういった学校の環境というのはやはり保護者も含めて教員、先生たちといろんな話し合いの中で、やはり学校の環境づくりというのが重要かと思いますので、その辺については今回のサポートチームの存在というのは、保護者の方から見ても一つの安心を覚えるのではないかと思います。いろんな分野で対応できるこういう機関があるというのが安心できるのではないかと思います。いじめゼロを目指してさまざまな取り組みをしていかなければならないと思いますので、今回のこの二つの組織ですけども、この対策については今後も推移を見守っていきたいと思います。

次の体罰問題でございますが、これは大阪市立高校でバスケットボール部主将の生徒が体罰を苦にして自殺をした問題が発端で、体罰問題が相次いで表面化してきた問題であります。この今回の問題というのは、バスケ部での体罰情報が市の通報窓口を介して市教委に体罰が日常化していることが寄せられているのに、高校は顧問の否定的な言い分をうのみにして体罰はなかったと結論づけていたことです。また、自殺前日の練習試合では、副顧問ら教員二人が近くで顧問の体罰を目撃していたのに、二人とも恩師であり上位である顧問に異論を挟めなかったということも一つの今回の問題であります。ほかの事例では、愛知県の県立高校では、陸上部監督の体罰を受けた一部の生徒が転校や退学をしていた。三重県の私立高校では水球部監督から体罰を加えられた部員が、二人ですけれども鼓膜にけがをしたことも発覚しております。学校教育法で体罰は明確に禁止されており、決して許されるものではありません。いじめ問題に続いて、学校現場が子供を死へと追いやる舞台となってしまっているのは、非常に残念でなりません。文部科学省の調べでは、全国の公立小中学校や特別支援学校で2011年度に体罰を理由に処分された教職員は404人に上るとされています。その３割程度が部活動絡みだということです。最近10年間を見ても、400人前後の処分があったという推移の統計が出ておりまして、なかなか減らない状況であります。

本市の状況を質問したいと思います。まずは、今回体罰を苦に自殺した事件について、教育長の見解をお尋ねいたします。

○教育長（堀　秀行君）　お答えをいたします。

昨年、児童・生徒を守り育てる責務を負っている学校において、体罰が原因と見られる高

校生の自殺が発生し、とうとい若い命が失われたことを大変悲しく心痛む思いであります。また、深刻に受けとめているところでございます。しかも、体罰が行われているとの訴えがあったにもかかわらず、学校及び教育委員会の対応が十分でなかったことは、大変残念であり遺憾なことだと思っています。決して対岸の火事とすることのないように強く自戒したところでございます。また、このようなことが本市では絶対に起きないように、教育委員会と学校との間にパイプの詰まりのない風通しのよい関係、相互の隠ぺい性が排された関係を常に築いておくことの重要性を痛感したところでございます。このことがなければ、相互におけるスピーディーな報告、相談、あるいは適切で行き届いた指導が行われないのではないかと考えるところでもございます。加えて私が考えましたことは、部活動の問題でございます。議員御指摘のこととかかわりがあることでございますが、事件が起きた該当高校のバスケット部は、近畿圏内ではトップクラスのバスケット部であったし、したがってその意味では、担当する指導者は大変優秀だと一目置かれていたと聞き及んでおります。部を強くしたり、生徒の意欲や技量を高めたりするためには、指導者の厳しさを伴うことはあり得ることです。これを受容する生徒もいたことでしょう。そういう姿勢や態度は管理職、教員、それに保護者の中にも少なからず潜んでいたのではないかというふうに見ているところでございます。したがいまして、その厳しさが体罰に高じても、優秀な指導者と言われていたがゆえにそれを注意したり、ましてや制止したり、報告したりできる人がいなかったのではないかと思いますが、結果的には体罰による自殺という、そのことによって自殺という悲劇を生んだのではないかと思ったりもした次第です。そうなると部活動の意義や部活動のあり方は何ぞやということに私の思いは至ったのであります。大いに議論する必要が今後あるのではないかという見解を持ったところでございます。

以上でございます。（「議長、９番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　９番。豊永貞夫議員。

○９番（豊永貞夫君）　教育長の体罰に対する考え、よくわかりました。私も同感であります。今回は高校での体罰の問題でありますけれども、体罰がとまらない背景にはやはり勝つためならば暴力も許されるという誤った勝利至上主義があると指摘されております。しかも、部活動で好成績を上げれば学校の評価が高まるため、周囲も体罰を黙認してしまう風潮があるようであります。体罰では人は育たない。人を育てるという観点から教育や運動部の運営がされますよう、対策を今後講じていかなければならないと私も考えております。

それではこの体罰でございますが、どういった体罰というのが、いうならば体罰の定義ですね。体罰の定義というのはどういったものなのか、また、本市の学校現場での体罰というのがあるのかどうか、その実態についてお尋ねいたします。

○教育長（堀　秀行君）　冒頭に申し上げておきますけれども、体罰という定義、これを共通してみんながこういう定義なのだというふうなことで、コンセンサスを持つということは大

変厳しいんじゃないかなという思いも私にはあるところですが、今の質問に対して答える前に、そういうことで前提として御回答していきたいと思います。

体罰に関する規定、学校教育法第11条では、「校長及び教員は、教育上必要があると認めるときは、文部科学大臣の定めるところにより、児童、生徒及び学生に懲戒を加えることができる。ただし、体罰を加えることはできない。」とされておるところでございます。また文部科学省は、体罰に関する通知文によりますと、児童・生徒の指導に当たり、身体に対する侵害（殴る、蹴る等の侵害）、あるいは肉体的苦痛を与える懲戒（正座をさせる、直立等特定の姿勢を長時間保持させるなどの体罰でございます。）に当たると判断されたもの、体罰に当たるかどうかは当該児童・生徒の年齢、健康、心身の発達状況、当該行為が行われた場所的及び時間的環境、懲戒の態様等の諸条件を総合的に考え、個々の事案ごとに判断が必要であるとしており、定義ではありませんけれども、基本的な考え方を示しておるところでございます。

本市の現状ですが、昨年４月から今日までの期間で、懲戒等の処分を受けた教職員はございません。なお、懲戒については市ができる懲戒と、県教委がする処分がございますので、その両方ともないと、今のところないと。人吉においてはですね。ということで御報告をさせていただきたいと思いますが、詳しい状況につきましては、ただいま各学校が体罰についてのアンケート調査を実施しているところでございます。そういうことで、それの結果を見ながら対応、対策を考えていきたいと思っているところでございます。

以上でございます。（「議長、９番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　９番。豊永貞夫議員。

○９番（豊永貞夫君）　この体罰という定義というのは、今聞いただけでもなかなかわかりづらい、よくわからなかったというのが正直な話で、殴る蹴るというやつは絶対にだめだというのはわかりました。この懲戒という部分がちょっとわかりにくかったんですけども、この人吉市においては体罰による教員の処分というのはゼロだというのはわかりました。またアンケート調査を小中学校にされているということで、その結果をまた今後集まると思いますので、その辺も見ていかなければならないと思います。

そのアンケートでございますが、我が家にも小学生が二人いまして、アンケートを持って帰ってきまして中身を見ましたけれども、文科省から出されているアンケートでございました。そして記名によるアンケートでございましたけども、大きく体罰がある、ない、あった場合はどういったことなのかという具体的に書く部分があったんですけども、もちろんうちはなかったんですけども、このアンケート調査というのは今されたばっかりなんですが、このアンケート調査の結果については公表できるものなのでしょうか、全体的に。

○教育長（堀　秀行君）　お答えをいたします。

文部科学省は、今回の体罰の調査結果は全国集計を取りまとめ公表する予定である。なお、都道府県、政令指定都市別の集計結果の公表の可能性もあるということで臨むようでございます。

以上、報告をいたします。（「議長、９番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　９番。豊永貞夫議員。

○９番（豊永貞夫君）　今の答弁もちょっとわかりにくかったんですけれども、可能性があるというのはもちろん、公表されるかもしれないしその逆かもしれないということでございますけども、今回の調査の結果というのはやはり皆さん興味を持たれてる方たくさんいらっしゃると思います。各学校関係、保護者の方たちも含め、私もですけれども。そういったアンケート調査というのはやはり公表してほしいというふうに思いますので、その辺はぜひ公表できるように要望していただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。そしてまた今回記名だということで、やはり記名することで本来ならば、本当の意味での調査結果が記名の場合と記名されない場合の結果が若干違ってくるんじゃないかと私は今思った次第でございます。そういった意味では独自に無記名での調査というのもやはり必要になってくるのではないかと思いますので、その辺についても今後検討していただきたいと要望しておきます。

今回の体罰問題も、このいじめ問題も共通した部分というのは、弱い立ち場の子供あるいは被害を受けるのは子供だということであります。そういった意味でも今回設置されております学校いじめ対策委員会、いじめ対策サポートチーム、この中でも少し協議を持つ必要があるんじゃないかと思いますけども、子供のサインを見逃さない、悩みを話せる環境をつくるということがやはり大切ではないかと思いますが、その辺の対応についてはどういった考えを持たれているかお尋ねいたします。

○教育長（堀　秀行君）　お答えをいたします。

本市ではいじめ等の問題への対応といたしまして、家庭児童相談員、人吉っ子アドバイザーによる電話相談、保護者向けのいじめ発見チェックリストの配付等を行ってまいりました。また、校内でのチェック機能の強化を指導してまいりました。これらは、いじめ問題に限らず体罰の早期発見、早期対処につながるものと考えておるところでございます。そのほか、市内教職員向けの研修でも学校と児童・生徒、保護者との信頼関係づくりや相談体制の充実、児童・生徒の状況把握と情報の共有化等についての内容を取り入れていきたいと考えておりますし、本市が設置しましたサポートチームにおいても具体的に取り上げるとか、あるいはどういうふうに取り上げていくかということも含めて協議をしてまいりたいと思います。

以上でございます。（「議長、９番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　９番。豊永貞夫議員。

○９番（豊永貞夫君）　今後は協議の中に入れていただければと思います。まず最初に、施政方針の中で今回の委員会とサポートチームの設置を田中市長が表明されましたと述べましたので、この件に関しては田中市長何か考えがございましたら、突然でございますけども、よろしくお願いいたします。

○市長（田中信孝君）　突然の御指名ありがとうございます。今後通告問題も含めてこういう案件も協議をさせていただきたいと思っているところでございますが、何分にも御要望におこたえするような回答が突然でございますのでできるかどうかわかりませんが、私もさまざまにこのいじめ問題というのは心の中に非常にその痛い思いをずっとしてきたところであります。私自身の子供もそれらしき目にも遭っておりまして、またこれは子供だけにかかわらず社会的な大人による社会的な大人に対するいじめというものもあるわけでありまして、さまざまないじめというものが古今東西存在するというふうに考えているところであります。

学校現場に限って申しますと、やはり肉体的、身体的、そして心的な痛みを感じるということがあってはならないというふうに思っているところであります。特に私の体罰も含めて感想を申しますと、中学校１年当時のことでございますが、私たちはさまざまな学友と一緒に授業を受けております。クラスも55名以上おりまして、その先生に指名されて回答を板書するときは、もう机と机の間隔が狭うございますので、こう体を横にしてしか行けないようなそういう団塊の世代の話でありますけれども、例えば先生にしかられて私自身11回殴打を受けたことがあります。体格的にも中学１年生ですから、そんなに恵まれているわけではありませんから、大人が本気で打ちますと教室のはじからはじまで飛ぶという経験もございます。しかし、尊敬する先生からがつんと一発やられるというのは、非常に名誉なことだというふうに感じることもあったわけであります。例えば、非常に私たちの学友は大変貧しい環境の中でも暮らしている学友もおりまして、その学友、我々のころは給食がございませんでした。全部家庭からそれぞれ弁当を持ってくると、そういう状況でございましたが、弁当を持ってこれる子はいいんですが、弁当を持ってこれない子供も多数いたと。そういう中でお昼休みになりまして、弁当をあけられる子供とあけられない子供、いわゆる弁当を持ってきていない子供というのは、学友が弁当を食べている間は読書をして待っていなければいけないと。こんな苦痛はないだろうと。食べるほうも非常に苦痛ですし、食べられないほうも非常に苦痛な昼休みの昼食の時間でありました。そのような中、１年生のときの担任の先生でありますけども、弁当を持ってこれない子供に昼休み、おれの ―― 担任の先生のですね、おれのパンを買ってきてくれと。あ、そうそうお前の分も忘れずに買ってくるんだぞというこの一言ですね。これでどんなにクラスの中が、温かく愛情深いその学年クラスであったかと。それでそういう尊敬する先生からがつんと来ても、何ともない。逆にうれしい。逆にその本当に愛されてるんだなという思いが伝わってくるわけであります。そういう中で体罰もやはり苦痛に思う、11発も本気で大人から殴られますとこれはもう苦痛でありまして、１週

間ほどこぶもできておりましたし、あちこちに。が、しかしそうやって愛情深いびんたもあったということでございます。

いじめに関しましても、身体的特徴をとらまえてそれを揶揄するとか、またはそれぞれのその置かれた家庭環境に対して揶揄するとか、古今東西いじめというのはなくならないと思います。しかし、我々は気づく必要はあると思っております。これはもう学校現場においても、社会においても、自分がとっている行動態度は一体どういう行動態度を今とっているのか、そのことはしっかりと反省し、私たちは心にとめ、そして気づき、そしてそれを是正をしていき、そしてよりよい人間関係をつくっていく必要があるのではなかろうかと思っております。また私自信もさまざまに、肉体的にはございませんけれども言葉をもって、言葉の暴力というのもありますので、そういうことで人に嫌な目に遭わせてきたことも多々ございます。また、反省する点もございます。そうやって人間というのは100％ではない、50か60％程度なんだけれども、お互いにやはり補い合い、そしてお互いに気づき合い、そして心の成長を遂げていくと、そういう環境をぜひさまざまな場で持つことができたらすばらしい地域、日本になっていくのではなかろうかと思っているところでございます。震災直後３月11日の出来事を東京で体験した世界銀行のボストン本部のアメリカ人がたまたま日本に来ておりまして、そのときの日本人の行動態度を心から褒めたたえております。逆に私自信は気恥ずかしい気持ちになるわけでありますけれども、外国人が日本人に対して非常にその冷静で品格高く高潔で、しかも人を思いやり整然と行動すると、こういう民族が世界にあるのかというふうに褒めたたえておりますけれども、その文章を私は読むたびに自分自身の自省も含めて、あらゆる場面で人間というのは未熟なものであると。しかし、心の成長を遂げていくことによって、人間同士本当に絆を深めていく必要があるというふうに考えているところでございます。

感情的になりまして大変恐縮でございましたけれども、私の思いとさせていただきたいと思います。（「議長、９番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　９番。豊永貞夫議員。

○９番（豊永貞夫君）　突然の御指名で大変申しわけございませんでした。いじめているわけではございませんので、ぜひその辺は御理解いただければと思います。また、田中市長の思いというのはよくわかりました。私たち世代もやはりいろんな体罰じゃないですけど、愛のむちという名のもとにいろんなげんこつだとか、いろんないっぱいいただいた経験もございますので、そういったことが今問題化しておりますけれども、学校現場での体罰というのはよくないというふうになっております。その辺は私たちも理解しながら、この体罰問題というのはやはり私たち大人ももう一回見直して、また子供に対する愛情というのは、体罰ではなくちゃんとした教育を受けさせていくというものでございますので、その辺はまた考え直していかなければならないと思います。この件については、終わります。

次に、学校耐震化でございます。学校施設は子供の学習、生活の場であるとともに、災害時には地域住民の応急的な避難場所としての役割を果たすため、その安全性の確保は重要であると考えます。本市の学校施設の構造部の耐震化については、本年度末で耐震化100％になります。これで校舎自体の倒壊のリスクは減ったわけでございますが、東日本大震災では柱やはりなどの構造体の被害よりも天井や照明器具、外壁、内壁などの非構造部分の倒壊により、児童・生徒がけがをした例も発生しております。地震等発生時において応急的な避難場所となる学校施設であるため、命を守るためにも点検が必要だと考えます。昨年文科省から公立学校施設の天井などの点検の要請通知があったと思いますけども、本市の学校の天井等について耐震点検は実施されているのかお尋ねいたします。

○教育部長（赤池和則君）　お答えいたします。

本市小中学校施設における耐震化につきましては、平成18年度から年次計画にて耐震診断及びその結果に基づいた補強工事を実施し、委員からお話がありましたように、本年度の人吉西小学校の管理・特別教室棟の工事完了をもってすべての施設の耐震化が図られたところでございます。しかしながら、議員が申されましたように、東日本大震災においては天井や照明器具等の非構造部材の落下が数多く発生し、児童・生徒が負傷する事例もあったことなどから、文部科学省から落下防止対策を進めるようにとの通知があっているところでございます。教育委員会といたしましても、児童・生徒の安全確保のため、非構造部材の耐震対策の必要性は認識しているところでございますが、先ほど申し上げましたように、本年まで耐震化工事の予算を最優先としてまいりましたので、非構造部材の耐震対策についてはいまだ実施していないところでございます。

今後できるだけ早く非構造部材の点検調査を実施し、その結果に基づいて耐震対策を進めていきたいと考えているところでございます。

以上、お答えします。（「議長、９番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　９番。豊永貞夫議員。

○９番（豊永貞夫君）　今後検討されるということでございますけども、この学校施設、子供たちの安全を守るためにもやはりすぐにでもやらなければいけないんじゃないかと私は思います。国の24年度補正の中に、公立学校施設の耐震化、老朽化対策などの推進のためにこの部分の予算措置がされておりますが、この補正も積極的に活用しながらこの点検をするべきではないかと思いますけども、その辺についてもう一度お尋ねいたします。

○教育部長（赤池和則君）　お答えします。

小中学校施設につきましては、建設後30年以上を経過して老朽化しているものが数多くあり、施設整備の改修工事も行わなければならない状況がございます。したがいまして、非構造部材の落下防止のための点検・対策については、財政状況を勘案しながら老朽化による改修事業と並行して年次計画を立て、早急に進めてまいりたいと考えております。

また、国の平成24年度補正予算についてでございますが、先ほど答弁いたしましたように非構造部材の点検調査を行っていないところから、平成25年度中に専門的な点検調査及び耐震対策工事を完了させることが時間的に困難でございますので、昨日追加提案させていただきましたように、施設の老朽化により以前から懸案事項であった小学校のプール改築事業と給水設備改修事業を国に要望したところであり、２月27日に補助の内示があったところでございます。

以上、お答えします。（「議長、９番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　９番。豊永貞夫議員。

○９番（豊永貞夫君）　おとといの全員協議会の中でも説明されました。小学校のプール改築がその分の予算に充てられているということでございますが、やはり先ほど言われたとおり、天井部分というのは安全対策をとらなければいけないというふうに思いますので、その辺は今後実施していただければと思います。この件については終わります。

次に、アレルギー疾患を持つ子供への対応、これは食物アレルギーに対する質問でございます。この質問は23年９月に取り上げて、学校給食での本市の状況などを質問しております。今回取り上げましたのは、昨年暮れ東京の小学校でチーズなどにアレルギーを持つ５年生の女子児童が給食を食べた後に死亡するという事故が起こりましたので、改めて本市の対策などの状況を確認するために質問いたします。

まずは、事故が起きた状況でございますが、昨年12月20日当日の給食の献立は生地にチーズを練り込んだ韓国風お好み焼きのチヂミで、女児用にはチーズを抜いたチヂミを一食分だけ用意してありました。おかわりを求められた際、女児が食べられない料理にはばつ印がつけられていましたが、担任が確認をしなかったため、チーズ入りチヂミを食べてしまい、３時間後に急死するという痛ましい事故でございました。原因はアレルギー反応によるアナフィラキシーショック死の疑いと発表されております。悔やまれるのは、担任も女児のアレルギー体質を知っていたことと、教職員がエピペンの注射をためらったことであります。この学校では昨年10月にも別の児童が誤って給食を食べてアレルギー症状を起こし、病院に救急搬送されたという事例も明らかになってきています。このケースは配り方に問題があり、児童が別の給食を誤って食べてしまったということであります。本市においても楽しいはずの学校の給食で命を落とすようなことは絶対にあってはならないとの思いから、幾つか質問をしてまいります。

本市小中学校にも多くのアレルギーを持つ児童・生徒がいます。前回の質問の中でも94名が食物アレルギーを持つとの報告でございました。本市のアレルギーを持つ子供の状況を踏まえて、このような事故が起きないためにも、今給食センターが取り組まれているこのアレルギーに対する対策、９月にも質問しておりますが、確認の意味でもう一回、対策について取り組みはどうされてるのかお尋ねいたします。

○教育部長（赤池和則君）　お答えします。

学校の教育活動中に亡くなるというあってはならない事故が起きたという事実に、本市でも大変重く受けとめているところでございます。この事故を受けて各地で危機感を持って取り組みを始めたところもあるようでございますが、本市の取り組みといたしまして、まず食物アレルギー自体への対応としては、主に学校やアレルギー症状を持つ保護者に対しまして、通常の給食献立カレンダーとは別に、アレルギー品目を詳細に記入した献立カレンダーを配付いたしまして、それをもとに保護者や担任などの指示に基づき給食から原因物質を除去しながら食べていただく方法をとっているところです。給食で除去できない場合は、弁当等を持参させるなどの対応を行っているところでございます。本市におきましても、学校給食でのアレルギー除去食の導入に向けて少しずつ準備を進めているところでして、まずは対象児童・生徒の確実な把握を行うために、１月末に食物アレルギーに関する個別調査票を小中学校の全保護者に配付をしております。現在回収を行っているところですが、近日中に調査結果を取りまとめる予定でございます。調布市の事故は、女子児童のおかわりに対応した現場教師の不注意、食物アレルギーに対する細心の注意を怠ったことによる痛ましいものでしたが、そうした学校現場でのアレルギーに対する認識を高めるためにも調査で得たリスク情報を学校側と共有し、食べてはいけないものを絶対に渡してはいけないという共通理解を得ながら対応を進めていくこととしております。

以上、お答えします。（「議長、９番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　９番。豊永貞夫議員。

○９番（豊永貞夫君）　今アンケート調査もかけているということでございますので、そのアレルギーを持つ子供さんの人数の把握とか、それぞれのアレルギーに対する食物というのは違うと思いますので、その辺の調査もぜひまた行っていただきたいと思います。

今回の場合、給食のおかわりのときの盲点や配り方の問題などが明らかになっています。育ち盛りの子供は一食分だけの給食では満腹にはならず、欠席されているお子さんの余ったパンや牛乳などおかわりをしているのではないかと思います。私たちの子供時代もそうでございましたが、おかわりをしていた記憶がございますが、本市では今どのような状況になっているかお尋ねいたします。

○教育部長（赤池和則君）　お答えします。

例えば、児童・生徒が欠席した場合にはその分の給食は余ることになるわけですが、ご飯や大おかずなどは最初に全員につぎ分けてしまいますので、後でおかわりするといったこと自体がほとんどないというふうに思われます。小おかずやデザートなどの単独のメニューにつきましては、その余った分をどうするかというのは基本的には担任の先生の判断でおかわりを許可されているケースがほとんどのようでございます。食物アレルギーを持った子供がおかわりを希望した場合には、学校で把握している情報に基づき、担任の先生がおかわりの

可否の判断をされているようでして、児童・生徒が自分の判断で自由におかわりができないように対応されているようでございます。いずれにしましても、おかわりの方法について統一した取り決めがあるわけではございませんので、今後はおかわりの方法、例えば担任の先生がアレルギーチェックを必ず確認してから与えるようにする、そういったことも検討して学校現場と協議しながら進めていきたいと考えております。

以上、お答えします。（「議長、９番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　９番。豊永貞夫議員。

○９番（豊永貞夫君）　担任の判断でアレルギーを持つ子供さんに対するチェックというのはやはり重要でございますので、今後その辺も強化していただければと思います。

次に、教職員のいざというときの自己注射薬（エピペン）の取り扱いについてお尋ねいたします。前回質問した中でも、アナフィラキシーショックを受けられるお子さんはエピペンを携帯しておられます。また学校でも予備に保管されているということでございましたが、今回の事故もエピペンを使用していれば助かった可能性も大きいと考えております。本市学校内で重篤なアレルギー反応のアナフィラキシーショックが起きた場合の対応として、対策はどうなっているのかお尋ねいたします。

○教育部長（赤池和則君）　お答えします。

アレルギーの発症に伴う、いわゆるアナフィラキシーショックを引き起こした場合、症状を改善するにはエピペンと呼ばれる注射液の接種が有効でございます。アナフィラキシーショックを起こし、エピペンをみずから注射できない状況にある児童・生徒にかわり、その場にい合わせた教職員がエピペンを注射することは反復、継続する意図がないものと認められるため、医師法違反にならないとされております。同時に人命救助の観点から、やむを得ず行った行為であると認められる場合は、医師法以外の刑事、民事の責任についても問われないものとされております。本市では、エピペンの常時携帯が必要な児童が現在２名おりますが、もしアナフィラキシーショックを引き起こし本人に意識がなく接種が困難な場合は、担任または養護教諭が接種することになっております。そのことについては担任だけでなく、全職員がエピペン使用についての講習を受け、共通理解をしているということでございます。教職員がエピペンを使用するのは緊急時の対応でありますが、ショック症状が起きた場合にどれだけ迅速に対応できるかが求められると思います。本市でもエピペンが必要な児童が在籍する学校においては、事前に医師や保護者とエピペンの取り扱い、打ち方や打つタイミングなどについての情報も共有するように連携して取り組んでいるところでございます。

以上、お答えします。（「議長、９番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　９番。豊永貞夫議員。

○９番（豊永貞夫君）　人吉市内でも２名の方がいらっしゃるというのがわかりました。やはり先生たちもその場になったときにためらうというのが出てくると思いますけれども、その

辺の保護者との情報の共有というのが重要になろうかと思います。一分一秒をこのアナフィラキシーショックは争いますので、その辺の対応というのもやはり常に先生方は意識していただければと思います。この件については終わります。

次に、市民の声よりでございます。予防接種についてでございます。広報ひとよしのお知らせ版２月号の５ページに、任意予防接種の費用助成期間は平成25年３月31日までです、お早目に、というお知らせが掲載されておりました。対象予防接種は子宮頸がん予防ワクチン、ヒブワクチン、小児用肺炎球菌の３ワクチンです。これを読まれた市民の方が、４月以降の費用助成はなくなるのでしょうかというお問い合わせがございました。この子宮頸がんは若い女性を中心に毎年約3,500人ものとうとい命を奪ってきました。しかしこのがんは実は予防できるがんで、ワクチン接種と定期健診が有効にもかかわらず、予防接種は３回で４万から５万もかかるために、なかなかワクチン接種が広がっていませんでした。また、細菌性髄膜炎は毎年約1,000人もの乳幼児が発症し、その約５％が死亡する病気です。たとえ治ったとしても約25％のお子さんには障がいや後遺症が残ります。この病気の原因のほとんどがヒブあるいは肺炎球菌と呼ばれるものです。しかしワクチンの料金が高額なため、予防接種を受けられない子供たちも少なくありませんでした。報道によりますと25年度から定期接種になり国の負担が９割とありました。この事業は平成22年度から助成費用が始まり、全額無料で接種しやすい状況でございましたが、４月以降の費用助成についてお尋ねいたします。

○健康福祉部長（松岡誠也君）　お答えいたします。

御質問のありました子宮頸がん予防ワクチン、ヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチンの３ワクチンでございますが、任意の予防接種として平成22年度から国のワクチン接種緊急促進事業に基づき接種費用全額の助成を行ってまいりました。平成23年度の実績でございますが、子宮頸がんワクチン接種が延べ1,813人、接種率61.3％、ヒブワクチンが延べ863人、接種率27.6％、小児用肺炎球菌ワクチンが延べ918人、28.0％でございました。これらの財源につきましては、臨時的な措置として県からの補助が２分の１、市の一般財源が２分の１で対応してまいりましたが、新聞報道によりますと３月１日、３ワクチンを定期予防接種化する予防接種法改正案を閣議決定し、４月１日からの施行を目指すこととされているようでございます。定期接種となりますと、ほかの予防接種では保護者の自己負担金を徴収しておりませんので、それらと同様に予防接種の費用は無料としてまいりたいと考えております。今回お願いしております平成25年度当初予算案につきましても、その内容で計上させていただいているところでございます。

以上、お答えします。（「議長、９番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　９番。豊永貞夫議員。

○９番（豊永貞夫君）　この３ワクチンは平成22年３月に人吉市議会としても定期接種化を求める意見書を全会一致で提出した経緯もありますので、まだ通ってはおりませんけれども、

安心した次第であります。なかなか接種率が低いようでございますので、その辺の対策も今後お願いしたいと思います。この件は終わります。

最後に、青井ハス池ポケットパークについてでございます。この場所というのは人吉橋から駅方向に向かって最初の信号を左に曲がる角にあるトイレと併設した公園、ポケットパークでございます。このポケットパークでございますが、やはり市民の方から電話がございまして、建設当初このハス池もポケットパークの中で小さい川の流れのような水が流れていたという問い合わせでございました。しかし最近は水が全然流れていないということで、３月１日に川下りも始まりましたし、来週16日からはＳＬ人吉も運行が開始されます。やはり観光シーズンということで観光客も最近もマップを持って散策されている方も多く見られるようになりました。そういった人たち、観光客を迎えるに当たって、そこに水が流れていたということで今は流れていないと。流れるようであれば流してほしいというのが電話の趣旨でございましたが、今現在流れておりませんが、この状況についてお尋ねいたします。

○建設部長（中村明公君）　それでは、お答えいたします。

青井ハス池ポケットパークは、熊本県が行いました人吉駅蓑野線外１線都市計画街路事業の一環として、平成10年ころに県が整備を行っている公園でございます。なお、同敷地内にあるトイレにつきましては、県の事業に合わせ人吉市が建設いたしております。また、同ポケットパークの維持管理につきましては、平成10年11月６日に人吉駅蓑野線外１線都市計画街路事業による施設の維持管理に関する協定を人吉市と熊本県とで締結いたしまして、平成10年12月１日から人吉市のほうで維持管理を行っております。御質問のありました球磨川を模したせせらぎ、水の流れは循環型のせせらぎでございまして、２年ほどは可動していたようでありますが、最下流の水をためる池の水が何度か全部なくなってしまい、水が循環しなくなるというトラブルが発生いたしまして、当時施工業者を呼ぶなどして原因をいろいろ調査をいたしましたが、どうしても原因がわからず最終的には循環型のせせらぎを止めてしまったということでございます。

水が流れるようにできないかという御要望でございますが、トラブルの原因もはっきりしませんでしたし、機械も15年ほどたってもう老朽化していると考えられますので、私どもといたしましては今までどおり水の流れない枯山水風といいますか、そういう庭園として管理してまいりたいというふうに考えておるところでございます。

以上、お答えいたします。（「議長、９番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　９番。豊永貞夫議員。

○９番（豊永貞夫君）　もう15年もたってポンプもさびついていると思います。枯山水、私も枯山水は好きであります。しかしながら、この水が流れていた場所には中央に石づくりの川下りの模型があって、水がないとこの川下りというのはなかなか趣がないんじゃないかと思います。財政的にも厳しいとは思いますけれども、できるならば水が流れるように修理、あ

るいはいろんな対策を講じて水を確保していただきたいと要望しておきます。なかなか難しいかとは思いますけれども、ぜひ実現していただきたいと思います。

最初にちょっととちりまして、大変申しわけございません。また最後でございますが、言い直させていただきます。３月末日で退職されます職員の皆様、これまでの市政発展のために大変御苦労さまでございました。ぜひ今後とも市政発展のために御助言いただければと思います。また今後ともよろしくお願い申し上げまして、私の一般質問を終わります。

○議長（永山芳宏君）　ここで暫時休憩いたします。

午後３時01分　休憩

午後３時18分　開議

○議長（永山芳宏君）　休憩前に引き続き再開いたします。（「議長、８番」と呼ぶ者あり）

８番。井上光浩議員。

○８番（井上光浩君）（登壇）　皆さん、こんにちは。８番議員の井上光浩でございます。外を見ますと大変きょうは一日よい天気でございましたけれども、今定例会の一般質問のトリを務めさせていただきます。

質問に入る前に、けさは気持ちのよい朝を迎えることができました。なぜならば朝刊に目を通しておりましたら、「高齢者保護で感謝状」という記事が掲載をされておりました。掲載の記事は、球磨工業高校３年生の二人は、１日夕方雨の中の車道を行ったり来たりする女性を発見。近くの消防団詰所に連れていった。女性は認知症で自宅への帰り道がわからなくなったという。卒業式を終えて帰宅中だったという二人はこう言われました、ここがすばらしいんですが、当たり前のことをしただけですと話をされたという記事が出ておりました。なかなか出てこない言葉でございます。高校卒業を迎えられたお二人の将来がすばらしいものでありますことを願っております。また、感謝状を贈られた方はこの議場の中におられますけれども、大変心温まる事例でございましたので紹介をさせていただきました。

それでは、通告に従いまして、一般質問を行います。今回は施政方針より、市民芸術・文化の振興と継承について。安全、安心な消費生活の実現に向けた施策について。路線バス見直し、地域内交通（乗合タクシー）再編、利用促進事業についてであります。この利用促進については５番議員平田議員も質問をされておりますので、重複する点があるかもしれませんが、私の視点として質問をさせていただきます。

１点目の、市民芸術・文化の振興と継承については、これは第５次人吉市総合計画内で取り組まれます主要な事務事業でありますカルチャーパレスの自主文化事業についてでございます。そこで、カルチャーパレスで開催された自主文化事業の平成23年度並びに平成24年度の実績、いわゆる入場者数、経費実績についてお尋ねをいたします。

１回目の質問を終わります。

○教育部長（赤池和則君）　お答えします。

平成23年度では四つの自主文化事業を開催いたしました。日本舞踊「球磨川の響きと舞」では、入場者数962人、事業費126万円です。夏休み親子映画まつりでは午前午後の２回上映をいたしました。入場者数519人、事業費37万円です。第３回人吉のど自慢大会では出場者23組、入場者数400人、事業費９万4,000円です。戦場カメラマン渡部陽一文化講演会では、入場者数1,122人、事業費142万4,000円です。平成24年度では三つの事業を開催いたしました。人間国宝山勢松韻箏曲公演では、入場者数273人、事業費272万円です。ＮＨＫＢＳ日本のうた公開録画では、1,200席が満席、事業費は107万円です。人吉のど自慢大会では出場者22組、入場者数400人、事業費は22万円です。

以上、お答えします。（「議長、８番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　８番。井上光浩議員。

○８番（井上光浩君）　今、教育部長のほうから答弁をいただきましたが、23年度が四つの自主文化事業、そして24年度が三つの事業を開催されております。今回この質問をさせていただきました経緯は後ほど申し上げるかもしれませんけれども、カルチャーパレスの施策の目的ということで第５次総合計画には、文化の殿堂になるような施設整備を目指すという文言がございます。文化ということでございますので、今回自主文化事業について質問をしておりますので、自主文化事業を開催、事業を起こす、事業を行う、どういった点をテーマとして開催をされたのか、目的趣旨というものがあると思いますが、お尋ねをいたします。

○教育部長（赤池和則君）　お答えします。

自主文化事業は市民の皆さんに生きた舞台芸術を鑑賞する機会を提供し、明るく豊かな文化生活の向上を目指して実施しているものでございます。平成23年度日本舞踊では、普段親しむ機会の少ない市民、特に若い世代に呼びかけまして、四季の風景をめで、風情や郷土への愛着と伝統芸能への関心につながればと企画いたしました。親子映画は、子供から大人まで楽しめ、また親子で時間を共有しコミュニケーションを深めてもらおうと企画いたしました。のど自慢は、観覧客と一緒につくり上げ、元気が出る市民参加型の文化事業として企画をいたしました。講演会は市制70周年記念事業の一環でもありますが、市民の教養、文化力の向上を図ることを目的に、今回は特に平和の大切さ、命の大切さを学んでもらおうと企画をいたしました。平成24年度箏曲公演では、国宝の里に人間国宝の技、崇高な箏の音が響き、邦楽のすばらしさを子供から大人まで体験していただくことを目的に企画いたしました。ＮＨＫＢＳ日本のうたでは、人吉招致の念願がかない、市制70周年事業の一環として町じゅうの盛り上がりと人吉を広く全国にＰＲするための企画として企画をいたしました。人吉のど自慢大会は毎年同様の趣旨で企画をいたしております。

以上、お答えします。（「議長、８番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　８番。井上光浩議員。

○８番（井上光浩君）　先ほど答弁をいただきました。市民の皆さんの舞台芸術を鑑賞する機会、また明るく豊かな文化生活の向上を目指してというところで、まさに自主文化事業というのはそういうものであると私も思っておりますし、大変楽しみにされている方もいらっしゃいますし、いい事業ではないかなと思っておりました。しかしながら、本議会でもよく出てまいりますけども、財政的に厳しいというところで少し施策のほうにも盛り込まれてなかったのかなという観点から質問をさせていただいておりますが、そこで、第５次総合計画の中では自主文化事業については、現時点で観衆、お客様といいますか、現在値では2,000人、それを平成27年度には7,000人という目標を掲げておられます。そこで今年度の計画案はどうなっているのでしょうか、お尋ねをいたします。

○教育部長（赤池和則君）　お答えします。

平成25年度当初予算編成においては、本市の厳しい財政状況の中、臨時的なもの及び法定的なものを除き、すべての歳出について削減の対象となったことは議員御承知のとおりでございます。カルチャーパレスは維持管理費などの固定的な経費がほとんどでございまして、経費削減が厳しい面がございます。このようなことから当初予算においては、自主文化事業として比較的経費の低いのど自慢大会のみを計上しているところでございます。

以上、お答えします。（「議長、８番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　８番。井上光浩議員。

○８番（井上光浩君）　財政事情ということでございます。のど自慢大会、先ほどの答弁の中では事業費が９万4,000円で開催をされております。そこで、今回の質問の中で、財政事情というのは勘案をしますけれども、自主事業としてできることがあるとすれば、どのようなプランで、本年度財政事情は厳しいと思いますけれども、具体的なものがあればお聞きをしたいと思います。

○教育部長（赤池和則君）　お答えします。

開催することができるといたしましたら、比較的経費の低い、それでいて多くの入場者が見込まれるような事業、あるいは国の補助等が見込まれるような事業を企画していくことが必要であると考えております。いずれにいたしましても、入場者の増加のために創意工夫をしながら、市民文化力の向上に努めてまいりたいと存じます。

以上、お答えします。（「議長、８番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　８番。井上光浩議員。

○８番（井上光浩君）　財政難でございますので難しいところかなと思っております。ただ、創意工夫をされていかれるわけですけども、本市においては入場料の設定等々も大変難しいものがあるのではないかなと思います。都市部で１万5,000円で見られるものが、果たして人吉市で１万5,000円で合うのか、なかなか１万5,000円出して見ていただけるのかというと疑問であると私は思っておるところであります。しかしながら、本市の市民の皆さんの文化

力の向上にはなくてはならない事業でありますので、どうか大変難しい問題だとは思いますけれども、入場者増加のために創意工夫しながら努めていただくことを要望をしておきたいと思います。簡潔に申し上げて、できたらのど自慢だけではなくて呼んでいただければなと思っているところであります。

それでは、２点目でございますけれども、新聞記事からでございますけれども、昨年になります。１月から11月の中で、これ警視庁発表になりますが、みずから命を絶たれた方々が１割減という記事が載っておりました。年間３万人を超えられる方がいらっしゃいましたけれども、約１割減られたと。このことについて調査機関の方は、政府が市町村単位で月別にみずからの命を絶たれた方の数を公表するようになり、地域の実情に応じた相談会などを開けるようになったことが効果を上げているのではないかと分析をされております。そこで、本市の安全、安心な消費生活の実現に向けた施策ということで、第５次総合計画の中にも織り込んでございますけれども、目を移しますと、消費生活相談件数が344から平成27年には20％増加という目標値を掲げられています。これはいつでもどこでも受け入れられることができるように、門戸を広げるという環境をつくることを目標にと私は理解をしておりますが、本市の現在の相談内容と相談件数の状況はどうなっているのでしょうか、お尋ねをいたします。

○市民部長（山本政義君）　お答えいたします。

平成24年度から取り組んでいます第５次総合計画では、安全、安心な消費生活の実現という施策により、市民が安心して消費生活を送れる町を目指すものでございます。その中で取り組みます相談業務の活性化に関する事業では、相談窓口を利用していただくことにより、被害の未然防止や被害の再発防止につなげるという意味で相談件数の20％増加を目標値に設定をしたところでございます。井上議員の御意見のとおり、相談しやすい環境づくりはもちろんのことでございますけれども、平日の相談窓口の充実、休日や夜間の特別相談会など相談機会を多く設けることにより、一人でも多くの市民の皆様が気軽に相談を受けられ、問題解決の糸口をつくっていただきたいと考えております。

さて、現在の相談内容の状況でございますが、平成25年１月末現在の相談件数は562件でございます。内訳は契約問題が一番多く157件、次に離婚やＤＶを除く家庭生活問題が127件、多重債務を含む金銭問題が72件、行政問題が64件、土地・家屋問題23件、相続問題23件、相隣関係28件、婚姻・離婚問題17件、借地・借家問題８件、交通事故関係５件、その他が38件となっております。

以上、お答えいたします。（「議長、８番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　８番。井上光浩議員。

○８番（井上光浩君）　さまざまな問題を抱えられた市民の方が多いようでございます。先ほど申し上げましたけれども、門戸を広げるという意味で関係づくりを進められているわけで

ございますけれども、そこで、出前講座も行っておられるようでございます。この出前講座についてでございますけれども、件数等々はどうなってるでしょうか。また、あわせて人吉球磨地域において、巡回による相談会を実施されておりますが、人吉市民がどこで何人の相談をされているのか、お尋ねをいたします。

○市民部長（山本政義君）　お答えいたします。

今年度実施しております出前講座の件数は、現在のところ10件でございます。内訳は老人クラブ４件、高校が２件、中学校保護者１件、町内会１件、介護支援専門員１件、その他団体が１件でございます。

次に、人吉球磨地域での巡回相談会でございますが、人吉球磨生活支援ネットワークとして各市町村の相談業務担当者及び各市町村社協の担当者が中心となり、弁護士会、司法書士会の協力のもと毎月１回を目標に実施をいたしております。本年度の実績ですが、25年２月までに11回実施し、82人の相談がありました。そのうち人吉市民の相談は16人でございます。内訳は５月錦町での相談者８人のうち人吉市民はゼロ、６月相良村での10人相談のうち市民１人、７月球磨村での７人の相談のうち市民が３人、８月五木村での１人の相談のうち市民ゼロ、９月多良木町での15人の相談のうち市民が１人、10月山江村での７人相談のうち市民はゼロ、11月球磨村での１人相談のうち人吉市民１人、同じく11月湯前町での４人相談のうち市民１人、12月人吉市での９人相談のうち市民６人、１月あさぎり町の９人相談のうち市民１人、２月多良木町での11人相談のうち市民２人となっております。

以上、お答えいたします。（「議長、８番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　８番。井上光浩議員。

○８番（井上光浩君）　人吉球磨地域の巡回相談会でございますけれども、弁護士会、司法書士会の皆さん方の御協力があってと思いますけれども、やはり人吉市ではなくてほかの町村で開かれている場合も人吉市の方も御相談に上がってらっしゃるということはやはり、人数の問題ではありませんので、やはり相談する場所が多いというところがあるとこういうふうに相談件数もあるのではないかなと私も思っているところでございます。今後もこういう出前講座、相談等々はふえてくると私は予想をしておりますし、田中市長の施政方針の中でも触れられておりました。

そこで今、消費生活センターでの相談件数や相談内容をお聞きいたしましたけれども、これに関連いたしまして、最後のセーフティネットと言うべき生活保護の問題について質問をしてまいりたいと思います。施政方針の中で田中市長触れておられますけれども、全国と比較して保護率は低いけれども、本市の生活保護者は増加の傾向にあると述べられております。新聞報道等々を見ますと、この１年何かと生活保護問題が取りざたされております。平成20年におきましてはリーマン・ショックを契機に世界経済、金融情勢の悪化は国民の雇用と生活に大きな打撃を与えておることは皆さん御存じだと思います。そして多くの失業者、そし

て生活弱者と言われる方々を生み出しておりますけれども、その結果平成21年には、急激に生活保護に関する相談や保護申請件数が増加をし、平成23年には半世紀ぶりに全国で200万人を突破したということでございます。それからも増加を続けて、平成24年11月には214万人と史上最高を更新されたとされております。そこで、本市における現状はどうなっているのでしょうか。また、増加している原因はどういった点があるのでしょうか。またもう１点、生活扶助費の推移はどうなっているのでしょうか、お尋ねをいたします。

○健康福祉部長（松岡誠也君）　お答えいたします。

本市の生活保護の現状でございますが、平成20年４月には保護世帯数265世帯、保護人員317人でありましたが、生活保護受給者の増加は本市においても例外ではなく、その後も除々に増加を続け、平成25年１月には保護世帯数363世帯、保護人員482人となっております。人口1,000人当たりの被保護者人員の比率を示す保護率につきましては、平成20年４月に8.70パーミル、パーミルというのは千分率のことでございます。8.70パーミルであったものが平成25年１月には13.80パーミルと増加している状況にあります。参考までに平成23年度の全国平均が16.20パーミル、県平均は13.00パーミルというふうになっております。

生活保護世帯が増加する背景にはさまざまな要因が考えられますが、失業者の増加に加え、生活保護基準額が据え置かれたままの現状において、保護基準額より一般世帯の所得水準額が下がったことも保護率上昇の一因と考えられます。保護世帯分類で見ますと、約50％を高齢者世帯が占めており、その原因としましては年金生活者による保護申請の増加に加え、今まで援助してきた親族からの援助困難を理由とする申請がふえていることなどが考えられます。また、稼働年齢層を中心とする世帯が約20％と増加が目立っております。これは人吉球磨の有効求人倍率が県下最低であることが大きな要因であると思っております。

生活保護費につきましては、平成20年度に総額６億3,700万円であったものが、被保護者数の増加に伴い、平成23年度には７億1,300万円と推移しており、本年度は６億8,500万円を見込んでいるところでございます。

以上、お答えします。（「議長、８番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　８番。井上光浩議員。

○８番（井上光浩君）　本市も例外ではなくて増加の状況である、実情であるということが今答弁の中でわかりましたけれども、またその背景にあるものも今答弁の中に盛り込んでいただきました。その背景も理解できたわけでございますけれども、民主党政権から自民党政権へ新しく変わり、国のほうでは生活保護制度の見直しを今急ピッチで行われているようでございます。支給基準の検証は５年ごとに行われておりますけれども、2013年度が改定の年に当たります。前回は2008年でございました。そのときには景気低迷などの理由により据え置かれたという経緯がありますが、そこで今後におきます生活保護制度の実施について、国や県の指針とともに本市におきます生活保護への実施方針などがありましたらお尋ねをいたし

ます。

○健康福祉部長（松岡誠也君）　お答えいたします。

生活保護を取り巻く問題は山積み状態で、昨年から新聞や国会でも生活保護に関する問題が取り上げられ、非常に関心が高くなっております。そのような中で、国は平成25年１月に不正受給対策や医療扶助の適正化、就労支援の強化などの生活保護制度の見直しや、生活困窮者対策に総合的に取り組むことを示しております。しかし、具体的な内容につきましては今後決定されてまいりますので、今後の動向を注視しながら、支援を必要とする方に確実に実施できるよう進めていきたいと考えております。本市におきましても国の指針にのっとり、人吉市総合計画に掲げる最低生活の保障と自立支援を目的とし、適切に生活保護事業を実施していく所存でございます。

以上、お答えします。（「議長、８番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　８番。井上光浩議員。

○８番（井上光浩君）　今議会にきましても、同僚議員からも雇用対策、経済対策とさまざまな視点、また多岐にわたる質問が繰り広げられておったわけですけれども、生活保護を受けられている皆さん方の気持ちを察しながら質問をするところでございますけれども、こういったことにつきましては大変秘密性が必要でありますので、これ以上中に入った質問はいたしませんけれども、今、国の指針を答弁いただきましたけれども、生活保護につきましては私の考えとしましては、日本国憲法第25条に「国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」と規定されております。国民に健康で文化的な最低限度の生活を保障することは、国民の生存権を保障するものであります。また、昭和25年に全文が改正されました現在の生活保護法の第１条では、「この法律は、日本国憲法第25条に規定する理念に基き、国が生活に困窮するすべての国民に対し、その困窮の程度に応じ、必要な保護を行い、その最低限度の生活を保障するとともに、その自立を助長することを目的とする」とされております。このように法に規定されている以上、生活保護が困窮リスクに対応する最後のセーフティネットとしての安全網であることは皆さん認識をされていると思います。確かに不正受給などに厳しく対応するべきなのは当然でございますけれども、本来保護されるべき人たちへの対応をきめ細やかく配慮をとりながら対応をしていただくことを、切に要望をいたしておきます。よろしくお願いしたいと思っております。

次に、交通体系のほうに入りたいと思います。先日第44回藍田地区町内会長連絡協議会が開催をされております。その中でも質問が出ておりましたけれども、路線バス見直し、そして地域内交通再編という点について質問をさせていただきます。昨年の10月１日から導入をされました予約型乗り合いタクシーが運行をされておりますけれども、昨年平成24年10月１日からの利用実績と経費実績は各路線、10月からの３カ月平均ぐらいで結構でございますのでお尋ねをいたします。

○議長（永山芳宏君）　ここで会議時間を延長いたします。

○市長公室長（久本一富君）　皆さん、こんにちは。まずもってこの場をおかりしまして、これまで議員各位から、そしてまた先は丁寧なまでに私ども退職者に対しましていたわり、励まし、そしてこれからの活動の道筋まで数々の温かいねぎらいの言葉を賜りましたこと、まことにありがとうございます。勝手ながら代表して御礼を申し上げます。また、井上議員にはこうして一般質問の最終日、しかも最後の最後の場面に答弁の機会を与えていただき、この場に立たせていただきますことを光栄に存じます。御配慮ありがとうございます。それでは、御質問にお答えいたします。

人吉市内を発着いたします、いわゆる市内完結型の従来までの五つの路線を対象に乗り合いタクシーを導入いたしました昨年10月から12月までの３カ月の実績につきまして、まず路線ごとの利用実績を月平均で申し上げます。まず、鹿目線で278名、西間経由田野線で184名、東間経由田野線で378名、下田代線で251名、山江線で121名の利用となっておりまして、全体で月平均1,223名の御利用をいただいているところでございます。この数値が多くなったのか、あるいは少なくなったのかということにつきましては、従来の運行形態、内容というものがまったく異なっておりますことから、現時点で一概に比較することは困難でありますので、時間の経過とともに今後も引き続き精査・検証ということを行ってまいりたいと思います。

また、利用されております方々の傾向といたしましては、正確な把握はできておりませんが、一般には高齢の女性の方の割合が高く、病院受診や買い物目的が主なようでございます。

次に、経費実績でございますが、乗り合いタクシーの運行に要しました経費から運賃収入 ―― 利用者負担でございます、これを差し引きました市からの補助金をベースに路線ごとの月平均で申し上げます。鹿目線が19万6,836円、西間経由田野線が28万683円、東間経由田野線が26万986円、下田代線が31万5,216円、山江線が10万2,050円という結果になっております。経費に関しましてはこのほかにも予約業務 ―― 事業者の方です、を処理するための経費が発生をしておりまして、その予約経費として月平均４万1,965円が生じており、補助金といたしましては合計で月平均119万7,738円を支出しているところでございます。

以上、お答えいたします。（「議長、８番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　８番。井上光浩議員。

○８番（井上光浩君）　月平均119万7,738円ということで、経費という部分と利用者数、また利用されてる方々の年齢層等々も答えていただきました。やはり高齢者の女性の方が多いようでございます。交通手段をなかなか持たれない方がいらっしゃいますので、そうではないかなと予想はしておりました。そこで、今財政的な負担にも触れられましたので、この路線バス及び乗り合いタクシーに関する市の財政負担として、今回の乗り合いタクシーを導入されて削減効果が見込めるのか。導入後３カ月の平均を今答弁されましたので、この３カ月の

実績をベースに、１年でしょうか、推計値で結構でございますので、お尋ねをいたします。大体どのくらい削減効果があるのかという質問をさせていただきます。

○市長公室長（久本一富君）　お答えいたします。

繰り返しになりますけど、現行の乗り合いタクシーは昨年９月をもって廃止されましたバス路線をすべてカバーしているわけではございません。一方で、一部のバス路線では昨年10月から増便するなどの対応もいたしておるところでございます。したがいまして、明確な比較というものは困難でありますが、導入後３カ月の実績をもとにいたしました大まかな推計値ということで御理解をいただきたいと存じます。

まず初めに、乗り合いタクシー運行以前の昨年９月までのバス路線に対する本市が支出いたしました運行補助金は、年間約6,000万円となっております。そこでこの6,000万円から昨年９月末で廃止をされたバス路線、いわゆる今回の乗り合いタクシー導入路線への従来の補助金額を差し引いた額が約3,400万円でございます。これに今回の乗り合いタクシーの現状での１年間に置きかえたところの補助金の推計値が1,440万円ということで、これを加えますと4,840万円となりますので、これからしますと約２割弱程度の削減効果が見込まれるのではないかと予想をしているところでございます。

以上、お答えいたします。（「議長、８番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　８番。井上光浩議員。

○８番（井上光浩君）　約6,000万から4,840万円ほどになると。これは推計でございます。しかし、２割弱の削減効果はあるんではないかということでございました。今回、先ほども申し上げましたように、私も含めて13人登壇いたしましたけれども、なかなか財政上に厳しいという答弁が多かったような一般質問でございましたので、そこは理解しながら質問をさせていただきましたけれども、冒頭申し上げましたとおり、藍田地区町内会長連絡協議会の席上でもこの質問は上がっておりました。その中で、公室長の答弁の中で、予約方法等の変更についても協議を重ねているというふうに説明をされました。私ども議員も同席をしておりましたので聞いておりましたけれども、関係機関と協議が整えば予約方法、運行方法の変更も可能なのでしょうか。お尋ねをしておきます。

○市長公室長（久本一富君）　お答えいたします。

運行方法の変更に関する御質問でございますが、これまで田野・大塚地区から東間小及び人吉一中への通学に運行されておりましたスクールバス、これが今月末をもって廃止をされますことから、４月以降におきまして田野・大塚地区の児童・生徒の皆さんは乗り合いタクシーを利用しての通学となります。このような状況の中で学校や保護者の皆様からさまざまに御要望をいただいておりまして、児童・生徒の通学における安全確保という観点から、４月より一部運行方法を変更することといたしました。具体的には東間経由田野線におきまして、人吉スターレーン発田野行きの空白となっておりました午後１時台、それから２時台、

ここに増便を行うということといたしております。また、東間小学校停留所を現在地から東間小の正門前のほうに移設をするとともに、それから東大塚地域の一部路線延長を行い、大塚コミセン停留所を新設するということで、乗り合いタクシー乗降時の児童・生徒の皆さんの安全確保の徹底を図るということといたしております。このように運行方法につきましては、関係機関との協議が整えば必要に応じて変更することは可能でございますが、議員御質問にありました一番肝心な部分になろうかと思いますけれども、予約時間の変更、これにつきましては、まだ運行事業者との間で協議を行ってはおりますが結論には至っていないという状況でございます。したがいまして、もうしばらく時間を要しますことから、そのあたりを御理解いただきたいというふうに思っております。

以上でございます。（「議長、８番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　８番。井上光浩議員。

○８番（井上光浩君）　運行方法につきましては、田野・大塚地区の児童・生徒の皆さん方については対応をしていただいてるようでございます。多分低学年の方と高学年の方、帰る時間が違ってきますし、中学生の場合は部活動もあるでしょうから、そういう配慮をされたのだろうと思っております。ただ、今公室長申されましたけれども、予約時間の変更、予約方法については、もうしばらく時間をいただきたいということでございました。先ほどの質問の中で、高齢の女性の方が多かったというような答弁がございましたけど、少し私の耳にも届いている要望というのがございます。ことしは特に、昨年10月１日、秋でございましたけれども寒うございまして、予約をしとったけれども朝物すごく寒くてちょっと病院は行きたくないなというようなことで変更したいんだけどなかなかできない、そういった問題。予約をしとったけれども朝起きたら雨が降ってて病院はちょっと行きにくいなというような、行きにくかったんですよねというような問い合わせもありますし、３月末時から４月になりますと各町内総会シーズンになりますので、まだ多種多様な要望が出てくると思います。

そこで地域住民の皆さん方の利用者だけではないとは思いますが、一日に朝、昼、夕方だけでも予約のいらない定期運行ができないだろうかという切実な要望がございます。５路線ありますので、その沿線の皆さん方全部総括して言ってるわけではございませんけれども、その１路線だけというわけではございません。そういったことを踏まえてお尋ねをいたします。

○市長公室長（久本一富君）　お答えいたします。

乗り合いタクシーを導入いたしました背景には、定期運行をしておりました路線バスの利用者の減少と、そしてその運行を維持するための市の財政負担の増大がございました。御承知のように定期運行の場合、利用者がなくても運行しなければならないという非効率的な状況が発生をする中で、財政負担も伴い費用対効果が著しく低いという状況をつくり出しておりました。このような状況を打開するために、予約にすることによって必要なときに必要な

区間を運行するための予約型乗り合いタクシーを導入したということを、まずもって御理解をいただきたいと存じます。御質問をいただきました朝、昼、夕の一日３便の定期運行の要望が上がっているということについてでございますが、乗り合いタクシー導入の趣旨というものを踏まえ、さまざまな問題をクリアしなければならないのではないかと存じます。場合によっては、現在おおむね１時間に１本程度設定をしておるところでございますが、この便数の減便、便を減らすといったことであったり、運行維持に要する運賃の値上げ等々、利用者の皆様方の御負担とともに御理解と御協力が必要になってまいろうかと存じます。さらには、１日３便の定期便を運行するといったときに、豆バス等の運行を想定をするわけでございますが、そういったとき車両定員をオーバーした利用者の待ち合いがあった場合の対応なども十分に検討しなければならないというふうに考えております。いずれにいたしましても、現状の乗り合いタクシーと比較をする中で、一定の利用率と費用対効果が担保できるものでなければ実現は厳しいのではないかと考えているところであります。何はともあれ、高齢社会を迎え、安定した持続可能な公共交通体系の構築を図るべく、現行制度による運用をスタートしたばかりですので、もうしばらくは今後の推移を注視をしていくということが重要ではなかろうかと考えているところでございます。

以上、お答えいたします。（「議長、８番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　８番。井上光浩議員。

○８番（井上光浩君）　実現は厳しいのではないかという答弁を私も今お聞きしましたけれども、一定の利用率等々この上昇というか多くの方に利用していただくということも必要であると思っております。また、本市においてはバスが通っていない交通空白地帯もあるわけでございますので、そういったことを網羅するためにはさまざまな施策を講じていかなければならないというのも理解しておりますし、導入された経緯もわかっているつもりでございます。しかし、切なる要望があるということは聞き置きしておいていただきたいと思いますが、その点を含めて田中市長にお聞きをいたしますが、田中市長のお考えをお尋ねをいたします。

○市長（田中信孝君）　お答えいたします。

地域公共交通に対しまして、さまざまに御要望いただいているところでございます。それと、なぜこういう乗り合いタクシーに切りかえを行ったかというのはもう御承知のとおり、できるだけ財政負担を減らしていきたい、路線バスを走らせれば走らせるほど、県の補助金も減額された原因もございますけれども、市の負担が増額をしていくと。なんとかこれに歯どめをかけていきたい、これはもう全国津々浦々山間地を抱えている地域の悩みではなかろうかと思っているところでございます。上天草市におかれましても１億2,000万円程度の補助金だというふうに新聞報道で知ったところでございまして、何とか抜本的な解決を図りたいというふうな思いが伝わってきているところでございます。交通空白地帯というものもこの人吉にはさまざまにございます。

そこで東間校区、それから田野・大塚校区等々におきましてもさまざまな御意見が出たところでございます。それも先ほど井上議員の御指摘のとおりでございまして、電話することさえもなかなか難しい方もいらっしゃるというお声も先般ございました。または補聴器をつけても非常に聞きづらいという方々の対応をどのようにしていくのかとか、そのお一人お一人の実情というものの中で、また個別の御要望も出てきているところでございます。そういいながらも、公共交通の維持確保のために地方の自治体ではさまざまな工夫を凝らしておられるところでございます。地域の実情に応じた取り組み、対策、それからその地域の利用者の方々の要望に応じた取り組み、対策というものが必要であろうというふうに思っております。ほぼ御利用いただいておられる方々は病院への通院や買い物、これが主でございまして、これを公共交通手段を使いながら目的を果たしておられるということが予想されるわけでございます。今後高齢化が進む中で、ますますこの御要望というのは高まるものというふうに考えております。本市におきましても、路線バスや乗り合いタクシー等も含めた総合的な交通体系のあり方を模索しているところでございますが、公共交通の維持確保のためには何よりもやはり地域住民の皆様方の御理解、御協力が必要であろうというふうに今考え始めたところでございます。つまり、交通空白地帯の方々を市民全員で担うと、そういう方策にも踏み切らざるを得ないのではないかと。非常に交通の利便性がよい、または買い物、通院の利便性がよい方であっても交通空白地帯を初めとする、中山間地域を初めとする方々を今後我々は市全体で、市民で、行政がもちろん中心でございますけれども、担っていく必要があるのではなかろうかというふうに感じているところでございます。議員から御要望いただきました内容につきましても十分に精査をさせていただき、まずはすぐにでも対応できることには対応してまいりたいと思いますけれども、今申し上げましたように、この人吉市の公共交通体系を行政を中心としてこの地域全体でどう担うのかということを考えなければいけないときに来ているような気がしてなりません。つまり公共交通の本質を、その本質というのはやはりその利用者の方々の利便性というものをしっかりと勘案しながら整えていかなければならないというふうに思っております。

そこで今、抜本的に解決の道を探らなければいけない、利用者の方々のお一人お一人の声を集めよりよい利便性を求めて、解決のためのシステムづくりを先進地自治体の事例にも学ばさせていただきながら、急いでつくってまいりたいというふうに考えているところでございます。抜本的な対策というものを打ち立ててまいりたいというふうに思っているところでございます。

以上、お答えいたします。（「議長、８番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　８番。井上光浩議員。

○８番（井上光浩君）　今、急いで抜本的にということでございまして、少し私はびっくりしたところでございますけれども、市民全員でというような答弁もいただきまして、期待をするところでございます。

今回は第５次総合計画に沿って、市長の施政方針と照らし合わせながら質問をさせていただきました。ここにいらっしゃる皆さん御存じと思いますけれども、関ヶ原の戦いで西軍の石田三成の旗印は御存じだろうと思います。独特の旗印でございますけど、その旗印に込められた意味は、万民が一人のため、一人が万民のために尽くせば太平の世になるという意味が込められているそうでございます。私もそういうふうにこういった意味を私自身もかみしめながら努めていきたいと思っているところでございますので、執行部、また田中市長におかれては、施策の中に私どもの要望を受け入れていただければなと思っております。

先ほど公室長が申されましたので、私から言うのもおかしいんですが、退職をされます皆様方、本当に長い間お疲れさまでございました。体のほうを御自愛されまして、今後の御活躍をお祈り申し上げます。

これで私の一般質問を終わります。

発言の申し出

○議長（永山芳宏君）　ここで、仲村勝治議員より発言の申し出があっておりますので、これを許可いたします。（「議長、15番」と呼ぶ者あり）

15番。仲村勝治議員。

○15番（仲村勝治君）　発言の取り消しについてでございます。６日の私の一般質問の中の発言の一部を取り消させていただきたいと思います。まず第１点目、質問項目１番目の行政改革の中の定員管理についての質問の部分でございますが、「・・・・・・・」という部分から「・・・・・・・・」という部分までででございます。２点目が質問項目２番目の市民の声の中の新聞報道についての質問の部分で、最後の新聞報道について市長にお尋ねしたいと思いますの次の部分から、人吉新聞に報道されたの前までの２カ所について削除させていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○議長（永山芳宏君）　ただいまの仲村勝治議員より発言の一部取り消しの申し出がありました。お諮りいたします。申し出のとおり許可するに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（永山芳宏君）　御異議なしと認めます。よって、発言の一部取り消しの申し出は許可することに決しました。

以上で一般質問は全部終了いたしました。

日程第２　議第45号

○議長（永山芳宏君）　次に、日程第２、議第45号平成24年度人吉市一般会計補正予算（第７号）を議題といたします。

本件について、質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（永山芳宏君）　ないようですので、質疑なしと認めます。

日程第３　議第46号

○議長（永山芳宏君）　次に、日程第３、議第46号平成24年度人吉市公共下水道事業特別会計補正予算（第４号）を議題といたします。

本件について、質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（永山芳宏君）　ないようですので、質疑なしと認めます。

日程第４　議第47号

○議長（永山芳宏君）　次に、日程第４、議第47号平成25年度人吉市一般会計補正予算（第１号）を議題といたします。

本件について、質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（永山芳宏君）　ないようですので、質疑なしと認めます。

日程第５　議第48号

○議長（永山芳宏君）　次に、日程第５、議第48号平成25年度人吉市水道事業特別会計補正予算（第１号）を議題といたします。

本件について、質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（永山芳宏君）　ないようですので、質疑なしと認めます。

日程第６　議第49号

○議長（永山芳宏君）　次に、日程第６、議第49号人吉市職員の退職手当の支給に関する条例等の一部を改正する条例の制定についてを議題といたします。

本件について、質疑はありませんか。（「議長、13番」と呼ぶ者あり）

13番。村上恵一議員。

○13番（村上恵一君）　議第49号に関しまして、全般的なことに関して質疑をいたします。

全員協議会の中でも御説明受けたんですが、昨年８月の閣議決定によりということで官民格差を是正するためということで御説明がありました。その中で官民比較調査結果を踏まえということで御説明があったんですが、この官民比較調査結果というのはどのような方法でやるのか、またその回数ですね、何年に１度くらいのインターバルで行われているのかを御質問いたします。

○総務部長（坂崎博憲君）　それでは、村上議員の御質問にお答えします。

人事院はおおむね５年ごとに退職給付基準の官民格差の調査を行っておりますけれども、総務大臣と財務大臣の要請により、平成24年３月７日に調査結果に関する見解を示したところでございます。調査は、企業規模50人以上の企業に対し、平成22年度中に退職した勤続20年以上の技術、事務系職員の退職給付金の調査を実施し、民間と比較が行われたところでございます。なお、民間の退職手当については、一つは一時金退職手当として支給するものと、一部を一時金として支給し、一部を年金 ―― これは企業年金等でございますけれども、として支給する形態に分けられるため、民間との比較に当たり退職時に一時金として受ける場合に換算して比較が行われたところでございます。

以上でございます。（「議長、13番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　13番。村上恵一議員。

○13番（村上恵一君）　ということは、次回５年後にまたこのような調査が行われる可能性があるということでしょうか。あるいは、政権が変わり安倍政権になり、経済も急速な回復が見込まれるような感じがするわけなんですけれども、そういう回復基調を見て、ひょっとしたら前倒しにして、例えば２年後、３年後くらいにまた行われるのか、その辺をお聞きしたいなと思います。

なぜこれを聞くかと申しますと、今まで一生懸命公務に仕えてこられた方、その退職をされる年度によって不平等性があらわれるというのはどうも納得いかないというふうに思うわけでございます。

○総務部長（坂崎博憲君）　調査につきましては、おおむね５年ごとということでございます。

以上でございます。

○13番（村上恵一君）　終わります。

○議長（永山芳宏君）　ほかにありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（永山芳宏君）　ないようですので、質疑なしと認めます。

以上で、質疑を終了いたします。

日程第７　委員会付託

○議長（永山芳宏君）　次に、日程第７、委員会付託を行います。

お諮りいたします。議第１号から陳第21号までを一括して各委員会に付託することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（永山芳宏君）　御異議なしと認めます。よって、各議案を局長より付託いたします。

○議会事務局長（赤池謙介君）　それでは、委員会付託事項を申し上げます。

付託事項は、お手元に配付しております平成25年３月第１回人吉市議会定例会各委員会付託事項表のとおりでございます。

なお、議第２号平成24年度人吉市一般会計補正予算（第６号）につきましては、３ページの［別記１］に記載のとおり、議第10号平成25年度人吉市一般会計予算につきましては、４ページの［別記２］に記載のとおり、議第45号平成24年度人吉市一般会計補正予算（第７号）につきましては、５ページの［別記３］に記載のとおり、それぞれ各委員会付託でございます。また、陳情の件名等につきましては、６ページに記載してありますので、念のため申し上げます。

なお、人事案件につきましては、委員会付託はございません。

以上でございます。

各委員会付託事項表

議第１号	専決処分の承認を求めることについて（平成24年度人吉市国民宿舎特別会計補正予算（第１号））	経建
議第２号	平成24年度人吉市一般会計補正予算（第６号）	各委［別記１］
議第３号	平成24年度人吉市国民健康保険事業特別会計補正予算（第３号）	厚生
議第４号	平成24年度人吉市後期高齢者医療特別会計補正予算（第２号）	厚生
議第５号	平成24年度人吉市介護保険特別会計補正予算（第３号）	厚生
議第６号	平成24年度人吉市介護サービス事業特別会計補正予算（第２号）	厚生
議第７号	平成24年度人吉市水道事業特別会計補正予算（第２号）	厚生
議第８号	平成24年度人吉市公共下水道事業特別会計補正予算（第３号）	厚生
議第９号	平成24年度人吉市工業用地造成事業特別会計補正予算（第２号）	経建
議第10号	平成25年度人吉市一般会計予算	各委［別記２］
議第11号	平成25年度人吉球磨地域交通体系整備特別会計予算	総文
議第12号	平成25年度人吉市国民健康保険事業特別会計予算	厚生
議第13号	平成25年度人吉市後期高齢者医療特別会計予算	厚生
議第14号	平成25年度人吉市介護保険特別会計予算	厚生
議第15号	平成25年度人吉市介護サービス事業特別会計予算	厚生
議第16号	平成25年度人吉市水道事業特別会計予算	厚生
議第17号	平成25年度人吉市公共下水道事業特別会計予算	厚生
議第18号	平成25年度人吉市国民宿舎特別会計予算	経建
議第19号	平成25年度人吉市工業用地造成事業特別会計予算	経建
議第20号	人吉市新型インフルエンザ等対策本部条例の制定について	総文
議第21号	議会の議員その他非常勤の職員の公務災害補償等に関する条例の一部を改正する条例の制定について	総文
議第22号	人吉市消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例の制定について	総文
議第23号	人吉市障害程度区分認定審査会の委員の定数等を定める条例の一部を改正する条例の制定について	厚生
議第24号	人吉市重度心身障害者医療費助成に関する条例の一部を改正する条例の制定について	厚生
議第25号	人吉市環境基本条例の制定について	厚生
議第26号	人吉市環境審議会条例の一部を改正する条例の制定について	厚生
議第27号	人吉市消毒・撒布手数料条例を廃止する条例の制定について	厚生
議第28号	人吉市中山間ふるさと・水と土保全基金条例を廃止する条例の制定について	経建
議第29号	人吉市人・農地プラン検討委員会設置条例の制定について	経建
議第30号	人吉市非常勤職員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について	経建

議第31号	人吉市指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例の制定について	厚生
議第32号	人吉市指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営並びに指定地域密着型介護予防サービスに係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の制定について	厚生
議第33号	人吉市指定地域密着型介護老人福祉施設の入所定員並びに指定地域密着型サービス事業者及び指定地域密着型介護予防サービス事業者の指定に係る申請者の資格を定める条例の制定について	厚生
議第34号	人吉市道路構造の技術的基準を定める条例の制定について	経建
議第35号	人吉市道路標識の寸法を定める条例の制定について	経建
議第36号	人吉市移動等円滑化のために必要な道路の構造に関する基準を定める条例の制定について	経建
議第37号	人吉市準用河川管理施設等の構造に関する基準を定める条例の制定について	経建
議第38号	人吉市営住宅条例の一部を改正する条例の制定について	経建
議第39号	人吉市営住宅等の整備基準を定める条例の制定について	経建
議第41号	損害の賠償について	経建
議第42号	損害の賠償について	総文
議第43号	損害の賠償について	総文
議第44号	損害の賠償について	経建
議第45号	平成24年度人吉市一般会計補正予算（第７号）	各委［別記３］
議第46号	平成24年度人吉市公共下水道事業特別会計補正予算（第４号）	厚生
議第47号	平成25年度人吉市一般会計補正予算（第１号）	総文
議第48号	平成25年度人吉市水道事業特別会計補正予算（第１号）	厚生
議第49号	人吉市職員の退職手当の支給に関する条例等の一部を改正する条例の制定について	総文
陳第21号	大畑校区において市営住宅に準ずる施策を求める陳情	経建

［別記１］

議第２号　平成24年度人吉市一般会計補正予算（第６号）	
○予算委員会	第１条　歳入予算の補正（全款） 第４条　地方債の補正
○総務文教委員会	第１条　歳出予算の補正 １款　議会費 ２款　総務費（２項　徴税費及び３項　戸籍住民基本台帳費を除く） ９款　消防費 10款　教育費 12款　公債費 13款　諸支出金 14款　予備費 第２条　繰越明許費の補正（２款　総務費及び10款　教育費） 第３条　債務負担行為の補正（２款　総務費）
○厚生委員会	第１条　歳出予算の補正 ２款　総務費（２款　徴税費及び３項　戸籍住民基本台帳費） ３款　民生費 ４款　衛生費 第３条　債務負担行為の補正（３款　民生費）
○経済建設委員会	第１条　歳出予算の補正 ５款　労働費 ６款　農林水産業費 ７款　商工費 ８款　土木費 11款　災害復旧費 第２条　繰越明許費の補正（８款　土木費）

［別記２］

議第10号　平成25年度人吉市一般会計予算	
○予算委員会	第１条　歳入予算（全款） 第３条　地方債 第４条　一時借入金 第５条　歳出予算の流用
○総務文教委員会	第１条　歳出予算 １款　議会費 ２款　総務費（２項　徴税費及び３項　戸籍住民基本台帳費を除く） ９款　消防費 10款　教育費 11款　災害復旧費（４項　文教施設災害復旧費及び５項　その他公共施設公用施設災害復旧費） 12款　公債費 13款　諸支出金 14款　予備費 第２条　債務負担行為（２款　総務費（１項　総務管理費））
○厚生委員会	第１条　歳出予算 ２款　総務費（２項　徴税費及び３項　戸籍住民基本台帳費） ３款　民生費 ４款　衛生費 ５款　労働費（１項３目　シルバー人材センター費） 11款　災害復旧費（１項　厚生労働施設災害復旧費） 第２条　債務負担行為（２款　総務費（２項徴税費）及び３款　民生費）

○経済建設委員会	第１条	歳出予算 ５款　労働費（１項３目　シルバー人材センター費を除く） ６款　農林水産業費 ７款　商工費 ８款　土木費 11款　災害復旧費（２項　農林水産施設災害復旧費及び３項　公共土木施設災害復旧費）

［別記３］

議第45号　平成24年度人吉市一般会計補正予算（第７号）		
○予算委員会	第１条	歳入予算の補正（全款）
	第３条	地方債の補正
○総務文教委員会	第１条	歳出予算の補正 10款　教育費 14款　予備費
	第２条	繰越明許費の補正（10款　教育費）
○経済建設委員会	第１条	歳出予算の補正 ６款　農林水産業費 ８款　土木費
	第２条	繰越明許費の補正（８款　土木費）

［提出陳情件名］

陳第21号　大畑校区において市営住宅に準ずる施策を求める陳情

［継続審査件名］

○総務文教委員会

陳第20号　第一市民運動広場の整備及び設備の改修を求める陳情

○厚生委員会

陳第６号　認可外保育施設に通う子ども達への助成を求める陳情

○経済建設委員会

陳第15号　市営住宅建設に関する陳情

陳第18号　市道中神地内第８号線道路拡張についての陳情

○議長（永山芳宏君）　以上で本日の議事は全部終了いたしました。

本日は、これをもって散会いたします。

午後４時29分　散会

平成25年３月第１回人吉市議会定例会会議録（第６号）

平成25年３月25日　月曜日

１．議事日程第６号

平成25年３月25日　午前10時　開議

日程第１	議第20号	人吉市新型インフルエンザ等対策本部条例の制定について	総　文
日程第２	議第21号	議会の議員その他非常勤の職員の公務災害補償等に関する条例の一部を改正する条例の制定について	
日程第３	議第22号	人吉市消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例の制定について	
日程第４	議第42号	損害の賠償について	
日程第５	議第43号	損害の賠償について	
日程第６	議第49号	人吉市職員の退職手当の支給に関する条例等の一部を改正する条例の制定について	
日程第７	議第23号	人吉市障害程度区分認定審査会の委員の定数等を定める条例の一部を改正する条例の制定について	厚　生
日程第８	議第24号	人吉市重度心身障害者医療費助成に関する条例の一部を改正する条例の制定について	
日程第９	議第25号	人吉市環境基本条例の制定について	
日程第10	議第26号	人吉市環境審議会条例の一部を改正する条例の制定について	
日程第11	議第27号	人吉市消毒・撒布手数料条例を廃止する条例の制定について	
日程第12	議第31号	人吉市指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例の制定について	
日程第13	議第32号	人吉市指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営並びに指定地域密着型介護予防サービスに係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の制定について	
日程第14	議第33号	人吉市指定地域密着型介護老人福祉施設の入所定員並びに指定地域密着型サービス事業者及び指定地域密着型介護予防サービス事業者の指定に係る申請者の資格を定める条例の制定について	

日程第15	議第１号	専決処分の承認を求めることについて（平成24年度人吉市国民宿舎特別会計補正予算（第１号））	経　建
日程第16	議第28号	人吉市中山間ふるさと・水と土保全基金条例を廃止する条例の制定について	
日程第17	議第29号	人吉市人・農地プラン検討委員会設置条例の制定について	
日程第18	議第30号	人吉市非常勤職員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について	
日程第19	議第34号	人吉市道路構造の技術的基準を定める条例の制定について	
日程第20	議第35号	人吉市道路標識の寸法を定める条例の制定について	
日程第21	議第36号	人吉市移動等円滑化のために必要な道路の構造に関する基準を定める条例の制定について	
日程第22	議第37号	人吉市準用河川管理施設等の構造に関する基準を定める条例の制定について	
日程第23	議第38号	人吉市営住宅条例の一部を改正する条例の制定について	
日程第24	議第39号	人吉市営住宅等の整備基準を定める条例の制定について	
日程第25	議第41号	損害の賠償について	
日程第26	議第44号	損害の賠償について	
日程第27	議第２号	平成24年度人吉市一般会計補正予算（第６号）	各　委
日程第28	議第45号	平成24年度人吉市一般会計補正予算（第７号）	各　委
日程第29	議第３号	平成24年度人吉市国民健康保険事業特別会計補正予算（第３号）	厚　生
日程第30	議第４号	平成24年度人吉市後期高齢者医療特別会計補正予算（第２号）	
日程第31	議第５号	平成24年度人吉市介護保険特別会計補正予算（第３号）	
日程第32	議第６号	平成24年度人吉市介護サービス事業特別会計補正予算（第２号）	
日程第33	議第７号	平成24年度人吉市水道事業特別会計補正予算（第２号）	
日程第34	議第８号	平成24年度人吉市公共下水道事業特別会計補正予算（第３号）	
日程第35	議第46号	平成24年度人吉市公共下水道事業特別会計補正予算（第４号）	
日程第36	議第９号	平成24年度人吉市工業用地造成事業特別会計補正予算（第２号）	経　建
日程第37	議第10号	平成25年度人吉市一般会計予算	各　委

日程第38　議第11号　平成25年度人吉球磨地域交通体系整備特別会計予算　┐
日程第39　議第47号　平成25年度人吉市一般会計補正予算（第１号）　┘ 総　文

日程第40　議第12号　平成25年度人吉市国民健康保険事業特別会計予算　┐
日程第41　議第13号　平成25年度人吉市後期高齢者医療特別会計予算
日程第42　議第14号　平成25年度人吉市介護保険特別会計予算
日程第43　議第15号　平成25年度人吉市介護サービス事業特別会計予算　厚　生
日程第44　議第16号　平成25年度人吉市水道事業特別会計予算
日程第45　議第17号　平成25年度人吉市公共下水道事業特別会計予算
日程第46　議第48号　平成25年度人吉市水道事業特別会計補正予算（第１号）　┘

日程第47　議第18号　平成25年度人吉市国民宿舎特別会計予算　┐
日程第48　議第19号　平成25年度人吉市工業用地造成事業特別会計予算　┘ 経　建

日程第49　諮第１号　人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて
日程第50　諮第２号　人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて

日程第51　陳第20号　第一市民運動広場の整備及び設備の改修を求める陳情 ── 総　文

日程第52　陳第15号　市営住宅建設に関する陳情　┐
日程第53　陳第21号　大畑校区において市営住宅に準ずる施策を求める陳情　┘ 経　建

日程第54　市庁舎建設に関する特別委員会委員長の報告
日程第55　治水・防災に関する特別委員会委員長の報告
日程第56　人吉球磨広域行政組合議会の報告
日程第57　人吉下球磨消防組合議会の報告
日程第58　川辺川総合土地改良事業組合議会の報告
日程第59　委員会の閉会中の継続審査及び調査について

２．本日の会議に付した事件

・日程第１から日程第59まで議事日程のとおり

・追加日程

議第50号　工事請負契約の締結についての議決内容の一部変更について

・追加日程

発議第１号　人吉市議会会議規則の一部を改正する規則の制定について

発議第２号　人吉市議会委員会条例の一部を改正する条例の制定について

・追加日程

議第51号　人吉市議会等に出頭した選挙人等に対する実費弁償条例の一部を改正する条例の制定について

３．出席議員（18名）

１番	宮　﨑　　保　君
２番	高　瀬　堅　一　君
３番	村　口　　隆　君
４番	大　塚　則　男　君
５番	平　田　清　吉　君
６番	犬　童　利　夫　君
７番	松　岡　隼　人　君
８番	井　上　光　浩　君
９番	豊　永　貞　夫　君
10番	川　野　精　一　君
11番	笹　山　欣　悟　君
12番	西　　信八郎　君
13番	村　上　恵　一　君
14番	田　中　　哲　君
15番	仲　村　勝　治　君
16番	三　倉　美千子　君
17番	森　口　勝　之　君
18番	永　山　芳　宏　君

欠席議員　なし

４．説明のため出席した者の職氏名

市　　長	田　中　信　孝　君
副　市　長	髙　橋　　隆　君
監　査　委　員	篠　﨑　國　博　君
教　育　長	堀　　秀　行　君
市長公室長	久　本　一　富　君
総　務　部　長	坂　崎　博　憲　君
市　民　部　長	山　本　政　義　君
健康福祉部長	松　岡　誠　也　君
経　済　部　長	松　田　知　良　君
建　設　部　長	中　村　明　公　君
市長公室次長	愛　甲　秀　樹　君

総務部次長	中村則明君
市民部次長	椎葉幹夫君
健康福祉部次長	福山誠二君
経済部次長	大渕　修君
建設部次長	木村秀敏君
企画課長	小澤洋之君
財政課長	告吉眞二郎君
会計管理者	松江隆介君
水道局長	田中幸輔君
上水道課長	那須義徳君
教育部長	赤池和則君
教育部次長	東　俊宏君
農業委員会事務局長	舟戸幸弘君

5．職務のため議場に出席した事務局職員の職氏名

局長	赤池謙介君
次長	村並成二君
次長	山本繁美君
書記	白坂禎敏君

午前10時　開議

○議長（永山芳宏君）　おはようございます。出席議員が定足数に達しておりますので、本日の会議は成立いたしました。よって、これより会議を開きます。

これより議事に入ります。

議事日程はお手元に配付してあるとおりでございます。

それでは、早速議事日程に従い、各委員長の報告を求め、順次採決いたします。

日程第１　議第20号から日程第６　議第49号まで

○議長（永山芳宏君）　まず、日程第１、議第20号から日程第６、議第49号までの６件を議題とし、総務文教委員長の報告を求めます。（「議長、10番」と呼ぶ者あり）

10番。川野精一議員。

○10番（川野精一君）（登壇）　おはようございます。それでは総務文教委員会に付託されました日程第１、議第20号から日程第６、議第49号まで一括して審査の結果を報告いたします。

議第20号人吉市新型インフルエンザ等対策本部条例の制定については、熊本県が新型インフルエンザ等対策本部条例を平成24年12月25日付で公布したことに伴い、本市において病原性が高い新型インフルエンザ等に対し、市民の生命や健康を保護し市民生活に及ぼす影響を最小とするため、この条例の制定を行うものであります。委員から今後の国、県、市の対応、スケジュール等についての質疑があり、執行部からの説明を受け、全員異議なく認めることに決しました。

続いて、日程第２、議第21号議会の議員その他非常勤の職員の公務災害補償等に関する条例の一部を改正する条例の制定について並びに日程第３、議第22号人吉市消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例の制定については、ともに障害者自立支援法の一部改正に伴う条例の一部改正でありまして、条文中の現行の「障害者自立支援法」を、改正後「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」とするものであります。

審査の結果、全員異議なく認めることに決しました。

続いて、日程第４、議第42号損害の賠償については、平成24年11月21日午後０時５分ごろ交通指導員視察研修時の昼食会場にて、市のマイクロバスが昼食会場施設に接触し損害を与えた事故に関し、相手方と人吉市との間で損害賠償の額を決定し、和解するものであります。賠償額は10万5,000円、過失割合は人吉市側に10割であります。

また、日程第５、議第43号損害の賠償については、平成25年１月11日午前10時20分ごろ、市の公用車が人吉市内の交差点において、相手方車両と接触した事故に関し、相手方と人吉市との間で損害賠償の額を決定し、和解するものであります。賠償額は１万6,647円、過失割合は人吉市側が２割、相手方が８割でありました。

議第42号、43号ともに公用自動車事故報告書に基づき、執行部から詳細な説明を受け、全

員異議なく認めることに決しました。

続きまして、日程第６、議第49号人吉市職員の退職手当の支給に関する条例等の一部を改正する条例の制定については、国家公務員の退職給付の給付水準の見直し等のための国家公務員退職手当法等の一部を改正する法律が公布、施行されたことに伴い、国家公務員に準じて本市職員の退職手当の水準を引き下げるため、条例の一部を改正するものであります。執行部からは退職事由別退職手当基本額支給率対照表を資料として示され、現行と改正後について詳細な説明がなされました。また、３月６日の全員協議会で、概要説明がなされた県下各市の動きや調整率の「引き上げ幅」、12カ月とした引き下げ間隔などを確認し、全員異議なく認めることに決しました。

以上、報告を終わります。

失礼しました。訂正をさせていただきます。最後のくだりでございますが、「県下各市の動きや調整率の引き下げ幅」を「引き上げ幅」と言いましたので訂正させていただきます。

○議長（永山芳宏君）　ただいまの委員長報告に対し質疑はありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

質疑もないようですので、採決いたします。議第20号から議第49号までの６件について、総務文教委員長報告どおり決するに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（永山芳宏君）　御異議なしと認めます。

よって、議第20号、議第21号、議第22号、議第42号、議第43号、議第49号は原案可決確定いたしました。

日程第７　議第23号から日程第14　議第33号まで

○議長（永山芳宏君）　次に、日程第７、議第23号から日程第14、議第33号までの８件を議題とし、厚生委員長の報告を求めます。（「議長、11番」と呼ぶ者あり）

11番。笹山欣悟議員。

○11番（笹山欣悟君）（登壇）　おはようございます。厚生委員会に付託されました日程第７、議第23号から日程第14、議第33号の８件につきまして、審査の結果を報告いたします。

まず、日程第７、議第23号「人吉市障害程度認定区分審査会」の委員の定数等を定める条例の一部を改正する条例の制定についてであります。今回の改正は地域社会における共生の実現に向けて新たな障害保健福祉施策を講ずるための関係法律の整備に関する法律による障害者自立支援法の一部改正により法律名を改めるため、条例の一部を改正するものであります。

慎重審査の結果、全員異議なく認めることに決しました。

次に、日程第８、議第24号人吉市重度心身障害者医療費助成に関する条例の一部を改正す

る条例の制定についてであります。今回の改正は議第23号と同じく、地域社会における共生の実現に向けて新たな障害保健福祉施策を講ずるための関係法律の整備に関する法律による障害者自立支援法の一部改正により法律名等を改めるため、条例の一部を改正するものであります。

慎重審査の結果、全員異議なく認めることに決しました。

次に、日程第９、議第25号人吉市環境基本条例の制定についてであります。今回の条例は、市における良好な環境の保全、回復及び創造に関する環境施策の理念及び施策の基本となる事項を定め、自然環境と人間生活がともに輝く美しき千年都市ひとよしの実現を図るため、条例を制定するものであります。環境審議会の答申を踏まえ、人吉市らしさ、人吉市としての環境のあるべき姿を文言として入れており、総合計画におけるまちづくりの目標の文言を用いて、人吉市らしい環境基本条例となっております。また、前文形式をとり人吉市らしさを文章で表現しております。

審査の過程で委員から、罰則の話は出なかったのか。循環型社会の形成はどこを目指すのか。環境基本計画策定に向けての今後の計画はといった質疑に、執行部から、今回は基本条例を提案している。個別規制条例については25年度においてどの分野でどこまで踏み込んでいくのか検討したい。第５次総合計画にうたっている。今の時点では具体的なことは言えないが、環境基本計画策定を平成25年度に予定しているので、この中で考えていきたい。環境審議会を４回、５月、７月、10月、１月に予定している。６月から関係団体のヒアリング、７月規制条例案審議、８月団体、市民ヒアリング、11月から12月に市役所調整会議を予定しているといった答弁があっております。委員からの意見として、パブリックコメントが２人だったが、もっと市民の意見が反映されるような配慮の検討をお願いしたいといった意見があっております。

慎重審査の結果、全員異議なく認めることに決しました。

次に、日程第10、議第26号人吉市環境審議会条例の一部を改正する条例の制定についてであります。今回の改正は、環境審議会の所掌事務に環境基本計画に関する事項を追加することに伴い、条例の一部を改正するものであり、慎重審査の結果、全員異議なく認めることに決しました。

次に、日程第11、議第27号人吉市消毒・撒布手数料条例を廃止する条例の制定についてであります。家屋等に係る消毒・撒布手数料を廃止するため、条例を廃止するものであります。

審査の過程で委員から、制定の目的は。災害時の消毒は。個人から申請があった場合に行っていたのかといった質疑に、執行部からどういう経緯でできたかはよくわからない。災害時の場合は、災害対策本部からの要請で衛生班として対応しており今後も対応していく。規則の製剤等は製造中止が多く、平成２年からの実績はない。相談があった場合は、シルバー人材センター等で有料で行っているという情報提供をしたいといった答弁があっております。

慎重審査の結果、全員異議なく認めることに決しました。

次に、日程第12、議第31号人吉市指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例の制定についてであります。この条例は、地域の自主性及び自立性を高めるための改革の推進を図るための関係法律の整備に関する法律、いわゆる地域主権一括法による介護保険法の一部改正等に伴い、指定地域密着型サービス事業の人員、設備及び運営に関する基準を定めるため条例を制定するものであります。これまでは、指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準が厚生労働省令で定められておりましたが、法改正によりそれぞれの市町村の実情、実態を勘案し、市町村の条例でこれらの基準を定めることとされたところであります。条例の中身については、要介護１から５までの認定を受けられた方に対する地域密着型サービスの事業の基準を定めたもので、基本的に国が定めている指定地域密着型サービスの人員、設備及び運営に関する基準に準拠しており、203条からなるかなりのボリュームのある条例であります。人吉市独自の基準については、第152条指定地域密着型介護老人福祉施設の設備のうち居室に関して、国の基準では居室の定員を２人とすることができるとされているものを、２人以上４人以下とすることができるとしております。また、同条のエで２人以上４人以下とすることができる設備及び構造の条件を加えております。

審査の過程で委員から、現在の施設で４人とする場合はどうなるのか。他市の状況はといった質疑に執行部から、１人当たり10.65平方メートルの確保は必要である。４人以下を定める独自基準を設けている市は、２月末現在八代市、荒尾市、玉名市、天草市、菊池市、宇土市、宇城市、阿蘇市、合志市の９市であるといった答弁があっております。

慎重審査の結果、全員異議なく認めることに決しました。

次に、日程第13、議第32号人吉市指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営並びに指定地域密着型介護予防サービスに係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の制定についてであります。この条例も議第31号と同じく地域の自主性及び自立性を高めるための改革の推進を図るための関係法律の整備に関する法律による介護保険法の一部改正等に伴い、要支援１、２の認定を受けられた方に対する地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営並びに指定地域密着型介護予防サービスに係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定めるもので、すべての条文で国が定めております指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営並びに指定地域密着型介護予防サービスに係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準に準拠しております。

慎重審査の結果、全員異議なく認めることに決しました。

次に、日程第14、議第33号人吉市指定地域密着型介護老人福祉施設の入所定員並びに指定地域密着型サービス事業者及び指定地域密着型介護予防サービス事業者の指定に係る申請者

の資格を定める条例の制定についてであります。介護サービスの基盤強化のための介護保険法等の一部を改正する法律による介護保険法の一部改正に伴い、指定地域密着型介護老人福祉施設の入所定員並びに指定地域密着型サービス事業者及び指定地域密着型介護予防サービス事業者の指定に係る申請者の資格を定めるため、条例を定めるものであります。第１条はその趣旨、第２条は地域密着型介護老人福祉施設の入所定員を29名以下とするもの、第３条は指定地域密着型介護サービス事業者及び指定地域密着型介護予防サービス事業者の指定に係る申請者の資格を定めたもので、人吉市暴力団排除条例第２条第２号に規定する暴力団員が役員となっている法人及び暴力団、または暴力団員と密接な関係を有する法人を申請者の資格から除くものであります。

慎重審査の結果、全員異議なく認めることに決しました。

以上、報告を終わります。

○議長（永山芳宏君）　ただいまの委員長報告に対し質疑はありませんか。（「議長、17番」と呼ぶ者あり）

17番。森口勝之議員。

○17番（森口勝之君）　申しわけない、確認のためなんですが、日程第７の条例名のところで「区分認定」というところを「認定区分」とおっしゃったような聞こえ方したんですけれども、その辺事務局チェック入れてませんか。区分認定とおっしゃっていれば、もうそれで結構なんですけど。（「議長、11番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　11番。笹山欣悟議員。

○11番（笹山欣悟君）　確認のために暫時休憩お願いします。

○議長（永山芳宏君）　ここで暫時休憩いたします。

午前10時20分　休憩

午前10時24分　開議

○議長（永山芳宏君）　休憩前に引き続き再開いたします。（「議長、11番」と呼ぶ者あり）

11番。笹山欣悟議員。

○11番（笹山欣悟君）　大変申しわけございません。確認をさせていただきました。議第23号「人吉市障害程度認定区分審査会」と私が発言をしておりました。「人吉市障害程度区分認定審査会」の委員の定数等を定める条例の一部改正ということで訂正をよろしくお願い申し上げます。大変申しわけございませんでした。

○議長（永山芳宏君）　ほかにありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

質疑もないようですので、採決いたします。議第23号から議第33号までの８件について、厚生委員長報告どおり決するに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（永山芳宏君）　御異議なしと認めます。

よって、議第23号、議第24号、議第25号、議第26号、議第27号、議第31号、議第32号、議第33号は原案可決確定いたしました。

日程第15　議第１号から日程第26　議第44号まで

○議長（永山芳宏君）　次に、日程第15、議第１号から日程第26、議第44号までの12件を議題とし、経済建設委員長の報告を求めます。（「議長、13番」と呼ぶ者あり）

13番。村上恵一議員。

○13番（村上恵一君）（登壇）　おはようございます。経済建設委員会に付託を受けました日程第15、議第１号専決処分の承認を求めることについて（平成24年度人吉市国民宿舎特別会計補正予算（第１号））から日程第26、議第44号損害の賠償についてまでの12件についての審査の結果を報告いたします。

まず、議第１号専決処分の承認を求めることについて（平成24年度人吉市国民宿舎特別会計補正予算（第１号））についてですが、歳入歳出の予算にそれぞれ70万7,000円を追加し、補正後の総額を歳入歳出それぞれ637万円とするものであります。歳入は３款繰入金、２項基金繰入金、１目、１節財政調整基金繰入金の70万7,000円の増額となっております。歳出は１款総務費、１項施設管理費、１目一般管理費、11節需用費129万7,000円の増額で、国民宿舎くまがわ荘の屋内消火栓設備の動力であるディーゼルエンジンを機動させる消火ポンプ非常動力装置自動起動盤の取りかえ工事に伴う修繕料でございます。執行部の説明では、この消火ポンプ非常動力装置自動起動盤が受注生産となるため納品に少し時間がかかっているが、納品後にはすぐに取りつけを行うよう指示している。また、修理完了までは全職員で火のもとへの徹底管理を行うよう指示しているとのことでありました。

慎重審査の結果、全員異議なく認めることに決しました。

続きまして、議第28号は、人吉市中山間ふるさと・水と土保全基金条例を廃止する条例についてでございます。これは人吉市中山間ふるさと・水と土保全基金として所期の目的は果たされたので条例を廃止するものでございます。この基金は交付税に算入された900万円を原資として利息等の運用を含めて活用してきており、平成19年度の水路の土砂しゅんせつ工事の補助、平成20年度から24年度までは農地・水・環境保全向上を対策に取り組んだ保全隊への負担金として支出をしてきたとのことです。本年度で利息を含む基金の全額を取り崩し支出していきますので、今回条例の廃止を行うものであります。

慎重審査の結果、全員異議なく認めることに決しました。

続きまして、議第29号は、人吉市人・農地プラン検討委員会設置条例の制定についてでございます。今後の地域農業のあり方について作成した人・農地プランをこの検討委員会で審査・検討し、そのプランを市長が決定するということで、人吉市の附属機関としての性質を

有するものと考え、この条例を制定するものであります。第３条では委員会の委員の規定をしています。国の要綱では、関係機関と地域の牽引する農業者を加えて選出するとなっており、本市の農業者で組織される協議会なども含まれております。また、検討委員会のメンバーはおおむね３割以上は女性で構成することが数値目標として掲げられております。

審査の中で委員から、条例の中で定員の規定がないがとの問いに、定員は定めていないが今回１年目ということで５名で年３回の委員会開催分を予算計上させていただいている。今後も定員は設けないで予算の範囲内でお願いしていきたいとの答弁でした。また、第３条の委員の規定で、次に掲げる者で組織するとあるが、あり方としては、次に掲げる者の中から組織するとの表現のほうがいいのではないかとの意見がありました。

慎重審査の結果、全員異議なく認めることに決しました。

続きまして、議第30号は、人吉市非常勤職員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定についてでございます。人吉市人・農地プラン検討委員会を設置することに伴い、非常勤職員の報酬及び費用弁償を定めるため、条例の一部を改正するものであります。

審査の中で委員から、鳥獣被害対策実施隊について質疑がなされ、執行部から、現在捕獲隊が９班あり基本的にはそのメンバー60名が実施隊として移行することになる。新規加入分も含め70名分を新年度予算に計上しているとの答弁がありました。

慎重審査の結果、全員異議なく認めることに決しました。

続きまして、議第34号から39号までにつきましては、地域の自主性及び自立性を高めるための改革の推進を図るための関係法律の整備に関する法律による関係法律の一部改正に伴い、それぞれ関係省令等の基準を参酌して定めることとなったために条例を制定するもの、または、施行令で定める金額以下で規定することとなったために条例の一部を改正するものであります。

まず、議第34号は、人吉市道路構造の技術的基準を定める条例の制定についてでございます。これは道路法第30条第３項の規定に基づき、市が管理する市道の構造の技術的基準を定めるものであります。この中で道路の区分においては、高速自動車道及び自動車専用道路の区分並びに「一般道」とされる区分を除いたところの定義となっております。

審査の中で委員から、人吉市独自の基準について質疑がなされ、執行部から、今回は盛り込んでいないが山間部という地域の特性から今後盛り込むことも考えられる。また、今回は時間の関係からパブリックコメントは実施できなかったとの答弁でした。

慎重審査の結果、全員異議なく認めることに決しました。

次に、議第35号は、人吉市道路標識の寸法を定める条例の制定についてでございます。これは道路法第45条第３項の規定に基づき、市が管理する道路に設ける案内標識及び警戒標識並びにこれらに附置される補助標識の寸法を定めるものであります。基準設定に当たっては、

これまで国の基準に基づき適切な維持管理を行ってきたことや、利用者の観点からも市内の国道、県道の標識の統一による視認性を考慮することから、道路標識、区画線及び道路標示に関する命令（標識令）を参酌しているとのことでした。独自基準については、熊本県においても標識の寸法を文字の大きさを含め２分の１まで縮小できるとする特例基準が検討されていることから、道路利用者の混乱を防ぐためにも、同様の独自基準を第４条「寸法の特例」として規定しているとのことでありました。

慎重審査の結果、全員異議なく認めることに決しました。

次に、議第36号は、人吉市移動等円滑化のために必要な道路の構造に関する基準を定める条例の制定についてでございます。これは高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（通称バリアフリー法）第10条第１項及び第４項の規定に基づき、市が管理する道路に係る移動等円滑化のために必要な道路の構造に関する基準を定めるものであります。特定道路を新築または改築を行う際に、高齢者や障がい者が円滑に移動できるように、歩道や横断施設等の構造基準を移動等円滑化のために必要な道路の構造に関する基準を定める省令を参酌して条例を定めることとなっております。特定道路とは、多数の高齢者、障がい者等の移動等が通常徒歩で行われるものであって、国土交通大臣がその路線及び区間を指定した道路のことです。本市に特定道路はありませんが、特定道路以外の道路にも道路移動等円滑化基準を適合させるために必要な措置を講ずるよう努めなければならないとする適合努力義務が規定されているため、今回条例を制定するものであります。熊本県においても、熊本県やさしいまちづくり条例の歩道の排水溝の考え方を踏まえた独自基準が検討されており、市内の国道、県道と市道の統一性を図るため、同様の独自基準を設けております。この独自基準とは、歩道に排水溝を設ける場合には、排水溝のふたは車いすのキャスター及び「けた等」が溝に落ち込まないものとすることであります。その他の基準については、路面電車等の本市に不要な項目を除き省令と同一の基準を設けるものであります。

審査の中で、今回の条例制定後に整備するような計画はあるのかとの問いに、執行部からは、もともとバリアフリー法に基づき工事、改修等を行ってきている。今回条例を制定したからといってどうするというものではないとの答弁でした。

慎重審査の結果、全員異議なく認めることに決しました。

次に、議第37号人吉市準用河川管理施設等の構造に関する基準を定める条例の制定についてであります。これは市が管理する準用河川の管理施設、または河川法第26条第１項の許可を受けて設置される工作物のうち、堤防その他の主要なものの構造について河川管理上必要とされる技術的基準について必要な事項を定めるものであります。まず、準用河川とは、１級河川及び２級河川以外の河川で市町村長が指定したもので、人吉市には10河川があります。基準規定に当たっては、準用河川に設ける堤防等の河川管理施設等の構造の基準を、河川管理施設等構造令を参酌して条例で定めるものであり、川の連続性という特性を考慮し、

構造令に定める基準と同一の基準を設けております。また、本市の準用河川に不要なダム等の施設を除いた基準となっております。

慎重審査の結果、全員異議なく認めることに決しました。

次に、議第38号は、人吉市営住宅条例の一部を改正する条例の制定についてであります。これは公営住宅法等において、市営住宅に入居するためには国で定める入居収入基準以下であることが入居資格の一つとなっておりました。今回この入居収入基準の条例委任に伴い、公営住宅法施行令に規定されている基準を参酌して事業主体が条例に定めるものであります。改正点として公営住宅の入居収入基準、住宅、市営住宅が災害により滅失した場合の入居収入基準、改良住宅の入居収入基準の三つがございますが、現状の取り扱いと同じ基準となっているとの説明でした。

慎重審査の結果、全員異議なく認めることに決しました。

次に、議第39号は、人吉市営住宅等の整備基準を定める条例の制定についてであります。これは、人吉市営住宅条例に規定する市営住宅及び共同施設の整備に関する基準を定めるものであります。基準設定に当たっては、公営住宅法施行規則及び公営住宅等整備基準の一部を改正する省令の基準を参酌して定めております。今回の独自基準といたしましては、第６条に人吉球磨産木材の活用という条文を定めております。これは本市は県内でも木材の生産量が多く、林業活性化のため木材の活用が広く求められている状況にあります。また、熊本県においては、低層県営住宅の原則木造化を推進し、あわせて市町村営住宅についての誘導を図ることが検討されております。このような観点から、本市の市営住宅等の建設においても地元産木材の利用促進に努めることを明確に示す必要があることから、この独自基準を定めております。この条項につきましては、県内でも県を初め13市町村が条例に入れ込んでいるようであります。

慎重審査の結果、全員異議なく認めることに決しました。

次に、議第41号損害の賠償についての審査の結果を報告いたします。本件は平成24年４月５日午後２時10分ごろ熊本地方法務局人吉支局の駐車場において、市公用車と相手方車両と接触し双方の車両が損傷した事故に関し、相手方と人吉市との間で損害賠償の額を決定し、和解するものであります。和解まで長期化した理由につきましては、当初市は事故を回避するため前進したことから無過失を主張しておりました。無過失の場合、共済組合は介入しないということであったため、事故発生から10月まで相手方の保険会社に対して回答依頼を行ってきましたが、再三の依頼に対し回答がなかったこと。また、相手方が過失割合50対50を主張していたために交渉が進まなかったことであります。そこで市としては、顧問弁護士や保険審査サービス株式会社等の第三者に事故等の過失割合を相談して交渉を行ってきました。多方面から本件について内部検討した結果、事故場所が駐車場であり道路交通法の適用がないことや、過去の事例や無過失を主張して裁判を行った場合、主張が認められるかどうか不

確実なこと、裁判には多額の費用がかかることなどから、改めて全国市有物件共済会と相手側とで示談交渉を行い、70対30の割合で損害賠償の額を決定し、和解するものであります。

本件については現地確認も行い、慎重審査の結果、全員異議なく認めることに決しました。

次に、議第44号損害の賠償についての審査の結果を報告いたします。本件は平成25年１月19日午後２時50分ごろ相手方車両が市道村山観音道路線を人吉市立第二中学校から上林方面へ走行していたところ、立志橋沿いに植樹されている桜の木の枝が落下し、相手方車両に損傷を与えた事故に関し、相手方と人吉市との間で損害賠償の額を決定し、和解するものであります。道路賠償責任保険の引き受け会社である損保ジャパンの回答では、本件については10割で対応するとの回答でありましたので、満額８万8,599円の賠償額が生じております。

本件については現地確認も行い、慎重審査の結果、全員異議なく認めることに決しました。

以上、報告を終わります。

訂正をお願いいたします。まず、議第34号でございますが、この中で道路区分のところで「一般道」と申し上げたそうで、「一般国道」の間違いでございます。「一般国道」に訂正いたします。続きまして、議第36号の中で独自基準のところでございます。「排水溝のふたは車いすのキャスター及びけた等が」というふうに申し上げたそうです。「つえ等」の間違いでございます。訂正をお願いいたします。

○議長（永山芳宏君）　ただいまの委員長報告に対し質疑はありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

質疑もないようですので、採決いたします。議第１号から議第44号までの12件について、経済建設委員長報告どおり決するに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（永山芳宏君）　御異議なしと認めます。

よって、議第１号は承認、議第28号、議第29号、議第30号、議第34号、議第35号、議第36号、議第37号、議第38号、議第39号、議第41号、議第44号は原案可決確定いたしました。

日程第27　議第２号

○議長（永山芳宏君）　次に、日程第27、議第２号を議題とし、各委員長の報告を求めます。まず、予算委員長の報告を求めます。（「議長、16番」と呼ぶ者あり）

16番。三倉美千子議員。

○16番（三倉美千子君）（登壇）　皆様、おはようございます。予算委員会に付託されました日程第27、議第２号平成24年度人吉市一般会計補正予算（第６号）のうち、第１条歳入歳出予算の補正のうち、歳入全款、第４条地方債の補正につきまして、審査の結果を報告いたします。

今回の補正につきましては、国、県の補助事業の確定や最終見込みによるものであり、歳

入歳出予算の総額それぞれ１億2,598万5,000円を減額し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ149億9,014万8,000円とするものです。

地方債の補正につきましては、学校施設環境改善交付金事業債8,190万円は50万円増額で、中学校天井扇に対する起債の補正でございます。その他事業費の確定に伴う限度額の補正、９件がなされております。

委員からは、人吉駅前広場駐車場の収支状況や生活保護費返還金の理由、件数などの質疑応答があり、慎重審査の結果、全員異議なく認めることに決しました。

以上で、報告を終わります。

○議長（永山芳宏君）　次に、総務文教委員長の報告を求めます。（「議長、10番」と呼ぶ者あり）

10番。川野精一議員。

○10番（川野精一君）（登壇）　総務文教委員会に付託されました日程第27、議第２号平成24年度人吉市一般会計補正予算（第６号）の第１条歳出予算のうち、１款議会費、２款総務費（２項の徴税費及び３項の戸籍住民基本台帳費を除きます）、９款消防費、10款教育費、12款公債費、13款諸支出金、14款予備費及び第２条繰越明許費の補正（２款総務費及び10款教育費）、３条債務負担行為の補正（２款総務費）について、審査の結果の主なものを報告いたします。今回の補正は、国、県の補助金、交付金などが確定したもの、入札や契約などにより残額が出たものを決算を見据えて減額されているのが主な内容であります。

１款、１項、１目議会費438万3,000円の減額補正の主なものは、普通旅費の不用額や会議録の反訳業務委託料の減額であります。

２款総務費、１項総務管理費、１目一般管理費の2,658万4,000円の増額補正の主なものは、３節職員手当等の退職手当の増であり、希望退職者２名分であります。７目企画費6,428万円の増額補正は、産交バスの運行に対する地方バス運行等特別対策補助金と、くま川鉄道経営安定化補助金などであります。なお、人吉市予約型乗合タクシー運行補助金は、見込みより利用者が少なかったため250万9,000円が減額されております。審査において委員から、希望退職者の確認、不動産鑑定料の減額理由についての質疑があっております。

９款、１項消防費、２目非常備消防費362万1,000円の減額補正は、消防団退職者報奨金24名が確定し、減額するものであります。

10款教育費、３項中学校費、２目教育振興費259万1,000円の減額補正の主なものは、委託料の147万5,000円で、タブレットパソコン等の導入により地域イントラネットの保守委託料が不要になったものでございます。５項社会教育費、６目カルチャーパレス費の540万2,000円の減額補正は、改修基本設計委託料の確定に伴う減額と、需用費の残によるものであります。７項学校給食センター費の596万2,000円の減額補正は、給食配送等委託料の入札残であります。

12款、１項公債費、２目利子1,343万4,000円の減額補正は、本年度に借り入れた起債の借入率が見込みより低かったことによる減額であります。

13款諸支出金、２項基金費、10目人吉応援団基金費、任意積立金208万5,000円は、県からのくまもとふるさと寄附金交付金９名から72万円と、古都人吉応援団寄附金９名から136万5,000円を積み立てるものであります。

14款、１項、１目予備費は、8,123万3,000円に増額されております。

続きまして、第２条繰越明許費の補正は、２款総務費、１項総務管理費のグランドデザイン作成委託料283万5,000円は、委託契約先との打ち合わせに不測の日数を要したことにより繰り越されるもので、地域起点型アジア市場研究プロジェクト事業950万7,000円は、市場ニーズ等の調査に不測の日数を要したことにより繰り越されるものであります。

10款教育費、２項小学校費の小学校プール改修事業435万1,000円は、昨年の12月議会の補正予算で認めたものでありますが、工法の検討に日数を要し平成25年度へ繰り越されるものであります。

続きまして、第３条債務負担行為の補正の追加では、広報ひとよし印刷製本費が平成24年度中に契約を行うために債務負担行為の期間及び限度額を設定するものであります。

以上、慎重に審査を行いました結果、全員一致で異議なく認めることに決しました。

○議長（永山芳宏君）　次に、厚生委員長の報告を求めます。（「議長、11番」と呼ぶ者あり）

11番。笹山欣悟議員。

○11番（笹山欣悟君）（登壇）　厚生委員会に付託されました日程第27、議第２号平成24年度人吉市一般会計補正予算（第６号）につきまして、審査の結果を報告いたします。

２款総務費、２項徴税費、１目税務総務費は674万6,000円を減額しております。２目賦課徴収費は247万9,000円を減額しております。３項、１目戸籍住民基本台帳費は120万3,000円を減額しております。

３款民生費、１項社会福祉費、１目社会福祉総務費を3,725万1,000円減額しております。これは、社会福祉協議会で補助します災害救援ボランティア養成の現地研修先を福島県南相馬市から阿蘇市へ変更したことによる723万8,000円の減、国民健康保険事業特別会計繰出金2,032万8,000円の減、介護保険特別会計繰出金399万6,000円の減などであります。２目心身障害者福祉費に1,378万1,000円を追加しております。これは障害者医療費461万9,000円の増、利用者の伸びによる就労移行支援給付費686万6,000円の増など、決算見込みによるものが主なものであります。２項児童福祉費、１目児童福祉総務費に21万4,000円を追加しております。主なものとしては、児童福祉事業国・県支出金精算金37万8,000円の増で、平成18年度から平成22年度までの児童手当交付金の国、県の精算金等であります。２目児童措置費に1,660万3,000円を減額しております。これは保育所運営費負担金の最終見込みによる1,130

万7,000円の増、子ども手当及び児童手当の最終見込みによる2,791万円の減であります。３項生活保護費、１目生活保護総務費に133万9,000円を増額しております。平成23年度の生活保護費等国庫負担金精算金が確定したことによるものであります。２目扶助費に4,553万9,000円を減額し、補正後の額を６億8,592万7,000円といたしております。20節扶助費を4,553万9,000円減額しておりますが、生活保護費の決算見込みによるものであります。

４款衛生費、１項保健衛生費、２目予防費152万3,000円の減は、65歳以上の高齢者インフルエンザ予防接種委託料の決算見込みによるものなどであります。３目保健センター費に531万2,000円を減額しております。ヤング健康診査委託料及び妊婦健康診査委託料の決算見込みによるものなどであります。４目健康増進費782万5,000円の減は、がん検診と各種検診委託料の減などであります。２項清掃費、２目塵芥処理費356万6,000円の減は、一般廃棄物収集及び運搬業務委託料の入札残であります。

次に、第３条債務負担行為の補正であります。消費生活センター広報印刷製本費は、消費生活センターだよりを新年度当初から発行するために24年度中に契約を交わす必要があることから債務負担を起こし、その期間を平成24年度から平成25年度、限度額を122万7,000円と定めるものであります。

審査の過程で委員から、３款民生費、１項社会福祉費、１目社会福祉総務費について、災害ボランティア養成事業の方向性はとの質疑に、執行部から、引き続き継続していきたい。派遣先については詳細には決まっていないとの答弁。２目心身障害者福祉費について、就労移行支援給付費の利用者増とはとの質疑に、市内に１施設増設された。その施設の利用者が増加したためとの答弁がありましたが、説明資料の提出を求め資料に基づき説明を受けました。３項生活保護費、２目扶助費について、生活保護費減額の理由はとの質疑に、前年度と比較して医療扶助費3,214万円の減、生活扶助1,358万円の減で、医療扶助の入院が43人減少しているのが主な要因であるとの答弁があっております。

慎重審査の結果、全員異議なく認めることに決しました。

以上、報告を終わります。

○議長（永山芳宏君）　次に、経済建設委員長の報告を求めます。（「議長、13番」と呼ぶ者あり）

13番。村上恵一議員。

○13番（村上恵一君）（登壇）　経済建設委員会に付託を受けました日程第27、議第２号平成24年度人吉市一般会計補正予算（第６号）のうち、５款労働費、６款農林水産業費、７款商工費、８款土木費、11款災害復旧費及び第２条繰越明許費の補正（８款土木費）について、審査の結果の主なものを報告いたします。

５款労働費、１項労働諸費、４目地域雇用創出推進費を218万6,000円減額しております。13節委託料の減額で、緊急雇用創出事業委託料７事業の中で人吉産きのこの生産拡大事業、

エコ乗り物観光振興事業及び地域福祉人材育成事業の最終見込みによる減でございます。

６款農林水産業費、１項農業費、２目農業総務費を３万3,000円減額しております。19節負担金、補助及び交付金の人吉市農業担い手対策事業補助金36万7,000円の増額で、新規就農者祝い金２名分などでございます。３目農業振興費は「431万3,000円」を減額しております。補助事業費の確定や単独費の補正のほか、最終決算見込みによるものでございます。13節委託料381万2,000円の減額は、農業振興地域整備計画策定業務委託料の入札残によるものでございます。19節負担金、補助及び交付金の49万2,000円の増額は、農業制度資金利子補給費補助金111万9,000円の増、経営体育成交付金118万円の減及び青年就農給付金「79万円」の増などによるものでございます。農業制度資金利子補給費補助金は、農業者に対して農業制度資金を融資する金融機関及び農業者に対して予算の範囲内で利子補給補助を行うもので、対象者は延べ26件分でございます。経営体育成交付金は、農家の辞退による減額でございます。青年就農給付金は、新規就農し経営が安定するまでの一定期間給付されるもので１名分でございます。委員から、経営体育成交付金についての質疑がなされ、執行部から大地上原田が24年度申請の予定であったが、自己資金のめどが立たなかったことから辞退の申し入れがあったとの説明がありました。５目農地費を67万7,000円減額しております。19節負担金、補助及び交付金19万8,000円の増などですが、県営錦南部５期農免農道整備事業負担金の県営事業費確定によるものが主なものでございます。委員から、経済効果にも期待し、県営錦南部農免農道の早期の完成を願っているとの要望としての意見がありました。２項林業費、２目林業振興費を1,091万9,000円減額しております。19節負担金、補助及び交付金の減は、緑の産業再生プロジェクト促進事業補助金が申請者が事業を取り下げたことによる減が主なものでございます。

８款土木費、１項土木管理費、１目土木総務費は、868万4,000円を減額しております。13節委託料の減は、人吉市住生活基本計画策定委託料の入札残によるもの、また19節負担金、補助及び交付金のユニバーサルデザイン建築物整備促進事業補助金200万円の減は、申請がなかったことによるものです。２項道路橋梁費、２目道路維持費及び５目橋梁新設改良費の13節委託料並びに15節工事請負費の減は、いずれも社会資本整備総合交付金事業の内示によるものでございます。４項都市計画費、１目都市計画総務費を43万9,000円減額しております。19節負担金、補助及び交付金の減は、鍛冶屋町通り街なみ環境整備事業補助金の確定によるものでございます。４目街路事業費を1,958万円減額しております。13節委託料の下林願成寺線詳細設計・用地測量委託料ほか２件の入札残によるものでございます。

11款災害復旧費、３項公共土木施設災害復旧費、１目道路橋梁災害復旧費は、歳出予算の補正はございませんが、事業の確定により財源を組み替えるものでございます。

第２条の繰越明許費の補正ですが、８款土木費、１項土木管理費の住生活基本計画策定事業231万7,000円を初めとする２項道路橋梁費の12事業、４項都市計画費の２事業及び５項河

川費の１事業は、上位計画である熊本県住生活基本計画「熊本県住宅マスタープラン」策定の遅延などによるものなど、それぞれさまざまな理由により年度内竣工が困難となり繰り越すものでございます。この件に関し委員から、昨年と比較しても16事業の繰り越しは多過ぎるのではないか。建設部の人員体制も含め今後は大丈夫なのかとの問いに、執行部からは、それぞれの事業において個別の調整事項もあってのことである。また、部内において健康面で不調が見られる職員がいたのも事実である。確かに人員体制などもどうであったかと検証しなければならないが、定員枠もあり非常に厳しいかもしれないとの答弁でした。そこで、委員会の総意として、今後緊急経済対策などで事業がふえる可能性もあり、マンパワーなど人員体制も含め多くの事業に対応できるよう改善を求める要望を行いました。

慎重審査の結果、全員異議なく認めることに決しました。

以上、報告を終わります。

大変申しわけございません。訂正をお願いいたします。６款農林水産業費の中で、３目農業振興費は「431万3,000円」と申し上げたそうです。「431万4,000円」に訂正をお願いいたします。また、農業振興地域整備計画策定業務委託料のくだりでございます。「青年就農給付金79万円の増などに」と申し上げたそうでございます。「75万円」に訂正をお願いいたします。

○議長（永山芳宏君）　ただいまの各委員長の報告に対し質疑はありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

質疑もないようですので、採決いたします。議第２号について、各委員長報告どおり決するに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（永山芳宏君）　御異議なしと認めます。

よって、議第２号は原案可決確定いたしました。

ここで暫時休憩いたします。

午前11時08分　休憩

午前11時25分　開議

○議長（永山芳宏君）　休憩前に引き続き再開いたします。

日程第28　議第45号

○議長（永山芳宏君）　次に、日程第28、議第45号を議題とし、各委員長の報告を求めます。まず、予算委員長の報告を求めます。（「議長、16番」と呼ぶ者あり）

16番。三倉美千子議員。

○16番（三倉美千子君）（登壇）　予算委員会に付託されました日程第28、議第45号平成24年

度人吉市一般会計補正予算（第７号）のうち、歳入全款、第３条地方債につきまして、審査の結果を報告いたします。

歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ６億94万5,000円を追加し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ155億9,109万3,000円とするものです。

今回の補正につきましては、国の平成24年度補正予算、日本経済再生に向けた緊急経済対策に伴う公共事業の追加によるものです。国庫支出金では、道路橋梁費補助金6,330万円の増額補正は、市道青井西間線など５路線の舗装補修工事等の増額によるものです。住宅費補助金1,119万5,000円の増額補正は、市営住宅前田団地外装改修工事等の増額によるものです。都市計画費補助金2,500万円の増額補正は、公園施設の改修工事等の増額によるもの、小学校費補助金、学校施設環境改善交付金１億4,175万円の増額補正は、小学校給水設備改修事業及び小学校プール改修事業の増額によるものなど、執行部からの説明があり、委員からは政権交代による今後の経済対策の見通しなどについて質疑応答が行われ、慎重審査の結果、全員異議なく認めることに決しました。

以上で、報告を終わります。

○議長（永山芳宏君）　次に、総務文教委員長の報告を求めます。（「議長、10番」と呼ぶ者あり）

10番。川野精一議員。

○10番（川野精一君）（登壇）　総務文教委員会に付託されました日程第28、議第45号平成24年度人吉市一般会計補正予算（第７号）の第１条歳出予算のうち、10款教育費、14款予備費及び第２条繰越明許費の補正（10款教育費）について、審査の結果を報告いたします。

10款教育費、２項小学校費、３目学校建設費は、４億4,784万5,000円の増額補正であります。これは、先月２月26日に成立しました国の平成24年度第１次補正予算、日本経済再生に向けた緊急経済対策に対応した予算措置であり、人吉西、東間、中原の３小学校のプール改築工事と、東間、西瀬、大畑の３小学校の給水設備改修工事を行うものであります。歳出の主なものは、13節委託料の1,271万6,000円が、プール改築工事に伴う設計委託料、15節工事請負費の４億3,500万円が、プール改築工事及び給水設備改修工事のための経費であります。審査において委員から、建築方法や今後のスケジュールなどの質疑があり、執行部からは、プールの形状は人吉東小学校のような形状で、工期については騒音等を考慮し夏休み中に解体、９月から建設に入りたいとの説明がなされております。

14款、１項、１目予備費を、事業実施に必要な一般財源として3,611万3,000円減額されております。

続きまして、第２条繰越明許費の補正のうち、10款教育費、２項小学校費は、さきに述べました小学校給水設備改修事業とプール改築事業が、平成24年度内の完了が見込めないため平成25年度へ繰り越すものであります。

以上、慎重に審査を行いました結果、全員一致で異議なく認めることに決しました。

○議長（永山芳宏君）　次に、経済建設委員長の報告を求めます。（「議長、13番」と呼ぶ者あり）

13番。村上恵一議員。

○13番（村上恵一君）（登壇）　経済建設委員会に付託を受けました日程第28、議第45号平成24年度人吉市一般会計補正予算（第７号）のうち、６款農林水産業費、８款土木費及び第２条繰越明許費の補正（８款土木費）について、審査の結果を報告いたします。

今回の補正につきましては、国の平成24年度補正予算（緊急経済対策）に伴う公共事業の追加によるものでございます。

６款農林水産業費、１項農業費、５目農地費を62万7,000円増額しております。19節負担金、補助及び交付金の増で、県営錦南部５期農免農道整備事業について県の事業費が増額になったことによる負担金の増額でございます。

８款土木費、２項道路橋梁費、２目道路維持費に１億900万円を増額しております。13節委託料の増額は、道路路面性状調査委託料や道路防災点検委託料などでございます。また、15節工事請負費の増額は、青井西間線初め５路線の道路補修工事でございます。委員から、道路防災点検とはどのようなものかとの問いに、今回は法面について年数が経過している戸越鹿目線ほか５路線の点検を予定しているとの説明がありました。３項住宅費、２目住宅建設費を2,658万6,000円増額しております。これは前田団地の外壁改修工事調査設計委託料と外壁改修工事であります。４項都市計画費、３目公園整備費を5,300万円増額しております。これは13節委託料の石野公園施設改築測量設計委託料と、15節工事請負費の村山公園施設改築工事で遊具やトイレの改修を行うものでございます。

次に、第２条の繰越明許費の補正ですが、すべて年度内竣工が困難であるため繰り越すものでございます。

慎重審査の結果、全員異議なく認めることに決しました。

以上、報告を終わります。

○議長（永山芳宏君）　ただいまの各委員長の報告に対し質疑はありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

質疑もないようですので、採決いたします。議第45号について、各委員長報告どおり決するに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（永山芳宏君）　御異議なしと認めます。

よって、議第45号は原案可決確定いたしました。

日程第29　議第３号から日程第35　議第46号まで

○議長（永山芳宏君）　次に、日程第29、議第３号から日程第35、議第46号までの７件を議題とし、厚生委員長の報告を求めます。（「議長、11番」と呼ぶ者あり）

11番。笹山欣悟議員。

○11番（笹山欣悟君）（登壇）　厚生委員会に付託されました日程第29、議第３号から日程第35、議第46号までの７件につきまして、審査の結果を報告いたします。

日程第29、議第３号平成24年度人吉市国民健康保険事業特別会計補正予算（第３号）は、決算見込みによる補正で、歳入歳出をそれぞれ１億8,193万6,000円減額し、歳入歳出予算の総額を49億6,182万8,000円とするものであります。

歳入の主なものは、１款、１項国民健康保険税は、収納実績に基づく決算見込みで4,189万7,000円減額、３款国庫支出金は8,670万6,000円減額、４款県支出金、１項県負担金は712万1,000円減額、同じく２項県補助金は2,011万4,000円増額、５款、１項療養給付費等交付金は1,714万9,000円減額、７款、１項共同事業交付金は3,283万3,000円減額、９款繰入金、１項他会計繰入金は2,032万8,000円減額しております。

歳出の主なものは、２款保険給付費は、退職被保険者等療養給付費を1,714万9,000円減額、７款、１項共同事業拠出金は8,141万2,000円を減額、高額医療費拠出金1,391万円の減、保険財政共同安定化事業拠出金6,750万2,000円の減であります。８款保健事業費、１項、１目特定健康診査等事業費は1,650万5,000円を減額、13節委託料、特定健康診査委託料等の決算見込みによる補正であります。

次に、日程第30、議第４号平成24年度人吉市後期高齢者医療特別会計補正予算（第２号）は、決算見込みによる補正で、歳入歳出予算をそれぞれ949万4,000円減額し、総額を４億8,287万2,000円とするものであります。

歳入の主なものは、１款、１項後期高齢者医療保険料は806万円を減額するもので、被保険者の死亡や転出に伴う資格喪失によるものであります。３款繰入金、１項一般会計繰入金は137万2,000円減額するものであります。

歳出の主なものは、２款、１項後期高齢者医療広域連合納付金を948万円減額しております。

次に、日程第31、議第５号平成24年度人吉市介護保険特別会計補正予算（第３号）は、決算見込みによる補正で、歳入歳出にそれぞれ3,482万2,000円を減額し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ40億9,806万4,000円とするものであります。

歳入の主なものは、１款、１項、１目第１号被保険者保険料484万5,000円を減額しております。収納額、調定額を勘案し、決算を見込んで補正するものであります。３款、１項国庫負担金は、１目介護給付費負担金947万3,000円を減額、２項国庫補助金は2,796万2,000円を減額、４款、１項支払基金交付金は1,180万6,000円を減額するもので、いずれも交付決定額に応じて補正するものであります。７款、１項一般会計繰入金は399万6,000円を減額するも

のであります。２項基金繰入金は2,499万9,000円を増額するもので、財源不足の補てんとして基金積立金を取り崩すものであります。

歳出の主なものは、本年度の保険給付費の総額としては38億859万4,000円を見込んでおり、前年度に比べ約6.7％の伸びとなっております。２款保険給付費、１項介護サービス等諸費は290万円を増額するもので、要介護１から５の認定を受けた方の介護サービス利用に係る給付費であります。２項介護予防サービス等諸費は2,670万円を減額するもので、要支援１、２の認定を受けた方の介護予防サービス利用に係る給付費であります。５項特定入所者介護サービス等費は1,200万円増額するもので、サービスにおいて居住費や食費が利用者の負担となりますので、所得の低い方の負担軽減として限度額を超えた分を支給するものであります。５款地域支援事業費、２項包括的支援事業・任意事業費は300万1,000円を減額しております。７款諸支出金、３項繰出金は、１目一般会計繰出金1,322万4,000円を増額しております。８款、１項、１目予備費を2,785万7,000円減額しております。

次に、日程第32、議第６号平成24年度人吉市介護サービス事業特別会計補正予算（第２号）は、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ160万円を減額し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ2,869万9,000円とするもので、決算見込みによる補正であります。

次に、日程第33、議第７号平成24年度人吉市水道事業特別会計補正予算（第２号）は、収益的収入及び支出でありますが、収入は１款水道事業収益を158万9,000円増額し、５億5,195万2,000円とするものでございます。収入の主なものとして、水道料金322万円の減額、雑収益として日水協機械設備損害保険金466万9,000円を増額するものであります。支出は、人件費の補正が主なものであります。

次に、資本的収入及び支出についてでありますが、支出の主なものとして、茂ケ野水源地保護地購入費279万4,000円の減、公用車・経営情報管理システム購入に伴う入札残648万5,000円の減であります。なお、資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額２億3,773万2,000円は、消費税及び地方消費税資本的収支調整額948万円、当年度分損益勘定留保資金１億7,111万1,000円と、繰越利益剰余金処分額5,714万1,000円で補てんすることといたしております。

次に、議会の議決を経なければ流用することができない経費は、予算第８条に定めた経費のうち職員給与費１億2,618万2,000円を、１億2,531万2,000円に改めるものであります。

審査の過程で委員から、水道料金の減額の理由はとの質疑に、執行部から、平成23年度比0.5％の減で見込んでいたが、人口減少及び節水型機器の普及で0.74％の減を見込んでいるとの答弁。茂ケ野水源地保護地購入の減はとの質疑に、年度計画で進めているが、相手の方が事故に遭われ交渉のスケジュールが難しくなり年度内では厳しくなったためとの答弁。公用車・経営情報管理システム購入に伴う入札残はとの質疑に、公用車は294万7,000円の予算に対し206万1,000円での入札、経営情報管理システムについては1,145万5,000円の予算で

604万8,000円の落札となっているとの答弁があっております。

次に、日程第34、議第８号平成24年度人吉市公共下水道事業特別会計補正予算（第３号）は、歳入歳出にそれぞれ260万2,000円減額し、歳入歳出予算の総額を13億2,409万円とするものであります。

歳入の主なものは、１款分担金及び負担金、１項、１目事業費受益者負担金を184万4,000円増額しております。３款国庫支出金、１項、１目公共下水道補助金は、社会資本整備総合交付金を530万円減額しております。

歳出の主なものは、１款、１項、１目事業費は1,554万円減額、13節委託料、下水道長寿命化計画策定委託料1,060万円の減額等であります。２目維持管理費は303万7,000円減額、13節委託料の入札残等であります。２款公債費、１項、２目利子を289万2,000円減額しており、補正後の元利合計額は５億8,673万6,000円となります。３款、１項、１目予備費は1,886万7,000円増額し、補正後の額を8,499万8,000円としております。

審査の過程で委員から、歳入の社会資本整備総合交付金530万円の減額の理由はとの質疑に、執行部から、下水道長寿命化計画に伴い減額の措置をとっているが、国からの内示額が減額されたためとの答弁があっております。

次に、日程第35、議第46号平成24年度人吉市公共下水道事業特別会計補正予算（第４号）は、歳入歳出にそれぞれ2,400万円増額し、歳入歳出予算の総額を13億4,809万円とするものであります。

国の緊急経済対策の下水道事業に係る社会資本整備総合交付金の内示に伴うもので、歳入の主なものは３款国庫支出金、１項、１目公共下水道補助金は、社会資本整備総合交付金を1,150万円増額、８款市債、１項、１目公共下水道債を1,250万円増額しております。

歳出の主なものは、１款、１項、１目事業費は2,500万円増額、マンホールふたの更新工事、浄水苑の空調設備の更新工事であります。

繰越明許費は、今回の補正の各事業の繰越額を定めております。地方債の補正は、限度額を1,250万円引き上げ、限度額を１億5,840万円と定めるものであります。

審査の過程で委員から、マンホールふたの更新工事の工期はとの質疑に、執行部から、設計を４月から５月に、６月に入札を行い、工事を７月から12月にかけて50基を予定しているとの答弁。耐用年数が過ぎているふたが多いのではとの質疑に、平成25年度から29年度にかけてマンホールふたの長寿命化計画を策定した。５年間で約350基を更新予定との答弁があっております。

以上、７件につきまして、慎重審査の結果、全員異議なく認めることに決しました。

以上、報告を終わります。

○議長（永山芳宏君）　ただいまの委員長報告に対し質疑はありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

質疑もないようですので、採決いたします。議第３号から議第46号までの７件について、厚生委員長報告どおり決するに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（永山芳宏君）　御異議なしと認めます。

よって、議第３号、議第４号、議第５号、議第６号、議第７号、議第８号、議第46号は原案可決確定いたしました。

日程第36　議第９号

○議長（永山芳宏君）　次に、日程第36、議第９号を議題とし、経済建設委員長の報告を求めます。（「議長、13番」と呼ぶ者あり）

13番。村上恵一議員。

○13番（村上恵一君）（登壇）　経済建設委員会に付託を受けました日程第36、議第９号平成24年度人吉市工業用地造成事業特別会計補正予算（第２号）について、審査の結果を報告いたします。

歳入歳出予算にそれぞれ389万9,000円を減額し、補正後の総額を歳入歳出それぞれ4,290万2,000円とするものであります。

歳入は２款繰入金、１項、１目一般会計繰入金99万9,000円を減額しております。

歳出は、１款、１項工業用地造成事業費、１目人吉中核工業用地造成事業費を415万円減額しております。９節旅費、11節需用費、12節役務費の減額は、いずれも現有の市有地による造成整備といった実施設計の検討となったため用地交渉、用地補償、調査等が不要となったことによるものでございます。

次に、繰越明許費ですが、昨年11月に契約を行った人吉中核工業用地実施設計委託について、その後県と協議する中で現有市有地による造成整備事業とすることに伴い、実施設計内容の変更が生じたことによりまして、委託期間を来年度まで延長するものでございます。このことにより、地方債補正として、工業用地造成事業債の限度額を4,010万円に補正しております。

慎重審査の結果、全員異議なく認めることに決しました。

以上、報告を終わります。

○議長（永山芳宏君）　ただいまの委員長報告に対し質疑はありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

質疑もないようですので、採決いたします。議第９号について、経済建設委員長報告どおり決するに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（永山芳宏君）　御異議なしと認めます。

よって、議第９号は原案可決確定いたしました。

ここで暫時休憩いたします。

午前11時51分　休憩

―――――――――――――

午後１時30分　開議

○議長（永山芳宏君）　休憩前に引き続き再開いたします。

日程第37　議第10号

○議長（永山芳宏君）　次に、日程第37、議第10号を議題とし、各委員長の報告を求めます。

まず、予算委員長の報告を求めます。（「議長、16番」と呼ぶ者あり）

16番。三倉美千子議員。

○16番（三倉美千子君）（登壇）　予算委員会に付託されました日程第37、議第10号平成25年度人吉市一般会計予算のうち、第１条歳入歳出予算のうち、歳入全款、第３条地方債、第４条一時借入金、第５条歳出予算の流用につきまして、審査の結果を報告いたします。

歳入歳出予算の総額はそれぞれ141億3,519万4,000円とするものです。市税は、個人市民税及び法人市民税がともに減収が見込まれること、また固定資産税、都市計画税など評価がえにより減収となること、市たばこ税は売り上げ本数は減少の見込みですが、県からの税源移譲により増収が見込まれていること、地方交付税は平成25年度の地方財政計画がこの時点では示されておらず、それにかわる地方財政対策では地方公務員の給与水準を国家公務員並みに引き下げることを目的に地方交付税が前年度比2.27％減とされていること、本市の場合普通交付税は平成24年度交付実績に地方財政対策に基づく減額を勘案し計上していることなど、執行部から説明されました。平成25年度は平成24年度の当初予算と比較しまして、総額で4,172万8,000円の増額となっております。

委員から、固定資産税、償却資産の動向や、ごみ再資源化に伴う売り上げ料、買い上げ料の意味について、市営団地の駐車場料金や件数、またコミュニティーセンター使用料、生活保護費徴収金返還金の件数と今後の取り組みなどについて質疑応答があり、慎重審査の結果、全員異議なく認めることに決しました。

以上で報告を終わります。

○議長（永山芳宏君）　次に、総務文教委員長の報告を求めます。（「議長、10番」と呼ぶ者あり）

10番。川野精一議員。

○10番（川野精一君）（登壇）　総務文教委員会に付託されました日程第37、議第10号平成25年度人吉市一般会計予算の第１条歳出予算のうち、１款議会費、２款総務費（２項徴税費及び３項戸籍住民基本台帳費を除きます）、９款消防費、10款教育費、11款災害復旧費（４項

文教施設災害復旧費及び５項その他公共施設公用施設災害復旧費）、12款公債費、13款諸支出金、14款予備費及び第２条債務負担行為（２款総務費、１項総務管理費）について、審査の結果の主なものを報告いたします。

１款、１項、１目議会費は２億514万1,000円で、前年度に比べ276万9,000円の減額であります。９節普通旅費は644万9,000円で、前年度に比べ197万6,000円の増額でありますが、これは隔年実施の議会運営委員会の行政視察が平成25年度に実施されることによるものです。また、19節負担金、補助及び交付金4,447万5,000円は、前年度に比べ430万2,000円の減額で、市議会議員共済会給付費負担金が前年度から430万9,000円に減額になったことが主なもので、負担率の引き下げによるものであります。

２款総務費、１項総務管理費、１目一般管理費は７億425万3,000円で、前年度に比べ7,997万7,000円の減額であります。これは定年退職者が前年度に比べ３名減の４名になることによるものや、機構改革による７目企画費の一部を一般管理費へ振りかえたことによるものであります。９節旅費に関しましては173万7,000円の増額でありまして、主なものは一井正典氏が留学されていたアメリカ・ロスガトスなどへ高校生または専門学校生を短期間語学留学させる派遣旅費であります。13節委託料は、前年度比で257万7,000円の増額、人吉インターバス停トイレ設備の設計委託料が主なものであります。15節工事請負費は、ＬＥＤ型防犯灯設置工事費420万円、人吉インターバス停トイレ整備工事費に1,000万円が計上されております。19節負担金、補助及び交付金は2,279万8,000円で、前年度比1,758万8,000円の増額ですが、これは昨年度７目企画費に予算措置がされていた肥薩線を未来へつなぐ協議会負担金150万円や、人吉市予約型乗合タクシー運行補助金1,440万円が一般管理費へ振りかえられたことが主なものであります。３目文書広報費8,229万1,000円で、前年比836万6,000円の増額で、情報系端末の設置100台に係る使用料１年分と、議会中継システムリース料の増であります。６目財産管理費5,241万3,000円は、前年度比969万円の減額。13節委託料1,332万7,000円は、庁舎の清掃や警備の委託料などであります。７目企画費5,557万7,000円は、前年度比725万9,000円の増額で、機構改革に伴う減額はあるものの、19節負担金、補助及び交付金の人吉球磨広域行政組合負担金1,232万9,000円の増額が主なものであります。10目情報管理費6,707万5,000円は、前年度比1,738万7,000円の減額で、主なものは外国人登録に係る住民基本台帳法改正に伴う総合福祉システムなどの改修委託料や、基幹系電算システム機器リース料の減額などであります。審査において委員から、全庁において電算システム関連経費はどれくらいになるのかとの質疑がなされ、25年度予算での経費一覧表を作成していただき、審査を進めてまいりました。４項選挙費、２目参議院議員選挙費の1,713万円は、本年７月に実施予定の参議院議員選挙に要する経費であります。

９款、１項消防費、１目消防総務費３億8,323万6,000円は、前年度と比べ2,273万9,000円の減額で、これは人吉下球磨消防組合負担金が2,248万1,000円の減額となっており、主な理

由は定年退職者が５名から３名に減ったことと、起債の元利償還金の減によるものであります。２目非常備消防費は5,445万2,000円で、主なものは消防団員512名分の報酬及び出動報酬であります。３目消防施設費は３億4,074万1,000円で、前年度に比べ３億517万8,000円の大幅増であります。これは平成24年度から整備を進める防災行政無線の第２期整備事業として、同報系戸別受信機や移動系無線などの工事費の計上が主なものであります。また、３カ所分の防火水槽築造工事費1,530万円、年次計画で更新しているポンプ積載車３台分の購入経費1,154万8,000円などが計上されております。

10款教育費、１項教育総務費、２目事務局費１億9,270万4,000円の計上は、外国語指導助手、特別支援教育支援員、人吉っ子アドバイザー、学力充実支援員、教育委員会事務局運営などに要する経費で、前年度に比べて1,590万2,000円の増となっております。これは人吉市出身の高濱正伸氏が代表を務められる花まる学習会の教材を用いて、小学２年生を対象に放課後の空き時間を活用して人吉市花まる教室を実施する予定であり、人吉市花まる教室委託料などの計上が主なものであります。審査の過程で委員から、花まる教室の予算や実施内容、教材等について、産業医委託料について、特別支援学校等就学扶助費について等の質疑があっております。２項小学校費、１目学校管理費9,781万9,000円は、前年度に比べ104万3,000円の減。審査の過程で委員から、学校林の今後のあり方、契約の内容、借り上げ期間などについて質疑があっております。２目教育振興費3,310万4,000円は、前年度に比べ98万7,000円の減であります。審査の過程で委員から、知能検査と学力検査の内容、知能と学力の成就値についてなどの質疑があっております。３目学校建設費1,018万9,000円は、前年度に比べ102万7,000円の減で、25年度は中原小学校屋上防水改修工事に要する経費として計上されております。３項中学校費、２目教育振興費3,070万2,000円は、前年度に比べ1,359万3,000円の減。減額の主な理由は、前年度当初予算に計上してありました教科書改訂に伴う教師用指導書などの経費が減額されたものであります。５項社会教育費、１目社会教育総務費１億3,968万7,000円は、ＳＬ展示館、社会人権教育、学校支援地域本部事業などに要する経費で、前年度に比べ1,160万3,000円の減であります。審査の過程で委員から、夏季休暇中の学校プールの監視員についての質疑があっております。２目公民館費3,517万6,000円は、前年度に比べ369万2,000円の減。審査の過程で委員から、各公民館の事業実績、事業委託料の算出根拠などの質疑があっております。３目図書館費1,885万3,000円は、前年度に比べ148万6,000円の減。審査の過程で委員から、過去年度の本の購入数、廃棄数などの質疑があっております。４目文化振興費796万6,000円は、人吉球磨総合美展、犬童球渓顕彰音楽祭など文化振興に要する経費で、前年度比３万6,000円の減であります。５目文化財保護費4,544万3,000円は、前年度に比べ706万9,000円の減。これは前年度当初予算に計上してありました史跡大村横穴古墳群保存修理事業や笹原番所跡保存修理事業の減によるものであります。６目カルチャーパレス費5,343万8,000円は、施設の管理費や自主文化事業などに要する経費

で、前年度比673万1,000円の減であります。審査の過程で委員から、広域行政組合事務局跡の利用法について、特定建築物環境衛生維持管理委託料についてなどの質疑があっております。６項保健体育費、１目保健体育総務費6,120万5,000円は、学校保健事業、生涯スポーツ活動などの推進などに要する経費で、前年度比74万5,000円の減であります。審査の過程で委員から、春風マラソンについて、測定装置の予算について、今後の参加者の受け入れキャパシティーについてなどの質疑があっております。２目体育施設費6,450万8,000円の主なものは、体育施設指定管理料の6,200万円で、前年度比41万3,000円の減であります。７項学校給食センター費、１目学校給食センター運営費１億4,939万1,000円は、前年度に比べ1,287万5,000円の増で、これはセンターの設備改修工事費が計上されていることによるものであります。

11款災害復旧費、４項文教施設災害復旧費と５項その他公共施設公用施設災害復旧費は存目予算が計上してあります。

12款、１項公債費、１目元金は12億5,619万7,000円で、前年度と比べ2,708万9,000円の増額となっております。また、２目利子は２億800万7,000円で、前年度に比べ1,258万5,000円の減額であります。これは、起債の元利均等償還のうち償還期間の経過とともに元金の割合がふえ、利子の割合が減少したことによるものであります。

13款諸支出金、１項、１目普通財産取得費は存目計上であります。

14款予備費に5,387万2,000円が計上されております。

続きまして、第２条債務負担行為は、平成15年に地域イントラネット基盤施設整備事業で導入した議会中継システムを更新するもので、リース料の債務負担を設定し、債務負担行為の期間、限度額を設定するものであります。

以上、慎重に審査を行いました結果、全員一致で異議なく認めることに決しました。

以上、報告を終わります。

○議長（永山芳宏君）　次に、厚生委員長の報告を求めます。（「議長、11番」と呼ぶ者あり）

11番。笹山欣悟議員。

○11番（笹山欣悟君）（登壇）　厚生委員会に付託されました日程第37、議第10号平成25年度人吉市一般会計予算、第１条歳入歳出予算のうち、歳出の２款総務費（２項徴税費、３項戸籍住民基本台帳費）、３款民生費、４款衛生費、11款災害復旧費及び第２条債務負担行為につきまして、審査の結果を報告いたします。

２款総務費、２項徴税費、１目税務総務費は１億8,802万7,000円を計上しております。主なものは、23節償還金、利子及び割引料に1,359万1,000円、市税等過誤納金の還付金等であります。２目賦課徴収費は3,337万4,000円を計上しております。主なものは、13節委託料に1,219万7,000円を計上しております。３項戸籍住民基本台帳費、１目戸籍住民基本台帳費は

9,709万8,000円を計上しております。主なものは、13節委託料775万8,000円は新規として住民票方書表示システム改修委託料と戸籍副本データ管理システム構築に係る改修委託料などを計上しております。14節使用料及び賃借料945万7,000円は、住民基本台帳ネットワークシステム機器の再リース料であります。

３款民生費、１項社会福祉費、１目社会福祉総務費は、17億2,280万2,000円を計上しております。主なものは、19節負担金、補助及び交付金で、熊本県後期高齢者医療広域連合負担金が４億3,095万6,000円であります。社会福祉協議会への補助金として、人件費2,796万円、災害救援ボランティア養成事業200万円、買物支援事業補助金450万円等であります。28節繰出金10億5,487万9,000円は、４件の特別会計への繰出金であります。２目心身障害者福祉費に８億3,235万8,000円を計上しております。主なものは、13節委託料、相談支援事業委託料1,714万7,000円は相談支援事業所けやき、相談支援センターうぐいす、地域生活支援センター翠への３事業所への事業委託料、地域活動支援センター事業委託料1,350万円は、地域生活支援センター翠と環境木製トレー工房への委託料であります。20節扶助費７億8,092万4,000円の主なものとして、障害者医療費3,849万8,000円は障がいの軽減や身体機能の維持を目的に医療費の一部を助成するものであります。重度心身障害者（児）医療費7,448万4,000円は、手帳所持者等一定の対象者に対し、障がい者の福祉の増進を図るため医療費の一部を助成するものであります。居宅介護給付費、生活介護給付費、就労継続支援給付費など自立支援給付事業に伴う給付費は、総額６億1,601万6,000円を計上しております。障害児通所支援事業給付費3,348万5,000円の主なものは、放課後等デイサービス給付費2,362万7,000円及び児童発達支援給付費867万4,000円であります。３目老人福祉費は3,313万3,000円を計上しております。平成24年度までは、７目に高齢者生活産業都市づくり推進事業費を設けて、老人趣味の家、趣味の講座関連経費及び老人クラブへの補助金等を計上いたしておりましたが、平成25年度からはこの高齢者生活産業都市づくり推進事業費を廃目とし、３目老人福祉費に予算を移しかえて計上いたしております。主なものは、ひとり暮らしの高齢者等に緊急通報システムを貸与する緊急通報体制等整備事業委託料502万8,000円、高齢者住宅改造助成事業補助金499万9,000円、各町内の単位老人クラブへの補助金397万5,000円、人吉市老人クラブ連合会への補助金366万7,000円、敬老会助成事業交付金260万円及び敬老祝金554万円は、88歳に達する人へのお祝い金等であります。４目老人福祉施設費は１億3,497万3,000円を計上しております。主なものは、老人福祉施設入所委託料１億3,435万円で、養護老人ホームへの入所措置の委託料であります。２項児童福祉費、１目児童福祉総務費は5,442万9,000円を計上しております。２目児童措置費は21億5,392万6,000円を計上しております。主なものは、保育所運営費負担金12億5,159万4,000円で、本年３月に認可予定のひまわり保育園を加え、市内13カ所の認可保育園と市外の広域入所保育園の負担金であります。20節扶助費９億233万2,000円は乳幼児医療費、児童扶養手当、児童手当等であります。養育

医療費は、県から移譲されます新規の事業で、入院養育が必要な2,000グラム以下の低出生体重児などに係る医療費であります。３目母子福祉費に2,903万1,000円を計上しております。３項生活保護費、２目扶助費に６億7,171万5,000円を計上しております。

４款衛生費、１項保健衛生費、１目保健衛生総務費は１億5,443万5,000円を計上しております。主なものは、人吉市衛生員連合会に対する交付金791万9,000円などであります。２目予防費は8,126万5,000円を計上しております。子宮頸がん予防ワクチンや、高齢者のインフルエンザ予防接種など個別予防接種委託料が主なものであります。３目保健センター費は5,545万5,000円を計上しております。主なものは、ヤング健診委託料、妊婦健診委託料などであります。４目健康増進費は8,777万1,000円を計上しております。５目環境衛生費は、4,164万5,000円を計上しております。指定ごみ袋の販売委託料、新規で県からの権限移譲の飲料水水質検査委託料などを計上しております。２項清掃費、１目清掃総務費は11億7,276万4,000円を計上しております。主なものは、人吉球磨広域行政組合（し尿ごみ処理施設及び葬斎場）負担金の11億2,009万4,000円で、昨年比3,140万5,000円の減額であります。２目塵芥処理費は9,980万4,000円を計上しております。

５款労働費、１項労働諸費、３目シルバー人材センター費は1,352万円で、人吉市シルバー人材センターへの補助金であります。

次に、第２条債務負担行為は、課税支援システムリース料につきまして平成25年度から平成30年度までの６年間、当年度分を除く限度額を1,115万6,000円と定めるものであります。また、福祉総合システムリース料につきましては、平成25年度から平成30年度までの６年間、限度額を6,333万6,000円と定めるものであります。

審査の過程で、３款民生費、１項社会福祉費、２目心身障害者福祉費について委員から、福祉タクシー助成金の条件はとの質疑に、執行部から、市の単独事業で身体障害者手帳１級、療育手帳Ａ１級、精神障害者福祉手帳１級といった重度の障がい者に対して移動等に伴うタクシー利用の助成を行うもので、１年間に12枚発行しているとの答弁。障害児通所支援事業の放課後等デイサービスの減額理由はとの質疑に、平成24年度から障害者自立支援法から児童福祉法に基づくサービスに変わったときに、24年度当初予算を放課後毎日学童保育のような形を想定していたが、スタートする時点では自立支援法で行っていた形態と変わらないものとなったため利用人数が少なかったとの答弁。３目老人福祉費、敬老会助成事業交付金はどうなるのかとの質疑に、これまでは敬老会の助成として出席者１人当たり弁当代として600円を助成していたが、取りまとめやそれぞれの町内で公平さが図られていないということから、住基データを利用して敬老会に対して助成していくもので、使い勝手がよくなるものと思っている。260万円の限度額で、試算では１人当たり400円程度になるとの答弁。２項児童福祉費、２目児童措置費について、保育所運営費負担金について一般質問での答弁で、デメリットとして市の負担がふえてくるとあったが、今後どのように試算しているのかとの

質疑に、１園ふえることによって定員が80名ふえることになるが、市費の負担も当然ふえてくる。見込みで試算しているが、毎年400万から500万円の負担増となるとの答弁。４款衛生費、１項保健衛生費、３目保健センター費について、３カ月児健診は具体的にとの質疑に、現在月１回保健センターで集合健診として行っているが、市内３カ所の医療機関で個別に健診を受けてもらうようになるとの答弁。同じく１項保健衛生費、５目環境衛生費について、飲料水水質検査委託料とはとの質疑に、25年度からの県の権限移譲で専用水道、簡易専用水道、飲用井戸の衛生指導であるが、飲用井戸については環境課で対応することになる。飲料供給施設を21カ所把握しているが、７カ所の水質検査を啓発、衛生指導を含めて３年に１回は公費で行う検査料であるといった答弁があっております。

慎重審査の結果、全員異議なく認めることに決しました。

以上、報告を終わります。

○議長（永山芳宏君）　次に、経済建設委員長の報告を求めます。（「議長、13番」と呼ぶ者あり）

13番。村上恵一議員。

○13番（村上恵一君）（登壇）　経済建設委員会に付託を受けました日程第37、議第10号平成25年度人吉市一般会計予算のうち、５款労働費（１項、３目シルバー人材センター費を除く）、６款農林水産業費、７款商工費、８款土木費、11款災害復旧費（２項農林水産施設災害復旧費及び３項公共土木施設災害復旧費）について、審査の結果の主なものを報告いたします。

５款労働費、１項労働諸費、４目地域雇用創出推進費に4,832万1,000円を計上されております。県の基金を原資に平成24年度が最終年度の予定だった緊急雇用創出事業でしたが、平成25年度も継続されることとなっており、６事業約24名の雇用創出を図る予定でございます。委員から、緊急雇用創出事業の24年度の実績として、耕作放棄地を活用した農業経営に関してはどうだったのかの問いに、上原田地区で耕作放棄地などを活用してトウガラシの栽培などを行ったが、雇用された方が独立して始めようというところまでには至っていないとの答弁でした。

次に、６款農林水産業費、１項農業費、３目農業振興費に5,383万円を計上されております。19節負担金、補助及び交付金の補助金2,076万3,000円は、本市の地域農業を担う積極的な営農組織が行う必要な条件整備などについて経費の一部を助成する人吉市農業活性化対策事業補助金900万円、人吉ブランド化実行委員会補助金140万円、経営所得安定対策推進事業補助金292万円などであります。経営所得安定対策推進事業補助金は、平成24年度までの農業者戸別所得補償制度が名称変更になったものでございます。また、交付金2,408万4,000円は、中山間地域等直接支払事業交付金844万円や、青年就農給付金事業交付金10名分1,425万円などであります。委員から、人吉ブランド化実行委員会はどのようなものかとの問いに、

一昨年までは東京都庁でのイベントを市単独で行っていたが、昨年度から市と物産協会や焼酎酒造組合、ＪＡ、酪農、商工会議所、温泉観光協会などで組織してイベントを開催する実行委員会であるとの説明でした。５目農地費に1,608万4,000円を計上されております。19節負担金、補助及び交付金448万5,000円は、県営錦南部５期農免農道整備事業負担金110万8,000円や、川辺川総合土地改良事業組合が３月末で解散し４月に設立予定の川辺川土地改良事業連絡協議会負担金67万円などであり、これは、関係市町村での均等割による負担金でございます。２項林業費、２目林業振興費に2,557万4,000円を計上されており、前年度と比較して1,159万円の増でございますが、毎年９月補正で計上している素材生産販売委託事業の増が主なものであります。１節報酬126万円は人吉市鳥獣被害対策実施隊設置に伴う隊員70人分の報酬で、８節報償費465万円は特定鳥獣適正管理事業等によるシカなどの有害鳥獣捕獲に伴う謝礼でございます。

次に、７款商工費、１項商工費、２目商工業振興費に１億3,625万2,000円を計上されております。19節負担金、補助及び交付金2,472万8,000円は、人吉商工会議所が地元企業への経営指導等を図る小規模事業指導事業補助金1,056万1,000円や、商店街への支援、助成内容を見直して市街地活性化を図る新たな要項による人吉市商店街活性化事業補助金518万4,000円などでございます。３目観光費に6,540万3,000円を計上されております。12節役務費1,161万9,000円のうち広告料1,140万円は、看板広告やテレビ、ラジオ、新聞、旅行雑誌などの広告料で、日本百名城人吉お城まつり、旬夏秋冬キャンペーンなどの本市の観光をＰＲするものでございます。19節負担金、補助及び交付金3,460万3,000円のうち補助金2,381万6,000円は、人吉温泉観光協会補助金1,331万7,000円ほか全九州春季大会民謡民舞の祭典補助金、日本百名城人吉お城まつり実行委員会補助金などでございます。

次に、８款土木費、１項土木管理費、１目土木総務費に6,035万6,000円を計上されております。19節負担金、補助及び交付金1,567万4,000円は、補助金として住宅リフォーム促進事業補助金1,000万円、戸建木造住宅耐震改修事業補助金300万円などでございます。住宅リフォーム促進事業については、要項の変更点などの説明を受けました。これに関して委員から、木材に関しての地元産材の利用は必須条件となったのか、また証明はどのようにとの問いに、木材に関しては地元産材利用が必須条件になったということと、証明は木材市場で発行するとの答弁でした。３目道路新設改良費に6,400万4,000円を計上されております。13節委託料340万円は、戸越草津線ほか測量設計、用地測量の委託料、15節工事請負費2,701万8,000円は、単独事業瓦屋川村線ほか５路線の工事請負費でございます。５目橋梁新設改良費１億3,342万5,000円を計上されております。15節工事請負費9,500万円は、社会資本整備総合交付金事業中原跨線橋補修工事、鶴田橋ほか27橋補修工事、曙橋ほか４橋橋梁補修工事でございます。３項住宅費、１目住宅管理費に8,940万6,000円を計上されております。15節工事請負費2,119万9,000円は、笹栗山団地３号棟、米山団地３号棟、蟹作団地２号、３号、４号棟、

前田団地１号棟の屋上防水改修工事でございます。２目住宅建設費に5,301万3,000円を計上されております。15節工事請負費2,716万9,000円は、門前団地１号棟、２号棟の外壁改修工事及び避難ハッチ改修工事でございます。４項都市計画費、１目都市計画総務費に２億3,530万3,000円を計上されております。施政方針にありました観光客の皆様の憩いの場としての小公園整備に係る事業費などが計上されております。４目街路事業費に２億2,061万7,000円を計上されております。13節委託料、17節公有財産購入費、22節補償、補填及び賠償金は、いずれも下林願成寺線に関するものでございます。委員から、下林願成寺線の状況について質疑があり、執行部から、今年度で建物調査を行っており、来年度に交付金事業の交付決定がなされたら用地交渉に入っていきたい。できれば平成27年度までの３カ年で用地交渉を済ませたいと考えている。ある一定の連続する区域の買収が進めば適宜工事に入っていけるようなスケジュールを組んでいきたいとの説明がありました。

11款災害復旧費につきましては、前年度並みの予算が計上されております。

全体を通して、委員会所管に関する任意補助金につきましても、おおむね５％の削減が行われていたところです。

慎重審査の結果、全員異議なく認めることに決しました。

以上、報告を終わります。

○議長（永山芳宏君）　ただいまの各委員長報告に対し質疑はありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

質疑もないようですので、採決いたします。議第10号について、各委員長報告どおり決するに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（永山芳宏君）　御異議なしと認めます。

よって、議第10号は原案可決確定いたしました。

日程第38　議第11号及び日程第39　議第47号

○議長（永山芳宏君）　次に、日程第38、議第11号及び日程第39、議第47号の２件を議題とし、総務文教委員長の報告を求めます。（「議長、10番」と呼ぶ者あり）

10番。川野精一議員。

○10番（川野精一君）（登壇）　総務文教委員会に付託されました日程第38、議第11号並びに日程第39、議第47号について、審査の結果を報告いたします。

日程第38、議第11号平成25年度人吉球磨地域交通体系整備特別会計予算の歳入歳出予算の総額は、歳入歳出それぞれ172万3,000円とするもので、歳入予算は１款財産収入、１項財産運用収入、１目基金運用利息の171万8,000円及び２款繰入金、１項基金繰入金、１目人吉球磨地域交通体系整備基金繰入金1,000円、３款諸収入、１項、１目預金利子1,000円、２項、

１目雑入3,000円であります。

歳出の主なものは、１款、１項、１目基金費、25節積立金の172万2,000円で、人吉球磨地域交通体系整備基金利子積立金であります。

審査の結果、全員一致で異議なく認めることに決しました。

次に、日程第39、議第47号平成25年度人吉市一般会計補正予算（第１号）の第１条歳出予算のうち、２款総務費（１項総務管理費）、14款予備費について、審査の結果を報告いたします。

今回の補正は歳入の補正がなく、歳出の補正のみでありまして、２款総務費、１項総務管理費、１目一般管理費、３節職員手当等の退職手当を434万円減額補正されております。これは、人吉市職員の退職手当の支給に関する条例等の一部改正に基づき、定年退職予定者４名分の退職手当を減額するものであります。

14款予備費に、退職手当の減額分434万円が増額されております。

慎重に審査を行いました結果、全員一致で異議なく認めることに決しました。

以上、報告を終わります。

○議長（永山芳宏君）　ただいまの委員長報告に対し質疑はありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

質疑もないようですので、採決いたします。議第11号及び議第47号の２件について、総務文教委員長報告どおり決するに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（永山芳宏君）　御異議なしと認めます。

よって、議第11号、議第47号は原案可決確定いたしました。

日程第40　議第12号から日程第46　議第48号まで

○議長（永山芳宏君）　次に、日程第40、議第12号から日程第46、議第48号までの７件を議題といたします。

まず、日程第40、議第12号から日程第45、議第17号までの６件について、厚生委員長の報告を求めます。（「議長、11番」と呼ぶ者あり）

11番。笹山欣悟議員。

○11番（笹山欣悟君）（登壇）　厚生委員会に付託されました日程第40、議第12号から日程第45、議第17号までの６件につきまして、審査の結果を報告いたします。

日程第40、議第12号平成25年度人吉市国民健康保険事業特別会計予算は、歳入歳出予算の総額をそれぞれ46億6,320万2,000円とするものであります。当初予算編成における特色につきましては、１点目に、被保険者動向と予算額への影響で一般被保険者数は減少、退職被保険者数は微増もしくは横ばいと見ており、被保険者全体では平成20年度の医療制度改正以降

毎年減少し続けており、恐らく平成25年度中には１万人を割り込むと推測しております。あわせて保険税総額も同様に減少傾向にあります。２点目に、財源不足への対応として、医療給付、高齢者支援金、介護納付金の支出を賄うための財源に不足が生じることがわかりましたので、財政調整基金を取り崩して補てんすることとしております。３点目に、予備費の予算計上額の不足については、国保会計では不測の医療費高騰に対する備えとして予備費の予算計上が必須となっており、厚生労働省の予算編成方針でも保険給付費の３％程度を予備費で確保することとあります。年間で32億円、毎月２億6,000万円の保険給付費を支出する予算では予備費として１億円が望ましいところでありますが、2,975万円の計上にとどまっており、急激な医療費増加に対応するには十分な額とは言えない状況にありますとの説明を執行部より受けたところであります。

歳入の主なものは、１款国民健康保険税が一般被保険者、退職被保険者の医療給付費分、後期高齢者支援金分、介護納付金分合わせて８億8,228万6,000円を計上しております。３款国庫支出金、１項国庫負担金は、療養給付費等負担金、高額医療費共同事業負担金、特定健康診査等負担金を合わせて８億467万8,000円を計上しております。２項国庫補助金は、財政調整交付金、高齢者医療制度円滑運営事業費補助金を合わせて２億8,567万8,000円を計上しております。４款県支出金、１項県負担金は、高額医療費共同事業負担金、特定健康診査等負担金を合わせて3,009万6,000円を計上しております。４款、２項県補助金は、県財政調整交付金に２億4,725万8,000円を計上しております。５款、１項療養給付費等交付金は２億4,377万8,000円を計上しております。６款、１項前期高齢者交付金は10億4,897万1,000円を計上しております。７款、１項共同事業交付金は、高額医療費共同事業交付金、保険財政共同安定化事業交付金を合わせて４億8,429万6,000円を計上しております。９款繰入金、１項他会計繰入金は、一般会計繰入金に３億39万6,000円を計上しております。２項基金繰入金は、財政調整基金繰入金１億6,000万円を計上しております。10款、１項繰越金は、その他の繰越金に１億7,000万円を計上しております。

次に、歳出でありますが、１款総務費、１項総務管理費、１目一般管理費は6,289万3,000円を計上しております。13節委託料の国保連合会共同電算処理委託料などが主なものであります。２目連合会負担金は、熊本県国民健康保険団体連合会に支払う事務費負担金197万8,000円を計上しております。２款保険給付費、１項療養諸費は、医療費の支払いに要するもので一般被保険者及び退職被保険者の療養給付費、療養費、それに審査支払手数料合わせて27億9,293万4,000円を計上しております。２項高額療養費は、医療費の負担が高額になったとき、収入等により定められた自己負担額を超える分を高額療養費として保険者が負担するもので、一般被保険者及び退職被保険者の療養費等を３億4,937万5,000円計上しております。３項出産育児諸費、１目出産育児一時金は2,520万円で、１子当たり42万円の60人分を計上しております。４項、１目葬祭費は、被保険者が死亡された際、葬祭執行者に２万円を

支給するもので、100件分200万円を計上しております。３款、１項後期高齢者支援金等は、75歳以上の後期高齢者医療費を保険者として負担するもので、事務費拠出金を含め５億1,697万2,000円を計上しております。６款、１項介護納付金に２億4,037万1,000円を計上しております。介護保険第２号被保険者の保険料に相当する分を保険者が負担する納付金で、対象者数を4,186人と見込んでおります。７款、１項共同事業拠出金は、県内市町村国保の保険税の平準化と保険財政の安定化を図ることを目的とした共同事業における拠出金で、５億8,743万6,000円を計上しております。８款保健事業費、１項、１目特定健康診査等事業費に3,363万4,000円を計上しております。13節委託料の特定健康診査委託料2,345万5,000円が主なものであります。２項、１目保健衛生普及費は、被保険者の健康の保持増進事業に係る費用で、1,127万7,000円を計上しております。

審査の過程で、マッサージの利用実績は。財政調整基金が4,000万円しかないとなると今後の見通しはとの質疑に、執行部から、平成23年度実績で335世帯に交付している。１世帯当たり24枚交付しているがそのうち2,452件の使用があっている。24年度末の基金が２億円で当初で１億6,000万円を取り崩すと4,000万円しか残らない。９款繰入金、１項他会計繰入金で一般会計からの繰入金を１億円程度減額している。25年度予算編成においては当初からの繰り入れは厳しいことから、財政調整基金で確保してほしいとの協議を行っている。今後、地方交付税の入りぐあいを見きわめながら検討することになるが、医療費の動向も絡んでくるが一般会計からの繰入金とか可能であれば、次年度予算編成の段階でもある程度の財源は確保できるのではないかと考えているといった答弁があっております。

次に、日程第41、議第13号平成25年度人吉市後期高齢者医療特別会計予算は、歳入歳出予算の総額をそれぞれ4億8,320万9,000円とするものであります。

歳入の主なものは、１款、１項後期高齢者医療保険料に、特別徴収分と普通徴収分を合わせて３億3,343万7,000円を計上しております。３款繰入金、１項一般会計繰入金、２目保険基盤安定繰入金は、保険料の軽減分を一般会計から繰り入れるもので、１億3,032万2,000円を計上しております。５款諸収入、４項受託事業収入は1,462万3,000円を計上しております。

歳出の主なものは、２款、１項後期高齢者医療広域連合納付金は４億6,379万1,000円を計上しております。３款保健事業費、１項健康診査事業費は、後期高齢者の健康診査に係る経費として、1,463万3,000円を計上しております。13節委託料、後期高齢者健康診査委託料1,297万1,000円が主なものであります。

次に、日程第42、議第14号平成25年度人吉市介護保険特別会計予算は、歳入歳出予算の総額をそれぞれ41億2,928万6,000円とするものであります。

歳入の主なものは、１款保険料、１項介護保険料が特別徴収と普通徴収を合わせて６億8,806万4,000円を計上しております。３款国庫支出金、１項国庫負担金、１目介護給付費負担金は、介護給付費等に対する国の負担金で、６億9,596万2,000円を計上しております。

２項国庫補助金は、調整交付金及び地域支援事業に対する交付金合わせて３億8,546万7,000円を計上しております。４款、１項支払基金交付金は11億5,773万8,000円を計上しております。５款県支出金、１項県負担金は５億8,576万円を計上、２項県補助金は1,257万1,000円を計上しております。７款繰入金、１項一般会計繰入金は、介護給付費及び地域支援事業に対して繰り入れるもので、６億121万円を計上しております。

歳出の主なものは、２款保険給付費、１項介護サービス等諸費は、要介護１から５までに認定された方を対象とするサービスに係る費用で、35億6,526万9,000円を計上しております。２項介護予防サービス等諸費は、要支援１及び要支援２と認定された方を対象とするサービスに係る経費で、9,710万9,000円を計上しております。３項高額介護サービス等費は9,799万3,000円を計上しております。５項特定入所者介護サービス等費は、施設サービスにおいては居住費や食費が利用する方の負担となりますので、所得の低い方の負担軽減として限度額を超えた部分について保険から支給するもので、１億7,948万3,000円を計上しております。５款地域支援事業費、１項介護予防・日常生活支援総合事業費は、要支援、要介護になるおそれの高い高齢者に対する介護予防事業費及びやや虚弱な一般高齢者に対する介護予防事業費で、合わせて5,077万5,000円を計上しております。２項包括的支援事業・任意事業は3,604万7,000円を計上しております。

次に、日程第43、議第15号平成25年度人吉市介護サービス事業特別会計予算は、歳入歳出予算の総額をそれぞれ2,731万4,000円とするものであります。

歳入の主なものは、１款サービス収入、１項予防給付費収入、１目介護予防サービス計画費収入に825万6,000円を計上しております。２款、１項繰入金は、一般会計からの繰入金で、1,855万7,000円を計上しております。

歳出の主なものは、２款サービス事業費、１項居宅介護支援事業費に1,076万6,000円を計上しております。ケアマネジメントを行う事業所への委託料が主なものであります。

次に、日程第44、議第16号平成25年度人吉市水道事業特別会計予算は、業務の予定量としては給水戸数を１万5,780戸、総給水量を387万8,043立方メートル、１日平均給水量を１万625立方メートル予定しており、建設改良工事は配水管改良工事等を予定しております。

収益的収入及び支出の主なものでありますが、収入は、第１款水道事業収益に５億4,147万7,000円を計上しております。支出は、１款水道事業費用に４億8,744万1,000円を計上しております。

次に、資本的収入及び支出でありますが、収入は、資本的収入に4,580万2,000円を計上しております。支出は、資本的支出に２億5,876万円を計上しております。資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額２億1,295万8,000円は、消費税及び地方消費税、資本的収支調整額796万1,000円、当年度分損益勘定留保資金１億7,201万6,000円と、繰越利益剰余金処分額3,298万1,000円で補てんするものであります。第８条で議会の議決を経なければ流用する

ことができない経費として、職員給与費を１億4,624万1,000円、交際費を５万3,000円と定めております。

審査の過程で委員から、14節委託料のＰＣＢ廃棄物処理・運搬委託料とはとの質疑に、執行部から、ＰＣＢはポリ塩化ビフェニルと呼ばれているが、絶縁性、不燃性の特性があり電気機器に使われていたが、平成13年６月にＰＣＢ廃棄物処理特別法が制定され、平成28年までに処理が義務づけられている。保管しているＰＣＢについては、全国で５カ所しか処分場はないが、北九州のほうに今回処分するということで計画しているとの答弁。水道賠償保険料はとの質疑に、機械設備は受電容量に応じて保険料が決められている。茂ケ野、井ノ口２カ所の３カ所分である。もう一つは水道管の延長にもかけており、水道管の破裂等の事故や、新しく赤水や濁りにも25年度から対象になったとの答弁があっております。

次に、日程第45、議第17号平成25年度人吉市公共下水道事業特別会計予算は、歳入歳出予算の総額をそれぞれ10億3,275万9,000円とするものであります。

歳入の主なものは、２款使用料及び手数料、１項使用料は、下水道使用料と行政財産使用料合わせて、６億2,453万6,000円を計上しております。３款国庫支出金、１項国庫補助金、１目公共下水道補助金は、管渠築造工事や浄水苑の改築更新工事への国からの補助金として、3,240万円を計上しております。５款繰入金、１項、１目一般会計繰入金は１億7,000万円を計上しております。６款繰越金、１項、１目繰越金は、前年度繰越金を2,800万円計上しております。８款市債、１項、１目公共下水道債は１億7,580万円を計上しております。

歳出の主なものは、１款、１項、１目事業費は１億6,272万9,000円を計上しております。13節委託料に3,427万4,000円を計上しておりますが、主なものは公共下水道全体計画変更委託料、下水道事業の企業会計への移行をスムーズに進めるための下水道事業法適化支援業務委託料等であります。15節工事請負費に6,700万円計上しております。管渠築造、マンホールふたの更新工事などであります。２目維持管理費は、２億6,282万8,000円を計上しております。13節委託料に２億669万4,000円計上しております。主なものは、人吉浄水苑等運転管理委託料、汚泥運搬処分委託料等であります。

第２条債務負担行為は、人吉市水洗便所等改造資金融資あっせん及び助成金条例に基づく金融機関から市が融資をあっせんして、水洗便所等工事資金を借り入れた者及びその連帯保証人の債務不履行による損失補償と、水洗便所等改造資金利子補給金のそれぞれの期間と限度額を定めるものであります。下水道事業法適化事業は、企業会計への移行に係る委託事業費の限度額を1,440万円とし、その期間を定めております。

第３条地方債は、公共下水道債、資本費平準化債と特別措置分の下水道事業債のそれぞれの限度額、起債の方法、利率などを定めるものであります。

審査の過程で委員から、公共下水道事業全体計画変更委託とはとの質疑に、執行部から、公共下水道全体計画は平成９年度に変更され現在に至っている。目標年度は平成37年度を目

標としている。平成23年度に点検業務を行ったが、国、県、会計検査からの指導で人口減少等の社会情勢に合った見直しを行う計画であるとの答弁。下水道事業法適化支援事業委託とはとの質疑に、将来独立採算制による企業会計導入を目指しており、取り組むべき事項が多岐にわたるため、日本下水道事業団に委託するものとの答弁があっております。

以上、６件につきまして、慎重審査の結果、全員異議なく認めることに決しました。

以上、報告を終わります。

○議長（永山芳宏君）　ただいまの委員長報告に対し質疑はありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

質疑もないようですので、採決いたします。議第12号から議17号までの６件について、厚生委員長報告どおり決するに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（永山芳宏君）　御異議なしと認めます。

よって、議第12号、議第13号、議第14号、議第15号、議第16号、議第17号は原案可決確定いたしました。

次に、日程第46、議第48号について、厚生委員長の報告を求めます。（「議長、11番」と呼ぶ者あり）

11番。笹山欣悟議員。

○11番（笹山欣悟君）（登壇）　厚生委員会に付託されました日程第46、議第48号につきまして、審査の結果を報告いたします。

議第48号平成25年度人吉市水道事業特別会計補正予算（第１号）は、人吉市職員の退職手当の支給に関する条例等の一部改正に伴う退職手当の減額補正であります。収益的収入及び支出のうち、支出でありますが、第１款水道事業費用、第１項営業費用、４目総係費、６節退職給与金98万4,000円を減額するものであります。議会の議決を経なければ流用することができない経費として、予算第８条に定めた経費のうち、職員給与費１億4,624万1,000円を、１億4,525万7,000円と定めるものであります。

慎重審査の結果、全員異議なく認めることに決しました。

以上、報告を終わります。

○議長（永山芳宏君）　ただいまの委員長報告に対し質疑はありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

質疑もないようですので、採決いたします。議第48号について、厚生委員長報告どおり決するに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（永山芳宏君）　御異議なしと認めます。

よって、議第48号は原案可決確定いたしました。

ここで暫時休憩いたします。

午後２時39分　休憩

―――――――――――――

午後２時55分　開議

○議長（永山芳宏君）　休憩前に引き続き再開いたします。

日程第47　議第18号及び日程第48　議第19号

○議長（永山芳宏君）　次に、日程第47、議第18号及び日程第48、議第19号の２件を議題とし、経済建設委員長の報告を求めます。（「議長、13番」と呼ぶ者あり）

13番。村上恵一議員。

○13番（村上恵一君）（登壇）　経済建設委員会に付託を受けました日程第47、議第18号平成25年度人吉市国民宿舎特別会計予算及び日程第48、議第19号平成25年度人吉市工業用地造成事業特別会計予算につきまして、審査の結果を報告いたします。

まず、日程第47、議第18号平成25年度人吉市国民宿舎特別会計予算についてでありますが、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ20万5,000円とするものであります。

歳入の主なものは、４款、１項、１目繰越金、１節前年度繰越金18万4,000円でございます。

歳出の主なものは、１款総務費、１項施設管理費、１目一般管理費、12節役務費に保険料として全国市有物件災害共済損害保険料１万2,000円などでございます。

慎重審査の結果、全員異議なく認めることに決しました。

次に、日程第48、議第19号平成25年度人吉市工業用地造成事業特別会計予算について、審査の結果を報告いたします。

歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ218万6,000円とするものでございます。

歳入の主なものは、１款財産収入、１項、１目財産運用収入、１節梢山工業団地土地建物貸付収入の138万2,000円であり、共栄精密熊本株式会社にⅠ区画を貸し付けることによる収入でございます。

歳出の主なものは、１款、１項工業用地造成事業費、１目人吉中核工業用地造成事業費101万5,000円であり、９節旅費10万円は、用地購入等に伴う関係者への説明などに伴う旅費でございます。また、12節役務費87万円は、開発行為許可申請手数料でございます。

慎重審査の結果、全員異議なく認めることに決しました。

以上、報告を終わります。

○議長（永山芳宏君）　ただいまの委員長報告に対し質疑はありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

質疑もないようですので、採決いたします。議第18号及び議第19号の２件について、経済

建設委員長報告どおり決するに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（永山芳宏君）　御異議なしと認めます。

よって、議第18号、議第19号は原案可決確定いたしました。

日程第49　諮第１号

○議長（永山芳宏君）　次に、日程第49、諮第１号を議題といたします。

お諮りいたします。諮第１号は、推薦することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（永山芳宏君）　御異議なしと認めます。

よって、諮第１号は推薦することに決しました。

日程第50　諮第２号

○議長（永山芳宏君）　次に、日程第50、諮第２号を議題といたします。

お諮りいたします。諮第２号は、推薦することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（永山芳宏君）　御異議なしと認めます。

よって、諮第２号は推薦することに決しました。

日程第51　陳第20号

○議長（永山芳宏君）　次に、日程第51、陳第20号を議題とし、総務文教委員長の報告を求めます。（「議長、10番」と呼ぶ者あり）

10番。川野精一議員。

○10番（川野精一君）（登壇）　総務文教委員会に付託されました日程第51、陳第20号第一市民運動広場の整備及び設備の改修を求める陳情について、審査の結果を報告いたします。

平成24年11月24日付で人吉市ソフトボール協会会長　宮崎敬二氏より当市議会に対し提出がありました本陳情につきましては、審査の必要性から継続審査を行ってまいりました。陳情内容は、１、ナイター照明の改修、２、バックネット裏の本部席の拡充、３、公式ソフトボール大会会場として使用する場合におけるベース位置等の整備及び雨天後の水はけに対するグラウンドの改修、４、駐車場の拡充の４点からなるもので、委員会としましては、現地調査を行い、執行部との協議を進めてきたところですが、グラウンドの排水改修工事は平成７年に実施されているが、陳情書では1978年（昭和53年）に建設され34年間改修されていないとの記述があり、陳情内容に間違いがあること。指定管理者である体育協会から市への要

望はなされていないこと。グラウンドの排水改修工事を除くその他の改修費用に１億円以上の費用がかかると想定され、改修後の電気料などの経費の増額も想定されることなどの見地から、本陳情につきましては、全会一致で不採択とすることに決しました。なお、執行部からは水はけの悪さを改善するために、川上記念球場や梢山サッカー場で実施しているエアレーションの検討をしてみるとの発言があっております。

以上、報告を終わります。

○議長（永山芳宏君）　ただいまの委員長報告に対し質疑はありませんか。（「議長、３番」と呼ぶ者あり）

３番。村口隆議員。

○３番（村口　隆君）　すいません、ちょっと確認なんですが、ナイターの照明照度に対する議論と、現在の水はけの状態の確認です。雨の日は当然ですが、次の日、そういった状態に関してどういうふうな確認をされたのか。そして、どういう議論をされたのかをお尋ねいたします。（「議長、10番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　10番。川野精一議員。

○10番（川野精一君）　ナイター照明につきましては、ソフトボールの使用には問題ないということで回答を得ております。

それから、雨天については確かに水はけが悪いものの、その水はけを改善する方法としてエアレーションの検討をしてみるという回答をいただいております。

以上です。（「議長、３番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　３番。村口隆議員。

○３番（村口　隆君）　それでは、昨年の12月議会で私の一般質問の市長答弁にて、第一市民運動広場の現状に対する見解ということで、「市民の皆様がソフトボール、グラウンドゴルフ、それからゲートボール、野球等で活発にこの施設を利用されておられますので、改修により安全で快適な施設を御提供したいというふうに思っております。また、財政多難な状況でございますので、現在ある施設をより使いやすいという方向性が私も正しいのではないかというふうに考えているところでございます。つきましては、多額の事業費を要することでございますので、財政面も十分に踏まえながら、できるだけ早期に改修できるように考えてまいりたいというふうに考えているところでございます」という非常にすばらしい答弁をいただいてるんですが、この市長の答弁を含んだところでの今回議論はなされたのか。もしなされたのであればどういう議論がなされたのかをお尋ねいたします。（「議長、10番」と呼ぶ者あり）

○議長（永山芳宏君）　10番。川野精一議員。

○10番（川野精一君）　ただいまいただきました件については、委員会では協議しておりません。

以上です。

○議長（永山芳宏君）　ほかにありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

質疑もないようですので、採決いたします。採決は、起立採決といたします。

陳第20号の委員長報告は、不採択でありますので、陳情そのものについて採決いたします。

陳第20号について、採択することに賛成の議員の起立を求めます。

［起立少数］

○議長（永山芳宏君）　起立少数。

よって、陳第20号は不採択と決しました。

日程第52　陳第15号及び日程第53　陳第21号

○議長（永山芳宏君）　次に、日程第52、陳第15号及び日程第53、陳第21号の２件を議題とし、経済建設委員長の報告を求めます。（「議長、13番」と呼ぶ者あり）

13番。村上恵一議員。

○13番（村上恵一君）（登壇）　経済建設委員会に付託を受けました日程第52、陳第15号市営住宅建設に関する陳情及び日程第53、陳第21号大畑校区において市営住宅に準ずる施策を求める陳情について、審査の結果を報告いたします。

まず、陳第15号市営住宅建設に関する陳情は、平成24年５月25日に人吉市町内会長連合会大畑支部長の稲田八郎氏ほか大畑校区９町内の町内会長から提出されたものであります。

陳情の趣旨は、校区内に若者が子育てしやすい、市街地にあるようなマンションのようなものではなく、土いじりでもできるスペースを少し広くした市営住宅の団地の建設をお願いしたいというものでありました。平成24年６月議会において付託を受け、昨年12月議会までに３回にわたって審査を行ってきましたが、いずれも継続審査となっていたところです。ことしに入り、３月４日付で陳情の取り下げの申し出がなされましたので、今議会で取り下げについて協議した結果、本委員会としましては陳第15号の取り下げを全員異議なく承認することにしました。

次に、日程第53、陳第21号大畑校区において市営住宅に準ずる施策を求める陳情は、平成25年３月１日に人吉市町内会長連合会大畑・矢岳支部長の稲田八郎氏ほか大畑校区９町内の町内会長から提出されたものであります。

陳情の趣旨は、自然豊かな環境を生かし、空き家及び空き地の有効活用を含めて、人口増のきっかけとなる若者が子育てしやすい市営住宅に準ずるような定住促進策を行っていただきたいというものであります。この陳情については、さきに報告しました陳第15号の陳情の趣旨を変更されたような形で提出されております。陳第15号は、市営住宅の団地の建設を願う陳情でありましたので、審査においては、市財政が厳しい折、市営住宅については長寿命化の方向性で動き出しており、新規の市営住宅の建設は困難に近いのではという思いもあり

ましたが、単に現状からできるできないの問題ではなく、さまざまな角度から検証する必要があることから、執行部に対して他自治体の取り組みや国、県の施策、事業といったことについて調査を依頼し、さまざまに検討を重ねてきました。こういった経緯もあり、今回提出された陳第21号は、大畑校区において人口増のきっかけとなる施策を何としてでも行ってほしい、大畑校区の方の悲願であるという強い思いが感じられたところです。審査の過程で執行部より、熊本県下の自治体において移住、定住の支援制度の説明を受けました。自治体内での土地購入後ある期間内に住宅を建設する場合の助成金や、宅地１坪当たり１カ月100円で貸し付けする事業などさまざまな施策の事例があっているようであります。もう少し時間をかけて審議すべきではという意見もありましたが、当市においても人口減は喫緊の問題であり、研究を進め、有効な事業を展開する必要がある。また自然豊かな環境からも、移住、定住事業のモデル地区として展開できるのではないか。採択することによってプロジェクトチームなどが立ち上げれば、一つのきっかけとしては有効ではないのかという意見があり、採決の結果、陳第21号大畑校区において市営住宅に準ずる施策を求める陳情は、賛成多数で採択することに決しました。

以上、報告を終わります。

○議長（永山芳宏君）　ただいまの委員長報告に対し質疑はありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

質疑もないようですので、採決いたします。採決は分割して行います。

まず、陳第15号についてお諮りいたします。

陳第15号について、委員長報告どおり決するに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（永山芳宏君）　御異議なしと認めます。

よって、陳第15号は撤回することに決しました。

次に、陳第21号について採決いたします。採決は、起立採決といたします。

陳第21号について、採択することに賛成の議員の起立を求めます。

［起立全員］

○議長（永山芳宏君）　起立全員。

よって、陳第21号は採択することに決しました。

日程第54　市庁舎建設に関する特別委員会委員長の報告

○議長（永山芳宏君）　次に、日程第54、市庁舎建設に関する特別委員会委員長の報告を求めます。（「議長、13番」と呼ぶ者あり）

13番。村上恵一議員。

○13番（村上恵一君）（登壇）　日程第54、市庁舎建設に関する特別委員会委員長の報告を行

います。

今回、第３回となる特別委員会を去る２月28日に開催いたしました。実質的には２回目の審議となりますが、前回の審議において、「知る、調べる、考える」というプロセスで進めることが肝要であるとの見地から、今回は「調べる」という観点で次の４点について審議いたしました。１、近年の特徴ある（ユニークな）庁舎設備の事例について、２、近隣自治体の庁舎整備の事例について、３、市庁舎移転建設研究委員会について、４、次回審議について。

まず、１、近年の特徴ある庁舎設備の事例についてでございます。市街地再開発事業からその他の窓口オフィス改装型まで、大きく五つの区分に分けて18の事例をもとに説明を受けました。まずは市街地再開発事業に関してですが、方法としては市街地に新たに建設された建物の中のスペース、空き店舗等を保留床と権利床に分けて、主に保留床を自治体が購入していくという手法になります。事例の兵庫県神戸市北区役所と東京都豊島区役所のように、比較的人口規模の多い大都市に見られるパターンです。次に、ＰＦＩ方式でございます。岩手県紫波町役場のほか２カ所の自治体の事例で説明を受けましたが、いずれも庁舎単体ではなく、その他の複合施設と一体となった整備であること。手法としては、民間事業者が資金調達を行い、設計、建設、維持管理、運営までを行うものでございます。契約方法といたしましては、勝手に自治体が進めるということはできずに、ＰＦＩ法にのっとって契約等の事務を進めていく必要があり、非常に時間がかかるというデメリットがあるとの説明でした。これは過去に市街地建設案が浮上した際に出た手法でございます。次に、リース方式でございますが、イメージとしてはＰＦＩ方式といわゆる直営で建設する場合の中間的なもので、民間事業者が資金を調達し、設計、建設までを行うＰＦＩ手法と同じですが、異なる点は市が民間事業者が建てた建物をリースするという点でございます。その間、市はリース料を毎年度支払う必要がありますが、リース期間満了後所有権が市に移転します。メリットとして、民間建設業者の設計と比較的安い材料費で、それも期間的にも早く建設することができますが、デメリットとしては、１年間に支払うリース料というものが利率等も含めて市が起債を返済するよりも毎年高額になるというものです。また、返済の期間も起債をして返済する場合と比較して非常に短いという点が挙げられます。この件に関しましては、和歌山県和歌山市役所の東庁舎と、兵庫県淡路市役所第一庁舎の２例の説明を受けました。次に、最もオーソドックスなパターンの公営直営方式、いわゆる従来方式でございますが、市が起債や基金等を用いて建設する手法であります。全国の事例も、リスク回避的にも最もこのパターンが多いようです。この件に関しましては、愛知県岩倉市役所ほか７カ所の事例を説明を受けました。次に、その他としまして２パターンの説明を受けました。一つが移転改装型というものでございまして、ホームセンターやデパート等の撤退に伴い、そのまま市役所がそこに移転した事例でございます。この件に関しましては、青森県むつ市役所と、茨城県土浦市役所

の２カ所の事例の説明を受けました。もう一つのパターンが、窓口・オフィス改装型というもので、庁舎自体はそのまま移転も建設もせず、住民の利便性を考慮して内装や動線を変えた事例というものでございます。この件に関しましては、大分県玖珠町役場の事例を説明を受けました。

次に、近隣自治体の庁舎整備の事例について説明を受けました。九州内14の自治体の事例であり、熊本県は菊池市、山鹿市、玉名市、天草市、南小国町の五つの自治体です。14自治体のうち、12の自治体が合併特例債を用いての庁舎建設ということでございます。したがって、特例債の発行期限も迫ってきており、現在建設中や今から建設予定というパターンが多いようでございます。ほとんどの自治体が現地での建てかえであるとのことでした。事業費は20億円から50億円までが多く、建物階数としては３階から５階という階数が多く、また、太陽光発電などの自家発電設備の整備や屋上の緑化など、エコや防災を意識した施設整備を同時に行う傾向が見てとれました。委員から、他の自治体で検討委員会等を重ねて着工まで何年くらいかかっているケースが多いのか。また、人口規模等で庁舎の面積を示すような国の指針はあるのかとの問いに、調べた中では検討委員会を立ち上げてから着工まで３年から４年を費やすようである。また、庁舎の面積に対しては総務省が指針を出しており、人口規模というよりも職員数について一定の基準がでている。人吉市の場合だと、平成24年度当初が正規職員数が338人ということになり、議会機能、行政機能含めまして大体9,000平米ぐらいの試算になるとの答えでした。

次に、市執行部による市庁舎移転建設研究委員会の協議内容について説明を受けました。前回の特別委員会終了後、２回の研究委員会が行われております。３回目の１月29日には九州電力株式会社本社から講師を招き、ＰＦＩ事業について勉強会を開催、九州電力株式会社は既にＰＦＩ手法を用いた庁舎建設や公共施設の建設を数件実施しているという実績があり、事例を含めながら勉強会を行ったということです。次の４回目の研究委員会においては、今回の特別委員会において説明を受けた近年の特徴ある庁舎設備の事例について勉強をし、今後の進め方について協議を行ったとの説明を受けました。委員から、昨年の全員協議会において、組織機構改革の説明を受けたが、執行部内では庁舎窓口の配置での議論があったと聞くとの問いに、１階窓口の配置が現段階では合理的だと認識しており、市民にとって利便性の高い窓口の配置を優先的に検討しなければならないと考えているとの答弁がありました。

最後に、４点目の審議事項、次回の審議についての意見を求めました。委員から、現実的に人吉の場合はいつごろをめどに、予算はどれくらいでと、もう少し現実的な検討をしていくべきではないかという意見や、執行部で組織する市庁舎移転建設研究委員会での審議結果を追い越すわけにはいかず、めどを打ち出してもらわないと我々特別委員会もやりづらい。また、九日町と西間下町の別館の２候補地に絞って場所の選定を進めるというような話だが、場所によっていろんな条件が変わってくる。平成19年３月議会での特別委員会最終報告から

年数がたっており、条件等が変わってきている部分もある。その候補地の比較検討をしていくのかなど、検討する上で具体案の提示を求める意見が相次ぎました。執行部からは市庁舎の事務所の位置は条例で定めないといけないと説明した上で、中心市街地と別館の二つの候補地がある。防災面での安全性、市民の利便性などから場所の議論を進めていきたい。人口規模や職員数、どのくらいの規模の庁舎が望ましいのかも研究していかなければならないとの説明がありました。本特別委員会としましては、場所選定を進めることが先決との委員会の総意として、６月議会までに建設地の場所選定を行うよう執行部に対して求めました。これに対して執行部からは、防災面や財政面など理由づけの検討が必要になってくるが、次回の特別委員会までには検討して候補地を絞り込み、明らかにしたいとの答弁がありました。また、市庁舎については、防災拠点施設、復興拠点施設であるべきであるという国からの指針が示されていることから、今後国がどのような動きをしていくのかも、あわせて調査していくことにいたしました。

以上、市庁舎建設に関する特別委員会委員長の報告を終わります。

○議長（永山芳宏君）　ただいまの報告に対し質疑はありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

質疑もないようですので、市庁舎建設に関する特別委員会委員長の報告は終了いたしました。

日程第55　治水・防災に関する特別委員会委員長の報告

○議長（永山芳宏君）　次に、日程第55、治水・防災に関する特別委員会委員長の報告を求めます。（「議長、14番」と呼ぶ者あり）

14番。田中哲議員。

○14番（田中　哲君）（登壇）　皆さん、こんにちは。では、日程第55、治水・防災に関する特別委員会委員長の報告をいたします。

平成25年２月28日木曜日、午前９時より第３回本特別委員会が開催されました。審議内容につきましては、さきに正副委員長で決定いたしました御溝川、福川の現地視察といたしました。まず、視察に先立って執行部より福川水系の流域図、御溝川における浸水被害状況、御溝川計画流量配分、御溝川及び河川改修計画（長期構想）概念図の説明がございました。現地視察では御溝川の取水口を初め、一次放水路での説明、次に計画されています二次放水路の取水口と排水口、それに放水路のルート、御溝川と鷹木川合流地点では計画されています三次放水路の説明を受けました。また、毎年のように浸水被害が起きている瓦屋町から城本町の浸水被害地区の確認と、未改修地区の確認を行いました。また、福川においても中林町と下・摩瀬町の浸水被害地区の確認と未改修地区の確認を行いました。

なお、次回開催につきましては、本特別委員会の目的及び調査内容の決定を踏まえ、関係

機関との調整等も必要なことから、今後それらを調整し、次回の審議項目を決定することにいたしました。

以上、報告を終わります。

○議長（永山芳宏君）　ただいまの報告に対し質疑はありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

質疑もないようですので、治水・防災に関する特別委員会委員長の報告は終了いたしました。

日程第56　人吉球磨広域行政組合議会の報告

○議長（永山芳宏君）　次に、日程第56、人吉球磨広域行政組合議会の報告を求めます。

（「議長、11番」と呼ぶ者あり）

11番。笹山欣悟議員。

○11番（笹山欣悟君）（登壇）　日程第56、人吉球磨広域行政組合議会の報告を行います。

平成24年第４回人吉球磨広域行政組合議会定例会２日目が、平成24年12月21日午前10時から人吉球磨クリーンプラザ大会議室において開会されました。一般質問では、あさぎり町選出徳永正道議員が、くま川鉄道の車両更新と観光列車化の事業支援について質問し、執行部の考えをただしました。次に、平成24年度補正予算関連の議案第24号平成24年度人吉球磨広域行政組合一般会計補正予算（第２号）、議案第25号平成24年度人吉球磨広域行政組合人吉球磨ふるさと市町村圏特別会計補正予算（第２号）、議案第26号平成24年度人吉球磨広域行政組合特別養護老人ホーム特別会計補正予算（第２号）の３議案を一括議題として、執行部の補足説明を受け、議案ごとに質疑、採決の結果、いずれも原案どおりに可決しました。

続いて、組合の共同処理する事務に関する調査特別委員会委員長報告については、これまでの審議経過について報告を受け、全員異議なく了承しました。

最後に、委員会の閉会中の継続調査については、議会運営委員会委員長の申し出のとおり決定がなされ、閉会しました。

次に、平成25年第１回人吉球磨広域行政組合議会定例会が、平成25年２月27日午前10時から人吉球磨クリーンプラザ大会議室において開会されました。まず、議席の指定では、多良木町選出の高橋裕子議員の議員辞職に伴い、新たに組合議員として選出された源嶋たまみ議員の議席が13番に指定され、あわせて欠員が生じていた組合の共同処理する事務に関する調査特別委員会委員に指名をされ、あいさつがありました。

続いて、会議録署名議員に、錦町選出宮崎伸幸議員、税所隆則議員が指名されました。会期の決定については、２月27日開会し、翌28日から３月26日までを休会とし、３月27日閉会とすることに決定しました。

続いて、議会運営委員会委員の選任については、同じく高橋裕子議員の議員辞職に伴い、

欠員が生じていた１名の委員の補充が行われ、湯前町選出黒木喜巳男議員が選出され、指名されました。行政報告では田中理事会代表理事から、平成24年12月の第４回議会定例会以降の理事会開催状況及び審議内容について報告がありました。

次に、提出議案11件を一括議題とし、執行部の説明を受け、続けて議案第１号人吉球磨広域行政組合一般廃棄物処理施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について、議案第３号熊本県市町村総合事務組合を組織する地方公共団体の数の減少及び規約の一部変更について、議案第４号平成24年度人吉球磨広域行政組合一般会計補正予算（第３号）、議案第５号平成24年度人吉球磨広域行政組合人吉球磨ふるさと市町村圏特別会計補正予算（第３号）、議案第６号平成24年度人吉球磨広域行政組合特別養護老人ホーム特別会計補正予算（第３号）、議案第７号平成24年度人吉球磨広域行政組合一般会計経費の負担金の総額の補正（第２号）の６議案について、一括して執行部の補足説明を受け、議案ごとに質疑、採決の結果、いずれも原案どおり可決しました。なお、平成25年度当初予算関連の５議案につきましては、３月27日に一括して執行部の補足説明を受け、議案ごとに質疑、採決を行うこととし、平成25年第１回定例会１日目を散会しました。

以上、人吉球磨広域行政組合議会の報告を終わります。

日程第57　人吉下球磨消防組合議会の報告

○議長（永山芳宏君）　次に、日程第57、人吉下球磨消防組合議会の報告を求めます。（「議長、15番」と呼ぶ者あり）

15番。仲村勝治議員。

○15番（仲村勝治君）（登壇）　それでは、日程第57、人吉下球磨消防組合議会の報告をいたします。

平成25年２月22日午後２時より、平成25年２月第１回人吉下球磨消防組合議会定例会が、人吉下球磨消防組合本部会議場にて開催されました。会期は１日でございます。

議案第１号は、熊本県市町村総合事務組合を組織する地方公共団体の数の減少及び規約の一部変更についてであります。熊本県市町村総合事務組合の構成団体である益城町及び御船町中小学校組合と川辺川総合土地改良事業組合が、平成25年３月31日をもって解散し、同日限りで本組合から脱退することに伴い、熊本県市町村総合事務組合を組織する地方公共団体の数を減少し、熊本県市町村総合事務組合の規約の一部を変更する必要があるためでございます。施行期日平成25年４月１日、原案可決いたしました。

議案第２号平成24年度人吉下球磨消防組合一般会計補正予算（第２号）についてであります。歳入歳出予算の総額に352万円を追加し、予算の総額を歳入歳出それぞれ９億1,794万6,000円とするものであります。内訳は、歳入が１款分担金及び負担金で558万円の増額。２款使用料及び手数料、58万7,000円の増額。４款諸収入、646万4,000円の増額。５款組合

債で910万円の減額。７款財産収入、基金積立金利子の１万1,000円の減額。

歳入の主なものは、１款分担金及び負担金、早期退職者１名による退職手当特別負担金527万2,422円。４款諸収入、１項預金利子の１万3,506円の減額。３項雑入の防災航空隊派遣人件費等647万8,296円の増。５款組合債、消防救急デジタル無線実施設計業務委託料の910万円の減額。７款財産収入、基金積立金利子１万1,000円の減額。

歳出が、２款総務費、984万円の増額。主なものは、１項総務管理費、財政調整基金の999万6,000円の増額。印刷製本費15万6,000円の減額。３款消防費1,282万6,000円の減額。主なものは３款消防費、１目常備消防費、２節給料326万9,000円の減額。３節職員手当等559万3,000円の増額。４節共済費、共済組合負担金531万4,000円の減額。11節需用費33万8,000円の増額。12節役務費のうち通信運搬費21万1,000円の増額。13節委託料63万4,000円の減額。19節負担金、補助及び交付金16万6,000円の減額。25節積立金6,000円の減額。27節公課費10万円の減額。２目消防施設費、13節委託料904万3,000円の減額。15節工事請負費31万3,000円の減額。18節備品購入費12万3,000円の減額。５款予備費650万6,000円の増額であります。

以上、原案可決いたしました。

議案第３号平成25年人吉下球磨消防組合一般会計予算については、歳入歳出予算の総額をそれぞれ17億1,827万6,000円とするもの、前年度比８億1,143万9,000円の増であります。

歳入の主なものは、１款分担金及び負担金８億2,991万6,000円、前年度比4,588万9,000円の減。５款組合債８億4,020万円、前年度比８億2,120万円の増。６款国庫支出金2,152万5,000円、前年度比2,152万5,000円の増。８款繰入金1,500万円、前年度比1,349万円の増。９款繰越金400万円、前年度比ゼロ円。

歳出は、１款議会費83万3,000円、前年度比16万9,000円の減。２款総務費386万円、前年度比５万2,000円の減。３款消防費16億7,834万1,000円、前年度比８億1,510万6,000円の増。４款公債費3,324万2,000円、前年度比365万4,000円の減。５款予備費200万円、前年度比20万8,000円の増。増額の主なものは、２目消防施設費、11節需用費、修繕料3,203万5,000円の増。13節委託料602万5,000円の増。15節工事請負費８億2,807万7,000円の増。18節備品購入費2,402万円の増。減額の主なものは、３款一般職給138万2,000円の減。職員手当、期末勤勉手当267万6,000円の減。時間外手当107万2,000円の減。退職手当負担金1,213万7,000円の減。４節共済費350万円の減。18節備品購入費251万9,000円の減。２目消防施設費、13節委託料1,299万3,000円の減。公債費、23節元金償還341万8,000円の減。

主な事業は、消防施設費のうち消防救急デジタル無線本体工事、太陽光パネル設置工事、指令台更新、はしご車オーバーホール等でございます。

以上、原案可決いたしました。

一般質問は村口隆議員が質問されました。現在の救急車の現状についてでございます。

以上、報告を終わります。

日程第58　川辺川総合土地改良事業組合議会の報告

○議長（永山芳宏君）　次に、日程第58、川辺川総合土地改良事業組合議会の報告を求めます。

（「議長、14番」と呼ぶ者あり）

14番。田中哲議員。

○14番（田中　哲君）（登壇）　日程第58、川辺川総合土地改良事業組合議会の報告をいたします。

平成25年第１回議会定例会が、平成25年２月20日月曜日午前10時より開催されましたので御報告いたします。

まず、日程第１、会議録署名議員の署名についてで、会議録署名議員に８番の加賀山瑞津子君、９番北川一之君を指名し、日程第２、会期の決定で日程を１日限りといたしました。次に、日程第３、諸般の報告についてでありますが、松本組合長より、平成25年１月25日付で熊本県知事あてに解散届書を構成市町村長６名の連盟により提出した。また、昭和47年４月１日の事業組合設立から現在までの報告がございました。今後については、事業組合にかわる組織として川辺川土地改良事業連絡協議会を、平成25年４月１日をもって設立することとし、協議会の構成員は市町村長、市町村の各議会、市町村農業委員、ＪＡくまより６名の計24名で構成するとの報告がございました。次に、日程第４、議案第１号平成24年度川辺川総合土地改良事業組合一般会計補正予算（第３号）を原案可決いたしました。次に、日程第５、議案第２号熊本県市町村総合事務組合を組織する地方公共団体の数の減少及び規約の一部変更についてを原案可決いたしております。次に、日程第６、一般質問は、11番久保田悦子君によりなされ、その質問事項は以下のとおりでございました。１、土地改良事業の今後の方向性について、２、事業組合解散についてでございました。組合長答弁で、１の土地改良事業の今後の方向性については、平成24年１月、６市町村長より相良村土地改良区への照会文に対する同改良区の回答を受け、既設導水路活用案が不可能と認識した以上、どのような独自水源で事業を進めるか、同年４月１日に設立した関係機関で構成した川辺川総合土地改良事業地区行政連絡会議において検討をしている。まず、造成農地については、各市町村で行った農家説明会、農家意向調査の結果を受け、整備方針案の検討に入り、水が必要と回答のあった農家を主体に複数回の意見交換会を開催し、農家との調整を図っている。２の事業組合解散については、諸般の報告のとおりである。協議会については、諸般の報告でしたように、以前より当組合議会より一部事務組合がなくなると、農家の方々のよりどころがなくなるという指摘を受けてきた経過がある。正副組合長会では、一部事務組合にかわり協議会を設立し、今後の利水事業に対し、事業組合と遜色なきように努めるべきということで一致している。設立については平成25年度よりと考えている。協議会については現在川辺川総合土地改良事業組合で行っている行政連絡会議の事務局を引き継ぐ。事務局は現在の庁舎

を山江村から借用する形になる。事務局の運営費は市町村の負担金で行うとの回答がなされました。次に、日程第７、委員会の閉会中の継続審査及び調査については、議会運営委員長の申し出のように決して閉会といたしました。

以上で、報告を終わります。

○議長（永山芳宏君）　ここで、会議時間を延長いたします。

日程の追加について

○議長（永山芳宏君）　ここで、日程の追加についてお諮りいたします。

議第50号工事請負契約の締結についての議決内容の一部変更についてを、日程に追加することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（永山芳宏君）　御異議なしと認めます。よって、議第50号を日程に追加し、直ちに議題といたします。

追加日程　議第50号

○議長（永山芳宏君）　執行部より、提案理由の説明を求めます。

○市長（田中信孝君）（登壇）　大変お疲れのところ貴重なお時間をいただきまして、まことにありがとうございます。ただいま追加提案いたしました議案につきまして、御説明を申し上げます。

議第50号工事請負契約の締結についての議決内容の一部変更についての案件は、平成24年５月第３回人吉市議会臨時会におきまして、契約締結の御議決をいただきました工事請負契約の一部変更でございます。これは、防災行政無線整備工事におきまして、各防災拠点施設等の移動系移動局設置箇所において、機器と外部アンテナを接続するケーブル延長が、設計数量より短いことが判明したことによるもので、契約金額を５億4,623万7,467円から５億4,395万5,138円に変更するものでございます。議員各位におかれましては慎重御審議の上、御協賛賜りますようお願いいたします。

○議長（永山芳宏君）　ただいま説明がありました議第50号について、質疑はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

質疑もないようですので、質疑なしと認めます。

以上で、質疑を終了いたします。

お諮りいたします。議第50号については、委員会付託を省略し、直ちに採決することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（永山芳宏君）　御異議なしと認めます。

よって、委員会付託を省略し、直ちに採決いたします。議第50号について、原案のとおり決するに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（永山芳宏君）　御異議なしと認めます。

よって、議第50号は原案可決確定いたしました。

日程第59　委員会の閉会中の継続審査及び調査について

○議長（永山芳宏君）　次に、日程第59、委員会の閉会中の継続審査及び調査についてを議題といたします。

予算委員会、総務文教委員会、厚生委員会、経済建設委員会の各常任委員長及び議会運営委員会委員長から、それぞれお手元に配付してありますように、各委員会の所管事項について、閉会中の継続審査及び調査の申し出があっております。各委員長の申し出に対し質疑はありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

質疑もないようですので、採決をいたします。各委員長の申し出のとおり決するに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（永山芳宏君）　御異議なしと認めます。

よって、申し出のとおり決定いたします。

閉会中の継続審査・調査の申し出があった事件

○予算委員会　（平成25年３月第１回定例会）

事件の番号	件　　名	理　　由
	一般会計予算の歳入に関すること	実情を調査する必要があるため
	その他、所管事項に関すること	実情を調査する必要があるため

○総務文教委員会

事件の番号	件　　名	理　　由
	市政の企画に関すること	実情を調査する必要があるため
	行財政に関すること	実情を調査する必要があるため
	防災及び消防に関すること	実情を調査する必要があるため
	学校教育及び社会教育に関すること	実情を調査する必要があるため
	文化及びスポーツの振興に関すること	実情を調査する必要があるため
	その他、所管事項に関すること	実情を調査する必要があるため

○厚生委員会

事件の番号	件　　名	理　　由
陳第６号	認可外保育施設に通う子ども達への助成を求める陳情	慎重審査を必要とするため
	戸籍、住民基本台帳その他市民の記録管理に関すること	実情を調査する必要があるため
	環境保全、衛生及び公害に関すること	実情を調査する必要があるため
	市民の健康及び福祉に関すること	実情を調査する必要があるため
	上・下水道に関すること	実情を調査する必要があるため
	その他、所管事項に関すること	実情を調査する必要があるため

○経済建設委員会

事件の番号	件　　名	理　　由
陳第18号	市道中神地内第８号線道路拡張についての陳情	慎重審査を必要とするため
	農林水産業の振興に関すること	実情を調査する必要があるため
	商工観光業の振興及び労働行政に関すること	実情を調査する必要があるため
	企業誘致に関すること	実情を調査する必要があるため
	道路、河川の管理・整備に関すること	実情を調査する必要があるため
	都市計画及び都市開発に関すること	実情を調査する必要があるため
	その他、所管事項に関すること	実情を調査する必要があるため

〇議会運営委員会

事件の番号	件　　名	理　　由
	議会運営に関すること	実情を調査する必要があるため
	会議規則、委員会条例に関すること	実情を調査する必要があるため
	会期日程に関すること	実情を調査する必要があるため
	議長の諮問に関すること	実情を調査する必要があるため

日程の追加について

○議長（永山芳宏君）　ここで、さらに日程の追加についてお諮りいたします。

発議第１号人吉市議会会議規則の一部を改正する規則の制定について、発議第２号人吉市議会委員会条例の一部を改正する条例の制定についての２件を、日程に追加することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（永山芳宏君）　御異議なしと認めます。よって、２件を日程に追加いたします。

追加日程　発議第１号　人吉議会会議規則の一部を改正する規則の制定について

○議長（永山芳宏君）　まず、発議第１号を議題とし、提出者の説明を求めます。（「議長、14番」と呼ぶ者あり）

14番。田中哲議員。

○14番（田中　哲君）（登壇）　発議第１号人吉市議会会議規則の一部を改正する規則の制定について、提出者を代表し、提案理由の説明を申し上げます。

発議第１号人吉市議会会議規則の一部を改正する規則の制定について、上記の議案を別紙のとおり、地方自治法第112条及び人吉市議会会議規則第14条の規定により提出いたします。平成25年３月25日、人吉市議会議長　永山芳宏様。提出者、人吉市議会議員　松岡隼人、井上光浩、平田清吉、宮﨑保、大塚則男、川野精一、笹山欣悟、三倉美千子、高瀬堅一、仲村勝治、村上恵一、森口勝之、犬童利夫、豊永貞夫、村口隆、西信八郎、田中哲。

発議第１号人吉市議会会議規則の一部改正案は、地方自治法の一部が改正され、公布、施行されたことに伴い、引用している条項の移動に伴う改正を行うとともに、新たに本会議においても公聴会の開催及び参考人の招致をすることができる規定を設けるものでございます。また、あわせまして、普通地方公共団体の議会の実態等を踏まえ、議会活動の範囲を明確にするために、議案審査・議会運営に関して協議または調整を行う場を定め、正規の議会活動と位置づけるための改正を行うものでございます。

以上で、人吉市議会会議規則の一部改正案の提案理由の説明を終わります。よろしくお願いいたします。

○議長（永山芳宏君）　ただいまの説明に対し、質疑はありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

質疑もないようですので、質疑を終了します。

お諮りいたします。発議第１号については、委員会付託を省略し、直ちに採決することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（永山芳宏君）　御異議なしと認めます。

よって、委員会付託を省略し、直ちに採決いたします。発議第１号について、原案のとおり決するに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（永山芳宏君）　御異議なしと認めます。

よって、発議第１号は原案のとおり可決いたしました。

追加日程　発議第２号　人吉市議会委員会条例の一部を改正する条例の制定について

○議長（永山芳宏君）　次に、発議第２号を議題とし、提出者の説明を求めます。（「議長、12番」と呼ぶ者あり）

12番。西信八郎議員。

○12番（西信八郎君）（登壇）　発議第２号人吉市議会委員会条例の一部を改正する条例の制定について、提出者を代表し、提案理由の説明を申し上げます。

発議第２号人吉市議会委員会条例の一部を改正する条例の制定について、上記の議案を別紙のとおり地方自治法第112条及び人吉市議会会議規則第14条の規定により提出します。平成25年３月25日、人吉市議会議長　永山芳宏様。提出者、人吉市議会議員　松岡隼人、井上光浩、平田清吉、宮﨑保、大塚則男、川野精一、笹山欣悟、三倉美千子、高瀬堅一、仲村勝治、村上恵一、森口勝之、犬童利夫、豊永貞夫、村口隆、田中哲、西信八郎。

発議第２号人吉市議会委員会条例の一部改正案は、人吉市部設置条例の一部を改正する条例が平成25年４月１日から施行されることに伴い、常任委員会の所管の変更を行うものでございます。第２条第１項の表中、総務文教委員会の所管において「第１号市長公室の所管に属する事項」を削り、「第２号総務部の所管に属する事項」を「第１号総務部の所管に属する事項」とし、「第３号会計課の所管に属する事項」から「第８号その他、他の常任委員会の所管に属さない事項」までを、１号ずつ繰り上げるものでございます。

以上で、人吉市議会委員会条例の一部改正案の提案理由の説明を終わります。よろしくお願いいたします。

○議長（永山芳宏君）　ただいまの説明に対し、質疑はありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

質疑もないようですので、質疑を終了いたします。

お諮りいたします。発議第２号については、委員会付託を省略し、直ちに採決することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（永山芳宏君）　御異議なしと認めます。

よって、委員会付託を省略し、直ちに採決いたします。発議第２号について、原案のとおり決するに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（永山芳宏君）　御異議なしと認めます。

よって、発議第２号は原案のとおり可決いたしました。

ここで暫時休憩いたします。

午後４時00分　休憩

午後４時20分　開議

○議長（永山芳宏君）　休憩前に引き続き再開いたします。

日程の追加について

○議長（永山芳宏君）　ここで、さらに日程の追加についてお諮りいたします。

議第51号人吉市議会等に出頭した選挙人等に対する実費弁償条例の一部を改正する条例の制定についてを、日程に追加することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（永山芳宏君）　御異議なしと認めます。よって、議第51号を日程に追加し、直ちに議題といたします。

追加日程　議第51号

○議長（永山芳宏君）　執行部より提案理由の説明を求めます。

○市長（田中信孝君）（登壇）　再びお疲れのところ恐縮に存じますが、ただいま追加提案いたしました議案につきまして御説明を申し上げます。

議第51号人吉市議会等に出頭した選挙人等に対する実費弁償条例の一部改正案は、人吉市議会会議規則が改正され、本会議においても公聴会の開催及び参考人の招致をすることができる規定が設けられたことに伴い、実費弁償の対象を新たに規定するなど条例の一部を改正するものでございます。議員各位におかれましては慎重御審議の上、御協賛賜りますようお願い申し上げます。

○議長（永山芳宏君）　ただいまの説明に対し、質疑はありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

質疑もないようですので、質疑を終了いたします。

お諮りいたします。議第51号については、委員会付託を省略し、直ちに採決することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（永山芳宏君）　御異議なしと認めます。

よって、委員会付託を省略し、ただちに採決いたします。議第51号について、原案のとおり決するに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（永山芳宏君）　御異議なしと認めます。

よって、議第51号は原案可決確定いたしました。

以上で、本日の議事は全部終了いたしました。

発言の申し出

○議長（永山芳宏君）　ここで、３月31日付で退職されます職員から、あいさつの申し出があっておりますので、これを許可します。

○市長公室長（久本一富君）（登壇）　皆さん、こんにちは。きょうの午前中の開会前のことでございます。始まりを知らせますカラン、カラン、カランという鐘の響きがとてもさわやかで新鮮に映ったような次第でございます。改めてこのすがすがしさというものを覚えた次第でございました。

それでは、大変お疲れのところ貴重な時間をちょうだいいたしまして、あいさつの機会を与えていただきましたこと、まことにありがとうございます。慣例とはいえ、こうしてこの場に立たせていただきますこと、大変ありがたく存じます。まずもって、この場をおかりしまして今日まで仲間として長い間支えてくれた職員のみんなに感謝を申し上げたいと思います。我々の使命であり、そして市民幸福向上、そしてその市政発展を目指し、万物を共有し一緒に仕事ができたことは生涯の誇りであり、最高の財産となりました。本当にありがとうございます。そして、この間苦楽をともにしてきた今回一緒に退職します同志に対しまして、ともにねぎらいの言葉を交わさせていただきたいと思います。お疲れさまでした。私ごとでございますが、ある漫談家の代名詞に「あれから40年」とあります。私にとっては城内の桜とともに40年間を歩んできたところでございますが、満開の桜を見ることができたのはたったの40回しかございませんでした。そう思えばまさしくこの40年間があっという間にたち、気づいたときには引導を渡されるときが来てしまったかというのが実感でございまして、今は一抹の寂しさの中にも充実感というか安堵感が漂う心境というのが率直な思いでございます。この40年間の足跡を自分自身では評価はできませんが、一心不乱の念だけは怠ることなく邁進をしてきたつもりではおります。この間、議員各位はもとより多くの市民の皆様、そして各界各層のさまざまな立ち場にある方々との出会い、そして触れ合いがあって、御指導、御助言、そして御協力を賜り、多くを学ばせていただき、それが成長の後押しとなりまして今の自分があることに、心より感謝を申し上げたいと存じます。本当にありがとうございま

す。また、幸か不幸か、こたびの組織機構改革に伴います最後の市長公室長として自分の人生の歩みに記されるところでもあります。

さて、昨今の地方自治体は多くが少子高齢社会に起因することに始まる、待ったなしの政策実現が急がれるところでありまして、いかにスピード感を持って取り組み、結果に導くかであろうと思います。すなわち、議会における役割、責務というものがより求められるときでもあります。よく議会と執行部は車の両輪に例えられますが、そこには私のこれまでの経験から根底にあることとして、意見の隔たりをもっての議論は必至でございますが、心の隔たりがあってはならないことを教えてもらったというところでもございます。この厳しい局面にあって、議会、執行部が一体となり、一層一層の市政運営に突き進まれることを期待するところでもございます。私がかかわらせていただいた事項にも、第５次総合計画の進捗管理、公共交通政策、肥薩線世界遺産登録の推進、そして新庁舎移転等の検討等々さまざまな課題が山積をいたしております。これらの道筋が円滑にかつ早期に開かれることを願ってやまないところでもございます。

最後になりましたが、この別れ、そして終わりがあってまた新たな始まりがスタートすることにもなります。今後におきましては、一市民の立場から遠巻きではありますが、市政発展のために寄与できればと考えておるところでございます。少々長くなりましたが、議員各位と執行部の皆さんのますますの御健勝と御活躍を祈念申し上げ、そして市民の皆様に感謝と敬意を表し、あいさつとさせていただきます。本当にありがとうございました。（拍手）

○教育部長（赤池和則君）（登壇）　こんにちは。最後です。

お疲れのところ恐縮ですが、引き続きあいさつを申し上げます。一般質問の際には、私たちに温かいねぎらいの言葉、そして私とのやりとりを忘れないとの言葉もいただきましてありがとうございました。また、この４年間で延べ136人、１議会当たり8.5人の議員から教育行政の御質問をいただきました。たくさんの御質問で最後までかわいがっていただきまして感謝いたしております。私は現在の日本たばこの前身であります日本専売公社に７年勤めた後、昭和58年に人吉市役所に入庁いたしました。市役所に入りました当初、この組織が市民全体の奉仕者であり、市民生活に深くかかわる幅広い業務を行うためか、さまざまな考え方や立ち場、異なる価値観やその多様性を認める組織であることに、すごく健全な組織だというふうに思ったのが第一印象でございます。内向的な私は、ここならやっていけるのではないかと思った次第でございます。そうしてどうにか無事に退職の日を迎えようとしております。この間御指導いただきました議員の皆様、４年間も我慢して教育部長として使っていただきました市長、教育長、仲間として支えていただきました同僚職員の皆様、お世話になったすべての方へ心からお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。振り返りますと、議会事務局に平成12年４月から７年間お世話になりました。楽しかったことから、楽しくなかったことまで随分いろんなことがございましたが、私が担当書記をしていました常任

委員会の委員長がお亡くなりになりましたのが、一番ショックな出来事でした。一議員としても委員長としても尊敬していましたし、担当書記として私を信頼していただいていると思っていましたので残念で、今思い出しても胸が痛みます。また、議員の皆様には信じていただけないかもしれませんが、一般質問の検討会のとき田中市長が毎回一番に指示されるのは、質問にはできるだけ丁寧に答弁するようにしたいということでございます。私は部長２年目に、何を言っているかわからんような答弁をしてはいけない、言うべきことははっきり丁寧に言いなさいと注意をされたことがあります。議会での議論を本当に真剣に大切に考えておられるのだと反省した次第でございました。議会事務局と答弁側を経験した一職員として、執行部と議会の健全な緊張関係の上に論点と争点を明確にして議論が深まることと、市民の負託にこたえる議会としてより一層発展されることを心から期待したいと思います。

最後になりましたが、人吉市のさらなる発展と議員各位、市長を初めとする執行部の皆様の御健勝と今後ますますの御活躍を祈念申し上げ、退職に当たってのあいさつとさせていただきます。本当にありがとうございました。（拍手）

○市長公室次長（愛甲秀樹君）（登壇）　皆様、こんにちは。大変お疲れのところ貴重な時間を与えていただき、まことにありがとうございます。

このたび３月31日をもちまして、定年退職を迎えることになりました。昭和49年に入庁してから39年間奉職をさせていただきました。この間つつがなく退職の日を迎えることができましたのも、ひとえに議会を初め市長並びに職員の皆様、またその間所属いたしましたそれぞれの課でかかわってくださいました多くの市民の方々に支えていただきましたこと、そして楽しく仕事ができましたこと本当に幸せ者だと思っております。このことに対しまして深く感謝をいたしておりますし、心から御礼申し上げます。本当にありがとうございました。退職後は健康に注意をしながら、第２の人生に向かって歩き始めますが、皆様には引き続き御厚情賜りますようよろしくお願いをいたします。

最後に本市のますますの発展と、田中市長を初め議員の皆様、職員の皆様方の今後ますますの御健勝、御活躍を御祈念申し上げ、退職のあいさつとさせていただきます。長い間本当にありがとうございました。（拍手）

○会計管理者（松江隆介君）（登壇）　皆さん、こんにちは。お疲れのところ、退職に当たりましてあいさつの機会を与えていただきましてありがとうございます。

私は昭和57年１月からこれまで31年３カ月の長い間、市職員として勤めさせていただきました。ここ数日退職に向けた書類整理をしていたわけですけれども、その際に今まで自分がかかわってきた仕事の書類を見る機会が多く、苦労したころのことやうれしかったこと、そしてお世話になった方々のお顔が思い出されておりました。私にとって市役所は、生活の一部であり、大げさかもしれませんけれども仕事は生きてきたあかしと申しますか、人生そのものだったなというふうに思っております。こうしてつつがなく退職を迎えることができま

したのは、議員の皆様、それから市長を初め職員の皆様の温かい御指導、お力添えをいただきましたことによるものと心から感謝申し上げます。

これから地方にとりまして厳しい行財政運営を強いられることになりますが、皆様方の御活躍により人吉市がさらに発展しますことと、皆様方の御健勝を祈念申し上げて退職のあいさつとさせていただきます。ありがとうございました。（拍手）

○議長（永山芳宏君）　以上をもって、平成25年第１回人吉市議会定例会を閉会いたします。

午後４時39分　閉会

地方自治法第123条第２項の規定によりここに署名する。

人吉市議会議長　　永　山　芳　宏

人吉市議会議員　　平　田　清　吉

人吉市議会議員　　犬　童　利　夫